

基本計画書

基		本				計			画	
事項		記入欄							備考	
計画の区分		大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ 設置者		ガッコウホウジン キョウリツジョシガクエン 学校法人 共立女子学園								
フリガナ 大学の名称		キョウリツジョシダイガク 共立女子大学								
大学本部の位置		東京都千代田区一ツ橋二丁目2番1号								
大学の目的		本学は、専門の学芸を教授研究し、学生の主体的な学びを育み、幅広く深い教養および総合的な判断力を培うとともに、誠実で豊かな人間性を涵養し、社会に広く貢献する自立した女性を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的		建築・デザイン学部は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、幅広い教養と建築・デザインの専門に係る知識・技能を身に付け、人が生きていくために必要な場を構成している「空間」や「モノ」などを総合的にとらえ、創造的に提案・実践できる人材を育成することを目的に、特色ある教育を展開し、多くの志願者を集めている。社会からのニーズや進学需要に応え、社会に貢献する人材をより多く輩出するために、収容定員の変更を行う。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	家政学部	年	人	年次人	人			年 月 第 年次		
	被服学科	4	90	－	360	学士（家政学）	家政関係	昭和24年4月 第1年次	東京都千代田区一ツ橋二丁目2番1号	
	食物栄養学科									
	食物学専攻	4	55	－	220	学士（家政学）	家政関係	昭和41年4月 第1年次	同上	
	管理栄養士専攻	4	50	－	200	学士（家政学）	家政関係	昭和41年4月 第1年次	同上	
	文芸学部									
	文芸学科	4	350	－	1,400	学士（文芸学）	文学関係、美術関係	平成19年4月 第1年次	同上	
	国際学部									
	国際学科	4	250	－	1,000	学士（国際学）	文学関係、法学関係、経済学関係	平成19年4月 第1年次	同上	
	看護学部									
	看護学科	4	100	－	400	学士（看護学）	保健衛生学関係（看護学関係）	平成25年4月 第1年次	同上	
	ビジネス学部									
	ビジネス学科	4	150	－	600	学士（ビジネス学）	経済学関係	令和2年4月 第1年次	同上	
	建築・デザイン学部									
建築・デザイン学科	4	150 (100)	－	600 (400)	学士（美術）	美術関係	令和9年4月 第1年次	同上		
児童学部										
児童学科	4	150	－	600	学士（児童学）	教育学・保育学関係	令和8年4月 第1年次	同上	※令和7年4月設置届出済	
計			1,345 (1,295)	－	5,380 (5,180)					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		共立女子短期大学 生活科学科[定員減]（△25）（令和8年4月届出予定） 文科[定員減]（△25）（令和8年4月届出予定）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計					
	－	－科目	－科目	－科目	－科目	－単位				

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 （ 助 手 を 除 く ）
		教授	准教授	講師	助教	計		
新 <								

新	看護学部 看護学科						10 (10)	5 (5)	7 (7)	7 (7)	29 (29)	8 (8)	237 (237)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの						10 (10)	5 (5)	7 (7)	7 (7)	29 (29)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）						10 (10)	5 (5)	7 (7)	7 (7)	29 (29)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）						10 (10)	5 (5)	7 (7)	7 (7)	29 (29)			
ビジネス学部 ビジネス学科						8 (8)	8 (8)	3 (3)	1 (1)	20 (20)	3 (3)	191 (191)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 11人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの						8 (8)	8 (8)	3 (3)	1 (1)	20 (20)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）						8 (8)	8 (8)	3 (3)	1 (1)	20 (20)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）						8 (8)	8 (8)	3 (3)	1 (1)	20 (20)				
設	建築・デザイン学部 建築・デザイン学科						7 (7)	3 (3)	5 (5)	3 (3)	18 (18)	12 (12)	236 (236)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの						7 (7)	3 (3)	5 (5)	3 (3)	18 (18)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）						7 (7)	3 (3)	5 (5)	3 (3)	18 (18)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）						7 (7)	3 (3)	5 (5)	3 (3)	18 (18)			
児童学部 児童学科						11 (11)	5 (5)	0 (0)	4 (3)	20 (19)	5 (5)	216 (216)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 8人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの						11 (11)	5 (5)	0 (0)	4 (3)	20 (19)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）						11 (11)	5 (5)	0 (0)	4 (3)	20 (19)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）						11 (11)	5 (5)	0 (0)	4 (3)	20 (19)				
分	計						91 (91)	37 (37)	26 (26)	15 (14)	169 (168)	68 (68)	- (-)	

既 設 分	該当なし		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	設	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					
		小計（a～b）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					
		計（a～d）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					
	分	計		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		(-)	
合 計			91 (91)	37 (37)	26 (26)	15 (14)	169 (168)	68 (68)	- (-)			
職 種			専 属			そ の 他			計			
事 務 職 員			94 (94)			37 (37)			131 (131)			
技 術 職 員			2 (2)			0 (0)			2 (2)			
図 書 館 職 員			15 (15)			1 (1)			16 (16)			
そ の 他 の 職 員			0 (0)			0 (0)			0 (0)			
指 導 補 助 者			0 (0)			28 (28)			28 (28)			
計			111 (111)			66 (66)			177 (177)			
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体 ＜共用する他の学校＞ 共立女子短期大学 法令上の必要面積：3,000㎡ 共立女子高等学校 （収容定員1,080名） 面積基準：運動場として 8,400㎡（中学校との共用可） 共立女子第二高等学校 （収容定員720名） 面積基準：運動場として 8,400㎡（中学校との共用可） 共立女子中学校 （収容定員960名） 面積基準：運動場として 8,400㎡ 共立女子第二中学校 （収容定員480名） 面積基準：運動場として 6,000㎡	
	校 舎 敷 地		47,671.14㎡		15,862.50㎡		80,752.86㎡		144,286.50㎡			
	そ の 他		0㎡		46,723.07㎡		0㎡		46,723.07㎡			
	合 計		47,671.14㎡		62,585.57㎡		80,752.86㎡		191,009.57㎡			
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		＜共用する他の学校＞ 共立女子短期大学 法令上の必要面積：3,400㎡	
			16,847.86 ㎡ (16,847.86 ㎡)		43,924.61 ㎡ (43,924.61㎡)		1,330.00 ㎡ (1,330.00㎡)		62,102.47 ㎡ (62,102.47 ㎡)			
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		161室		教 員 研 究 室		166室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具 点		標本 点	電子ジャーナルはタイトル数で 集計
	大学全体	冊		電子図書 〔うち外国書〕		種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
		333,806 [86,423] (330,932 [89,290])		2,172 [458] (2,172 [458])		33,844 [31,187] (33,844 [31,187])		32,560 [30,883] (32,560 [30,883])		30,385 (30,385)		
		計		333,806 [86,423] (330,932 [89,290])		2,172 [458] (2,172 [458])		33,844 [31,187] (33,844 [31,187])		32,560 [30,883] (32,560 [30,883])		
スポーツ施設等			スポーツ施設		講 堂		厚生補導施設		5,416.95㎡		大学全体	

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	共同研究費等は、大学全体（教員一人当りの研究費等について、助教は200千円）図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む	
		教員 1 人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円	- 千円	- 千円		
		共同研究費等		21,000千円	21,000千円	21,000千円	21,000千円	- 千円	- 千円		
		図 書 購 入 費	67,000千円	67,000千円	67,000千円	67,000千円	67,000千円	- 千円	- 千円		
		設 備 購 入 費	400,000千円	14,856千円	32,065千円	15,186千円	18,566千円	- 千円	- 千円		
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	家政学部被服学科 家政学部食物栄養学科食物学専攻 家政学部食物栄養学科管理栄養士専攻 文芸学部文芸学科 国際学部国際学科 看護学部看護学科 ビジネス学部ビジネス学科 建築・デザイン学部建築・デザイン学科 児童学部児童学科			
		1,430千円	1,280千円	1,280千円	1,280千円	- 千円	- 千円				
		1,450千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	- 千円	- 千円				
		1,460千円	1,310千円	1,310千円	1,310千円	- 千円	- 千円				
		1,290千円	1,140千円	1,140千円	1,140千円	- 千円	- 千円				
		1,330千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	- 千円	- 千円				
		1,920千円	1,770千円	1,770千円	1,770千円	- 千円	- 千円				
		1,360千円	1,210千円	1,210千円	1,210千円	- 千円	- 千円				
		1,470千円	1,320千円	1,320千円	1,320千円	- 千円	- 千円				
	1,430千円	1,280千円	1,280千円	1,280千円	- 千円	- 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑収入等								
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		共立女子大学								令和5年度より学生募集停止 令和8年度より学生募集停止
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所 在 地		
	大学	年	人	年次人	人		倍				
	家政学部						1.02<<1.01>>				
	被服学科	4	90	-	360	学士（家政学）	1.10<<1.08>>	昭和24年度	東京都千代田区一ツ橋二丁目2番1号		
	食物栄養学科						1.04<<1.03>>				
	食物学専攻	4	55	-	220	学士（家政学）	0.99<<0.98>>	昭和41年度	同上		
	管理栄養士専攻	4	50	-	200	学士（家政学）	1.09<<1.09>>	昭和41年度	同上		
	建築・デザイン学科	4	-	-	-	学士（家政学）	-	平成19年度	同上		
	児童学科	4	-	-	-	学士（家政学）	0.95<<0.95>>	平成19年度	同上		
	文芸学部						1.05<<1.02>>				
	文芸学科	4	350	-	1,400	学士（文芸学）	1.05<<1.02>>	平成19年度	同上		
	国際学部						1.06<<1.03>>				
	国際学科	4	250	-	1,000	学士（国際学）	1.06<<1.03>>	平成19年度	同上		
	看護学部						1.06<<1.03>>				
	看護学科	4	100	-	400	学士（看護学）	1.06<<1.03>>	平成25年度	同上		
	ビジネス学部						1.10<<1.07>>				
	ビジネス学科	4	150	-	600	学士（ビジネス学）	1.10<<1.07>>	令和2年度	同上		
	建築・デザイン学部						1.08				
	建築・デザイン学科	4	100	-	400	学士（美術）	1.08	令和5年度	同上		
	児童学部						-				
	児童学科	4	150	-	150	学士（児童学）	-	令和8年度	同上		

既設大学等の状況	大学院								
	家政学研究科(後期)					0.77			
	人間生活学専攻	3	3	—	9	修士(学術)	0.77	平成6年度	東京都千代田区一ツ橋二丁目2番1号
	家政学研究科(前期)						0.28		
	被服学専攻	2	8	—	16	修士(家政学)	0.50	昭和55年度	同上
	食物学専攻	2	8	—	16	修士(家政学)	0.43	昭和55年度	同上
	建築・デザイン専攻	2	8	—	16	修士(家政学)	0.06	平成23年度	同上
	児童学専攻	2	8	—	16	修士(家政学)	0.12	平成23年度	同上
	文芸学研究科								
	文芸学専攻	2	20	—	40	修士(文芸学)	0.42	平成27年度	同上
	国際学研究科								
	国際学専攻	2	15	—	30	修士(学術)	0.20	平成23年度	同上
	看護学研究科								
	看護学専攻	2	5	—	10	修士(看護学)	0.40	平成29年度	同上
大 学 等 の 名 称 共立女子短期大学									
		年	人	年次人	人	倍			
	生活科学科	2	100	—	200	短期大学士(生活科学)	0.86	平成元年	東京都千代田区一ツ橋二丁目2番1号
	文科	2	100	—	200	短期大学士(文科)	0.81	平成19年度	同上
附属施設の概要		該当なし							

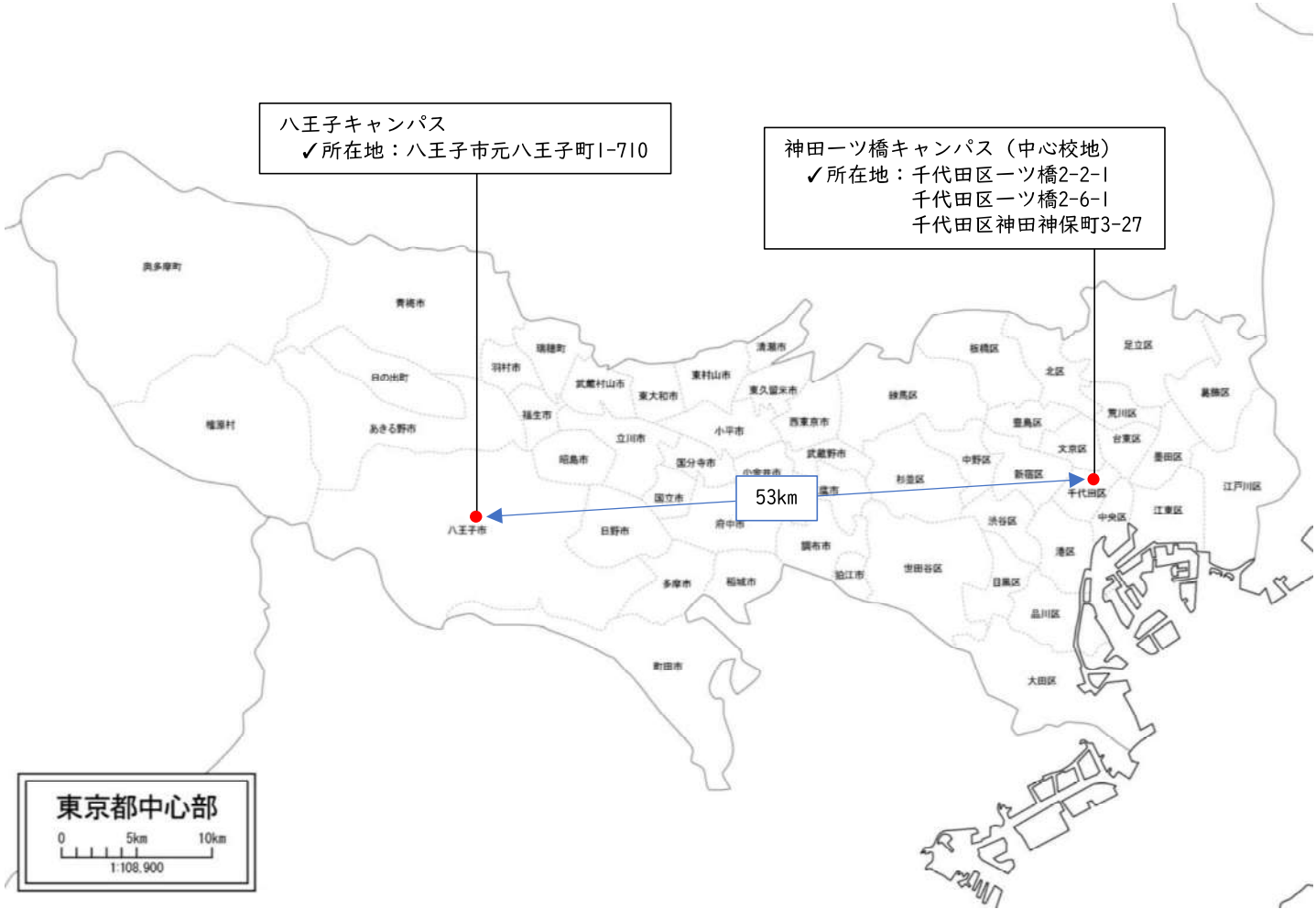
(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」,「新設学部等の目的」,「新設学部等の概要」,「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず,斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」,「教室・教員研究室」,「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず,斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」,「校地等」,「校舎」,「教室・教員研究室」,「図書・設備」,「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず,斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

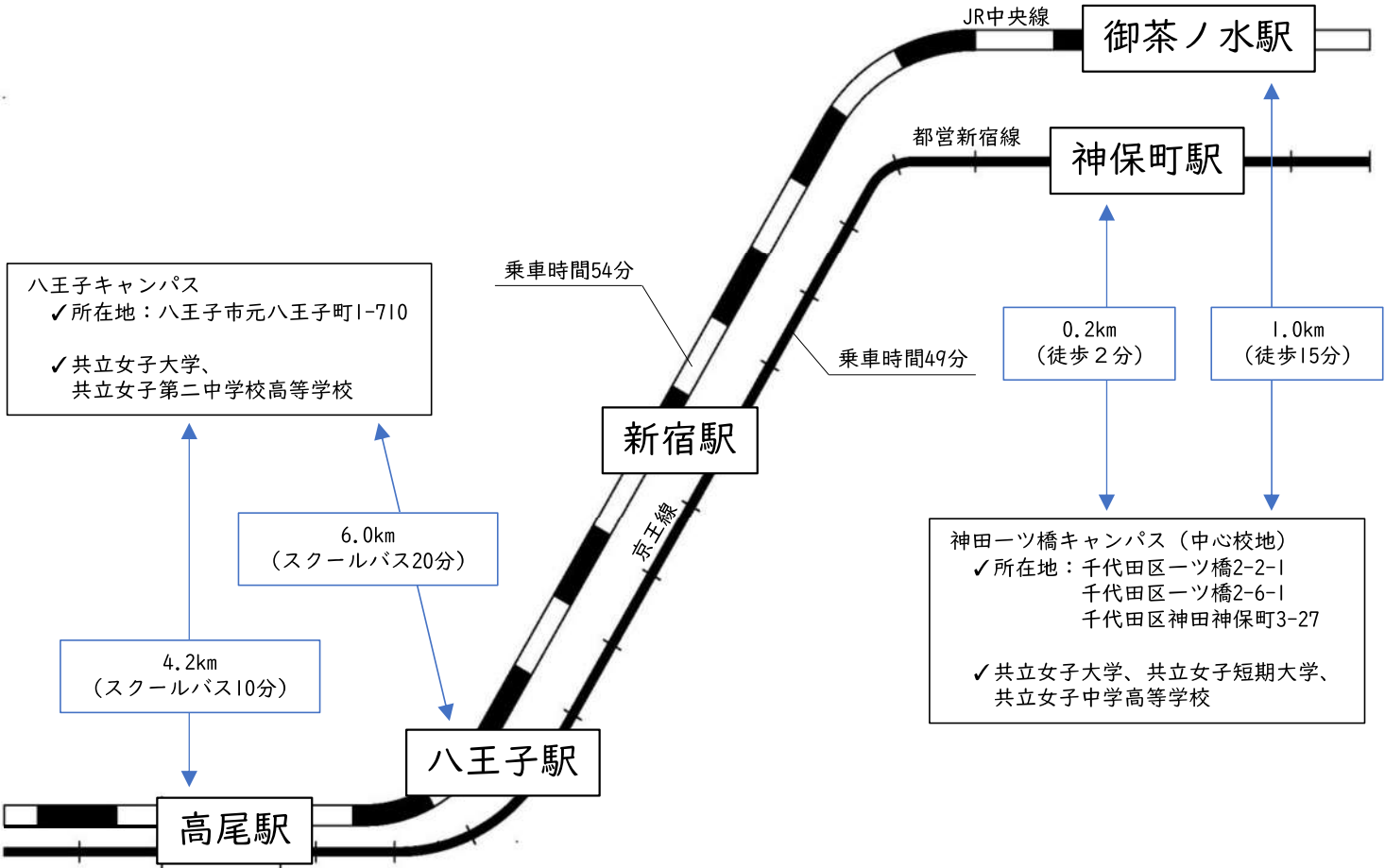
学校法人共立女子学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和8年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和9年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
共立女子大学					共立女子大学					
家政学部	被服学科	90	-	360	家政学部	被服学科	90	-	360	
	食物栄養学科					食物栄養学科				
	食物学専攻	55	-	220		食物学専攻	55	-	220	
	管理栄養士専攻	50	-	200		管理栄養士専攻	50	-	200	
文芸学部	文芸学科	350	-	1,400	文芸学部	文芸学科	350	-	1,400	
国際学部	国際学科	250	-	1,000	国際学部	国際学科	250	-	1,000	
看護学部	看護学科	100	-	400	看護学部	看護学科	100	-	400	
ビジネス学部	ビジネス学科	150	-	600	ビジネス学部	ビジネス学科	150	-	600	
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	100	-	400	建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	<u>150</u>	-	<u>600</u>	定員変更(50)
児童学部	児童学科	150	-	600	児童学部	児童学科	150	-	600	
計		1,295	-	5,180	計		<u>1,345</u>	-	<u>5,380</u>	
共立女子大学大学院					共立女子大学大学院					
家政学研究科	被服学専攻(M)	8	-	16	家政学研究科	被服学専攻(M)	8	-	16	
	食物学専攻(M)	8	-	16		食物学専攻(M)	8	-	16	
	建築・デザイン専攻(M)	8	-	16		建築・デザイン専攻(M)	8	-	16	
	児童学専攻(M)	8	-	16		児童学専攻(M)	8	-	16	
	人間生活学専攻(D)	3	-	9		人間生活学専攻(D)	3	-	9	
文芸学研究科	文芸学専攻(M)	20	-	40	文芸学研究科	文芸学専攻(M)	20	-	40	
国際学研究科	国際学専攻(M)	15	-	30	国際学研究科	国際学専攻(M)	15	-	30	
看護学研究科	看護学専攻(M)	5	-	10	看護学研究科	看護学専攻(M)	5	-	10	
計		75	-	153	計		75	-	153	
共立女子短期大学					共立女子短期大学					
生活科学科		100	-	200	生活科学科		<u>75</u>	-	<u>150</u>	定員変更(△25) ※届出予定
文科		100	-	200	文科		<u>75</u>	-	<u>150</u>	定員変更(△25) ※届出予定
計		200	-	400	計		<u>150</u>	-	<u>300</u>	

(1) 都道府県内における位置関係の図面



(2) 最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



(3) 校舎、運動場の配置図

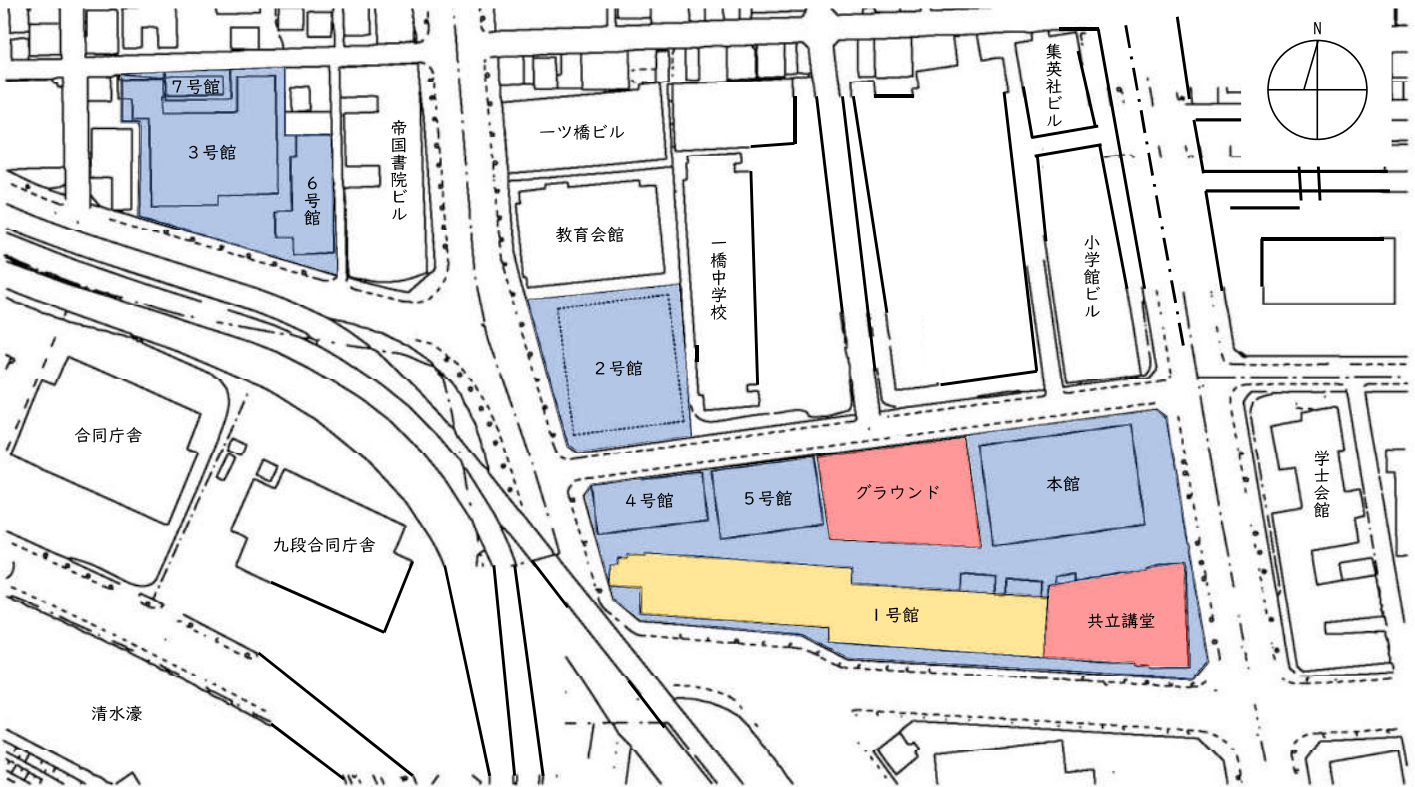
■校地等面積 内訳表

		専用		共用		共用する他の学校等の専用		計
校舎 敷地	神田一ツ橋キャンパス	—		大短共用	11,013.50㎡	中高専用	3,707.00㎡	19,569.50㎡
		—		大短中高共用	4,849.00㎡			
	八王子キャンパス	大学専用	47,671.14㎡	—		二中高専用	77,045.86㎡	124,717.00㎡
	計	47,671.14㎡		15,862.50㎡		80,752.86㎡		144,286.50㎡
その他	神田一ツ橋キャンパス	—		—		—		—
	八王子キャンパス	—		大学二中高共用	46,723.07㎡	—		46,723.07㎡
計		47,671.14㎡		62,585.57㎡		80,752.86㎡		191,009.57㎡

■校舎面積 内訳表

		専用		共用		共用する他の学校等の専用		計
基準内	神田一ツ橋キャンパス	大学専用	11,223.00㎡	大短共用	43,924.61㎡	短大専用	1,330.00㎡	56,477.61㎡
	八王子キャンパス	大学専用	5,624.86㎡	—		—		5,624.86㎡
	計	16,847.86㎡		43,924.61㎡		1,330.00㎡		62,102.47㎡
基準外	神田一ツ橋キャンパス	—		大短共用	5,668.17㎡	—		5,668.17㎡
	八王子キャンパス	—		—		—		—
その他	神田一ツ橋キャンパス	—		—		中高専用	18,623.20㎡	18,623.20㎡
	八王子キャンパス	—		—		二中高専用	28,409.26㎡	28,409.26㎡
計		16,847.86㎡		49,592.78㎡		48,362.46㎡		114,803.10㎡

神田一ツ橋キャンパス[共立女子大学、共立女子短期大学、共立女子中学高等学校]



区分		専用		共用		共用する他の学校等の専用		計
校地等	校舎敷地	—	青色：大短共用	11,013.50㎡	—	黄色：中高専用	3,707.00㎡	19,569.50㎡
		—	赤色：大短中高共用	4,849㎡	—	—	—	—
	計	—	—	15,862.50㎡	—	—	3,707.00㎡	19,569.50㎡
校舎	基準内	大学専用	11,223.00㎡	大短共用	43,924.61㎡	短大専用	1,330.00㎡	56,477.61㎡
	基準外	—	—	大短共用	5,668.17㎡	—	—	5,668.17㎡
	その他	—	—	—	—	中高専用	18,623.20㎡	18,623.20㎡
	計	—	11,223.00㎡	—	49,592.78㎡	—	19,953.20㎡	80,768.98㎡

八王子キャンパス[共立女子大学、共立女子第二中学校高等学校]



区分		専用		共用		共用する他の学校等の専用		計
校地等	校舎敷地	紫色：大学専用	47,671.14㎡	—	—	オレンジ色：二中高専用	77,045.86㎡	171,440.07㎡
	その他	—	—	緑色：大学二中高共用	46,723.07㎡	—	—	—
	計	—	47,671.14㎡	—	46,723.07㎡	—	77,045.86㎡	171,440.07㎡
校舎	基準内	大学専用	5,624.86㎡	—	—	—	—	5,624.86㎡
	基準外	—	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	二中高専用	28,409.26㎡	28,409.26㎡
	計	—	5,624.86㎡	—	—	—	28,409.26㎡	34,034.12㎡

共立女子大学学則（案）

第1章 総 則

第1条 本学は、専門の学芸を教授研究し、学生の主体的な学びを育み、幅広く深い教養および総合的な判断力を培うとともに、誠実で豊かな人間性を涵養し、社会に広く貢献する自立した女性を育成することを目的とする。

2 前項の規定に基づき、本学の各学部等の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、第3条の2に定める。

第1条の2 本学は、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行ない、その結果を公表する。

2 前項に関する規定は別に定める。

3 本学は、第1項の措置に加え、本学の教育研究等の総合的な状況について、一定の期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた機関による評価を受ける。

第1条の3 本学は、教育研究活動の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供する。

第2章 学部、学科、組織

第2条 第1条の目的を達成するため、本学に家政学部、文芸学部、国際学部、看護学部、ビジネス学部、建築・デザイン学部および児童学部をおく。

第3条 家政学部には被服学科、食物栄養学科、建築・デザイン学科、児童学科をおき、食物栄養学科は食物学専攻と管理栄養士専攻に分ける。

2 文芸学部には文芸学科をおく。

3 国際学部には国際学科をおく。

4 看護学部には看護学科をおく。

5 ビジネス学部にはビジネス学科をおく。

6 建築・デザイン学部には建築・デザイン学科をおく。

7 児童学部には児童学科をおく。

第3条の2 第1条第2項の規定に基づき、本学の各学部等の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的について、以下のとおり定める。

（1）家政学部

家政学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「幅広く深い教養および総合的な判断力を基盤として、生活者の視点から人間生活について広く追究し、現代社会において人々の生活の向上と福祉に貢献する自立した女性を育成する」ことである。

① 被服学科

家政学部被服学科の人材養成目的は、家政学部の人材養成目的に基づき、「被服学を理論と実践の両面から学ぶことにより、高い専門性を有すると共に、伝統に培われた教育理念を踏まえながら知性と情操とを備え、新しい時代の流れに即応して広く社会的に活動ができる女性を育成する」ことである。

② 食物栄養学科

家政学部食物栄養学科の人材養成目的は、管理栄養士専攻においては管理栄養士養成施設指定基準を遵守したうえで、食物学専攻・管理栄養士専攻ともに家政学部の人材養成目的に基づき、「本学科で学ぶ全ての学生に対して社会に通用する広い教養を十分に涵養せしめたうえで、現代の多様な食生活の中にあっても多くの人々がより一層の健康な社会生活が営めることをめざし、食の安全性はもとより、栄養の素材としての食物、並びに食物と健康に関する幅広い知識とその実践的能力を身につけた女性を育成する」ことである。

1) 食物学専攻

家政学部食物栄養学科食物学専攻の人材養成目的は、家政学部の人材養成目的に基づき、「本専攻で学ぶ全ての学生に対して社会に通用する広い教養を十分に涵養せしめたうえで、現代の多様な食生活の中にあっても多くの人々がより一層の健康な社会生活が営めることをめざし、食の安全性はもとより、栄養の素材としての食物、並びに食物と健康に関する幅広い知識とその実践的能力を身につけた女性を育成する」ことである。

2) 管理栄養士専攻

家政学部食物栄養学科管理栄養士専攻の人材養成目的は、管理栄養士養成施設指定基準を遵守したうえで、家政学部の人材養成目的に基づき、「ライフサイクルに応じた栄養指導や病者の食事療法を中心とする栄養指導能力を培い、健康づくりの専門職として医療機関、社会福祉施設、学校教育現場などさまざまな場で活躍できる幅広い知識とその実践的能力を身につけた女性を育成する」ことである。

③ 建築・デザイン学科

家政学部建築・デザイン学科の人材養成目的は、家政学部の人材養成目的に基づき、「幅広い教養と建築・デザインの専門に係る知識・技能を身に付け、人が生きていくために必要な生活の場を構成している「空間」や「モノ」などを総合的にとらえ、創造的に提案・実践できる人材を育成する」ことである。

④ 児童学科

家政学部児童学科の人材養成目的は、家政学部の人材養成目的に基づき、「幅広い教養と保育・教育の場で活用できる専門的な知識・技能を身に付け、児童を取り巻く環境の変化に適切に対応し、児童の健全な発達や自立支援に取り組むことができ、さらに保育者・教育者として探求し続けることでリーダーシップを発揮できる人材を育成する」ことである。

(2) 文芸学部 文芸学科

文芸学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「文学と芸術の世界をさまざまな視点から広く深くとらえることを通じて、文化全般にわたる広い視野と教養をそなえた豊かな人間性を養うことであり、また実社会において、自立した個人として、他者と協調しつつ、主体的に社会の発展に貢献しうる女性を育成する」ことである。

(3) 国際学部 国際学科

国際学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「国際的な政治・社会の仕組みや国際文化について理解し、国際文化交流・社会活動の方法を身につけ、比較の視点や異文化への豊かな感性をそなえて、国際的な関係を有する内外の場で活躍できる人材を育成する」ことである。

(4) 看護学部 看護学科

看護学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき「幅広い教養を基盤とした豊かな人間性を養い、看護専門職として必要とされる知識・技術・態度に基づいた看護実践能力を修得するとともに、将来にわたり看護の向上に資するための研鑽能力を養い、人々の健康の保持増進に寄与することにより、自ら自己の将来を切り開き、自律的に社会に参画・貢献しうる女性を育成する」ことである。

(5) ビジネス学部 ビジネス学科

ビジネス学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「ビジネスの場で活躍できる知識・技能と必要な教養を身に付け、他者と協働してリーダーシップを発揮できる人材を養成する」ことである。

(6) 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科

建築・デザイン学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「幅広い教養と建築・デザインの専門に係る知識・技能を身に付け、人が生きていくために必要な場を構成している「空間」や「モノ」などを総合的にとらえ、創造的に提案・実践できる人材を育成する」ことである。

(7) 児童学部 児童学科

児童学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「幅広い教養と保育・教育の場で活用できる専門的な知識・技能を身に付け、児童を取り巻く環境の変化に適切に対応し、児童の健全な発達や自立支援に取り組むことができ、さらに保育者・教育者として探求し続けることでリーダーシップを発揮できる人材を育成する」ことである。

第3条の3 本学に全学教育推進機構をおき、必要な事項は別に定める。

第3章 修業年限、学年、学期および休業日

第4条 各学部の修業年限は4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることはできない。

第5条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月20日まで

後期 9月21日から翌年3月31日まで

2 前項の学期は、それぞれ2つの期間（クォーター）に分けることができる。

第7条 休業日は次の通りとし、夏季、冬季、春季の休業日の期間は毎年度学長が定める。

① 日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日

② 本学創立記念日（10月18日）

③ 夏季休業日

④ 冬季休業日

⑤ 春季休業日

ただし、休業日においても必要ある場合は授業を行なうことがある。

2 必要がある場合は、学長は前項の休業日を臨時に変更し、また臨時の休業日を定めることができる。

第4章 教職員組織

第8条 本学に学長をおく。

2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

第8条の2 本学に副学長および学生部長をおくことができる。

2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

3 学生部長は、学長を助け、命を受けて学生に関する校務をつかさどる。

第8条の3 各学部 to 学部長をおく。

2 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

第8条の4 各学部 to 必要に応じ学部長補佐をおくことができる。

2 学部長補佐は、学部長を助け、命を受けて学部長の業務を補佐する。

第8条の5 各学部 to 主任をおく。

主任は、学部長を助け、命を受けて学部に関する校務をつかさどる。

第9条 本学に教授、准教授、講師、助教および助手をおく。

第10条 本学に事務職員をおく。

第11条 本学に教授会をおく。教授会は教授をもって構成する。ただし、必要ある場合は准教授、講師および助教を加えることができる。

第12条 教授会は当該学部に関する次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

① 学生の入学、卒業および課程の修了

② 学位の授与

③ 前二号に掲げるもののほか、教育に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、当該学部の教育に関する事項について審議し、および学長、学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。

第5章 授業科目および単位数

第13条 家政学部の授業科目は教養教育科目、専門教育科目をおく。

第13条の2 文芸学部の授業科目は教養教育科目、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱに分け、別に司書に関する科目をおく。

第13条の3 国際学部の授業科目は教養教育科目、外国語等科目、専門基礎科目、専門基幹科目、専門発展科目に分け、外国人留学生および外国において相当の期間、中等教育を受けた者に対して、日本語科目および日本事情に関する科目（教養教育科目および外国語等科目に含まれる）をおき、別に日本語教師養成に関する科目をおく。

第13条の4 教職に関する科目、司書教諭に関する科目、学芸員に関する科目は、それぞれ別表第11の1、別表第11の2、別表第11の3のとおりおく。

第13条の5 看護学部の授業科目は、教養教育科目、専門基礎科目、専門基幹科目、専門展開科目および統合科目に分ける。

第13条の6 ビジネス学部の授業科目は、教養教育科目、専門基礎科目、専門基幹科目および専門発展科目に分ける。

- 第13条の7 建築・デザイン学部の授業科目は、教養教育科目、専門教育科目に分ける。
- 第13条の8 児童学部の授業科目は、教養教育科目、専門教育科目に分ける。
- 第14条 家政学部の授業科目および単位数は別表第1の通りとする。
- 第15条 文芸学部の授業科目および単位数は別表第5、第6の通りとする。
- 第15条の2 国際学部の授業科目および単位数は別表第10の1、第10の2の通りとする。
- 第15条の3 看護学部の授業科目および単位数は別表第12の通りとする。
- 第15条の4 ビジネス学部の授業科目および単位数は別表第13の通りとする。
- 第15条の5 建築・デザイン学部の授業科目および単位数は別表第14の通りとする。
- 第15条の6 児童学部の授業科目および単位数は別表第15の通りとする。
- 第16条 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、次の基準により単位数を計算する。
- ① 講義、演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - ② 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - ③ 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組合せに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - ④ 前3号の規定にかかわらず、卒業論文、卒業制作等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
- 第16条の2 1年間の授業を行なう期間は試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。
- 第16条の3 本学は、学生に対して、授業の方法および内容ならびに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。
- 2 本学は、学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっては、客観性および厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。
- 第16条の4 本学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究を実施する。
- 第16条の5 本学は、第16条に規定する講義、演習、実験、実習および実技による授業科目について、教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 2 前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとする。

第6章 履修方法

- 第17条 各学部の授業科目は教授会の定める教育課程に従い、各年次に配当する。学生は原則として、各年次に配当された授業科目を履修するものとする。
- 第18条 学生は履修しようとする授業科目を毎学期始め、所定の期日までに届け出なければならない。
- 第18条の2 本学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。
- 2 本学は、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生および相当の理由があると認める学生については、前項に規定する単位数の上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。
- 第19条 学生は所属の学科または専攻によって、それぞれ次の単位を修得することとする。

家政学部

授業科目区分		学科・専攻	被服学科		食物栄養学科			
					食物学専攻		管理栄養士専攻	
			A	B	A	B	A	B
教養教育科目		必修	6		6		6	
		選択	22		22		14	
専門教育科目	学科専門教育科目	必修	16		43		90	
		選択必修	6	4	6	4	6	4
	家政学部共通科目	選択	58	60	31	33	4	6
	学科専門教育科目							
	専門小計		80		80		100	
自由選択区分			16		16		4	
合計			124		124		124	

文芸学部

授業科目区分		学科	文芸学科	
教養教育科目	必修科目	8	28	
	選択科目	20		
専門基礎分野科目	必修科目	8	28	
	選択科目	20		
専門分野Ⅰ科目	選択科目	20		
専門分野Ⅱ科目	必修科目	8	28	
	選択科目	20		
教養教育科目以外の全科目から		20		
合計		124		

国際学部

授業科目区分		学科	国際学科	
教養教育科目	必修科目	6	28	
	選択科目	22		
外国語等科目		14		
専門基礎科目	必修科目	2	12	
	選択科目	10		
専門基幹科目	必修科目	4	24	
	選択科目	20		
専門発展科目	必修科目	12	28	
	選択科目	16		
自由選択単位		18		
合計		124		

看護学部

授業科目区分		学科	看護学科	
教養教育科目	必修科目	8	20	
	選択科目	12		
専門基礎科目	必修科目	32		
専門基幹科目	必修科目	58		
専門展開科目	選択科目	8		
統合科目	必修科目	6		
合計		124		

ビジネス学部

授業科目区分		学科	ビジネス学科	
教養教育科目	必修科目	8	28	
	選択科目	20		
専門基礎科目	必修科目	18		
専門基幹科目	必修科目	28		
専門発展科目	必修科目	12		
	選択科目	38		
合計		124		

建築・デザイン学部

学科 授業科目区分		建築・デザイン学科					
		建築コース		デザインコース		コクリエイトコース	
教養教育科目	必修科目	6	28	6	28	6	28
	選択科目	22		22		22	
専門教育科目	必修科目	80		70		66	
	選択科目	16		26		30	
合計		124					

児童学部

授業科目区分		学科	児童学科
教養教育科目	必修科目		6
	選択科目		14
専門教育科目	必修科目		25
	選択科目		63
自由選択区分			16
合計			124

第 19 条の 2 教育上有益と認めるときは、他の大学または短期大学との協議により、学生が当該他の大学等において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学において修得したものとみなすことがある。

2 前項の規定は、学生が、外国の大学または短期大学に留学する場合および外国の大学または短期大学が行なう通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

3 前 2 項の規定については別に定める。

第 19 条の 3 教育上有益と認めるときは、学生が行なう短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、必要な単位を与えることがある。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第 1 項および第 2 項による単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

3 前 2 項の規定については別に定める。

第 19 条の 4 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する以前に大学または短期大学において修得した単位（第 33 条の 2 に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学において修得したものとみなすことがある。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する以前に行なった前条第 1 項に規定する学修を、本学における履修とみなし必要な単位を与えることがある。

3 前 2 項により修得したものとみなし、または与えることができる単位数は、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 19 条の 2 第 1 項および第 2 項並びに前条第 1 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

4 前 3 項の規定については別に定める。

第 20 条 教育職員免許状を得ようとする者は、教育職員免許法および同法施行規則に定める授業科目および単位数を修得しなければならない。

2 司書教諭の資格を得ようとする者は、教育職員免許法に定める教諭普通免許状を有し、学校図書館司書教諭講習規程第 3 条および同附則第 2 項に定める授業科目および単位数を修得しなければ

らない。

3 本学で取得できる教育職員免許状等の種類は次の通りとする。

学部・学科・専攻	免許状等の種類	
家政学部 被服学科	高等学校教諭一種免許状 家庭 中学校教諭一種免許状 家庭	司書教諭
食物栄養学科 食物学専攻 管理栄養士専攻	高等学校教諭一種免許状 家庭 中学校教諭一種免許状 家庭 栄養教諭一種免許状	司書教諭
文芸学部 文芸学科	高等学校教諭一種免許状 国語、外国語（英語）、情報 中学校教諭一種免許状 国語、外国語（英語）	司書教諭
国際学部 国際学科	高等学校教諭一種免許状 地理歴史、公民、外国語（英語） 中学校教諭一種免許状 社会、外国語（英語）	司書教諭
児童学部 児童学科	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状	
家政学部食物栄養学科管理栄養士専攻は、司書教諭の資格は取得できない。 家政学部食物栄養学科食物学専攻は、栄養教諭の免許は取得できない。		

- 4 管理栄養士国家試験の受験資格を得ようとする者は、家政学部食物栄養学科管理栄養士専攻に在籍し、栄養士法、同法施行規則および管理栄養士学校指定規則に定める授業科目および単位数を修得しなければならない。
管理栄養士養成に関する細則は別に定める。
- 5 一級建築士試験の受験資格を得ようとする者は、建築・デザイン学部建築・デザイン学科に在籍し、建築士法に定める授業科目を履修し、単位数を修得しなければならない。
また、二級建築士試験の受験資格を得ようとする者は、建築・デザイン学部建築・デザイン学科に在籍し、建築士法に定める授業科目を履修し、単位数を修得しなければならない。
なお、一級建築士試験および二級建築士試験の受験資格の取得に関する細則は、別に定める。
- 6 保育士の資格を得ようとする者は、児童福祉法施行令および同法施行規則および保育士養成施設指定規則に定める授業科目および単位数を修得しなければならない。
保育士養成に関する細則は別に定める。
- 7 学芸員の資格を得ようとする者は、博物館法および同法施行規則第1条に定める授業科目および単位数を修得しなければならない。
- 8 文芸学部において司書の資格を得ようとする者は、図書館法および同法施行規則第1条に定める授業科目および単位数を修得しなければならない。
- 9 看護師国家試験の受験資格を得ようとする者は、看護学部看護学科に在籍し、保健師助産師看護師法に定める授業科目および単位数を修得しなければならない。看護師養成に関する細則は別に定める。
- 10 保健師国家試験の受験資格を得ようとする者は、看護学部看護学科に在籍し、保健師助産師看護師法に定める授業科目および単位数を修得しなければならない。保健師養成に関する細則は別に定める。

第7章 収容定員

第21条 各学部の収容定員は次の通りとする。

	入学定員	収容定員
家政学部		
被服学科	90 名	360 名
食物栄養学科		
食物学専攻	55 名	220 名
管理栄養士専攻	50 名	200 名
建築・デザイン学科	(学生募集停止)	
児童学科	(学生募集停止)	
文芸学部		
文芸学科	350 名	1,400 名
国際学部		
国際学科	250 名	1,000 名
看護学部		
看護学科	100 名	400 名
ビジネス学部		
ビジネス学科	150 名	600 名
建築・デザイン学部		
建築・デザイン学科	150 名	600 名
児童学部		
児童学科	150 名	600 名

第8章 入学、休学、復学、退学、編入学、転学部・転学科・転専攻、転学、再入学、留学および除籍

第22条 入学の時期は学年または学期の始めとする。

第23条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- ① 高等学校または中等教育学校の後期課程を卒業した者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- ③ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- ⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- ⑥ 学校教育法施行規則第150条第4号において文部科学大臣の指定した者
- ⑦ 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）
- ⑧ 本学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

第24条 入学志願者に対しては選抜試験を行なう。

第25条 入学志願者は、入学志願書および出身学校長から提出する調査書を所定の期日までに提出し、本学則第46条に規定する入学検定料を納入しなければならない。

第26条 選抜試験に合格し、所定の期日までに本学則第46条に規定する納入金を納め、保証人連署の誓約書を提出した者に対して入学を許可する。

2 保証人は父または母とし、父母のない場合はこれに代わるべき者で、独立の生計を営み、保証人としての責務を確実に果たし得る者でなければならない。

3 本学が保証人として不適当と認めたときは、その変更を命ずることがある。

4 学生が保証人を変更しようとするときは、新旧保証人連署してただちに届け出なければならない。また、保証人が住所、氏名を変更したときは、ただちに届け出なければならない。

第27条 病気その他止むを得ない理由によって1学期以上就学できない者は、保証人連署のうえ願い出て教授会の議を経て休学の許可を得なければならない。ただし、休学の期間はその学年度内と

し、願い出によって、引き続き1年以内休学することができる。

2 休学の期間は通算して4年を超えることはできない。

3 休学の期間は、本学則第4条に規定する修業年限および在学年数に算入しない。

第28条 休学者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ願い出て、教授会の議を経て許可を得なければならない。

2 復学の時期は学期の始めとする。

第29条 病気その他止むを得ない理由によって退学しようとする者は、保証人連署のうえ願い出て、教授会の議を経て許可を得なければならない。ただし、願い出た期日を含む学期の授業料等学費を納入していなければならない。

第30条 次の各号の一に該当する者が本学に編入学を願い出た場合は、欠員のある場合に限り選考のうえ教授会の議を経て入学を許可することがある。

① 大学を卒業した者

② 大学に2年以上在学した者

③ 短期大学または高等専門学校を卒業した者

④ 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすもの）を修了した者

⑤ 高等学校の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

2 編入学を許可された場合の既修得単位認定については別に定める。

3 本学から他の大学に編入学を願い出る者があるときは、その願い出の理由によって教授会の議を経てこれを許可することがある。

第30条の2 本大学の学生で、所属学部、学科、専攻から他の学部、学科、専攻または同一学部の他の学科、専攻、もしくは同一学部、学科内の他の専攻への転学部・転学科・転専攻を志望する者がある場合、それが教育上有益と認められるときは、学長は、選考のうえ相当年次に転学部・転学科・転専攻を許可することがある。

2 前項の取扱いについては別に規程を定める。

第30条の3 他の大学の学生が、本学に転学を願い出たときは、選考のうえ、教授会の議を経て許可することがある。

第31条 本学則第29条によって退学した者または第31条の3第1項第1号、第3号から第5号の規定により除籍された者が、2年以内に再入学を願い出るときは、選考のうえ、教授会の議を経てこれを許可することがある。ただし、入学の時期は本学則第22条によるものとする。

2 再入学に関する規程は別に定める。

第31条の2 外国の大学あるいはこれに相当する高等教育機関に留学を希望する者は、教授会の議を経て留学することができる。

2 前項の留学期間は、1年を限度として在学年数に算入することができる。

3 留学に関して必要事項は、別に定める。

第31条の3 次の各号の一に該当する者は教授会の議を経て除籍する。

① 本学則に定める期限までに授業料等の学費を納入していない者

② 本学則に定める在学年限を超えた者

③ 本学則に定める休学期間を超えた者

④ 長期間にわたり行方不明の者

⑤ 本学所定の期日までに履修しようとする授業科目の届け出がない者

2 前項各号の取扱いについては別に規程を定める。

第32条 学生が住所、氏名および本籍地を変更したときはただちに届け出なければならない。

第9章 研究生、科目等履修生、特別聴講学生、外国人学生および委託生

第33条 本学において特定の事項に関する研究に従事することを希望する者があるときは、学生の学修に支障のない場合に限り、選考のうえ、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生に関する規程は別に定める。

第33条の2 次の各号に該当する者が、本学の授業科目中その一部について履修を願い出るときは、学生の学修に支障のない場合に限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可することがある。

① 本学則第23条の各号の一に該当する者

② 学長が当該授業科目を履修することのできる十分な学力を有すると認める、学校教育法第

一条に定める高等学校に在学する者

2 科目等履修生として履修し試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与えることができる。

3 科目等履修生に関して必要な事項は別に定める。

第33条の3 特定の授業科目を履修することを希望する他の大学または外国の大学の学生があるときは、当該大学との協議に基づき、所定の手続を経て、特別聴講学生として、入学を許可することができる。

2 特別聴講学生に関する規程は別に定める。

第34条 科目等履修生として履修を許可された者は、本学則第46条に規定する科目等履修登録料および科目等履修料を所定の期日までに納入しなければならない。ただし、第33条の2第1項第2号に規定する者で、科目等履修生として履修を許可された者は、科目等履修登録料および科目等履修料を徴収しない。

第35条 削 除

第36条 削 除

第37条 外国公館の証明のある外国人で、入学を志願する者があるときは、特別の選考の上、外国人学生として、入学を許可することがある。

第38条 他の大学または公共機関から委託生として推薦された者が学修を願い出るときは、学生の学修に支障のない場合に限り、これを許可することがある。

第39条 外国人学生および委託生の授業料その他の納入金については、科目等履修生に準ずる。

第40条 研究生、科目等履修生、特別聴講学生、外国人学生および委託生については、本章の規定のほか正規の学生に関する規定を準用する。

第10章 課程修了の認定

第41条 授業科目修了の認定は試験による。

第42条 試験の方法は、筆記試験のほか、口述試験、レポート、論文、作品および実技等による。

2 試験の成績はS・A・B・C・Dをもって表わし、S・A・B・Cを合格とする。

3 試験に合格した学生には、その授業科目所定の単位を与える。

4 試験に不合格となった授業科目については、再履修しなければ試験を受けることができない。

第43条 病気その他止むを得ない理由によって試験に欠席した者は、所定の期日までに願い出て許可を得た場合に限り、追試験を受けることができる。

第11章 卒業および学位の授与

第44条 本学を卒業するためには、学生は4年以上在学し、本学則第19条に規定する単位数を別表第1、第5、第10の1、第12、第13、第14、第15の中から修得しなければならない。

第44条の2 本学に4年以上在学し、本学則に規定する授業科目および単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 削 除

第45条 卒業を認定した学生には、学士の学位を授与する。

2 学長は、前項の規定により卒業を認定された者に学士の学位を授与する。本学において授与する学位は、専攻分野により次のとおりとする。

家政学部	学士（家政学）
文芸学部	学士（文芸学）
国際学部	学士（国際学）
看護学部	学士（看護学）
ビジネス学部	学士（ビジネス学）
建築・デザイン学部	学士（美術）
児童学部	学士（児童学）

3 学位に関する規程は別に定める

第12章 学 費 その他

第46条 入学金、授業料、施設設備維持費、実験実習料、科目等履修登録料および科目等履修料の納入額並びに納入方法は、別表納入額第1の1の通りとする。

2 入学検定料は別表納入額第1の2の通りとする。

第47条 本人および保証人の連署で所定の期間内に入学辞退の申し出のあった者に限り入学金以外の

納入金を返還する。

第 47 条の 2 経済的理由によって授業料等学費の納入が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者またはその他止むを得ない事情があると認められる者で、当該学部を経て願い出たときは、授業料等学費の徴収を猶予することができる。

2 授業料等学費の徴収の猶予に関する規程は別に定める。

第 47 条の 3 休学の場合は在籍料として半期休学の場合は 5 万円を、1 年間休学の場合は 10 万円を納めなければならない。

2 申し出の時期については別に定める。

第 47 条の 4 学期の途中で退学を願いでた場合、納入済みの授業料、施設設備費、実験実習料は返還しない。未納の場合は納入しなければならない。

2 申し出の時期については別に定める。

第 48 条 本学則において特段の定めがある場合を除き、授業料等の学費を納入していない者は試験を受けることができない。

第 49 条 削 除

第 50 条 削 除

第 51 条 削 除

第 52 条 削 除

第 13 章 賞 罰

第 53 条 学業が特に優秀な者または学生の模範となる行為をした者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。

第 54 条 本学教育の趣旨に背きまたは学生の本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て学長がこれを懲戒する。

2 懲戒は訓告、停学および退学とする。

3 退学は次の各号の一に該当する者に対して行なう。

① 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

② 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

③ 正当の理由がなくて出席常でない者

④ 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第 14 章 附属施設、研究所およびセンター

第 55 条 本学に図書館、博物館、総合文化研究所その他教育研究上必要な附属施設およびセンターをおく。

2 各附属施設、研究所およびセンターに関する規程は別に定める。

第 15 章 公 開 講 座

第 56 条 公開講座は教授会の議を経て随時開設する。

第 16 章 学 生 寮

第 57 条 本学に学生寮を付設する。

2 学生寮に関する規程は別に定める。

附 則

本学則は昭和 24 年 4 月 1 日からこれを施行する。

附 則

この改正学則は昭和 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は昭和 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は昭和 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は昭和 35 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は昭和 36 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は昭和 37 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は昭和 38 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は昭和 39 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は昭和 41 年 4 月 1 日から施行し、同年 4 月入学生から適用する。

附 則

この改正学則は昭和 43 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は昭和 45 年 4 月 1 日から施行し、同年 4 月入学生から適用する。

附 則

この改正学則は昭和 46 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 45 年度以前に入学した者については第 47 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 47 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は昭和 48 年 4 月 1 日から施行し、同年 4 月入学生から適用する。

附 則

この改正学則は昭和 49 年 4 月 1 日から施行し、同年 4 月入学生から適用する。

附 則

この改正学則は昭和 50 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 49 年度以前に入学した者については第 46 条、第 47 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 51 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 50 年度以前に入学した者については第 46 条、第 47 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 52 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 51 年度以前に入学した者については第 46 条、第 47 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 53 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 52 年度以前に入学した者については第 46 条、第 47 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 53 年度以前に入学した者については第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 54 年度以前に入学した者については第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 56 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 55 年度以前に入学した者については第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 57 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 56 年度以前に入学した者については第 20 条および第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 58 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 56 年度以前に入学した者については第 20 条、昭和 57 年度以前に入学した者については

第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 59 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 56 年度以前に入学した者については第 20 条、昭和 58 年度以前に入学した者については第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 59 年度以前に入学した者については第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 60 年度以前に入学した者については第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 61 年度以前に入学した者については第 19 条および第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 62 年度以前に入学した者については第 19 条および第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は平成元年 4 月 1 日から施行する。

なお、昭和 63 年度以前に入学した者については第 19 条および第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は平成 2 年 4 月 1 日から施行し、同年 4 月入学者より適用する。

なお、平成元年度以前に入学した者については、施設々備資金を授業料として徴収する。

附 則

1. この改正学則は平成 3 年 4 月 1 日から施行する。

2. 第 21 条の規定にかかわらず入学定員は、平成 3 年度から平成 11 年度までの間は、次のとおりとする。

入学定員		入学定員	
家政学部		文芸学部	
被服学科	1 0 0 名	文学専攻	3 2 0 名
食物学科		芸術学専攻	8 0 名
食 物 学 専 攻	5 0 名	国際文化学部	
管理栄養士専攻	4 0 名	国際文化学科	2 0 0 名
生活美術学科	1 0 0 名		

3. 平成 2 年度以前に入学した者については第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

1. この改正学則は平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

2. 第 21 条の規定と、平成 3 年 4 月 1 日施行の附則にかかわらず入学定員は、平成 4 年度から平成 11 年度までの間は、次のとおりとする。

入学定員		入学定員	
家政学部		文芸学部	
被服学科	1 0 0 名	文学専攻	3 2 0 名
食物学科		芸術学専攻	8 0 名
食 物 学 専 攻	5 0 名	国際文化学部	
管理栄養士専攻	4 0 名	国際文化学科	2 5 0 名
生活美術学科	1 0 0 名		

3. 第 45 条の規定については平成 4 年 3 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

なお、平成 4 年度以前に入学した者については第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

なお、平成 4 年度以前に入学した者については第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

この改正学則は平成 7 年 4 月 1 日から施行し、同年 4 月入学生から適用する。

なお、平成 6 年度以前に入学した者については、第 19 条、平成 4 年度以前に入学した者については、第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

1. この改正学則は平成 8 年 4 月 1 日から施行し、同年 4 月入学生から適用する。
2. 第 21 条の規定と、平成 4 年 4 月 1 日施行の附則にかかわらず入学定員は、平成 8 年度から平成 11 年度までの間は、次のとおりとする。

入学定員		入学定員	
家政学部		文芸学部	
被服学科	1 0 0 名	文学専攻	3 2 0 名
食物学科		芸術学専攻	8 0 名
食 物 学 専 攻	4 0 名	国際文化学部	
管理栄養士専攻	5 0 名	国際文化学科	2 5 0 名
生活美術学科	1 0 0 名		

附 則

この改正学則は平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は平成 10 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1. この改正学則は平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 11 年度以前に入学した者については第 3 条、第 19 条および第 20 条の規定にかかわらず従前の例による。
3. 第 21 条の規定にかかわらず入学定員は、平成 12 年度から平成 15 年度までの間は、次のとおりとする。

	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
家政学部				
被服学科	98 名	96 名	94 名	92 名
食物栄養学科				
食物学専攻	39 名	38 名	37 名	36 名
管理栄養士専攻	50 名	50 名	50 名	50 名
生活美術学科				
美術専攻	49 名	48 名	47 名	46 名
建築専攻	49 名	48 名	47 名	46 名
文芸学部				
文学専攻	310 名	300 名	290 名	280 名
芸術学専攻	80 名	80 名	80 名	80 名
国際文化学部				
国際文化学科	245 名	240 名	235 名	230 名

附 則

この改正学則は平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正学則は平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1. この改正学則は平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 14 年度以前に入学した者については第 13 条の 3、第 19 条および第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

1. この改正学則は平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 15 年度以前に入学した者については、第 13 条、第 14 条から第 15 条の 2 および第 19 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

1. この改正学則は平成 17 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 16 年度以前に入学したものについては、第 14 条、第 15 条の 2、第 20 条および第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。
3. 第 21 条の規定にかかわらず、家政学部 食物栄養学科 食物学専攻の収容定員は、平成 17 年度 153 名、平成 18 年度 161 名、平成 19 年度 170 名とする。
4. 第 21 条の規定にかかわらず、文芸学部 文学専攻の収容定員は、平成 17 年度 1,090 名、平成 18 年度 1,050 名、平成 19 年度 1,020 名および芸術学専攻の収容定員は、平成 17 年度 340 名、平成 18 年度 360 名、平成 19 年度 380 名とする。

附 則

この学則は、平成 18 年 1 月 31 日から施行し、但し、第 23 条の 6 項は平成 18 年度入学試験から適用する。

附 則

1. この改正学則は平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 17 年度以前に入学した者については、第 14 条、第 19 条および第 46 条の別表第 1 の 1 の納入額の規定に係わらず従前の例による。但し、第 14 条のうち、家政学部共通科目については平成 16 年度入学生より適用する。

附 則

1. この改正学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。但し、第 23 条の規定は、平成 18 年 4 月 1 日より施行する。
2. 平成 18 年度以前に入学したものについては、第 2 条、第 3 条、第 13 条、第 13 条の 2、第 13 条の 3、第 14 条、第 15 条、第 15 条の 2、第 19 条、第 20 条、第 21 条、第 23 条および第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

1. この改正学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 19 年度以前に入学したものについては、第 14 条、第 15 条、第 15 条の 2、第 19 条および第 46 条の規定にかかわらず従前の例による。

附 則

1. この改正学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 20 年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

1. この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 21 年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

1. この改正学則は平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 22 年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

1. この改正学則は平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 23 年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

1. この改正学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 24 年度以前に入学したものについては、従前の例による。

附 則

1. この改正学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 25 年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

1. この改正学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 26 年度以前に入学した者については、従前の例による。
3. 第 21 条の規定にかかわらず、家政学部児童学科の収容定員は、平成 27 年度 450 名、平成 28 年度

500 名、平成 29 年度 550 名とする。

附 則

1. この改正学則は平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 27 年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

1. この改正学則は平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 28 年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

1. この改正学則は平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 29 年度以前に入学した者については、従前の例による。
3. 第 21 条の規定にかかわらず、家政学部食物栄養学科食物学専攻の収容定員は、平成 30 年度 190 名、平成 31 年度 200 名、平成 32 年度 210 名とし、建築・デザイン学科の収容定員は、平成 30 年度 370 名、平成 31 年度 380 名、平成 32 年度 390 名とする。

附 則

1. この改正学則は平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 30 年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第 30 条の 2 はその限りではない。

附 則

1. この改正学則は令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 31 年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第 47 条の 3 はその限りではない。

附 則

1. この改正学則は令和 3 年 4 月 1 日から施行する。
2. 令和 2 年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第 16 条の 5 についてはその限りではない。
3. 第 13 条の 5 については、平成 31 年度以降に入学した者について適用する。

附 則

1. この改正学則は令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
2. 令和 3 年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

この改正学則は令和 4 年 9 月 21 日から施行する。

附 則

1. この改正学則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 46 条第 2 項は令和 5 年度入学試験から適用する。
2. 令和 4 年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第 18 条についてはその限りではない。
3. 家政学部建築・デザイン学科については、令和 5 年度から学生募集を停止し、在籍学生がいなくなるのを待って廃止する。

附 則

1. この改正学則は、令和 5 年 9 月 1 日から施行する。
2. 令和 5 年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

1. この改正学則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。
2. 令和 5 年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第 6 条、第 7 条、第 8 条、第 8 条の 2、第 8 条の 3、第 8 条の 4 および第 8 条の 5 についてはその限りではない。

附 則

1. この改正学則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。
2. 令和 6 年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第 46 条第 1 項のうち、納入方法についてはその限りではない。

附 則

1. この改正学則は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。
2. 令和 7 年度以前に入学した者については、従前の例による。
3. 家政学部児童学科については、令和 8 年度から学生募集を停止し、在籍学生がいなくなるのを待

って廃止する。

附 則

1. この改正学則は、令和 9 年 4 月 1 日から施行する。
2. 令和 8 年度以前に入学した者については、従前の例による。
3. 第 21 条の規定にかかわらず、建築・デザイン学部建築・デザイン学科の収容定員は、令和 9 年度 450 名、令和 10 年度 500 名、令和 11 年度 550 名とする。

別表第1 家政学部

授業科目	必修	選択
教養教育科目		
自律と努力コア		
基礎ゼミナール	1	
論理的思考・文章表現		1
ライフキャリアと自己実現	2	
課題解決のためのリーダーシップ入門	1	
創造とキャリアコア		
データサイエンスとICTの基礎	2	
情報処理		2
情報の分析と活用		2
データエンジニアリングとプログラミング基礎		2
AIの基礎と応用		2
課題解決のためのデータエンジニアリング		2
英語コミュニケーションⅠ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅠ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅡ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅡ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅢ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅢ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅣ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅣ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅤ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅤ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅥ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅥ (Advanced)		1
TOEICⅠ (Basic)		2
TOEICⅠ (Intermediate)		2
TOEICⅠ (High-Intermediate)		2
TOEICⅠ (Advanced)		2
TOEICⅡ (Basic)		2
TOEICⅡ (Intermediate)		2

別表第1 家政学部

授業科目	必修	選択
TOEICⅡ (High-Intermediate)		2
TOEICⅡ (Advanced)		2
TOEICⅢ (High-Intermediate)		2
TOEICⅢ (Advanced)		2
フランス語Ⅰ		2
フランス語Ⅱ		2
フランス語Ⅲ		1
フランス語Ⅳ		1
中国語Ⅰ		2
中国語Ⅱ		2
中国語Ⅲ		1
中国語Ⅳ		1
ドイツ語Ⅰ		2
ドイツ語Ⅱ		2
ドイツ語Ⅲ		1
ドイツ語Ⅳ		1
コリア語Ⅰ		1
コリア語Ⅱ		1
コリア語Ⅲ		1
コリア語Ⅳ		1
スペイン語Ⅰ		1
スペイン語Ⅱ		1
スペイン語Ⅲ		1
スペイン語Ⅳ		1
イタリア語Ⅰ		1
イタリア語Ⅱ		1
アラビア語Ⅰ		1
アラビア語Ⅱ		1
基礎日本語Ⅰ (留学生対象)		1
基礎日本語Ⅱ (留学生対象)		1
応用日本語Ⅰ (留学生対象)		1
応用日本語Ⅱ (留学生対象)		1
日本の歴史を学ぶ		2
世界の歴史を学ぶ		2
人間と地理を学ぶ		2
文学をひらく		2
芸術をひらく		2
哲学とは何か		2
心理を学ぶ		2

別表第1 家政学部

授業科目	必修	選択
自己開発A		2
自己開発B		2
法律を学ぶ（日本国憲法）		2
法律を学ぶ（概論）		2
政治を学ぶ		2
倫理学とは何か		2
国際関係を学ぶ		2
地域社会と家族を学ぶ		2
経済を学ぶ		2
社会を学ぶ		2
企業と社会の仕組み		2
マーケティング		2
女性の生き方と社会		2
自然と地理を学ぶ		2
数学への招待		2
生物学への招待		2
物理学への招待		2
化学への招待		2
健康スポーツ実習A		1
健康スポーツ実習B		1
健康スポーツ演習		1
協働とリーダーシップコア		
現代社会の諸課題		2
リーダーシップ開発演習Ⅰ		2
リーダーシップ開発演習Ⅱ		2
サービス・ラーニング実践演習		2
ファシリテーション入門		2
ファシリテーションA		2
ファシリテーションB		2
ファシリテーションC		2
ファシリテーションD		2
サービス・ラーニング・ファシリテーション		2

別表第 1 家政学部

授業科目	必修	選択
専門教育科目		
家政学部共通科目		
家政学原論A		2
家政学原論B		2
家庭経営学Ⅰ		2
家庭経営学Ⅱ		2
消費者経済学		2
生活関連法規		2
家族関係学		2
人間形成の心理学		2
児童文化論		2
保育学		2
社会福祉論		2
人間学		2
高齢者論		2
被服学概論		2
食物学概論		2
住居学概論		2
考古学		2
環境学概論		2
統計学		2
家庭電気・機械		2
被服学科		
被服基礎科学	2	
被服材料学Ⅰ	2	
被服材料学実験		2
被服材料学Ⅱ		2
機器測定法		2
被服繊維学実験		2
衣生活とサイエンス	2	
被服管理学Ⅰ	2	
被服管理学実験		2
染色加工学		2
被服管理学Ⅱ		2
染色実習		2
染織品保存科学		2
染織文化史	2	
西洋服装史	2	
東洋服装史		2

別表第1 家政学部

授業科目	必修	選択
染織品保存修復論		2
染織品保存修復実習Ⅰ		2
染織品保存修復実習Ⅱ		2
和服文化論	2	
伝統和服制作実習Ⅰ		2
伝統和服制作実習Ⅱ		2
伝統和服制作実習Ⅲ		2
被服造形基礎実習	2	
被服造形学Ⅰ	2	
被服造形学Ⅱ	2	
被服造形実習Ⅰ		2
被服造形実習Ⅱ		2
被服造形実習Ⅲ		2
衣生活とエルゴノミクス		2
色彩学	2	
ファッションドローイング	2	
先端ファッションデザインⅠ		2
先端ファッションデザインⅡ		2
衣生活とデザイン		2
ファッションDⅠ	2	
ファッションDⅡ		2
ファッションDⅢ		2
ファッションDⅣ		2
マーケティングリサーチⅠ	2	
マーケティングリサーチⅡ		2
先端ファッションビジネスⅠ		2
ファッションビジネス論		2
ファッションマーケティング論		2
先端ファッションビジネスⅡ		2
ファッションリテール論		2
被服心理学	2	
化粧心理学	2	
コスメティックマーケティング論		2
コスメティックサイエンス		2
ビューティウェルネス		2
衣生活と健康Ⅰ	2	
衣生活と健康Ⅱ	2	
衣生活と健康Ⅲ		2
社会臨床心理学		2

別表第1 家政学部

授業科目	必修	選択
衣生活と消費科学		2
消費衣生活論		2
被服学ゼミナールA		2
被服学ゼミナールB		2
被服学ゼミナールC		2
卒業論文		6
卒業制作		6
卒業演習		4
衣料管理演習		2
テキスタイルアドバイザー実習		2
調理学実習Ⅰ（教職）		1
食物栄養学科 食物学専攻		
基礎化学	2	
基礎生物学	2	
化学実験	1	
生物学実験	1	
有機化学	2	
生化学	2	
生理学	2	
微生物学	2	
食物情報処理演習		2
食品学	2	
応用食品学	2	
食品学実験	1	
応用食品学実験	1	
食品の鑑別（統計処理演習を含む）		2
食品衛生学	2	
食品衛生学実験	1	
食品分析学	2	
食品バイオテクノロジー		2
食と安全		2
健康科学概論	2	
ライフステージと栄養	2	
栄養と健康	2	
スポーツ栄養論		2
栄養学	2	
食品機能学	2	
栄養学実験	1	
公衆衛生学	2	

別表第1 家政学部

授業科目	必修	選択
食と環境		2
調理学	2	
調理学実習Ⅰ	1	
調理学実習Ⅱ		1
調理学実験		1
調理科学		2
フードコーディネート論		2
伝統食品・調理論演習		2
食文化概論	2	
食物史		2
食器論		2
比較食文化論		2
食物特別講義		2
食のパッケージデザイン演習		2
食品マーケティング論		2
製品開発論		2
卒業論文		6
卒業演習		4
被服学概論		2
住居学概論		2
被服造形学実習（教職）Ⅰ		1
被服造形学実習（教職）Ⅱ		1
食物栄養学科 管理栄養士専攻		
基礎化学	2	
基礎生物学	2	
化学実験	1	
生物学実験	1	
有機化学	2	
健康管理概論（社会福祉概論を含む）	2	
公衆衛生学Ⅰ	2	
公衆衛生学Ⅱ	2	
生化学Ⅰ	2	
生化学Ⅱ	2	
生化学実験Ⅰ	1	
生化学実験Ⅱ	1	
病理学Ⅰ	2	
病理学Ⅱ	2	
解剖生理学Ⅰ	2	
解剖生理学Ⅱ	2	

別表第 1 家政学部

授業科目	必修	選択
解剖生理学実験Ⅰ	1	
解剖生理学実験Ⅱ	1	
運動生理学		2
微生物学・免疫学	2	
食品学総論	2	
食品学総論実験Ⅰ	1	
食品学総論実験Ⅱ	1	
食品衛生学	2	
食品衛生学実験	1	
食品利用学	2	
食品利用学実習	1	
調理学	2	
調理学実習Ⅰ	1	
調理学実習Ⅱ	1	
基礎栄養学	2	
基礎栄養学実験	1	
応用栄養学Ⅰ	2	
応用栄養学Ⅱ	2	
応用栄養学Ⅲ	2	
応用栄養学実習	1	
栄養教育論Ⅰ	2	
栄養教育論Ⅱ	2	
栄養教育論実習	1	
栄養教育論演習	2	
学校栄養教育論Ⅰ		2
学校栄養教育論Ⅱ		2
臨床栄養学Ⅰ	2	
臨床栄養学Ⅱ	2	
臨床栄養学Ⅲ	2	
臨床栄養学Ⅳ	2	
臨床栄養学実験	1	
臨床栄養学実習	1	
公衆栄養学Ⅰ	2	
公衆栄養学Ⅱ	2	
公衆栄養学実習	1	
給食経営管理論Ⅰ（給食計画・実務論を含む）	2	
給食経営管理論Ⅱ	2	
給食経営管理実習Ⅰ	1	
給食経営管理実習Ⅱ	1	

別表第 1 家政学部

授業科目	必修	選択
総合演習Ⅰ	1	
総合演習Ⅱ	1	
臨地実習Ⅰ（校外実習）	1	
臨地実習Ⅱ	3	
卒業論文		6
卒業演習		4
被服学概論		2
住居学概論		2
被服造形学実習（教職）Ⅰ		1
被服造形学実習（教職）Ⅱ		1

別表第 2

削除

別表第 3

削除

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
教養教育科目		
自律と努力コア		
基礎ゼミナール	1	
論理的思考・文章表現		1
ライフキャリアと自己実現	2	
課題解決のためのリーダーシップ入門	1	
創造とキャリアコア		
データサイエンスとICTの基礎	2	
情報処理	2	
情報の分析と活用		2
データエンジニアリングとプログラミング基礎		2
AIの基礎と応用		2
課題解決のためのデータエンジニアリング		2
英語コミュニケーションⅠ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅠ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅡ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅡ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅢ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅢ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅣ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅣ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅤ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅤ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅥ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅥ (Advanced)		1
TOEICⅠ (Basic)		2
TOEICⅠ (Intermediate)		2
TOEICⅠ (High-Intermediate)		2
TOEICⅠ (Advanced)		2
TOEICⅡ (Basic)		2

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
TOEIC II (Intermediate)		2
TOEIC II (High-Intermediate)		2
TOEIC II (Advanced)		2
TOEIC III (High-Intermediate)		2
TOEIC III (Advanced)		2
フランス語Ⅰ		2
フランス語Ⅱ		2
フランス語Ⅲ		1
フランス語Ⅳ		1
中国語Ⅰ		2
中国語Ⅱ		2
中国語Ⅲ		1
中国語Ⅳ		1
ドイツ語Ⅰ		2
ドイツ語Ⅱ		2
ドイツ語Ⅲ		1
ドイツ語Ⅳ		1
コリア語Ⅰ		1
コリア語Ⅱ		1
コリア語Ⅲ		1
コリア語Ⅳ		1
スペイン語Ⅰ		1
スペイン語Ⅱ		1
スペイン語Ⅲ		1
スペイン語Ⅳ		1
イタリア語Ⅰ		1
イタリア語Ⅱ		1
アラビア語Ⅰ		1
アラビア語Ⅱ		1
基礎日本語Ⅰ (留学生対象)		1
基礎日本語Ⅱ (留学生対象)		1
応用日本語Ⅰ (留学生対象)		1
応用日本語Ⅱ (留学生対象)		1
日本の歴史を学ぶ		2
世界の歴史を学ぶ		2
人間と地理を学ぶ		2
文学をひらく		2
芸術をひらく		2

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
哲学とは何か		2
心理を学ぶ		2
自己開発A		2
自己開発B		2
法律を学ぶ（日本国憲法）		2
法律を学ぶ（概論）		2
政治を学ぶ		2
倫理学とは何か		2
国際関係を学ぶ		2
地域社会と家族を学ぶ		2
経済を学ぶ		2
社会を学ぶ		2
企業と社会の仕組み		2
マーケティング		2
女性の生き方と社会		2
自然と地理を学ぶ		2
数学への招待		2
生物学への招待		2
物理学への招待		2
化学への招待		2
健康スポーツ実習A		1
健康スポーツ実習B		1
協働とリーダーシップコア		
現代社会の諸課題		2
リーダーシップ開発演習Ⅰ		2
リーダーシップ開発演習Ⅱ		2
サービス・ラーニング実践演習		2
ファシリテーション入門		2
ファシリテーション A		2
ファシリテーション B		2
ファシリテーション C		2
ファシリテーション D		2
サービス・ラーニング・ファシリテーション		2

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
専門基礎分野		
選択必修外国語		
文芸基礎英語		1
文芸英語		1
文芸基礎フランス語		1
文芸フランス語		1
文芸基礎中国語		1
文芸中国語		1
文芸基礎ドイツ語		1
文芸ドイツ語		1
文芸基礎日本語（留学生対象）		1
文芸日本語（留学生対象）		1
外国語		
英語リスニング演習A（ベーシック）		1
英語リスニング演習B（ステップアップ）		1
英語スピーキング演習A（ベーシック）		1
英語スピーキング演習B（ステップアップ）		1
英語ライティング演習A（ベーシック）		1
英語ライティング演習B（ステップアップ）		1
フランス語会話Ⅰ		1
フランス語会話Ⅱ		1
ギリシア語Ⅰ		2
ギリシア語Ⅱ		2
ラテン語Ⅰ		2
ラテン語Ⅱ		2
情報		
CG基礎実習Ⅰ		1
CG基礎実習Ⅱ		1
Web基礎実習		1
DTP基礎実習Ⅰ		1
DTP基礎実習Ⅱ		1
DTM・オーディオ基礎実習		1
デジタルビデオ基礎実習		1
プログラミング基礎実習		1
入門		
文芸入門A	2	
文芸入門B	2	
文芸入門C	2	

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
文芸入門D	2	
概論		
日本語学概論		2
日本文学概論A		2
日本文学概論B		2
英語学概論		2
イギリス文学文化概論		2
アメリカ文学文化概論		2
フランス語学概論A		2
フランス語学概論B		2
フランス文学概論		2
フランス文化概論		2
児童文学概論		2
翻訳概論		2
異文化間コミュニケーション概論		2
劇芸術概論A		2
劇芸術概論B		2
劇芸術概論C		2
日本・東洋美術史概論A		2
日本・東洋美術史概論B		2
西洋美術史概論A		2
西洋美術史概論B		2
ジェンダー概論		2
現代文化概論		2
歴史文化概論		2
思想文化概論		2
神話・民話概論		2
物語文化概論		2
文芸メディア概論		2
専門分野Ⅰ		
日本語学各論A		2
日本語学各論B		2
日本語学各論C		2
日本文学各論A		2
日本文学各論B		2
漢文学A		2
漢文学B		2
英語学各論		2

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
イギリス文学文化各論		2
アメリカ文学文化各論		2
英語圏児童文学各論		2
フランス文学文化各論A		2
フランス文学文化各論B		2
フランス児童文学各論		2
フランス語コミュニケーション演習Ⅰ		1
フランス児童文学演習Ⅰ		1
フランス語翻訳演習Ⅰ		1
フランス文化・芸術演習Ⅰ		1
フランス語学演習AⅠ		1
フランス語学演習BⅠ		1
翻訳各論		2
異文化間コミュニケーション各論A		2
異文化間コミュニケーション各論B		2
日本語学演習AⅠ		1
日本語学演習AⅡ		1
日本語学演習BⅠ		1
日本語学演習BⅡ		1
日本語学演習CⅠ		1
日本語学演習CⅡ		1
日本文学演習AⅠ		1
日本文学演習AⅡ		1
日本文学演習BⅠ		1
日本文学演習BⅡ		1
日本文学演習CⅠ		1
日本文学演習CⅡ		1
日本文学演習DⅠ		1
日本文学演習DⅡ		1
英語学演習AⅠ		1
英語学演習BⅠ		1
イギリス文学文化演習AⅠ		1
イギリス文学文化演習BⅠ		1
アメリカ文学文化演習AⅠ		1
アメリカ文学文化演習BⅠ		1
英語圏児童文学演習AⅠ		1
英語圏児童文学演習BⅠ		1
フランス語フランス文学演習Ⅰ		1

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
フランス語フランス文学演習Ⅱ		1
日本演劇史各論A		2
日本演劇史各論B		2
日本演劇史各論C		2
西洋演劇史各論A		2
西洋演劇史各論B		2
舞台美術各論		2
現代美術各論A		2
現代美術各論B		2
建築史A		2
建築史B		2
造形理論		2
文化資源学		2
西洋美術史講読		1
日本美術史講読		1
放送ドラマ各論A		2
放送ドラマ各論B		2
芸術環境		2
音楽		2
発声朗読法Ⅰ		1
発声朗読法Ⅱ		1
舞台演習		2
書道Ⅰ		1
書道Ⅱ		1
劇芸術演習AⅠ		1
劇芸術演習AⅡ		1
劇芸術演習BⅠ		1
劇芸術演習BⅡ		1
劇芸術演習CⅠ		1
劇芸術演習CⅡ		1
劇芸術演習DⅠ		1
劇芸術演習DⅡ		1
劇芸術演習EⅠ		1
劇芸術演習EⅡ		1
美術史演習AⅠ		1
美術史演習AⅡ		1
美術史演習BⅠ		1
美術史演習BⅡ		1

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
美術史演習 CⅠ		1
美術史演習 CⅡ		1
ジェンダー各論A		2
ジェンダー各論B		2
現代文化各論A		2
現代文化各論B		2
歴史文化各論A		2
歴史文化各論B		2
思想文化各論A		2
思想文化各論B		2
神話・民話各論A		2
神話・民話各論B		2
物語文化各論A		2
物語文化各論B		2
中国文化各論		2
地中海文化各論		2
文化研究の手法A		2
文化研究の手法B		2
文化研究の手法C		2
思想文化演習Ⅰ		1
思想文化演習Ⅱ		1
芸術社会演習Ⅰ		1
芸術社会演習Ⅱ		1
物語文化演習Ⅰ		1
物語文化演習Ⅱ		1
比較文化演習Ⅰ		1
比較文化演習Ⅱ		1
歴史文化演習Ⅰ		1
歴史文化演習Ⅱ		1
地中海文化演習Ⅰ		1
地中海文化演習Ⅱ		1
現代文化演習Ⅰ		1
現代文化演習Ⅱ		1
中国文化演習Ⅰ		1
中国文化演習Ⅱ		1
メディアと文芸A		2
メディアと文芸B		2
メディアと文芸C		2

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
メディア文化論A		2
メディア文化論B		2
メディア文化論C		2
図書館論		2
自己表現実習		1
身体メディア実習		1
芸術メディア実習A		1
芸術メディア実習B		1
コンピュータ科学		2
コンピュータネットワーク論		2
情報システム論		2
文芸メディア演習 A I		1
文芸メディア演習 A II		1
文芸メディア演習 B I		1
文芸メディア演習 B II		1
文芸メディア演習 C I		1
文芸メディア演習 C II		1
文芸メディア演習 D I		1
文芸メディア演習 D II		1
文芸メディア演習 E I		1
文芸メディア演習 E II		1
専門分野 II		
日本文学論A		2
日本文学論B		2
日本文学論C		2
日本文学論D		2
日本文学論E		2
日本文学論F		2
日本文学講読A		1
日本文学講読B		1
日本語学演習 III		1
日本語学演習 IV		1
日本文学演習 AIII		1
日本文学演習 AIV		1
日本文学演習 BIII		1
日本文学演習 BIV		1
日本文学演習 CIII		1
日本文学演習 CIV		1

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
日本文学演習 DIII		1
日本文学演習 DIV		1
日本文学演習 EIII		1
日本文学演習 EIV		1
英語学論		2
イギリス文学論		2
アメリカ文学論		2
イギリス文化論		2
アメリカ文化論		2
英語プレゼンテーション演習		1
英語ディスカッション演習		1
英語学演習 AII		1
英語学演習 BII		1
イギリス文学文化演習 AII		1
イギリス文学文化演習 BII		1
アメリカ文学文化演習 AII		1
アメリカ文学文化演習 BII		1
英語圏児童文学演習 AII		1
英語圏児童文学演習 BII		1
英語翻訳理論		2
英語翻訳技術		2
フランス児童文学論		2
フランス映画論		2
フランス語学演習 AII		1
フランス語学演習 BII		1
フランス文化・芸術演習 II		1
フランス語翻訳演習 II		1
フランス語コミュニケーション演習 AII		1
フランス語コミュニケーション演習 BII		1
フランス語フランス文学演習 III		1
フランス語フランス文学演習 IV		1
現代演劇論		2
演劇論A		2
演劇論B		2
舞踊論A		2
舞踊論B		2
劇場論A		2
劇場論B		2

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
映画論A		2
映画論B		2
劇芸術演習 AIII		1
劇芸術演習 AIV		1
劇芸術演習 BIII		1
劇芸術演習 BIV		1
劇芸術演習 CIII		1
劇芸術演習 CIV		1
劇芸術演習 DIII		1
劇芸術演習 DIV		1
劇芸術演習 EIII		1
劇芸術演習 EIV		1
ドラマ創作		4
日本美術史論A		2
日本美術史論B		2
東洋美術史論A		2
東洋美術史論B		2
西洋美術史論A		2
西洋美術史論B		2
デザイン論A		2
デザイン論B		2
美術史演習III		1
美術史演習IV		1
世界文学論A		2
世界文学論B		2
音楽文化論A		2
音楽文化論B		2
芸術社会論A		2
芸術社会論B		2
現代思想論A		2
現代思想論B		2
歴史文化論A		2
歴史文化論B		2
幻想文学論A		2
幻想文学論B		2
ジェンダー社会論		2
文章論		2
パフォーマンス論		2

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
宗教文化論		2
漢字文化論		2
思想文化演習Ⅲ		1
思想文化演習Ⅳ		1
芸術社会演習Ⅲ		1
芸術社会演習Ⅳ		1
物語文化演習Ⅲ		1
物語文化演習Ⅳ		1
比較文化演習Ⅲ		1
比較文化演習Ⅳ		1
歴史文化演習Ⅲ		1
歴史文化演習Ⅳ		1
地中海文化演習Ⅲ		1
地中海文化演習Ⅳ		1
現代文化演習Ⅲ		1
現代文化演習Ⅳ		1
中国文化演習Ⅲ		1
中国文化演習Ⅳ		1
メディア社会論A		2
メディア社会論B		2
メディア産業論A		2
メディア産業論B		2
メディア教育論		2
図書及び図書館史		2
ジャーナリズム論		2
メディア応用実習A		1
メディア応用実習B		1
メディア応用実習C		1
メディア応用実習D		1
メディア応用実習E		1
コンピュータネットワーク実習		1
情報システム実習		1
情報検索演習		1
文芸メディア演習 AⅢ		1
文芸メディア演習 AⅣ		1
文芸メディア演習 BⅢ		1
文芸メディア演習 BⅣ		1
文芸メディア演習 CⅢ		1

別表第5 文芸学部

授業科目	必修	選択
文芸メディア演習 CIV		1
文芸メディア演習 DIII		1
文芸メディア演習 DIV		1
文芸メディア演習 EIII		1
文芸メディア演習 EIV		1
文芸メディア演習 FIII		1
文芸メディア演習 FIV		1
文芸メディア演習 GIII		1
文芸メディア演習 GIV		1
文芸メディア演習 HIII		1
文芸メディア演習 HIV		1
卒業論文・卒業制作	6	
卒業論文・卒業制作ゼミナール	2	

別表第6 図書館司書科目（卒業要件外）

図書館制度・経営論		2
図書館情報技術論		2
図書館サービス概論		2
情報サービス論		2
児童サービス論		2
情報サービス演習		1
図書館情報資源概論		2
情報資源組織論		2
情報資源組織演習A		1
情報資源組織演習B		1
図書館基礎特論		2
図書館サービス特論		2
図書館情報資源特論		2
図書館実習		1

別表第10の1 国際学部

授業科目	必修	選択
教養教育科目		
自律と努力コア		
基礎ゼミナール	1	
論理的思考・文章表現		1
ライフキャリアと自己実現	2	
課題解決のためのリーダーシップ入門	1	
創造とキャリアコア		
データサイエンスとICTの基礎	2	
情報処理		2
情報の分析と活用		2
データエンジニアリングとプログラミング基礎		2
AIの基礎と応用		2
課題解決のためのデータエンジニアリング		2
英語コミュニケーションⅠ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅠ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅡ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅡ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅢ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅢ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅣ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅣ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅤ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅤ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅥ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅥ (Advanced)		1
TOEICⅠ (Basic)		2
TOEICⅠ (Intermediate)		2
TOEICⅠ (High-Intermediate)		2
TOEICⅠ (Advanced)		2
TOEICⅡ (Basic)		2

別表第10の1 国際学部

授業科目	必修	選択
TOEIC II (Intermediate)		2
TOEIC II (High-Intermediate)		2
TOEIC II (Advanced)		2
TOEIC III (High-Intermediate)		2
TOEIC III (Advanced)		2
フランス語 I		2
フランス語 II		2
フランス語 III		1
フランス語 IV		1
中国語 I		2
中国語 II		2
中国語 III		1
中国語 IV		1
ドイツ語 I		2
ドイツ語 II		2
ドイツ語 III		1
ドイツ語 IV		1
コリア語 I		1
コリア語 II		1
コリア語 III		1
コリア語 IV		1
スペイン語 I		1
スペイン語 II		1
スペイン語 III		1
スペイン語 IV		1
イタリア語 I		1
イタリア語 II		1
アラビア語 I		1
アラビア語 II		1
基礎日本語 I (留学生対象)		1
基礎日本語 II (留学生対象)		1
応用日本語 I (留学生対象)		1
応用日本語 II (留学生対象)		1
日本の歴史を学ぶ		2
世界の歴史を学ぶ		2
人間と地理を学ぶ		2
文学をひらく		2
芸術をひらく		2

別表第10の1 国際学部

授業科目	必修	選択
哲学とは何か		2
心理を学ぶ		2
自己開発A		2
自己開発B		2
法律を学ぶ（日本国憲法）		2
法律を学ぶ（概論）		2
政治を学ぶ		2
倫理学とは何か		2
国際関係を学ぶ		2
地域社会と家族を学ぶ		2
経済を学ぶ		2
社会を学ぶ		2
企業と社会の仕組み		2
マーケティング		2
女性の生き方と社会		2
自然と地理を学ぶ		2
数学への招待		2
生物学への招待		2
物理学への招待		2
化学への招待		2
健康スポーツ実習A		1
健康スポーツ実習B		1
協働とリーダーシップコア		
現代社会の諸課題		2
リーダーシップ開発演習Ⅰ		2
リーダーシップ開発演習Ⅱ		2
サービス・ラーニング実践演習		2
ファシリテーション入門		2
ファシリテーションA		2
ファシリテーションB		2
ファシリテーションC		2
ファシリテーションD		2
サービス・ラーニング・ファシリテーション		2

別表第10の1 国際学部

授業科目	必修	選択
外国語等科目		
国際英語A (L&S) I		1
国際英語A (L&S) II		1
国際英語B (W&R) I		1
国際英語B (W&R) II		1
国際英語C (L&S) I		1
国際英語C (L&S) II		1
国際英語D (R) I		1
国際英語D (R) II		1
国際英語E (W) I		1
国際英語E (W) II		1
英語で読むエリア・スタディーズA (アジア・オセアニア)		1
英語で読むエリア・スタディーズB (ヨーロッパ・アメリカ)		1
英語で読むコミュニケーション・スタディーズA (比較文化)		1
英語で読むコミュニケーション・スタディーズB (言語と文化)		1
英語で読むグローバル・スタディーズA (国際関係)		1
英語で読むグローバル・スタディーズB (国際協力)		1
国際英語F (P&D)		1
国際英語G (AR)		1
国際英語H (AR)		1
国際英語J (AW)		1
国際英語K (AW)		1
国際英語L (MS)		1
フランス語初級 I		1
フランス語初級 II		1
フランス語中級A (文法) I		1
フランス語中級A (文法) II		1
フランス語中級B (会話) I		1
フランス語中級B (会話) II		1
フランス語特別演習A (会話)		1
フランス語特別演習B (リスニング)		1
フランス語特別演習C (講読)		1
フランス語特別演習D (文法)		1
フランス語特別演習E (時事)		1
フランス語特別演習F (作文)		1
フランス語特別演習G (総合)		1
フランス語特別演習H (資格対策)		1
中国語初級 I		1

別表第10の1 国際学部

授業科目	必修	選択
中国語初級Ⅱ		1
中国語中級A（文法）Ⅰ		1
中国語中級A（文法）Ⅱ		1
中国語中級B（会話）Ⅰ		1
中国語中級B（会話）Ⅱ		1
中国語特別演習A（会話）		1
中国語特別演習B（リスニング）		1
中国語特別演習C（講読）		1
中国語特別演習D（文法）		1
中国語特別演習E（時事）		1
中国語特別演習F（作文）		1
中国語特別演習G（総合）		1
中国語特別演習H（資格対策）		1
ドイツ語初級Ⅰ		1
ドイツ語初級Ⅱ		1
ドイツ語中級Ⅰ		1
ドイツ語中級Ⅱ		1
イタリア語初級Ⅰ		1
イタリア語初級Ⅱ		1
イタリア語中級Ⅰ		1
イタリア語中級Ⅱ		1
日本事情（留学生対象）		2
日本語A（文章表現・留学生対象）		1
日本語B（口頭表現・留学生対象）		1
日本語C（ビジネスマナーと言語表現・留学生対象）		1
日本語D（ビジネスコミュニケーション・留学生対象）		1
日本語学概論A（言語的特徴）		2
日本語学概論B（仕組みと表現）		2
日本語学各論A（文字・表記）		2
日本語学各論B（音声・音韻）		2
日本語学各論C（文法）		2
日本語学各論D（日本語史）		2
専門基礎科目		
国際学入門	2	
地域研究入門A（地域と国際文化）		2
地域研究入門B（地域情報分析）		2
地域と歴史入門A（日本史）		2
地域と歴史入門B（世界史）		2

別表第10の1 国際学部

授業科目	必修	選択
Introduction to Area Studies		2
コミュニケーション論入門A（世界の英語）		2
コミュニケーション論入門B（ジェンダー）		2
国際コミュニケーション論入門A（異文化コミュニケーション）		2
国際コミュニケーション論入門B（言語と人間）		2
Introduction to Communication Studies		2
比較文化入門A（社会生活）		2
比較文化入門B（表象）		2
国際関係入門A（国際秩序）		2
国際関係入門B（対外政策分析）		2
Introduction to Global Studies		2
経済分析入門A（ミクロ経済学入門）		2
経済分析入門B（マクロ経済学入門）		2
ジェンダー論A（表象）		2
ジェンダー論B（法律・経済と労働）		2
ジェンダー論C（セクシュアリティ）		2
ジェンダー論D（地域と階層）		2
Introduction to GSE Communication Skills		2
Topics in GSE Communication Skills		2
国際事情/フィールドワーク		2
GSE Introductory Research Seminar		2
専門基幹科目		
現代世界の地誌A（日本・アジア）		2
現代世界の地誌B（ヨーロッパ）		2
現代世界の地誌C（アメリカ）		2
現代社会と文学A（日本）		2
現代社会と文学B（外国）		2
現代社会と芸術A（歴史）		2
現代社会と芸術B（ジェンダー）		2
国際関係史A（総論）		2
国際関係史B（各論）		2
社会情報分析の基礎		2
政治分析の基礎		2
グローバル経済論A（総論）		2
グローバル経済論B（各論）		2
ジェンダーとリーダーシップ		2
国際ジェンダー論A（グローバル社会のジェンダー）		2
国際ジェンダー論B（セクシャル・マイノリティと社会）		2

別表第10の1 国際学部

授業科目	必修	選択
日本の社会A（近代社会の形成）		2
日本の社会B（女性）		2
日本の歴史A（前近代）		2
日本の歴史B（近現代）		2
アジアの社会A（現代中国社会）		2
アジアの社会B（アジア社会の多層性）		2
アジアの社会C（アジア諸地域）		2
アジアの歴史A（韓国・朝鮮を中心とするアジア史）		2
アジアの歴史B（中国史）		2
ヨーロッパの社会A（多文化社会）		2
ヨーロッパの社会B（社会空間）		2
ヨーロッパの歴史A（前近代）		2
ヨーロッパの歴史B（近現代）		2
アメリカの社会A（多文化社会）		2
アメリカの社会B（人の移動）		2
アメリカの社会C（政治と社会）		2
アメリカの歴史A（近代）		2
アメリカの歴史B（現代）		2
Foundations of Japanese Studies		2
Topics in Japanese Studies		2
Foundations of American Studies		2
Foundations of British Studies		2
コミュニケーション論A（日本）		2
コミュニケーション論B（アジア）		2
コミュニケーション論C（ヨーロッパ）		2
コミュニケーション論D（アメリカ）		2
英語学概論		2
社会言語学		2
対照言語学		2
第2言語習得論		2
現代社会と思想・宗教A（哲学）		2
現代社会と思想・宗教B（倫理学）		2
アジアの文学		2
英語圏の文学		2
ヨーロッパ大陸の文学		2
アメリカの文学		2
映像文化論		2
Diversity, Inclusion, and Leadership		2

別表第10の1 国際学部

授業科目	必修	選択
Comparative Culture		2
Foundations of Business Communication		2
Topics in Business Communication		2
International Exchange		2
ヨーロッパの国際関係A（外交史）		2
ヨーロッパの国際関係B（欧州統合論）		2
アメリカと世界A（総論）		2
アメリカと世界B（各論）		2
国際法A（総論）		2
国際法B（各論）		2
国際組織論		2
地域経済論		2
ミクロ経済学A（完全競争の理論）		2
ミクロ経済学B（不完全競争の理論）		2
マクロ経済学		2
統計データ分析手法		2
国際協力論		2
国際協力とNPO		2
社会開発論		2
政治学		2
平和学		2
Foundations of Global Issues		2
Topics in Global Issues		2
Sustainable Development		2
Global Leadership		2
国際基礎演習A	2	
国際基礎演習B	2	
GSE Intermediate Research Seminar		2
専門発展科目		
国際特論A（エリア）		2
国際特論B（コミュニケーション）		2
国際特論C（グローバル）		2
日本の政治経済		2
アジアの政治経済		2
アジア地域論A（東アジア）		2
アジア地域論B（東南アジア）		2
アジア地域論C（南・西アジア）		2
ヨーロッパの政治経済		2

別表第10の1 国際学部

授業科目	必修	選択
ヨーロッパ地域論A（イギリス）		2
ヨーロッパ地域論B（フランス）		2
ヨーロッパ地域論C（ドイツ・中欧）		2
ヨーロッパ地域論D（地中海）		2
ヨーロッパ地域論E（東欧・北欧）		2
アメリカの政治経済		2
アメリカ地域論A（北米）		2
アメリカ地域論B（中南米）		2
Topics in American Studies		2
Topics in British Studies		2
コミュニケーション論E（通訳・翻訳）		2
コミュニケーション論F（メディアと情報）		2
コミュニケーション論G（言語コミュニケーション）		2
世界の現代思想（アジア）		2
世界の現代思想（ヨーロッパ・アメリカ）		2
比較文化論A（アジア）		2
比較文化論B（ヨーロッパ）		2
比較文化論C（アメリカ）		2
表象文化論（アジア）		2
表象文化論（ヨーロッパ・アメリカ）		2
Comparative Writings on Japan		2
アジア太平洋の国際関係A（総論）		2
アジア太平洋の国際関係B（各論）		2
イスラムと世界A（近代）		2
イスラムと世界B（現代）		2
国際人権論		2
紛争解決論		2
国際経済学A（国際金融論）		2
国際経済学B（国際貿易論）		2
開発経済学A（総論）		2
開発経済学B（各論）		2
地球環境論		2
国際環境協力論		2
平和構築論A（理論）		2
平和構築論B（実践）		2
国際文化交流論		2
国際文化財保護論		2
International Relations		2

別表第10の1 国際学部

授業科目	必修	選択
Global Business		2
国際専門演習	4	
国際卒研演習	2	
卒業研究	6	

別表第10の2

国際学部

日本語教師養成課程に関する科目

授業科目	必修	選択
日本語教育研究A		4
日本語教育研究B		4
日本語教育実習		1

別表第10の3

削除

別表第10の4

削除

別表第10の5

削除

別表第11の1

家政学部 文芸学部 国際学部

教職に関する科目

授業科目	必修	選択	教職に関する科目は、共通開設のため、履修については所属学部において免許状ごとに認定を受けた教職課程の規定に従うこと
教職入門		2	
教育学概論		2	
発達と学習		2	
特別支援教育概論		2	
教育の制度と経営		2	
教育課程の意義と編成		2	
家庭科教育の理論と方法		4	
家庭科教育の理論と実践		4	
国語科教育の理論と方法		4	
国語科教育の理論と実践		4	
英語科教育の理論と方法		4	
英語科教育の理論と実践		4	
情報科教育の理論と方法		2	
情報科教育の理論と実践		2	
社会科教育の理論と指導		4	
地理歴史科教育の理論と指導		4	
公民科教育の理論と指導		4	
道徳教育の理論と指導		2	
特別活動及び総合的な学習の時間の理論と指導		2	
教育の方法と技術		2	
ICT活用教育の理論と方法		1	
生徒指導（進路指導を含む）		2	
生徒指導（栄養教諭）		2	
教育相談（カウンセリングを主とする）		2	
教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）		5	
教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）		3	
栄養教育実習（事前・事後指導を含む）		2	
教職実践演習（中・高）		2	
教職実践演習（栄養教諭）		2	

別表第11の2

家政学部 文芸学部 国際学部

司書教諭に関する科目

授業科目	必修	選択	司書教諭に関する科目は共通開設のため、履修については所属学部における規定に従うこと
学校経営と学校図書館		2	
学校図書館メディアの構成		2	
学習指導と学校図書館		2	
読書と豊かな人間性		2	
情報メディアの活用		2	

別表第11の3

家政学部 文芸学部 国際学部 建築・デザイン学部

学芸員に関する科目

授業科目	必修	選択	学芸員に関する科目は共通開設のため、履修については所属学部における規定に従うこと
生涯学習概論		2	
博物館学概論		2	
博物館経営論		2	
博物館資料論		2	
博物館資料保存論		2	
博物館展示論		2	
博物館情報・メディア論		2	
博物館教育論		2	
博物館実習		3	

別表第12 看護学部

授業科目	必修	選択
教養教育科目		
自律と努力コア		
基礎ゼミナール	1	
論理的思考・文章表現		1
課題解決のためのリーダーシップ入門	1	
創造とキャリアコア		
データサイエンスとICTの基礎	2	
情報処理	2	
情報の分析と活用		2
データエンジニアリングとプログラミング基礎		2
AIの基礎と応用		2
課題解決のためのデータエンジニアリング		2
英語コミュニケーションⅠ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅠ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅡ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅡ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅢ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅢ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅣ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅣ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅤ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅤ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅥ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅥ (Advanced)		1
TOEICⅠ (Basic)		2
TOEICⅠ (Intermediate)		2
TOEICⅠ (High-Intermediate)		2
TOEICⅠ (Advanced)		2
TOEICⅡ (Basic)		2
TOEICⅡ (Intermediate)		2

別表第12 看護学部

授業科目	必修	選択
TOEIC II (High-Intermediate)		2
TOEIC II (Advanced)		2
TOEIC III (High-Intermediate)		2
TOEIC III (Advanced)		2
フランス語Ⅰ		2
フランス語Ⅱ		2
フランス語Ⅲ		1
フランス語Ⅳ		1
中国語Ⅰ		2
中国語Ⅱ		2
中国語Ⅲ		1
中国語Ⅳ		1
ドイツ語Ⅰ		2
ドイツ語Ⅱ		2
ドイツ語Ⅲ		1
ドイツ語Ⅳ		1
コリア語Ⅰ		1
コリア語Ⅱ		1
コリア語Ⅲ		1
コリア語Ⅳ		1
スペイン語Ⅰ		1
スペイン語Ⅱ		1
スペイン語Ⅲ		1
スペイン語Ⅳ		1
イタリア語Ⅰ		1
イタリア語Ⅱ		1
アラビア語Ⅰ		1
アラビア語Ⅱ		1
基礎日本語Ⅰ（留学生対象）		1
基礎日本語Ⅱ（留学生対象）		1
応用日本語Ⅰ（留学生対象）		1
応用日本語Ⅱ（留学生対象）		1
日本の歴史を学ぶ		2
世界の歴史を学ぶ		2
人間と地理を学ぶ		2
文学をひらく		2
芸術をひらく		2
哲学とは何か		2

別表第12 看護学部

授業科目	必修	選択
心理を学ぶ		2
自己開発A		2
自己開発B		2
法律を学ぶ（日本国憲法）		2
法律を学ぶ（概論）		2
政治を学ぶ		2
倫理学とは何か		2
国際関係を学ぶ		2
地域社会と家族を学ぶ		2
経済を学ぶ		2
社会を学ぶ		2
企業と社会の仕組み		2
マーケティング		2
女性の生き方と社会		2
自然と地理を学ぶ		2
数学への招待		2
生物学への招待	2	
物理学への招待		2
化学への招待		2
健康スポーツ実習A		1
健康スポーツ実習B		1
協働とリーダーシップコア		
現代社会の諸課題		2
リーダーシップ開発演習Ⅰ		2
リーダーシップ開発演習Ⅱ		2
サービス・ラーニング実践演習		2
ファシリテーション入門		2
ファシリテーションA		2
ファシリテーションB		2
ファシリテーションC		2
ファシリテーションD		2
サービス・ラーニング・ファシリテーション		2

別表第12 看護学部

授業科目	必修	選択
専門教育科目		
専門基礎科目		
人体の構造と機能		
解剖生理学Ⅰ	2	
解剖生理学Ⅱ	2	
生化学	1	
病理学	2	
発達心理学	1	
微生物学	1	
栄養学	1	
薬理学	2	
病態と治療		
病態と治療Ⅰ（臓器疾患）	2	
病態と治療Ⅱ（全身システム疾患）	2	
病態と治療Ⅲ（老年科疾患）	1	
病態と治療Ⅳ（産婦人科疾患）	1	
病態と治療Ⅴ（小児科疾患）	1	
病態と治療Ⅵ（精神科系疾患）	1	
看護の基盤		
看護学概論	2	
人間関係論	1	
ふれあい実習	1	
看護英語	1	
看護倫理	1	
社会と医療		
保健医療福祉行政論Ⅰ	2	
保健医療福祉行政論Ⅱ		2
多職種連携論	1	
保健統計	1	
看護統計	1	
疫学Ⅰ	1	
疫学Ⅱ		1
専門基幹科目		
基礎看護技術論	1	
ヘルスアセスメント論	1	
看護過程展開論	1	
日常生活援助技術論Ⅰ	1	
日常生活援助技術論Ⅱ	1	

別表第12 看護学部

授業科目	必修	選択
医療支援技術論Ⅰ	1	
医療支援技術論Ⅱ	1	
基礎看護学実習Ⅰ	1	
基礎看護学実習Ⅱ	2	
地域看護学概論	2	
地域看護学援助演習	1	
在宅看護概論	1	
在宅看護援助論	2	
在宅看護援助演習	1	
公衆衛生看護展開論		2
地域在宅看護学実習	2	
成人看護学概論	1	
成人看護学援助論Ⅰ	2	
成人看護学援助論Ⅱ	2	
成人看護学援助演習Ⅰ	1	
成人看護学援助演習Ⅱ	1	
成人看護学実習Ⅰ（急性・周手術期）	2	
成人看護学実習Ⅱ（治療期）	2	
成人看護学実習Ⅲ（予防・維持期）	1	
老年看護学概論	1	
老年看護学援助論	2	
老年看護学援助演習	1	
老年看護学実習Ⅰ（地域）	1	
老年看護学実習Ⅱ（病院）	2	
小児看護学概論	1	
小児看護学援助論	2	
小児看護学援助演習	1	
小児看護学実習	2	
母性看護学概論	1	
母性看護学援助論	2	
母性看護学援助演習	1	
母性看護学実習	2	
精神看護学概論	1	
精神看護学援助論	2	
精神看護学援助演習	1	
精神看護学実習	2	
看護研究法	1	
総合技術演習（OSCE）	1	

別表第12 看護学部

授業科目	必修	選択
専門展開科目		
患者安全		1
リハビリテーション看護論		1
国際看護論		1
保健指導・健康教育論		1
家族看護学		1
がん看護論		1
災害看護論		1
看護管理学		1
学校保健・産業保健		1
エンドオブライフケア論		1
認知症看護論		1
公衆衛生看護管理論		1
健康危機管理論		1
ペイシェントフローマネジメント論		1
ウィメンズ看護論		1
統合科目		
看護学総合実習Ⅰ	1	
看護学総合実習Ⅱ	2	
統合ケア演習	1	
公衆衛生看護学実習		4
卒業研究	2	

別表第13 ビジネス学部

授業科目	必修	選択
教養教育科目		
自律と努力コア		
基礎ゼミナール	1	
論理的思考・文章表現		1
ライフキャリアと自己実現	2	
課題解決のためのリーダーシップ入門	1	
創造とキャリアコア		
データサイエンスとICTの基礎	2	
情報処理	2	
情報の分析と活用		2
データエンジニアリングとプログラミング基礎		2
AIの基礎と応用		2
課題解決のためのデータエンジニアリング		2
英語コミュニケーションⅠ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅠ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅡ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅡ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅢ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅢ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅣ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅣ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅤ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅤ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅥ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅥ (Advanced)		1
TOEICⅠ (Basic)		2
TOEICⅠ (Intermediate)		2
TOEICⅠ (High-Intermediate)		2
TOEICⅠ (Advanced)		2
TOEICⅡ (Basic)		2
TOEICⅡ (Intermediate)		2
TOEICⅡ (High-Intermediate)		2

別表第13 ビジネス学部

授業科目	必修	選択
TOEIC II (Advanced)		2
TOEIC III (High-Intermediate)		2
TOEIC III (Advanced)		2
フランス語 I		2
フランス語 II		2
フランス語 III		1
フランス語 IV		1
中国語 I		2
中国語 II		2
中国語 III		1
中国語 IV		1
ドイツ語 I		2
ドイツ語 II		2
ドイツ語 III		1
ドイツ語 IV		1
コリア語 I		1
コリア語 II		1
コリア語 III		1
コリア語 IV		1
スペイン語 I		1
スペイン語 II		1
スペイン語 III		1
スペイン語 IV		1
イタリア語 I		1
イタリア語 II		1
アラビア語 I		1
アラビア語 II		1
基礎日本語 I (留学生対象)		1
基礎日本語 II (留学生対象)		1
応用日本語 I (留学生対象)		1
応用日本語 II (留学生対象)		1
日本の歴史を学ぶ		2
世界の歴史を学ぶ		2
人間と地理を学ぶ		2
文学をひらく		2
芸術をひらく		2
哲学とは何か		2
心理を学ぶ		2
自己開発A		2
自己開発B		2

別表第13 ビジネス学部

授業科目	必修	選択
法律を学ぶ（日本国憲法）		2
法律を学ぶ（概論）		2
政治を学ぶ		2
倫理学とは何か		2
国際関係を学ぶ		2
地域社会と家族を学ぶ		2
経済を学ぶ		2
社会を学ぶ		2
企業と社会の仕組み		2
女性の生き方と社会		2
自然と地理を学ぶ		2
数学への招待		2
生物学への招待		2
物理学への招待		2
化学への招待		2
健康スポーツ実習A		1
健康スポーツ実習B		1
協働とリーダーシップコア		
現代社会の諸課題		2
サービス・ラーニング実践演習		2
ファシリテーション A		2
ファシリテーション B		2
ファシリテーション C		2
ファシリテーション D		2
サービス・ラーニング・ファシリテーション		2

別表第13 ビジネス学部

授業科目	必修	選択
専門教育科目		
専門基礎科目		
ビジネス学入門	2	
経営基礎Ⅰ	2	
ビジネスのための定量分析入門	2	
マーケティング基礎Ⅰ	2	
ミクロ経済学基礎Ⅰ	2	
会計基礎Ⅰ	2	
会計基礎Ⅱ	2	
リーダーシップ開発入門演習Ⅰ	2	
リーダーシップ開発入門演習Ⅱ	2	
専門基幹科目		
経営基礎Ⅱ	2	
経営戦略論Ⅰ	2	
経営組織論Ⅰ	2	
マーケティング基礎Ⅱ	2	
消費者行動論Ⅰ	2	
消費者行動論Ⅱ	2	
統計学基礎演習Ⅰ	2	
統計学基礎演習Ⅱ	2	
ミクロ経済学基礎Ⅱ	2	
マクロ経済学基礎	2	
金融入門	2	
財務会計Ⅰ	2	
原価計算Ⅰ	2	
リーダーシップ開発基礎演習	2	
専門発展科目		
経営戦略論Ⅱ		2
経営組織論Ⅱ		2
中小企業論		2
現代経営事情		2
国際経営論		2
人的資源管理論		2
事業創造論		2
ビジネスモデル論		2
経営学特論		2
金融機関の経営と法		2
コーポレート・ガバナンス		2
ビジネスと法A		2
ビジネスと法B		2

別表第13 ビジネス学部

授業科目	必修	選択
流通論Ⅰ		2
流通論Ⅱ		2
マーケティング・リサーチ		2
マーケティング・コミュニケーション		2
現代マーケティング事情		2
ブランド・マネジメント		2
商品開発		2
サービス・マーケティング		2
マーケティング特論		2
ビジネスとプログラミング		2
データサイエンスと人工知能		2
社会調査法		2
経営情報		2
金融論		2
公共経済学		2
マクロ経済学		2
国際経済学		2
フードシステムの経済学		2
経済学特論		2
現代金融・会計事情		2
ファイナンス		2
財務会計Ⅱ		2
原価計算Ⅱ		2
会計演習A		2
会計演習B		2
管理会計Ⅰ		2
管理会計Ⅱ		2
監査論		2
リーダーシップ開発応用演習		2
ファシリテーション基礎演習A		2
ファシリテーション基礎演習B		2
チームコーチング基礎演習A		2
チームコーチング基礎演習B		2
ファシリテーション入門演習		2
3年ゼミナール	4	
4年ゼミナール	4	
卒業論文	4	

別表第14 建築・デザイン学部

授業科目	必修	選択
教養教育科目		
自律と努力コア		
基礎ゼミナール	1	
論理的思考・文章表現		1
ライフキャリアと自己実現	2	
課題解決のためのリーダーシップ入門	1	
創造とキャリアコア		
データサイエンスとICTの基礎	2	
情報処理		2
情報の分析と活用		2
データエンジニアリングとプログラミング基礎		2
AIの基礎と応用		2
課題解決のためのデータエンジニアリング		2
英語コミュニケーションⅠ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅠ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅡ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅡ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅢ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅢ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅣ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅣ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅤ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅤ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅥ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅥ (Advanced)		1
TOEICⅠ (Basic)		2
TOEICⅠ (Intermediate)		2
TOEICⅠ (High-Intermediate)		2
TOEICⅠ (Advanced)		2
TOEICⅡ (Basic)		2
TOEICⅡ (Intermediate)		2
TOEICⅡ (High-Intermediate)		2
TOEICⅡ (Advanced)		2

別表第14 建築・デザイン学部

授業科目	必修	選択
TOEICⅢ (High-Intermediate)		2
TOEICⅢ (Advanced)		2
フランス語Ⅰ		2
フランス語Ⅱ		2
フランス語Ⅲ		1
フランス語Ⅳ		1
中国語Ⅰ		2
中国語Ⅱ		2
中国語Ⅲ		1
中国語Ⅳ		1
ドイツ語Ⅰ		2
ドイツ語Ⅱ		2
ドイツ語Ⅲ		1
ドイツ語Ⅳ		1
コリア語Ⅰ		1
コリア語Ⅱ		1
コリア語Ⅲ		1
コリア語Ⅳ		1
スペイン語Ⅰ		1
スペイン語Ⅱ		1
スペイン語Ⅲ		1
スペイン語Ⅳ		1
イタリア語Ⅰ		1
イタリア語Ⅱ		1
アラビア語Ⅰ		1
アラビア語Ⅱ		1
基礎日本語Ⅰ (留学生対象)		1
基礎日本語Ⅱ (留学生対象)		1
応用日本語Ⅰ (留学生対象)		1
応用日本語Ⅱ (留学生対象)		1
日本の歴史を学ぶ		2
世界の歴史を学ぶ		2
人間と地理を学ぶ		2
文学をひらく		2
芸術をひらく		2
哲学とは何か		2
心理を学ぶ		2
自己開発A		2
自己開発B		2
法律を学ぶ (日本国憲法)		2
法律を学ぶ (概論)		2

別表第14 建築・デザイン学部

授業科目	必修	選択
政治を学ぶ		2
倫理学とは何か		2
国際関係を学ぶ		2
地域社会と家族を学ぶ		2
経済を学ぶ		2
社会を学ぶ		2
企業と社会の仕組み		2
マーケティング		2
女性の生き方と社会		2
自然と地理を学ぶ		2
数学への招待		2
生物学への招待		2
物理学への招待		2
化学への招待		2
健康スポーツ実習A		1
健康スポーツ実習B		1
協働とリーダーシップコア		
現代社会の諸課題		2
リーダーシップ開発演習Ⅰ		2
リーダーシップ開発演習Ⅱ		2
サービス・ラーニング実践演習		2
ファシリテーション入門		2
ファシリテーションA		2
ファシリテーションB		2
ファシリテーションC		2
ファシリテーションD		2
サービス・ラーニング・ファシリテーション		2

別表第14 建築・デザイン学部

授業科目	必修	選択
専門教育科目		
共通領域		
建築・デザイン概論Ⅰ	2	
建築・デザイン概論Ⅱ	2	
デザインドローイング		2
近代デザイン史		2
色彩学		2
人間工学		2
日本・東洋美術史概論A		2
日本・東洋美術史概論B		2
西洋美術史概論A		2
西洋美術史概論B		2
デザイン思考論	2	
デザイン心理		2
サステナブルデザイン論		2
インテリアデザイン論		2
住居史		2
建築史		2
ビジュアルコミュニケーション論		2
デザインと法		2
プレゼンテーションテクニック	2	
住生活論		2
環境心理学		2
家具論		2
都市・地域再生システム論		2
起業・事業論		2
照明論		2
建築・デザイン総合演習	2	
建築領域		
建築図学Ⅰ		2
建築図学Ⅱ		2
建築・インテリア演習Ⅰ		2
建築・インテリア演習Ⅱ		2
建築構法		2
建築施工		2
構造力学Ⅰ		2
構造力学Ⅱ		2
建築材料学（実験含む）		2
建築法規		2
建築CAD演習Ⅰ		2
建築CAD演習Ⅱ		2

別表第14 建築・デザイン学部

授業科目	必修	選択
建築総合演習		2
環境工学		2
構造設計		2
構造計画		2
建築計画学Ⅰ		2
建築計画学Ⅱ		2
建築設備		2
建築設計演習Ⅰ		2
建築設計演習Ⅱ		2
建築設計演習Ⅲ		2
建築設計演習Ⅳ		2
インテリアデザイン演習Ⅰ		2
インテリアデザイン演習Ⅱ		2
インテリアデザイン演習Ⅲ		2
インテリアデザイン演習Ⅳ		2
デザイン領域		
平面構成演習Ⅰ		2
平面構成演習Ⅱ		2
立体構成演習Ⅰ		2
立体構成演習Ⅱ		2
デザイン図学		2
モデリング演習		2
3DCG演習A		2
3DCG演習B		2
イラストレーション演習		2
レンダリング演習		2
版画演習		2
メディア論		2
陶芸演習		2
メタルクラフト演習		2
木工演習Ⅰ		2
木工演習Ⅱ		2
デジタル撮影演習Ⅰ		2
デジタル撮影演習Ⅱ		2
グラフィックCG演習Ⅰ		2
グラフィックCG演習Ⅱ		2
グラフィックCG演習Ⅲ		2
グラフィックCG演習Ⅳ		2
グラフィックCG演習Ⅴ		2
グラフィック演習Ⅰ		2
グラフィック演習Ⅱ		2

別表第14 建築・デザイン学部

授業科目	必修	選択
グラフィック演習Ⅲ		2
グラフィック演習Ⅳ		2
プロダクト演習Ⅰ		2
プロダクト演習Ⅱ		2
プロダクト演習Ⅲ		2
プロダクト演習Ⅳ		2
コクリエイト領域		
企画立案表現論		2
コミュニティデザイン演習		2
企画調査演習		2
アイデア発想演習		2
アイデアドローイング演習		2
地域デザイン演習Ⅰ		2
地域デザイン演習Ⅱ		2
地域デザイン演習Ⅲ		2
地域デザイン演習Ⅳ		2
地域デザイン論Ⅰ		2
地域デザイン論Ⅱ		2
地域デザイン論Ⅲ		2
地域デザイン論Ⅳ		2
地域資源活用論		2
風景デザイン論		2
地域・産業研究演習Ⅰ		2
地域・産業研究演習Ⅱ		2
イベント企画演習Ⅰ		2
イベント企画演習Ⅱ		2
イベント企画演習Ⅲ		2
イベント企画演習Ⅳ		2
企画デザイン論Ⅰ		2
企画デザイン論Ⅱ		2
企画デザイン論Ⅲ		2
企画デザイン論Ⅳ		2
トレンドリサーチ論		2
イノベーションデザイン論		2
商品企画演習Ⅰ		2
商品企画演習Ⅱ		2
ゼミナール 卒業論文 卒業制作		
ゼミナール	4	
卒業論文・制作Ⅰ	4	
卒業論文・制作Ⅱ	4	

別表第15 児童学部

授業科目	必修	選択
教養教育科目		
自律と努力コア		
基礎ゼミナール	1	
論理的思考・文章表現		1
ライフキャリアと自己実現	2	
課題解決のためのリーダーシップ入門	1	
創造とキャリアコア		
データサイエンスとICTの基礎	2	
情報処理		2
情報の分析と活用		2
データエンジニアリングとプログラミング基礎		2
AIの基礎と応用		2
課題解決のためのデータエンジニアリング		2
英語コミュニケーションⅠ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅠ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅠ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅡ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅡ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅡ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅢ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅢ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅢ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅣ (Basic)		1
英語コミュニケーションⅣ (Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅣ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅤ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅤ (Advanced)		1
英語コミュニケーションⅥ (High-Intermediate)		1
英語コミュニケーションⅥ (Advanced)		1
TOEICⅠ (Basic)		2
TOEICⅠ (Intermediate)		2
TOEICⅠ (High-Intermediate)		2
TOEICⅠ (Advanced)		2
TOEICⅡ (Basic)		2
TOEICⅡ (Intermediate)		2

別表第 1 5 児童学部

授業科目	必修	選択
TOEIC II (High-Intermediate)		2
TOEIC II (Advanced)		2
TOEIC III (High-Intermediate)		2
TOEIC III (Advanced)		2
フランス語 I		2
フランス語 II		2
フランス語 III		1
フランス語 IV		1
中国語 I		2
中国語 II		2
中国語 III		1
中国語 IV		1
ドイツ語 I		2
ドイツ語 II		2
ドイツ語 III		1
ドイツ語 IV		1
コリア語 I		1
コリア語 II		1
コリア語 III		1
コリア語 IV		1
スペイン語 I		1
スペイン語 II		1
スペイン語 III		1
スペイン語 IV		1
イタリア語 I		1
イタリア語 II		1
アラビア語 I		1
アラビア語 II		1
基礎日本語 I (留学生対象)		1
基礎日本語 II (留学生対象)		1
応用日本語 I (留学生対象)		1
応用日本語 II (留学生対象)		1
日本の歴史を学ぶ		2
世界の歴史を学ぶ		2
人間と地理を学ぶ		2
文学をひらく		2
芸術をひらく		2
哲学とは何か		2
心理を学ぶ		2

別表第 1 5 児童学部

授業科目	必修	選択
自己開発A		2
自己開発B		2
法律を学ぶ（日本国憲法）		2
法律を学ぶ（概論）		2
政治を学ぶ		2
倫理学とは何か		2
国際関係を学ぶ		2
地域社会と家族を学ぶ		2
経済を学ぶ		2
社会を学ぶ		2
企業と社会の仕組み		2
マーケティング		2
女性の生き方と社会		2
自然と地理を学ぶ		2
数学への招待		2
生物学への招待		2
物理学への招待		2
化学への招待		2
健康スポーツ実習A		1
健康スポーツ実習B		1
健康スポーツ演習		1
協働とリーダーシップコア		
現代社会の諸課題		2
リーダーシップ開発演習Ⅰ		2
リーダーシップ開発演習Ⅱ		2
サービス・ラーニング実践演習		2
ファシリテーション入門		2
ファシリテーション A		2
ファシリテーション B		2
ファシリテーション C		2
ファシリテーション D		2
サービス・ラーニング・ファシリテーション		2

別表第 1 5 児童学部

授業科目	必修	選択
専門教育科目		
専門基礎科目		
児童学を学ぶ	2	
児童学基礎演習	2	
教育原理	2	
教育心理学	2	
発達心理学	2	
保育原理	2	
音楽基礎	2	
造形基礎	2	
体育基礎A	1	
体育基礎B	1	
専門基幹科目		
子どもと健康		2
子どもと人間関係		2
子どもと環境		2
子どもと言葉		2
造形表現		1
身体表現		1
音楽表現		2
保育内容総論	1	
保育内容（健康）		2
保育内容（人間関係）		2
保育内容（環境）		2
保育内容（言葉）		2
保育内容（表現）		2
保育カリキュラム論		2
子ども理解の方法		2
教育方法論		2
専門発展科目		
保育領域科目群		
現代社会福祉論		2
子ども家庭支援の心理学		2
乳児保育Ⅰ		2
乳児保育Ⅱ		1
子ども家庭福祉		2
子どもの保健		2
子どもの食と栄養		2
社会的養護Ⅰ		2

別表第 1 5 児童学部

授業科目	必修	選択
社会的養護Ⅱ		1
子ども家庭支援論		2
子どもの健康と安全		1
子育て支援		1
保育者論		2
子どもと児童文化		2
教育領域科目群		
国語科教育		2
社会科教育		2
算数科教育		2
理科教育		2
生活科教育		2
家庭科教育		2
児童英語		2
初等教科教育法（国語）		2
初等教科教育法（社会）		2
初等教科教育法（算数）		2
初等教科教育法（理科）		2
初等教科教育法（生活）		2
初等教科教育法（音楽）		2
初等教科教育法（図画工作）		2
初等教科教育法（家庭）		2
初等教科教育法（体育）		2
初等教科教育法（外国語）		2
教職論		2
教育制度論		2
特別支援教育・保育概論		2
教育課程論		2
道徳の指導法		2
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		2
教育とICT活用		1
生徒・進路指導の理論と方法		2
教育相談の理論と方法		2
実践・実習科目群		
保育・教育フィールド演習		2
保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導		1
保育実習Ⅰ（保育所）		2
保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導		1
保育実習Ⅰ（施設）		2

別表第 1 5 児童学部

授業科目	必修	選択
保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導		1
保育実習Ⅱ（保育所）		2
保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導		1
保育実習Ⅲ（施設）		2
保育・子育て支援実践演習（基礎）		4
保育・子育て支援実践演習（発展）		4
幼稚園教育実習Ⅰ（事前事後指導）		1
幼稚園教育実習Ⅰ		2
幼稚園教育実習Ⅱ（事前事後指導）		1
幼稚園教育実習Ⅱ		2
小学校教育実習（事前事後指導）		1
小学校教育実習		4
保育・教職実践演習（初等）		2
専門探求科目		
保育・教育特別演習A		2
保育・教育特別演習B		2
保育・教育特別演習C		2
課題ゼミナール	2	
卒業研究	4	

別表納入額第1の1
納入額

	家政学部		文芸学部	国際学部	看護学部	ビジネス学部	建築・デザイン学部	児童学部
入学金	150,000円		150,000円	150,000円	150,000円	150,000円	150,000円	150,000円
授業料 (年 額)	被服学科 810,000円	食物栄養 学科 830,000円	730,000円	770,000円	1,180,000円	800,000円	850,000円	810,000円
施設設備維持費 (年 額)	410,000円		410,000円	410,000円	410,000円	410,000円	410,000円	410,000円
実験実習料 (年 額)	被服学科、 食物栄養 学科食物 学専攻 60,000円	食物栄養 学科 管理栄養 士専攻 70,000円	—	—	180,000円	—	60,000円	60,000円
科目等履修 登録料	16,000円		16,000円	16,000円	16,000円	16,000円	16,000円	16,000円
科目等履修料 (1単位につき)	12,000円		12,000円	12,000円	12,000円	12,000円	12,000円	12,000円

納入方法

1. 授業料および施設設備維持費、実験実習料(以下「納入金」という。)は半額ずつ前期分は4月30日まで、後期分は10月20日までに納入するものとする。
2. 削除
3. 削除
4. 削除
5. 削除
6. 休学期間中は在籍料として半期休学の場合は5万円を、1年間休学の場合は10万円を納めなければならない。
7. 標準修業年限を超えた学生の納入金は、上記1にかかわらず、標準修業年限を超えた学期における卒業要件不足単位数に応じて、以下のとおりとし、前期の場合は4月30日、後期の場合は10月20日までに納入する。
 - ①卒業要件不足単位数が10単位以内の場合は納入金の年額の8分の1
 - ②卒業要件不足単位数が11単位から25単位の場合は納入金の年額の4分の1
 - ③卒業要件不足単位数が26単位以上は納入金の年額の2分の1
8. 再入学者の入学金は徴収しない。
9. 共立女子短期大学から本学への編入学における入学金は、免除とする。

別表納入額第1の2

入学検定料 35,000円

- ・大学入学共通テスト利用選抜の検定料は20,000円とする。
- ・一般選抜(全学統一方式)特別割引について以下の通りとする。
複数出願する大学学部の検定料は一学部・学科につき5,000円とする。

複数出願する短期大学の検定料は一科につき5,000円とする。

- ・一般選抜(2月日程、3月日程)において、同一試験日で複数出願する場合は一般選抜(全学統一方式)特別割引に準ずる。

- ・大学入学共通テスト利用選抜において、複数出願する場合は一般選抜(全学統一方式)特別割引に準ずる。

- ・併設高校出身者(既卒者を含む)が共立女子大学・短期大学を受験するにあたって、二つ以上の入学試験もしくは二学部・学科・科以上を受験する場合、検定料として35,000円を超えた検定料は徴収しないこととする。

- ・一旦納入された入学検定料は返金しない。ただし、下記の事由に該当する場合は申請により返還することがある。

- *入学検定料を納入したが、出願しなかった場合

- *出願が受理されなかった場合

- *入学検定料を誤って二重もしくは過剰に納入した場合

共立女子大学学則の変更について

1. 変更事由

- ・ 建築・デザイン学部における収容定員変更（2027 年度変更予定）及びそれに伴うカリキュラム等の変更のため

2. 変更内容

- ・ 授業科目及び単位数を変更（第 15 条の 5、別表第 14）
- ・ 卒業要件単位数を変更（第 19 条）
- ・ 入学定員及び収容定員を変更（第 21 条）
- ・ 施行年月日及び完成年度までの移行措置を追加（附則）

3. 施行年月日

2027（令和 9）年 4 月 1 日

共立女子大学学則 変更部分の新旧対照表（案）

施行年月日：令和 9 年 4 月 1 日

新 学 則	旧 学 則																																																																																					
共立女子大学学則	共立女子大学学則																																																																																					
第 1 章～第 4 章 （略）	第 1 章～第 4 章 （略）																																																																																					
第 5 章 授業科目および単位数	第 5 章 授業科目および単位数																																																																																					
第 13 条～第 15 条の 4 （略）	第 13 条～第 15 条の 4 （略）																																																																																					
第 15 条の 5 建築・デザイン学部の授業科目および単位数は別表第 14 の通りとする。	第 15 条の 5 建築・デザイン学部の授業科目および単位数は別表第 14 の通りとする。																																																																																					
第 15 条の 6～第 16 条の 5 （略）	第 15 条の 6～第 16 条の 5 （略）																																																																																					
第 6 章 履修方法	第 6 章 履修方法																																																																																					
第 17 条～第 18 条の 2 （略）	第 17 条～第 18 条の 2 （略）																																																																																					
第 19 条 学生は所属の学科または専攻によって、それぞれ次の単位を修得することとする。	第 19 条 学生は所属の学科または専攻によって、それぞれ次の単位を修得することとする。																																																																																					
家政学部～ビジネス学部 （略）	家政学部～ビジネス学部 （略）																																																																																					
建築・デザイン学部	建築・デザイン学部																																																																																					
<table><tr><th colspan="2" rowspan="2">学科 授業科目区分</th><th colspan="6">建築・デザイン 学 科</th></tr><tr><th colspan="2">建築コース</th><th colspan="2">デザインコース</th><th colspan="2">コクリエイトコース</th></tr><tr><td rowspan="2">教養教育科目</td><td>必修科目</td><td>6</td><td rowspan="2">28</td><td>6</td><td rowspan="2">28</td><td>6</td><td rowspan="2">28</td></tr><tr><td>選択科目</td><td>22</td><td>22</td><td>22</td></tr><tr><td rowspan="2">専門教育科目</td><td>必修科目</td><td colspan="2">80</td><td colspan="2">70</td><td colspan="2">66</td></tr><tr><td>選択科目</td><td colspan="2">16</td><td colspan="2">26</td><td colspan="2">30</td></tr><tr><td colspan="2">合計</td><td colspan="6">124</td></tr></table>	学科 授業科目区分		建築・デザイン 学 科						建築コース		デザインコース		コクリエイトコース		教養教育科目	必修科目	6	28	6	28	6	28	選択科目	22	22	22	専門教育科目	必修科目	80		70		66		選択科目	16		26		30		合計		124						<table><tr><th colspan="2" rowspan="2">学科 授業科目区分</th><th colspan="4">建築・デザイン 学 科</th></tr><tr><th colspan="2">建築コース</th><th colspan="2">デザインコース</th></tr><tr><td rowspan="2">教養教育科目</td><td>必修科目</td><td>6</td><td rowspan="2">28</td><td>6</td><td rowspan="2">28</td></tr><tr><td>選択科目</td><td>22</td><td>22</td></tr><tr><td rowspan="2">専門教育科目</td><td>必修科目</td><td colspan="2">80</td><td colspan="2">70</td></tr><tr><td>選択科目</td><td colspan="2">16</td><td colspan="2">26</td></tr><tr><td colspan="2">合計</td><td colspan="4">124</td></tr></table>	学科 授業科目区分		建築・デザイン 学 科				建築コース		デザインコース		教養教育科目	必修科目	6	28	6	28	選択科目	22	22	専門教育科目	必修科目	80		70		選択科目	16		26		合計		124			
学科 授業科目区分			建築・デザイン 学 科																																																																																			
		建築コース		デザインコース		コクリエイトコース																																																																																
教養教育科目	必修科目	6	28	6	28	6	28																																																																															
	選択科目	22		22		22																																																																																
専門教育科目	必修科目	80		70		66																																																																																
	選択科目	16		26		30																																																																																
合計		124																																																																																				
学科 授業科目区分		建築・デザイン 学 科																																																																																				
		建築コース		デザインコース																																																																																		
教養教育科目	必修科目	6	28	6	28																																																																																	
	選択科目	22		22																																																																																		
専門教育科目	必修科目	80		70																																																																																		
	選択科目	16		26																																																																																		
合計		124																																																																																				
児童学部 （略）	児童学部 （略）																																																																																					
第 19 条の 2～第 20 条 （略）	第 19 条の 2～第 20 条 （略）																																																																																					

新 学 則			旧 学 則
第 7 章 収容定員			第 7 章 収容定員
第 21 条 各学部 of 収容定員は次の通りとする。			第 21 条 各学部 of 収容定員は次の通りとする。
	入学定員	収容定員	
家政学部			家政学部
被服学科	90 名	360 名	被服学科
食物栄養学科			食物栄養学科
食物学専攻	55 名	220 名	食物学専攻
管理栄養士専攻	50 名	200 名	管理栄養士専攻
建築・デザイン学科	(学生募集停止)		建築・デザイン学科
児童学科	(学生募集停止)		児童学科
文芸学部			文芸学部
文芸学科	350 名	1,400 名	文芸学科
国際学部			国際学部
国際学科	250 名	1,000 名	国際学科
看護学部			看護学部
看護学科	100 名	400 名	看護学科
ビジネス学部			ビジネス学部
ビジネス学科	150 名	600 名	ビジネス学科
建築・デザイン学部			建築・デザイン学部
建築・デザイン学科	<u>150 名</u>	<u>600 名</u>	建築・デザイン学科
児童学部			児童学部
児童学科	150 名	600 名	児童学科

新学則	旧学則
第8章～第16章（略）	第8章～第16章（略）
附 則（略）	附 則（略）
附 則	<u>（追加）</u>
<u>1. この改正学則は、令和9年4月1日から施行する。</u>	<u>（追加）</u>
<u>2. 令和8年度以前に入学した者については、従前の例による。</u>	<u>（追加）</u>
<u>3. 第21条の規定にかかわらず、建築・デザイン学部建築・デザイン学科の収容定員は、令和9年度450名、令和10年度500名、令和11年度550名とする。</u>	<u>（追加）</u>

新学則		
別表第14 建築・デザイン学部		
授業科目	必修	選択
専門教育科目		
共通領域		
デザインドローイング		2
デザイン思考論	2	
デザイン心理		2
サステナブルデザイン論		2
デザインと法		2
(削除)		(削除)
(削除)		(削除)
(削除)		(削除)
家具論		2
都市・地域再生システム論		2
起業・事業論		2
照明論		2
建築領域		
(削除)		(削除)
(削除)		(削除)
(削除)		(削除)
(削除)		(削除)
デザイン領域		
(削除)		(削除)
3DCG演習A		2
3DCG演習B		2
イラストレーション演習		2
メディア論		2
(削除)		(削除)
デジタル撮影演習Ⅰ		2
デジタル撮影演習Ⅱ		2
コクリエイト領域		
企画立案表現論		2
コミュニティデザイン演習		2
企画調査演習		2
アイデア発想演習		2
アイデアドローイング演習		2
地域デザイン演習Ⅰ		2
地域デザイン演習Ⅱ		2
地域デザイン演習Ⅲ		2
地域デザイン演習Ⅳ		2
地域デザイン論Ⅰ		2
地域デザイン論Ⅱ		2
地域デザイン論Ⅲ		2
地域デザイン論Ⅳ		2
地域資源活用論		2
風景デザイン論		2
地域・産業研究演習Ⅰ		2
地域・産業研究演習Ⅱ		2
イベント企画演習Ⅰ		2
イベント企画演習Ⅱ		2
イベント企画演習Ⅲ		2
イベント企画演習Ⅳ		2
企画デザイン論Ⅰ		2
企画デザイン論Ⅱ		2
企画デザイン論Ⅲ		2
企画デザイン論Ⅳ		2
トレンドリサーチ論		2
イノベーションデザイン論		2
商品企画演習Ⅰ		2
商品企画演習Ⅱ		2

旧学則		
別表第14 建築・デザイン学部		
授業科目	必修	選択
専門教育科目		
共通領域		
デザインドローイング	2	
(追加)	(追加)	
(追加)		(追加)
(追加)		(追加)
(追加)		(追加)
まちづくり政策論		2
家具・照明論		2
デザインマネジメント論		2
(追加)		(追加)
(追加)		(追加)
(追加)		(追加)
(追加)		(追加)
建築領域		
まちづくり演習Ⅰ		2
まちづくり演習Ⅱ		2
まちづくり演習Ⅲ		2
まちづくり演習Ⅳ		2
デザイン領域		
デザインCAD		2
(追加)		(追加)
(追加)		(追加)
イラストレーションテクニック		2
メディア概論		2
商品企画情報論		2
デジタル写真演習Ⅰ		2
デジタル写真演習Ⅱ		2
(追加)		

共立女子大学 建築・デザイン学部建築・デザイン学科
学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容.....	2
イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性.....	2
ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容.....	10
（ア）教育課程の変更内容	10
（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容.....	13
（ウ）教員組織の変更内容	16
（エ）施設・設備の変更内容	17

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

令和 9 年 4 月より、学校法人共立女子学園（以下、本法人という）が設置する共立女子大学建築・デザイン学部建築・デザイン学科（東京都千代田区）の入学定員／収容定員を 100 人／400 人から 150 人／600 人に増加させ、本法人が設置する共立女子短期大学生活科学科及び文科（東京都千代田区）の各科の入学定員／収容定員をそれぞれ 100 人／200 人から 75 人／150 人に減少させる。具体的な内容は【表 1】の通りである。

なお、本計画は、「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律（平成 30 年法律第 37 号）第 13 条第 1 号」及び「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律施行令（平成 30 年政令第 177 号）第 4 条第 2 項第 1 号」の規定に基づく計画である。

【表 1：収容定員変更前後の推移表】

学校名	学部・学科名	変更前		変更後	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
共立女子大学	建築・デザイン学部	100	400	<u>150</u>	<u>600</u>
	建築・デザイン学科				
	その他既設学部	1, 195	4, 780	1, 195	4, 780
共立女子大学 計		1, 295	5, 180	<u>1, 345</u>	<u>5, 380</u>
共立女子短期大学	生活科学科	100	200	<u>75</u>	<u>150</u>
	文科	100	200	<u>75</u>	<u>150</u>
共立女子短期大学 計		200	400	<u>150</u>	<u>300</u>
総計		1, 495	5, 580	1, 495	<u>5, 680</u>

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

①共立女子大学及び建築・デザイン学部の変遷

本法人は「教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い社会に広く貢献できる、自立した人材を養成する」ことを目的として、「女性の自立と自活」を建学の精神に置き、我が国における女子教育の発展に大きな役割を果たしてきた。特に共立女子大学（以下、本学という）においては、常に社会的使命を果たすべく、社会に広く貢献できる自立した人材の養成を行い、家政学部、文芸学部、国際学部、看護学部、ビジネス学部、建築・デザイン学部を開設し、教育研究を展開してきた。さらに、令和 8 年 4 月には家政学部児童学科の教育研究実績を基盤に児童学部児童学科を開設するなど、時代の要請に応じ、その教育体制を絶えず発展させ今日に至る。

なお、これまでの教育研究活動について、令和 6 年度に受審した公益財団法人大学基準協会の認証評価において、「本協会の大学基準に適合している」との認定を受け、加えて、令和 7 年度に受審した株式会社日本格付研究所（JCR）による長期発

行体格付においては、格付「A+」、見通し「安定的」との評価を受け、学校法人の安定した教育研究活動と財政基盤を維持している。

今般の計画において収容定員を増加する建築・デザイン学部は、昭和43年度に開設した家政学部生活美術学科を平成19年度に家政学部建築・デザイン学科に改組し（学位の分野は改組前後とも「家政関係、美術関係」）、家政学の基礎を学びつつ、建築・デザイン分野に特化した専門教育を行ってきた。また、社会的需要に対応すべく、平成30年度に入学定員を90人から100人へと変更している。さらに、家政学部建築・デザイン学科の人材養成目的及び専門教育のカリキュラム等の同一性を保ちつつも、美術の視点から建築やデザインに関する教育を展開していることをより明確に社会に伝えるため、令和5年4月に現在の建築・デザイン学部建築・デザイン学科（学位の分野は「美術関係」）へと改組し、「幅広い教養と建築・デザインの専門に係る知識・技能を身に付け、人が生きていくために必要な場を構成している『空間』や『モノ』などを総合的にとらえ、創造的に提案・実践できる人材を育成する」という人材養成目的のもと、教育研究活動を展開している。

②社会的需要及び進学需要

1) 養成する人材像に対する社会的需要

高等教育機関に求められる人材育成への期待やデザイン人材の需要、また、企業からの本学の養成する人材に対する需要という3点から、本学建築・デザイン学部への社会的需要について、以下の通り説明する。

<高等教育機関に求められる人材育成への対応>

中央教育審議会「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）」（令和7年2月21日）（以下、「知の総和答申」という）には、育成する人材像として「社会・生活基盤を支える人材、地域の成長・発展をけん引する人材、世界最先端の分野やグローバルな競争環境で活躍する人材などの厚みのある多様な人材を育成していくことが求められる。そして、このような人材が社会に輩出されていく中で、多様な文化的背景に基づく価値観を持った人々が協働し、各々が持つ資質・能力を最大限生かしながら、身近なものから地球規模のものまで様々な課題を発見し、解決していくことが期待される。」と明記されている。これは本法人の教育指針・行動指針として掲げる「リーダーシップの共立[※]」とも合致する内容となっている。

本法人では、リーダーシップを「目標を明確に掲げ、共有した上で、率先して行動し、他者との相互支援関係をつくることで、目標達成に近づいていく能力」と定義しており、一人ひとりが他者と協働しながら自分らしいリーダーシップを発揮する「全員発揮型」のリーダーシップを養成している。これは、まさに「知

の総和答申」が期待する多様な人材が協働して課題を解決する姿を具現化しているといえる。

本法人の教育指針・行動指針に基づき、本学では「Major in Anything. Minor in Leadership.®」（主専攻は様々な専門分野、副専攻はリーダーシップ）」という方針を掲げ、社会のあらゆる場面において、専門分野で身に付けた力をリーダーシップによって正しく発揮できる人材を育成している。

今般、収容定員を増加する建築・デザイン学部においても、「Major in Anything. Minor in Leadership.®」のもと、「建築・デザインに関する専門性」と「他者と協働して目標達成に近づいていく能力であるリーダーシップ」を掛け合わせた教育を展開し、「幅広い教養と建築・デザインの専門に係る知識・技能を身に付け、人が生きていくために必要な場を構成している『空間』や『モノ』などを総合的にとらえ、創造的に提案・実践できる人材」を育成する。このように、社会的要請に対応した専門性とリーダーシップを兼ね備えた人材を社会に輩出することは本学が担う社会的責務であると考えます。

また、建築やデザインは設計者やデザイナー、制作者や使用者など、複数の人間が携わり協働することで初めて形を成す分野であることから、建築・デザイン学部では学部開設以来、価値観の異なる多様な人々と協働しながら課題発見から課題解決までを行う実践力の育成を重視している。そのため、チームでの企画・制作やグループ研究等を通して、他者と協働し、課題に対して美術的視点による解決策を提案できる人材を養成してきた。これは「知の総和答申」が掲げる多様な人々との協働による課題解決を具現化するものである。

以上の通り、本法人の教育指針・行動指針である「リーダーシップの共立®」及び建築・デザイン学部の養成する人材像は「知の総和答申」で示されている育成する人材像に合致しており、このような有為な人材を社会へ安定的に輩出するため、今般の収容定員の変更は必要なものであると考えます。

＜デザイン人材の需要＞

デザイン人材の需要としては、業種を問わずデザイナーの需要は高まりを見せており、現在の職業としてのデザイナー数は平成 17（2005）年以降増加傾向が続き、令和 2（2020）年には総計 201,100 人へと堅調に推移している。また、デザイナーの就業先がデザイン業、広告業の他、情報通信業や製造業、卸売業等、多岐に渡る分野で活躍していることから、社会全体におけるデザイナーの活躍の場が多様化している。

【資料 1：デザイナー数の推移】

【資料 2：デザイナーが就業する産業】

さらに、今後もデザイン人材の需要は高まることが考えられる。経済産業省

「これからのデザイン政策を考える研究会報告書」（令和 5 年 1 月 19 日）に示される通り、第四次産業革命により企業競争が激化する現状において企業競争力を向上させるため、ブランド構築とイノベーションに資する「デザイン」を経営戦略の中心に据えて活用する「デザイン経営」の取組が、産業界を中心に広がっていることが挙げられる。また、デザインの領域が多岐にわたることや、課題解決においてデザインが果たす役割の重要性についても述べられている。

内閣府「新たなクールジャパン戦略」（令和 6 年 6 月 4 日）では、デザインを社会全体の創造性を向上させる「横串」の機能として位置付けているとともに、社会全体としてデザインやアートに関する機能の強化を図ることが重要であると述べられている。

また、複雑化する地域課題の解決において、地域の文化創造や企業経営に貢献するデザイン人材が注目されており、経済産業省「デザインがわかる、地域がかわる ～インタウンデザイナー活用ガイド～」（令和 5 年 3 月）においても、自治体や商工会、観光協会等、地域活性化に取り組む主体にとって、デザインが果たす役割が拡大していることが示されている。

なお、前述した通りデザインの対象が多岐にわたる領域で構成される中、本学では建築とデザインを一体的に捉え、美術の視点から建築とデザインに関する教育研究を展開している。こうした捉え方は、東京藝術大学や私立美術大学の専門学部とも共通するものである。さらに、日本芸術院の第一部（美術）の第五分科を令和 3 年に（建築）から（建築・デザイン）に変遷したことから、「建築」が美術の重要な構成要素であり、デザインと密接不可分であることが明確に示されている。

その建築を取り巻く社会的動向については、国土交通省「令和 6 年度（2024 年度）建設投資見通し」（令和 6 年 8 月 30 日）によると、国内の建設投資は近年増加傾向であり、今後も省エネ化や高付加価値化へのニーズの高まりにより堅調な建設需要が継続する見通しであることが示されており、建設産業における旺盛な人材需要が見込まれている。一方で、一級建築士の高齢化に伴う人材不足が予測されており、建設産業における深刻な課題となっている。さらに、建設産業では他産業と比較して女性技術者（設計者含む）の就業率が低いことも課題とされ、国土交通省は「建設産業における女性活躍・定着促進に向けた実行計画」（令和 7 年 3 月 14 日）を作成し、女性技術者（設計者含む）の活躍・定着促進に取り組んでいる。なお、国土交通省 建設産業における女性活躍・定着促進に向けた実行計画検討会（令和 6 年 11 月 20 日）「令和 6 年度建設産業における女性定着促進に関する実態等調査結果（アンケート調査）」によると、企業では、ドローンなどの最新技術を活用し現場の作業環境が変わる中、女性ならではの目線やセンス等を活かした働きに期待を寄せていることが示されている。

【資料 3：令和 6 年度建設産業における女性定着促進に関する実態等調査結果】

以上の通り、建築を含めたデザイン人材への社会からの需要は高く、建築・デザイン学部が養成する「美術の視点から『空間』や『モノ』を包括的に捉え、創造的に提案・実践できる人材」はこのような需要に広く寄与できることから、一般の収容定員の変更は必要なものであると考える。

＜企業からの需要＞

建築・デザイン学部が輩出する人材に対する社会からの需要をより客観的に捉えるため、これまでの就職実績や本学へ求人が寄せられた企業を対象に人材需要の見直し調査を第三者機関（株式会社進研アド）のもと、実施した。

調査対象は、建築・デザイン学部建築・デザイン学科の前身である家政学部建築・デザイン学科の就職実績及び本学へ求人が寄せられた全国の建築系・デザイン系の 1,000 企業とし、回収件数は 275 企業（回収率 27.5%）であった。

建築・デザイン学部卒業生に対する採用意向については、275 企業中 96.7%にあたる 266 企業が建築・デザイン学部の卒業生を「採用したいと思う」と回答した。さらに、それらの企業に対し、建築・デザイン学部卒業生の単年度の採用人数を聞いたところ、合計 757 人の採用意向が確認でき、建築・デザイン学部の定員 150 人の 5 倍を上回る結果となった。また、同調査の建築・デザイン学部の 4 つの特色に対する魅力度の設問において、全ての特色で「とても魅力に感じる」「ある程度魅力に感じる」と回答した企業は 9 割を超えていることから、美術の視点から建築やデザインを捉えた教育研究活動を展開している建築・デザイン学部が高く評価されていることが読み取れる。

以上の調査結果から、建築・デザイン学部が育成する人材像に対する企業からの需要の高さを確認することができる。

【資料 4：共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」入学定員の増員に関するニーズ調査【企業対象調査】結果報告書】

卒業生の就職状況を見ると、前身の家政学部建築・デザイン学科の令和 3 年度～令和 6 年度の過去 4 年間の求職者に対する平均就職率は 94.7%であり、近年の卒業生の就職状況は安定している。なお、職種別に見ると、建築・設計技術者や広告・デザイン制作など建築やデザインの専門性を直接活かす職種に 49.0%（過去 4 年間平均）の卒業生が従事している。さらに、営業職や事務職であっても建築やデザインに関連する業種を選択する者が多く、建築・デザイン学部で培った専門性を活かせる業種・業界に多くの人材を輩出しており、社会的要請に対し一定の役割を果たしてきたといえる。

以上の通り、高等教育機関に求められる人材育成への期待、デザイン人材の需要、

企業からの本学の養成する人材に対する需要という3つの観点から、建築・デザイン学部への社会的需要を確認した。建築・デザイン学部の掲げる人材養成像は「知の総和答申」が示す育成像と合致するだけでなく、社会が求めるデザイン需要の幅広さ及び建設業界における人材不足にも対応し、さらに企業を対象としたアンケート調査や過年度の就職実績からも、本学が輩出する人材が産業界から高く評価されていることが読み取れる。したがって、これらの社会的要請に応える有為な人材を安定的に輩出すべく、今般の収容定員増加の必要性は極めて高いと考える。

2) 高校生からの進学需要

建築・デザイン学部の学問分野である芸術系学部の定員充足状況や建築・デザイン学部の入学・志願状況、高校2年生女子を対象とした進学意向に関するアンケート調査に基づき、建築・デザイン学部に対する高校生からの進学需要について、以下の通り説明する。

＜芸術系学部の定員充足状況＞

建築・デザイン学部の学位の分野が「美術関係」であることから、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等 入学志願動向」における「芸術系学部（大学）」の過去3年間の定員充足状況を確認した。直近3年間における定員充足率は、令和5年度が105.32%、令和6年度が104.77%、令和7年度が106.14%と安定的に推移している。この点から、当該学問分野に属する建築・デザイン学部への需要は安定的であるといえる。

【資料5：定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙1）】

＜入学・志願状況＞

建築・デザイン学部（前身である家政学部建築・デザイン学科を含む）の入学状況を確認すると、以下の【表2】に示す通り、入学定員充足率は直近5年間（令和3年度から令和7年度）の全てで1.00を上回り、平均1.11という高水準を維持しており、学生確保に十分な安定度があることを示している。

また、以下の【表3】に示す通り、実質倍率は、直近5年間で平均2.88倍と高い競争率を維持しており、本学平均の1.89倍を大きく上回っている。この高い実質倍率は、本学建築・デザイン学部の教育を受けるに足る十分な学力を有しながら、定員の制約により不合格となっている受験生が恒常的に多数存在することを示している。

さらに、以下の【表4】に示す通り、合格者の歩留率は平均0.60であり、学内平均の0.43を上回る実績であることから、建築・デザイン学部への入学意欲が高い受験生から強く支持されていることが読み取れる。

【表 2：建築・デザイン学科の入学定員充足率（過去 5 年間）】

入学年度	入学定員充足率
令和 3 年度	1.18
令和 4 年度	1.18
令和 5 年度	1.08
令和 6 年度	1.12
令和 7 年度	1.01
平均	1.11

※令和 3 年度、令和 4 年度は家政学部建築・デザイン学科の数値

【表 3：建築・デザイン学科の実質倍率（過去 5 年間）】

入学年度	建築・デザイン学科	学内平均
令和 3 年度	2.36	1.91
令和 4 年度	2.18	1.98
令和 5 年度	4.10	2.18
令和 6 年度	3.12	1.68
令和 7 年度	2.61	1.76
平均	2.88	1.89

※令和 3 年度、令和 4 年度は家政学部建築・デザイン学科の数値

※実質倍率＝延べ受験者数/合格者数の数値

【表 4：建築・デザイン学科の歩留率（過去 5 年間）】

入学年度	建築・デザイン学科	学内平均
令和 3 年度	0.56	0.41
令和 4 年度	0.60	0.45
令和 5 年度	0.62	0.44
令和 6 年度	0.60	0.42
令和 7 年度	0.64	0.44
平均	0.60	0.43

※令和 3 年度、令和 4 年度は家政学部建築・デザイン学科の数値

※歩留率＝入学者数/延べ合格者数の数値

＜高校 2 年生女子を対象とした進学意向に関するアンケート調査＞

収容定員を増加するにあたり、高校生の進学需要を客観的に捉えるため、高校 2 年生女子を対象としたアンケート調査を実施した。調査の結果、「卒業後の進路（大学）×設置者（私立）×興味のある学問分野（本学建築・デザイン学部が対象となる学問分野（「美術」「デザイン」「その他の芸術（建築学、環境計画学など）」「住居学」「土木建築学」「工芸学」）のいずれか 1 つ以上の学問分野を選択）×受験希望（本学建築・デザイン学部を第一志望で受験する）×入学希望（合格した場合に入学する）」のクロス集計の回答者は【表 5】に示す通り、

223 人であった。これは定員変更後の入学定員 150 人に対して 148.7%の数となっており、入学定員を上回る入学意向者の存在が確認できた。

【表 5：ターゲット層における本学に対する受験意向及び入学意向】

受験意向 入学意向	第一志望として受験	第二志望として受験	第三志望以降として受験	受験しない
入学する	223 人	21 人	5 人	1,499 人
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	7 人	80 人	278 人	
入学しない				

※ターゲット層：アンケート調査において、「卒業後の進路（大学）×設置者（私立）×興味のある学問分野（本学建築・デザイン学部が対象となる学問分野）」を選択した高校 2 年生女子を指す。

【資料 6：共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」入学定員の増員に関するニーズ調査【高校生対象調査】結果報告書】

また、全国的な高校生の進学動向として 4 年制大学志向が高まっており、本学においても過去 3 年間平均の志願倍率は 4.34 倍と堅調である。なかでも、建築・デザイン学部は開設以来、本学の既設学部の中で最も高い志願倍率を維持しており、高校生からの強い需要が継続している。一方、併設する共立女子短期大学の過去 3 年間平均の志願倍率は 1.66 倍となっており、高校生の進学志向が 4 年制大学へ移行していることは明らかである。こうした建築・デザイン分野に対する進学需要に確実に応え、4 年制大学志向の高校生の受け皿として、今回、共立女子短期大学の入学定員を減少（生活科学科△25 人、文科△25 人）させ、建築・デザイン学部の入学定員を増加（50 人）する。

以上の通り、高校生からの進学需要として、芸術系分野への志望度が安定的であること、これまでの入学志願実績から安定的な定員充足の見込み及び建築・デザイン学部への入学意向が強いことが確認できる。さらに、高校 2 年生女子への進学意向に関するアンケート調査においては、増員後の定員を大きく上回る入学意向者の存在が客観的に示されており、高校生からの進学需要が十分にあることがわかる。したがって、これらの進学需要に応えるため、今般の収容定員増加の必要性は極めて高いと考える。

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

（ア）のポイント

- ・美術の視点から建築やデザインに関する教育研究を、3 コース 6 分野に分かれて学ぶ形に再構成する。
- ・1 年次はコース、2 年次以降は分野に所属することで、学生自身の専門分野に対する意識を明確にし、学修意欲を醸成する。
- ・教養教育科目、専門教育科目、資格関連科目の 3 つで構成される教育課程を通して、1・2 年次で美術の視点や専門分野の基礎を修得し、3・4 年次で専門分野の応用的な理論や技術を階梯的に学ぶ。
- ・取得可能な資格は、一級建築士（受験資格）、二級建築士（受験資格）、学芸員、インテリアプランナー（実務経験 2 年免除）に対応した教育課程であり、収容定員変更前から変更はない。

「知の総和答申」において求められているカリキュラム・マネジメント体制について、本学では、学生の学修効果及び教育成果に基づき、各学部・学科が掲げる理念・目的及びディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラムとなっているか、学長を中心に点検・評価する体制を構築している。この体制を通じて、カリキュラムや教育内容、教育方法等の不断の改善を行い、教育の質向上に向けた取組を推進している。

今般収容定員を増加させる建築・デザイン学部では、現在、美術の視点から建築やデザインに関する教育研究を行う 2 コース 5 分野として編成している。

<現行の 2 コース 5 分野>

■建築コース

・建築分野

人が生きていくために必要な場において、人の属性や環境を捉え、そこに根ざした人の生活や動きを考えた空間を設計し、提案・実践できる能力を養う。

・インテリア分野

人が生きていくために必要な場を一つの場面として捉え、空間としてライフスタイルを提案・実践できる能力を養う。

・まちづくり分野

人が生きていくために必要な場が都市を構成するひとつと捉え、その集積によりつくり出される人々のアクティビティや都市景観など多角的な視点からひとつの街を計画し、提案・実践できる能力を養う。

■デザインコース

・グラフィック分野

人が生きていくために必要な場を構成するグラフィックデザインとしてメッセージや情報を伝えるための広告・WEB・映像等について企画・提案・制作・ディレクションができる能力を養う。

・プロダクト分野

人が生きていくために必要な場を構成するプロダクトデザインとして生産品や日用品について企画・提案・制作・ディレクションができる能力を養う。

美術の視点から建築やデザインに関する教育研究は維持しつつ、さらに社会の変化を見据えた人材需要に応じて、建築・デザイン学部の教育内容を明確化するため、定員変更を行う令和9年度からは、上述の2コース5分野を3コース6分野に再構成する。

＜変更後の3コース6分野＞

■建築コース ・建築分野 人が生きていくために必要な場において、人の属性や環境を捉え、そこに根ざした人の生活や動きを考えた空間を設計し、提案・実践する能力を養う。 ・インテリア分野 人が生きていくために必要な場を一つの場面として捉え、空間としてライフスタイルを提案・実践できる能力を養う。
■デザインコース ・グラフィック分野 人が生きていくために必要な場を構成するグラフィックデザインとしてメッセージや情報を伝えるための広告・WEB・映像等について提案・制作・ディレクションができる能力を養う。 ・プロダクト分野 人が生きていくために必要な場を構成するプロダクトデザインとして産業に関わる生產品や日用品について提案・制作・ディレクションができる能力を養う。
■コクリエイトコース ・地域デザイン分野 人が生きていくために必要な場において、地域課題の解決やより豊かな暮らしの実現に向け、地域資源の利活用や再設計などの「まち」や「コミュニティ」に関する企画デザイン（※1）をする能力を養う。 ・企画プロデュース分野 人が生きていくために必要な場において、地域課題の解決やより豊かな暮らしの実現に向け、「商品」や「イベント」を中心とした企画デザイン（※2）をする能力を養う。

※1 具体的事例：柏の葉キャンパスシティの「マルシェコロール」
地域コミュニケーションの活性化を目的とした都市型市場として、地産地消をテーマとした生産者と消費者がつながる屋台形式の出店や、地域の学生や出店者が主体的に参画するワークショップやパフォーマンスにより、世代や立場を超えたつながりを創出する持続的なまちづくりの仕組みをデザイン。

（参考）

<https://www.g-mark.org/gallery/winners/9d83d4d4-803d-11ed-862b-0242ac130002>

※2 具体的事例：株式会社良品計画「不揃いバウム」

従来、焼き色のムラや変形により検品基準外として廃棄されていた部分を商品化することで、食品ロス削減、製造効率の向上と低価格化、多様な味の展開を同時に実現する仕組みをデザイン。

（参考）

https://www.mu.ji.com/public/media/jp/doc/19249377/25ss_baum.pdf

学生は学年進行に合わせて専門性をより深く理解できるよう、1年次に建築コース、デザインコース、コクリエイトコースのいずれかのコースに所属し、2年次に建築コースは建築分野またはインテリア分野、デザインコースはグラフィック分野またはプ

ロダクト分野、コクリエイトコースは地域デザイン分野または企画プロデュース分野のいずれかを選択することで、自身の専門分野に対する意識を明確にするとともに、養成する人材像に向けた学修意欲を醸成している。

また教育課程は、教養教育科目、専門教育科目、資格関連科目の 3 つから構成している。卒業要件は教養教育科目 28 単位以上、専門教育科目 96 単位以上の合計 124 単位以上を取得することとしている。

教養教育科目は、分野を越えた知識の融合が必要とされる時代であることから、学部・学科の枠を越えた幅広い分野からなる文理横断的なカリキュラムを全学共通の科目として展開している。

専門教育科目は、美術の視点を養うことで物事を包括的に捉える知識や技術を得るための「共通領域」、より深い専門性を高めるための「建築領域」「デザイン領域」「コクリエイト領域」、各領域の知識・技能を基に他者との協働で行う研究・制作、4 年間の集大成として個人で研究・制作を行う「ゼミナール・卒業論文・卒業制作」に区分している。これらの区分により、人材養成目的に掲げる「幅広い教養と建築・デザインの専門に係る知識・技能を身に付け、人が生きていくために必要な場を構成している『空間』や『モノ』などを総合的にとらえ、創造的に提案・実践できる人材を育成する」の通り、建築やデザインにおける専門的な知識・技能とそれらを包括的に捉える視野、またそれらのうえに成り立つ創造力・提案力・実践力を兼ね備えることができるカリキュラムを編成している。

建築・デザイン学部において学芸員の資格取得は卒業要件に含まないが、資格関連科目として、美術館や博物館で資料の収集、保管、展示、調査研究等をつかさどる専門職である学芸員の資格取得を可能とするための科目群を配置している。

学生は、授業科目を階梯的に配置した教育課程を履修する。1・2 年次では、デザインに携わるうえで必要となる美術の観点や理論、専門分野に必要な基礎技能を修得することにより、物事を包括的に捉える知識や視点を培う。この基礎的な学修を踏まえ、3・4 年次で各専門分野における応用的な理論・技術を学ぶ。

なお、定員変更後も一級建築士（受験資格）、二級建築士（受験資格）、学芸員、インテリアプランナー（実務経験 2 年免除）等の資格取得に対応した教育課程であることに変更はない。

【資料 7：教育課程等の概要（建築・デザイン学部建築・デザイン学科）】

以上のように定員変更後も学部開設時から一貫して展開している美術の視点から建築・デザインに関する教育研究を維持・推進し、体系的かつ階梯的な教育課程を編成する。なお、取得可能資格に変更はなく、定員変更前と比較して同等以上の教育内容を担保する。

(イ)教育方法及び履修指導方法の変更内容

(イ) のポイント

- ・各授業科目において、教育効果、学修効果を勘案して1クラスあたりの適正な学生数を設定し、履修する学生数に応じて開講クラス数を設定する。
- ・特に、学部教育の根幹に位置付けている演習科目は1クラス当たり20～30人程度、ゼミナールは10人程度の少人数制を維持し、クラス数を増加し教育の質を担保する。
- ・担任（アカデミック・アドバイザー）制度を採用するとともに、助手を配置しており、学生一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな指導・支援を行っている。
- ・きめ細やかな指導・支援の質を担保するため、基幹教員を12名から18名に6人の増員、助手は8名から12名に4人の増員を計画しており、従前の指導体制（S/T比等）を維持する。
- ・GPA制度を用いた進級要件及びCAP制の厳格な運用を維持することで、出口の質を保証する。

建築・デザイン学部開設以来、授業の到達目標やその内容に応じて、適切な授業形態（講義、演習、実験・実習）を用いて授業を展開している。また、課題解決型授業（Project Based Learning, 以下、PBL という）等を適切に取り入れ、学生の主体的な学びを促し、学生一人ひとりの成長をきめ細かく支援するための教育方法及び履修指導体制を構築しており、収容定員増加後もこの方針を堅持する。

①教育方法

到達目標、授業内容、配当年次、単位数、必修・選択別、授業形態、授業方法等に応じて1クラスあたりの学生数を設定し、学修効果が最大になるように勘案して教育方法を決定している。

<教養教育科目>

本学の教養教育科目は、大学及び短期大学の学生が同一のクラスで受講しており、今回の定員変更後も同様の取り扱いとする。なお、建築・デザイン学部の入学定員を50人増加させるとともに、短期大学の入学定員を50人減少させる計画であり、これを踏まえて、以下の通りの運用とする。

建築・デザイン学部の1年次必修科目は、「基礎ゼミナール」「ライフキャリアと自己実現」「課題解決のためのリーダーシップ入門」「データサイエンスとICTの基礎」の4科目である。そのうち「基礎ゼミナール」「課題解決のためのリーダーシップ入門」「データサイエンスとICTの基礎」の3科目については、定員を減ずる短期大学の1年次必修科目でもあり、1年次の履修予定者数は、大

学の入学定員増加分（50 人）と短期大学の入学定員減少分（50 人）で相殺され、増減は生じない。そのため、開講クラスは従前の通りとする。

「ライフキャリアと自己実現」については、定員を減ずる短期大学では選択科目であるが、大学では必修科目としていることから、履修予定者数の増加が見込まれるため、開講クラス数を 1 クラス増加する。

また、建築・デザイン学部の選択科目については、今般の計画により収容定員総数の増加、かつ、卒業要件における必要単位数の違いから、履修予定者数の増加が見込まれるため、過年度の学生の科目選択の状況を踏まえた定員変更後の学生の履修者数シミュレーションを行い、これに基づき、開講クラスを増加することに対応する。

＜専門教育科目＞

専門教育科目においても、少人数教育の方針のもと、収容定員増加後も教育の質を維持し、変更前と同等のきめ細やかな教育体制を担保する。

学部教育の根幹に位置付けている演習科目「建築設計演習Ⅰ～Ⅳ」「グラフィック演習Ⅰ～Ⅳ」「地域デザイン演習Ⅰ～Ⅳ」等については、学生一人ひとりの作品や企画に対して教員がきめ細かく個別に指導・アドバイスを行うことから、学修成果を達成するための最適なクラス編成とし、定員変更後においても 1 クラス 20～30 人程度の少人数体制を維持する。また、「ゼミナール」「卒業論文・制作Ⅰ・Ⅱ」については、グループでの研究・制作や 4 年間の集大成としての個人研究・制作を行うにあたり細やかな指導・アドバイスが必要であることから、定員変更後も 1 クラス 10 人程度を維持するため、各授業を 5 クラス増加の 15 クラスで展開する。なお、より実践的な学びを通して、第三者に対して自身の考えや作品について理解させるための表現力や伝達力を磨くことを目指すため、PBL の教育方法を主として用いる。

その他の専門教育科目については、各授業科目の 1 クラス当たりの適正な学生数の規模に応じ、教育効果を勘案して開講クラスを増加することに対応する。例えば、必修科目である「建築・デザイン概論Ⅰ・Ⅱ」は、建築・デザインを包括的に捉える知識や視野を養うオムニバス形式の講義であることから各授業を 1 クラス開講とする。同じく必修科目である「プレゼンテーションテクニック」は第三者に自身の考えを正確かつ魅力的に伝えるプレゼンテーションの知識と実践方法を学ぶ演習科目であるため 1 クラス増加の 3 クラス開講とする。

以上のように、少人数教育の方針のもと、収容定員の増加に応じてクラス数を増加することを基本とし、定員変更前と同等の教育方法を確保することにより、教育の質の保証を担保する。

②履修指導方法

学部開設以降、ガイダンス、シラバス、履修モデル、学修ポートフォリオ等を重層的に活用した、きめ細やかな履修指導体制を構築している。

特に、本学の特徴かつ中心的な制度として役割を果たしているのが、担任（アカデミック・アドバイザー）制度である。担任（アカデミック・アドバイザー）は、学生一人ひとりの成長に責任を持ち、定期的な面談やオフィスアワーを通じて、学修計画や学修方法、キャリア形成に関する指導・助言を行う。指導の質を担保するため、「担任（アカデミック・アドバイザー）による学生指導・相談ガイドライン」や「教職員のための学生対応ハンドブック」に基づき、教職員間で役割や手法を共有するとともに、面談記録や正課外活動状況を学修ポートフォリオに集約することで、組織的かつ継続的な支援を実現している。

このようなきめ細やかな指導、支援体制は、卒業時満足度 90%以上、進路満足度 93%という極めて高い学生満足度の数値にも表されており、令和 6 年度に受審した公益財団法人大学基準協会の認証評価において、「特に優れた点（長所）」として高く評価された。

定員変更後も、このような指導、支援体制を維持するために、基幹教員を 12 名から 18 名に 6 人増員し、教員一人当たりの学生数（以下、S/T 比という）を定員変更後も維持する。また、建築・デザイン学部の助手は教育研究補助業務に加え、教員の補助業務として学生に対する履修指導補助、学生生活支援、キャリアに関する相談等に対応している。これらの支援体制を維持するため、助手も収容定員の増加に合わせて 8 名から 12 名に 4 人増員し、定員変更前と同等の指導、支援体制を維持する。

このほか、出口の質保証のため、GPA 制度及び CAP 制を収容定員変更後も維持する。1 年次から 2 年次への進級について、1 年次終了時に 1 年以上在学し、在学期間の通算 GPA が 0.6 以上であることを条件とする。また、4 年次への進級については、3 年以上在学し、かつ卒業に必要な 124 単位のうち 84 単位以上を修得していることを条件とする。なお、前年度までの GPA が 3.0 以上の成績優秀者については、担任（アカデミック・アドバイザー）との面談のもと、CAP 制で制限している年間の履修上限単位数を緩和する。このような出口の質保証を引き続き行う。

以上の通り、収容定員変更後もきめ細やかで丁寧な指導・支援を実現し、定員変更前と同等の履修指導方法を担保する。

(ウ)教員組織の変更内容

(ウ)のポイント

- ・定員変更前は、基幹教員 12 名（教授 7 名、准教授 3 名、助教 2 名）、助手 8 名のところ、定員変更後は、基幹教員 18 名（教授 7 名、准教授 3 名、講師 5 名、助教 3 名）、助手 12 名とする（基幹教員 6 人増、助手 4 人増）。
- ・収容定員に対する基幹教員一人当たりの学生数（S/T 比）について、定員変更前と同等の 33.3 人を維持する。
- ・S/T 比を競合校平均と比較すると、建築・デザイン学部が約 2 人優位な状況にあり、よりきめ細やかな指導・支援が可能である。
- ・収容定員に対する助手一人当たりの学生数についても、定員変更前と同等の 50.0 人を維持する。

本学は収容定員変更後も、これまで培ってきた教育研究活動の質を担保するため、以下の通り教員組織を整備する。

現在の建築・デザイン学部の教員組織は、基幹教員 12 名（教授 7 名、准教授 3 名、助教 2 名）、助手 8 名で編成している。これは収容定員変更前の収容定員 400 人に対する大学設置基準の定める基幹教員数 10 人（うち教授 5 人）を上回る体制である。収容定員変更を行う令和 9 年度には、基幹教員 18 名（教授 7 名、准教授 3 名、講師 5 名、助教 3 名）、助手 12 名体制を構築し、定員変更前から基幹教員 6 人、助手 4 人の計 10 人を増員する。この体制は、収容定員変更後の 600 人に対する大学設置基準に定める基幹教員数 12 人（うち教授 6 人）を十分に上回る教員組織である。

なお、S/T 比は、収容定員に対して 33.3 人、入学定員に対して 8.3 人となり、定員変更前と変わらない学生一人ひとりに対する手厚い指導・支援が可能な体制を維持するものである。また、前述の通り、本学においては、教授、准教授、講師の基幹教員は、担任（アカデミック・アドバイザー）として、担当学生を受け持ち、学生が学修者本位の学びができるように、きめ細やかな履修指導が可能な体制を構築している。

次に、競合校を併願実績、学校種、所在地、定員規模、偏差値、取得可能な免許・資格等の要素を総合的に勘案して選定を行い、建築・デザイン学部との比較分析を行った。その結果、【表 6】の通り、建築・デザイン学部の競合校 5 大学における S/T 比の平均は約 35.0 人であり、一方本学の S/T 比は 33.3 人と約 2 人優位な状況にあることから、他大学よりきめ細やかな指導や支援が可能であり、かつ適切な教員組織であることがわかる。

【表 6：競合校及び本学の教員一人当たりの学生数の比較表】

大学名	学部・学科名	教員一人当たりの学生数（人）
実践女子大学	環境デザイン学部環境デザイン学科	32.4
昭和女子大学	環境デザイン学部環境デザイン学科	35.0
日本女子大学	建築デザイン学部建築デザイン学科	36.4
武蔵野美術大学	造形学部建築学科	34.3
明星大学	デザイン学部デザイン学科	36.8
競合校の平均		35.0
共立女子大学	建築・デザイン学部建築・デザイン学科	33.3

※各大学ホームページより（令和 7 年度公表データより算出）

さらに、助手一人当たりの学生数は、収容定員に対して 50.0 人、入学定員に対して 12.5 人と定員変更後も変更前と変わらない水準とし、学生一人ひとりに対する支援体制を維持する。なお、助手の役割は、基幹教員の教育研究補助業務に加え、共立女子大学・共立女子短期大学助手規程第 3 条第 3 号に「学生の学修支援、生活支援」と定めており、学生と近い距離感で学生生活支援全般を担っている。とりわけ、建築・デザイン学部の助手は社会人経験を有する者を積極的に採用しており、就職進路や卒業後のキャリアに関する相談等にも幅広く対応している。このきめ細やかな支援は、学生の学修成果、学生生活及び進路の満足度を高めるために大きく寄与しており、収容定員変更後もこの支援体制を維持することで、学生一人ひとりの成長を確実に支える。

【資料 8：共立女子大学・共立女子短期大学助手規程】

以上の通り、学生の教育研究への指導を担う基幹教員一人当たりの学生数及び学生の学修支援や生活支援を担う助手一人当たりの学生数を、定員変更後も従前と変わらない水準とすることで、定員変更前の教員組織と同等の体制を担保している。

(エ) 施設・設備の変更内容

(エ) のポイント

- ・校地・校舎面積は、大学設置基準及び短期大学設置基準上の必要面積を満たしており、十分に余裕があるため教育研究活動や学生指導上の支障がない。
- ・建築・デザイン学部の専用施設としては、2D や 3D のデザイン制作や VR によるシミュレーション実験ができる従来の専用施設に加え、ディスカッションやプレゼンテーションに特化した 110 m²の演習室を増設する。
- ・講義室・演習室の運用については、稼働率に余裕のある講義室の活用及び建築・デザイン学部の専用施設を組み合わせることで、収容定員変更前と同等以上の教育研究環境を担保する。

本学では教育計画や財政基盤等を踏まえたキャンパス整備を進めるため、全学的なキ

キャンパス整備のランドデザインに基づき、計画的に施設・設備等の整備を行っている。今回の学則変更を行うにあたり、建築・デザイン学部の収容定員数は 400 人から 600 人になり、大学としては 5,180 人から 5,380 人となることから、教育研究の質向上に向けた物的環境の整備を以下の通り行う。

本学の校地・校舎面積については、校地面積は専用 47,671.14 m²、共用 62,585.57 m²（併設の共立女子短期大学、共立女子中学高等学校、共立女子第二中学校高等学校と共用）の計 110,256.71 m²であり、校舎面積は専用 16,847.86 m²、共用 43,924.61 m²（併設の共立女子短期大学と共用）、共立女子短期大学の専用 1,330.00 m²の計 62,102.47 m²である。これは定員変更後の大学設置基準及び短期大学設置基準上の必要面積（校地面積 56,800 m²、校舎面積 36,837 m²）に対して十分に余裕があり、教育研究上支障がない。また、基幹教員増員分の研究室を 1 人 1 室整備し、教育研究活動及び学生指導上支障がないように対応している。

本学の教育研究活動は、平成 19 年度から神田一ツ橋キャンパスにおいて完結的に行っている。神田一ツ橋キャンパスにおいて運動場（共用）、体育室・トレーニングルーム（2 号館内、3 号館内）及び図書館（2 号館内）をはじめ十分な施設を整備した上で、さらなる充実として八王子キャンパスにおいても運動場（課外活動等）及び図書館（遠隔利用サービス）を整備している。今般の収容定員変更後も同様のキャンパス利用計画とする。具体的な教育環境については、収容定員を変更する建築・デザイン学部が所在する神田一ツ橋キャンパスには本館、2 号館、3 号館、4 号館、6 号館、7 号館の校舎があり、あらゆる授業形態や規模に応じた講義、演習、実験・実習を可能とするため、講義室・演習室を 117 室、実験室・実習室を 31 室、情報処理学習施設を 13 室有している。

また、大学全体の蔵書数としては、図書約 33 万冊、電子ジャーナルを含めた学術雑誌は約 3 万 4 千種であり、教育研究において十分な蔵書数を確保している。図書館資料は、本学部においてこれまで整備してきた資料を引き続き教育活動に活用する計画である。

建築・デザイン学部の専用施設として、既に 11 室の演習室を整備しているほか、新たに 110 m²の演習室を 1 室増設し、収容定員増加後も十分な教育環境を維持する。

既設の施設設備として、2D のデジタルデータからパッケージや模型を制作するデジタル平面工房、3D プリンターやレーザーカッターによるデザインモデルや模型を制作するデジタル立体工房、VR（仮想現実）システムを含む多様なデジタルデータを活用したシミュレーションができるデジタル実験工房等、高度で実践的な学修が展開できる環境を整えている。

また、新設する演習室においては、全壁面へのホワイトボード設置や単焦点プロジェクターの導入に加え、可動式の机や椅子を配置する。レイアウト変更を容易にすることで、学生の活発なディスカッションを促し、多様な形態でのプレゼンテーションを

可能とする柔軟な教育環境を構築する。なお、これらの専用施設は授業だけでなく、事前事後学修の際には個人作業ブースとして利用できるように開放するとともに、教員が演習室に常駐し学生に対してきめ細やかな学修指導を実施する。

なお、今般の収容定員変更に伴うクラス数の増加等への対応として、講義科目は主に本学と共立女子短期大学が共用する講義室において実施する。令和7年度の講義室稼働率は前期 55.6%、後期 53.3%と十分な余裕があり、定員変更後も教育研究上支障がないためである。一方、演習科目や実験・実習科目は主に学部専用施設にて実施する。前述した通り、従来の施設に新設の演習室を加えた計 12 室の演習室の整備により定員変更後も円滑な授業運営が可能であることを確認しており、それに基づく履修モデルも整えている。

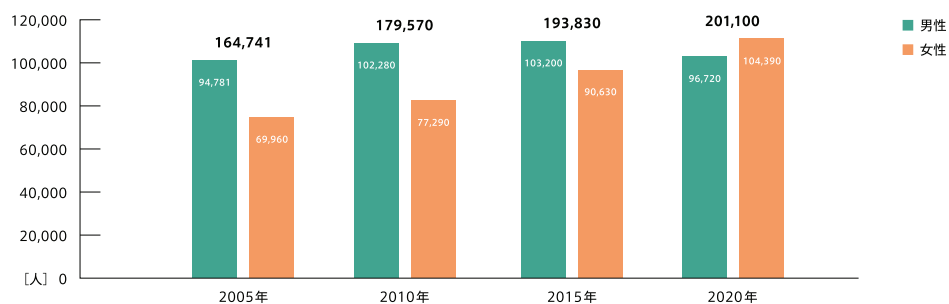
【資料9：共立女子大学建築・デザイン学部 履修モデル】

以上の通り、定員変更前と比較して同等以上の施設・設備を担保するとともに、定員変更後の学部予算も増加させ、財政基盤も強化することで、さらなる教育研究環境の充実を図る計画である。

**共立女子大学 建築・デザイン学部建築・デザイン学科
学則の変更の趣旨等を記載した書類（資料）**

資料 1：デザイナー数の推移	2
資料 2：デザイナーが就業する産業	3
資料 3：令和 6 年度建設産業における女性定着促進に関する実態等調査結果 ..	4
資料 4：共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」入学定員の 増員に関するニーズ調査【企業対象調査】結果報告書	5
資料 5：定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）	19
資料 6：共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」入学定員の 増員に関するニーズ調査【高校生対象調査】結果報告書	20
資料 7：教育課程等の概要（建築・デザイン学部建築・デザイン学科）	46
資料 8：共立女子大学・共立女子短期大学助手規程	50
資料 9：共立女子大学建築・デザイン学部 履修モデル	54

デザイナー数の推移



出所：国勢調査（2020、2015、2010、2005年）

公益財団法人日本デザイン振興会「デザイン白書2024」より引用

デザイナーの就業する業種はデザイン業（33.39％）が最も多く、次いで広告業（9.34％）、インターネット付随サービス業（9.11％）、情報サービス業（8.22％）、映像・音声・文字情報制作業（7.56％）となっている。そのほか、情報通信業、製造業、卸売業・小売業等といった産業でもデザイナーが活躍している。

(11) デザイナーの就業する産業

	業種	デザイナー数[人]	比率
A	農業、林業	50	0.02%
B	漁業	0	0.00%
C	鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.00%
D	建設業	5,090	2.53%
E	製造業	24,340	12.10%
	食料品製造業	700	0.35%
	10 飲料・たばこ・飼料製造業	80	0.04%
	11 繊維工業	2,750	1.37%
	12 木材・木製品製造業(家具を除く)	40	0.02%
	13 家具・装飾品製造業	380	0.19%
	14 パルプ・紙・紙加工品製造業	760	0.38%
	15 印刷・関連産業	9,330	4.64%
	16 化学工業	940	0.47%
	18 プラスチック製品製造業(別掲を除く)	480	0.24%
	19 ゴム製品製造業	150	0.07%
	20 なめし革・同製品・毛皮製造業	500	0.25%
	21 窯業・土石製品製造業	350	0.17%
	22 鉄鋼業	20	0.01%
	23 非鉄金属製造業	40	0.02%
	24 金属製品製造業	460	0.23%
	25 はん用機械器具製造業	110	0.05%
	26 生産用機械器具製造業	170	0.08%
	27 業務用機械器具製造業	710	0.35%
	28 電子部品・デバイス・電子回路製造業	140	0.07%
	29 電気機械器具製造業	740	0.37%
	30 情報通信機械器具製造業	290	0.14%
	31 輸送用機械器具製造業	1,570	0.78%
	32 その他の製造業	3,630	1.81%
F	電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.00%

G	情報通信業		50,760	25.24%
	37	通信業	360	0.18%
	38	放送業	340	0.17%
	39	情報サービス業	16,530	8.22%
	40	インターネット付随サービス業	18,320	.11%
	41	映像・音声・文字情報制作業	15,210	7.56%
	41a	映像・音声情報制作業	5,530	2.75%
	413	新聞業	400	0.20%
	414	出版業	1,700	0.85%
	415	広告制作業	6,820	3.39%
	416	映像・音声・文字情報制作に附帯するサービス業	760	0.38%
H	運輸業、郵便業		80	0.04%
I	卸売業、小売業		17,800	8.85%
	50	卸売業	9,130	4.54%
	56	各種商品小売業	220	0.11%
	57	繊維・衣服・身の回り品小売業	3,120	1.55%
	58	飲食料品小売業	780	0.39%
	59	機械器具小売業	470	0.23%
	60	その他の小売業	4,080	2.03%
J	金融業、保険業		210	0.10%
K	不動産業、物品賃貸業		1,280	0.64%
L	学術研究、専門・技術サービス業		93,100	46.30%
	71	学術・開発研究機関	750	0.37%
	72	専門サービス業(他に分類されないもの)	71,040	35.33%
	726	デザイン業	67,140	33.39%
	73	広告業	18,790	.34%
	74	技術サービス業(他に分類されないもの)	2,530	1.26%
M	宿泊業、飲食サービス業		1,050	0.52%
N	生活関連サービス業、娯楽業		2,070	1.03%
O	教育、学習支援業		660	0.33%
P	医療、福祉		250	0.12%
R	サービス業(他に分類されないもの)		3,990	1.98%
S	公務(他に分類されるものを除く)		10	0.00%
T	分類不能の産業		350	0.17%

出所:国勢調査(2020年)

公益財団法人日本デザイン振興会「デザイン白書2024」より引用

6. 重点テーマ2に関する各企業の取組状況や課題認識(新たな活動領域)

問6-1【技術者】特に女性活躍・定着が期待できそうな職種・分野－選択理由

- 各職種を選定した理由としては、最新技術を活用した現場の作業負担の低減や女性目線の活用を挙げる企業が多い。

選択した職種・分野	理由
建設コンサルタント	- ドローンやBIM/CIM等の技術により現場作業を減らすことができる - 土木設計の知識・資格等を習得すれば、体力に自信がなくても第一線で活躍できる
測量業	- ドローンなど利用できるため - 現場事務所を構えず、日帰りや短期間での現地業務が多い職種のため、女性最大の転機(結婚、出産)を迎えた場合でも(建設産業界では)比較的継続して働き続ける事が可能ではないかと感じている
土木工事業、建築工事業、ほ装工事業など	- CADオペレーターやICT、DX化の推進によってできるようになる仕事は比較的体力を必要としない、勤務時間の融通や在宅ワークなど働きやすい環境がある - 過去にこの職種で活躍していた実績があるから
建設コンサルタント、施工管理・積算業務、測量業など	屋内での作業が多いから。あるいは力仕事ではない、力仕事が少ない
建築工事業、建設コンサルタント、造園工事業など	女性ならではの目線、センス、細やかな気づきを活かすことができる

国土交通省 建設産業における女性活躍・定着促進に向けた実行計画検討会
「令和6年度 建設産業における女性定着促進に関する実態等調査結果（アンケート調査）」より引用

【資料4】

**共立女子大学
「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」
入学定員の増員に関するニーズ調査
【企業対象調査】
結果報告書**

**2025年9月
株式会社 進研アド**

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2027年4月の共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」
入学定員の増員に関して、企業からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

調査対象		企業の採用担当者
調査エリア		北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査 対象数	依頼数	1,000企業
	回収数(回収率)	275企業(27.5%)
調査時期		2025年6月6日(金)～2025年7月11日(金)
調査実施企業		株式会社 進研アド

企業対象調査(調査項目)
・本社所在地 ・業種 ・正規社員の従業員数 ・採用したい学問分野 ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度 ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の社会的必要性 ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の卒業生に対する採用意向 ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の卒業生に対する毎年の採用想定人数

採用意向調査 調査結果

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答企業全体(275企業)
※各割合は小数点以下第2位を四捨五入している
ため、合計しても必ずしも100%とはならない

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に対する人材需要を確認するための調査として設計し、共立女子大学の卒業生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、275企業の回答を得た。

- 回答企業の本社(本部)所在地は、共立女子大学の本部所在地である「東京都」が45.8%と最も多く、次いで「千葉県」が8.4%、「神奈川県」が6.5%と続く。
- 回答企業の業種としては、「建設業」が27.3%と最も多く、次いで「公務」が20.4%と多い。
- 回答企業の正規社員の従業員数は、「1,000名～5,000名未満」が47.3%と最も多く、次いで「100名～500名未満」が16.0%、「500名～1,000名未満」が12.0%と多い。

採用したい学問系統

- 回答企業の採用したい学問系統を複数回答で聞いたところ「芸術学(美術、建築学、デザイン学含む)」が41.1%と最も高く、次いで「工学」が31.6%、「経済・経営・商学」が20.4%と高い。

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■ 本社(本部)所在地

Q1. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

	標 本 数	北 海 道	青 森 県	岩 手 県	宮 城 県	秋 田 県	福 島 県	茨 城 県	栃 木 県	群 馬 県
上段: 件数 下段: %										
全体	275 100.0	3 1.1	2 0.7	4 1.5	3 1.1	1 0.4	6 2.2	2 0.7	5 1.8	4 1.5

	標 本 数	埼 玉 県	千 葉 県	東 京 都	神 奈 川 県	新 潟 県	富 山 県	石 川 県	福 井 県	長 野 県
上段: 件数 下段: %										
全体	275 100.0	7 2.5	23 8.4	126 45.8	18 6.5	3 1.1	2 0.7	3 1.1	1 0.4	2 0.7

	標 本 数	岐 阜 県	静 岡 県	愛 知 県	三 重 県	京 都 府	大 阪 府	兵 庫 県	岡 山 県	広 島 県
上段: 件数 下段: %										
全体	275 100.0	2 0.7	5 1.8	8 2.9	3 1.1	5 1.8	13 4.7	4 1.5	5 1.8	4 1.5

	標 本 数	山 口 県	香 川 県	愛 媛 県	福 岡 県	大 分 県	宮 崎 県	鹿 児 島 県	沖 縄 県	無 回 答
上段: 件数 下段: %										
全体	275 100.0	1 0.4	1 0.4	1 0.4	3 1.1	1 0.4	1 0.4	1 0.4	1 0.4	1 0.4

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■業種

Q2. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

※複数の事業が該当する場合は、最も主要な業種をお答えください。

	標 本 数	建 設 業	不 動 産 業	デ ザ イ ン 業	広 告 ・ 印 刷 業	サ ー ビ ス 業	卸 売 ・ 小 売 業	情 報 通 信 業	製 造 業
上段: 件数 下段: %									
全体	275 100.0	75 27.3	28 10.2	3 1.1	4 1.5	15 5.5	30 10.9	16 5.8	13 4.7

	標 本 数	医 療 ・ 福 祉	複 合 サ ー ビ ス 業	水 道 業	電 気 ・ ガ ス ・ 熱 供 給 ・	運 輸 業	公 務	そ の 他	無 回 答
上段: 件数 下段: %									
全体	275 100.0	5 1.8	4 1.5	7 2.5	3 1.1	56 20.4	16 5.8	0 0.0	

■従業員数

Q3. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	5 0 名 未 満	5 0 名 未 満	1 0 名 未 満	1 0 名 未 満	1 0 名 未 満	1 0 名 未 満	1 0 名 未 満	無 回 答
上段: 件数 下段: %									
全体	275 100.0	25 9.1	17 6.2	44 16.0	33 12.0	130 47.3	26 9.5	0 0.0	

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■採用したい学問分野

Q4. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)

	標 本 数	学 芸 術 学 (美 術 ・ 建 築 学 ・ デ ザ イ ン 学 含 む)	理 学	工 学	農 ・ 水 産 学	文 学	語 学	法 学	経 済 ・ 経 営 ・ 商 学	社 会 学
上段:件数 下段:%										
全体	275	113 41.1	51 18.5	87 31.6	32 11.6	31 11.3	24 8.7	37 13.5	56 20.4	31 11.3

	標 本 数	総 合 科 学	看 護 ・ 保 健 学	医 ・ 歯 ・ 薬 学	教 員 養 成 ・ 教 育 学	生 活 科 学	国 際 関 係 学	そ の 他	学 ん だ 学 問 分 野 に は こ だ わ ら な い	無 回 答
上段:件数 下段:%										
全体	275	33 12.0	21 7.6	12 4.4	19 6.9	22 8.0	16 5.8	10 3.6	113 41.1	1 0.4

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 特色に対する魅力度

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 特色に対する魅力度

- ・ 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度(※)は、4つの項目すべてで9割を超える。
- ・ 最も魅力度が高いのは、「自身の考えやアイデアの意図を、相手にわかりやすく伝えるための表現力を身に付けることができる。」「建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。」がそれぞれ100.0%である。次いで、「企業や地域からの課題に対して、チームで協働しながら建築やデザインを提案する課題解決型授業があり、発想を形にする実践力を磨くことができる。」が97.5%、「学生専用のラボにおいて平面・立体・VRに関する機器を実際に使用することにより、創作能力を身に付けることができる。」が91.3%と続く。

※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 特色に対する魅力度

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 特色に対する魅力度

Q5. 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色①: 企業や地域からの課題に対して、チームで協働しながら建築やデザインを提案する課題解決型授業があり、発想を形にする実践力を磨くことができる。

特色②: 学生専用のラボにおいて平面・立体・VRに関する機器を実際に使用することにより、創作能力を身に付けることができる。

特色③: 自身の考えやアイデアの意図を、相手にわかりやすく伝えるための表現を身に付けることができる。

特色④: 建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。

	標 本 数	と と も 魅 力 を 感 じ る	あ る 程 度 魅 力 を 感 じ る	あ ま り 魅 力 を 感 じ な い	ま っ た く 魅 力 を 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
上段: 件数 下段: %							
特色①	275 100.0	201 73.1	67 24.4	7 2.5	0 0.0	268 97.5	0 0.0
特色②	275 100.0	112 40.7	139 50.5	23 8.4	1 0.4	251 91.3	0 0.0
特色③	275 100.0	236 85.8	39 14.2	0 0.0	0 0.0	275 100.0	0 0.0
特色④	275 100.0	222 80.7	53 19.3	0 0.0	0 0.0	275 100.0	0 0.0

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 社会的必要性

- 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」について「必要だと思う」と回答した企業は99.3% (273企業)であり、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 卒業生の採用意向/毎年の採用想定人数

- 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は96.7% (266企業)であり、予定している入学定員150人を上回る数の採用意向がみられた。
- 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業へ、卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は757名で、予定している入学定員を上回っている。
このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」は、これからの社会にとって必要だと思われますか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	必 要 だ と 思 う	必 要 だ と 思 わ ない	無 回 答
上段:件数 下段:%				
全体	275 100.0	273 99.3	0 0.0	2 0.7

■共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	思 う 採 用 し た い	思 わ な い 採 用 し た い	無 回 答
上段:件数 下段:%				
全体	275 100.0	266 96.7	4 1.5	5 1.8



「採用したいと思う」と答えた266企業のみ抽出

■共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」卒業生に対する 毎年の採用想定人数

Q8. Q7で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。採用を考える場合、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 6 名	7 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上	無 回 答
全体	266	件数	93	63	32	5	11	1	36	25
		%	35.0	23.7	12.0	1.9	4.1	0.4	13.5	9.4
		名	93	126	96	20	55	7	360	0

(※よび企の採用数・想定人数・1を計)

毎年の採用想定人数

⇒

266
757

※1 %の母数は、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業(266企業)

※2 毎年の採用想定人数・計 「5名～6名」=5名、「7名～9名」=7名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調査票



共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」
に関するアンケート

共立女子大学では2027年4月より、「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の入学定員を増やすことを構想しています。
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、入学定員増加のための統計資料としてのみ活用し、貴社・貴団体およびご回答頂いた方を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q2. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

※複数の事業が該当する場合は、最も主要な業種をお答えください。

- | | | |
|--------------|-------------------|-------------|
| 1. 建設業 | 2. 不動産業 | 3. デザイン業 |
| 4. 広告・印刷業 | 5. サービス業 | 6. 卸売・小売業 |
| 7. 情報通信業 | 8. 製造業 | 9. 飲食店・宿泊業 |
| 10. 金融・保険業 | 11. 医療・福祉 | 12. 複合サービス業 |
| 13. 農・林・漁・鉱業 | 14. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 15. 運輸業 |
| 16. 公務 | 17. その他 | |

Q3. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|--------------------|----------------|
| 1. 50名未満 | 2. 50名～100名未満 | 3. 100名～500名未満 |
| 4. 500名～1,000名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q4. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|------------------------|---------------------|------------|
| 1. 芸術学(美術、建築学、デザイン学含む) | 2. 理学 | 3. 工学 |
| 4. 農・水産学 | 5. 文学 | 6. 語学 |
| 7. 法学 | 8. 経済・経営・商学 | 9. 社会学 |
| 10. 総合科学 | 11. 看護・保健学 | 12. 医・歯・薬学 |
| 13. 教員養成・教育学 | 14. 生活科学 | 15. 国際関係学 |
| 16. その他 | 17. 学んだ学問分野にはこだわらない | |

裏面へ続く→

共立女子大学では、2027年4月に、
「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の入学定員を増やすことを構想しております。

この構想により、2031年3月の卒業者が増えることとなります。

※ここからは、アンケートに同封している資料をご覧のうえ、ご回答ください※

Q5. 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」には、以下のような特色があります。

貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
A.	企業や地域からの課題に対して、チームで協働しながら建築やデザインを提案する課題解決型授業があり、発想を形にする実践力を磨くことができる。	→ 1	2	3	4
B.	学生専用のラボにおいて平面・立体・VRに関する機器を実際に使用することにより、創作能力を身に付けることができる。	→ 1	2	3	4
C.	自身の考えやアイデアの意図を、相手にわかりやすく伝えるための表現力を身に付けることができる。	→ 1	2	3	4
D.	建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。	→ 1	2	3	4

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」は、

これからの社会にとって必要だと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 必要だと思う 2. 必要だと思わない

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を卒業した

学生について、採用したいと思われますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 採用したいと思う 2. 採用したいと思わない

Q8. Q7で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を卒業した

学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 1名 2. 2名 3. 3名 4. 4名
5. 5~6名 6. 7~9名 7. 10名以上

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	東京都	55,740人	34.6%
2	神奈川県	23,187人	14.4%
3	埼玉県	19,060人	11.8%
4	千葉県	14,569人	9.1%
5	茨城県	5,853人	3.6%
	全 体	160,910人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○収容定員を増加する組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
1	東京都	103.57%	102.88%	105.69%

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○収容定員を増加する組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
1	芸術系学部（大学）	105.32%	104.77%	106.14%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

【資料6】

**共立女子大学
「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」
入学定員の増員に関するニーズ調査
【高校生対象調査】
結果報告書**

**2026年2月
株式会社 進研アド**

© Shinken·Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2027年4月の共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」
入学定員の増員に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		調査①	調査②
調査対象		高校2年生の女子	
調査エリア		東京都、神奈川県、千葉県、 埼玉県、茨城県	—
調査方法		高校留め置き調査 (紙・Web媒体のものを適宜併 用し実施)	オープンキャンパス及び進学 相談会における調査 (紙媒体のものを直接配布の 上、実施)
調査 対象数	依頼数	17,041 (102校)	—
	回収数※	8,073 (85校) 回収率:47.4%	243
調査時期		2025年3月～2025年11月	
調査実施機関		株式会社 進研アド	

※「回収数」は、性別「女性」を選択したもの、且つ、重複回答を排除する前の数値。

高校生対象調査(調査項目)
・性別 ・学年 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・興味のある学問分野 ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度 ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」への受験意向 ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」への入学意向

入学意向調査 調査結果

- アンケートの重複回答を排除するため、同内容のアンケートに回答したかを確認する設問を設け、「同じアンケートに回答したことはない」と回答した者のみで集計している。そのため、調査結果に重複はない。
調査結果の表中に示す割合(%)の母数は、特に断りがない場合、重複排除後の有効回答者全体数(7,397名)である。
- 各割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

回答者の属性

※本調査は、共立女子大学の「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に対する需要を確認するための調査として設計した。共立女子大学の主な学生募集エリアである一都四県(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県)の高校に在籍する2年生の女子生徒、及びオープンキャンパスや進学相談会に参加した高校2年生の女子生徒を対象に調査を実施し、7,397名から回答を得た。

- 調査対象者別の回答者数は、調査①(高校留め置き調査)が7,190名、調査②(オープンキャンパス及び進学相談会における調査)が207名である。回答者全体に占める割合は、調査①(高校留め置き調査)が97.2%、調査②(オープンキャンパス及び進学相談会における調査)が2.8%である。
- 回答者の性別は「女性」が100.0%である。
- 回答者の学年は「高校2年生」が100.0%である。
- 回答者の高校種別は「国立」が0.0%、「公立」が35.3%、「私立」が64.5%、「無回答」が0.1%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、共立女子大学の所在地である「東京都」が33.2%を占め、最も多い。次に「千葉県」が27.8%、「埼玉県」が18.0%、「神奈川県」が16.5%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が48.9%を占め、最も多い。次に「理系クラス(理系コース)」が29.3%と続く。

回答者の属性

回答者の属性

■調査対象

	標 本 数	調 査 ① (高 校 留 め 置 き 調 査)	パ ー ス ② (オ ー プ ン キ ャ ン ペ イ ン 調 査)
上段:件数(名) 下段:%			
全体	7,397 100.0	7,190 97.2	207 2.8

■性別

	標 本 数	女 性	男 性	回 答 し な い	無 回 答
上段:件数(名) 下段:%					
全体	7,397 100.0	7,397 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

■学年

	標 本 数	高 校 1 年 生	高 校 2 年 生	高 校 3 年 生	そ の 他	無 回 答
上段:件数(名) 下段:%						
全体	7,397 100.0	0 0.0	7,397 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

■高校種別

	標 本 数	国 立	公 立	私 立	無 回 答
上段:件数(名) 下段:%					
全体	7,397 100.0	1 0.0	2,612 35.3	4,774 64.5	10 0.1

回答者の属性

■高校所在地

	標 本 数	北 海 道	青 森 県	山 形 県	茨 城 県	群 馬 県	埼 玉 県	千 葉 県	東 京 都
上段:件数(名) 下段:%									
全体	7,397 100.0	2 0.0	1 0.0	1 0.0	311 4.2	2 0.0	1,335 18.0	2,053 27.8	2,454 33.2

	標 本 数	神 奈 川 県	山 梨 県	長 野 県	岐 阜 県	静 岡 県	山 口 県	沖 縄 県	無 回 答
上段:件数(名) 下段:%									
全体	7,397 100.0	1,219 16.5	2 0.0	3 0.0	1 0.0	1 0.0	1 0.0	1 0.0	10 0.1

■所属クラス

	標 本 数	文 系 ク ラ ス (文 系 コ ー ス)	理 系 ク ラ ス (理 系 コ ー ス)	そ の 他	無 回 答
上段:件数(名) 下段:%					
全体	7,397 100.0	3,620 48.9	2,170 29.3	1,220 16.5	387 5.2

- 回答者のうち、今後「大学」に進学することを検討・希望している人は94.1%。以下、「専門学校」に進学が15.8%、「短期大学」が7.4%と続く。「専門職大学」に進学は3.4%、「就職」は2.2%、「専門職短期大学」に進学は0.9%が興味を示している。
- 高校卒業後の希望進路として「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した人に、設置者ごとの進学希望を複数回答で聴取した。その結果、共立女子大学の該当する「私立」への進学を希望する人は89.8%、「国立」が24.0%、「公立」が23.6%であった。
- 大学進学希望者に限定すると「私立」への進学を希望する人は90.0%、「国立」が24.3%、「公立」が23.2%であった。

高校卒業後の希望進路

高校卒業後の希望進路

■高校卒業後の進路

Q1. あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路すべてに○をつけてください。(複数選択可)

	標 本 数	大 学	短 期 大 学	専 門 職 大 学	専 門 職 短 期 大 学	専 門 学 校	就 職	そ の 他	無 回 答
上段：件数(名) 下段：%									
全体	7,397 100.0	6,962 94.1	545 7.4	255 3.4	65 0.9	1,167 15.8	165 2.2	78 1.1	8 0.1

- 「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した7,138名と、そのうち「大学」を選択した6,962名を抽出

■高校卒業後の進路(設置者別)

Q2. 志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している(希望している)設置者すべてに○をつけてください。(複数選択可)

	標 本 数	私 立	国 立	公 立	無 回 答
上段：件数(名) 下段：%					
大学・短期大学・専門職大学・ 専門職短期大学進学希望者	7,138 100.0	6,410 89.8	1,711 24.0	1,682 23.6	61 0.9
大学進学希望者	6,962 100.0	6,269 90.0	1,692 24.3	1,615 23.2	55 0.8

- 大学・短期大学・専門職大学・専門職短期大学進学希望者の下段：%の母数は、Q1で「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した7,138名
- 大学進学希望者の下段：%の母数は、Q1で「大学」を選択した6,962名

興味のある学問分野

- 回答者の興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、「保健(医学、薬学、看護学など)」が22.5%と最も高い。次いで、「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する「デザイン」が21.3%、「人文科学(文学、史学など)」が19.2%と続く。
- 「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する学問分野への関心は、「デザイン」21.3%、「美術」16.1%、「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」9.4%、「工芸学」5.5%、「土木建築学」5.4%、「住居学」4.9%。また、「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する「美術」「デザイン」「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」「住居学」「土木建築学」「工芸学」のいずれか1つ以上の学問分野に興味がある人は2,507名で、回答者全体の33.9%であった。
- 回答者のうち、私立大学進学希望者(※)に限定すると、興味のある学問分野は「保健(医学、薬学、看護学など)」が22.2%で最も高い。次いで、「デザイン」が21.2%、「人文科学(文学、史学など)」が20.8%と続く。
- また、私立大学進学希望者の「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する学問分野への関心は、「デザイン」21.2%、「美術」15.9%、「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」9.6%、「土木建築学」5.6%、「工芸学」5.4%、「住居学」5.2%。「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する「美術」「デザイン」「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」「住居学」「土木建築学」「工芸学」のいずれか1つ以上の学問分野に興味がある人は2,113名で、回答者全体の33.7%であった。

※私立大学進学希望者

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望
- ② Q2で「私立」への進学を希望

興味のある学問分野

興味のある学問分野

Q3. 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)

		芸術					家政学					工学			その他								無回答	関連学問分野
	標本数	美術	デザイン	音楽	その他の芸術（建築学、環境計画など）	住居学	食物学	被服学	児童学	その他家政学	土木建築学	工芸学	機械工学など	その他の工学（電気電子工学、人文科学（文学、史学など）	社会科学（法学、経済学など）	理学（数学、物理学など）	農学（林学、水産学など）	保健（医学、薬学、看護学など）	教育（教育学、体育学など）	その他				
上段:件数(名) 下段:%																								
全体	7,397 100.0	1,188 16.1	1,576 21.3	726 9.8	696 9.4	366 4.9	700 9.5	377 5.1	657 8.9	102 1.4	396 5.4	410 5.5	272 3.7	1,420 19.2	1,289 17.4	495 6.7	367 5.0	1,663 22.5	1,067 14.4	1,106 15.0	183 2.5	2,507 33.9		

		芸術				家政学					工学			その他								無回答	関連学問分野
	標本数	美術	デザイン	音楽	その他の芸術（建築学、環境計画学など）	住居学	食物学	被服学	児童学	その他家政学	土木建築学	工芸学	機械工学など）	その他の工学（電気電子工学、人文科学（文学、史学など）	社会科学（法学、経済学など）	理学（数学、物理学など）	農学（林学、水産学など）	保健（医学、薬学、看護学など）	教育（教育学、体育学など）	その他			
上段:件数(名) 下段:%																							
私立大学 進学希望者	6,269 100.0	996 15.9	1,331 21.2	614 9.8	600 9.6	323 5.2	593 9.5	321 5.1	555 8.9	82 1.3	353 5.6	340 5.4	223 3.6	1,301 20.8	1,187 18.9	402 6.4	312 5.0	1,389 22.2	926 14.8	964 15.4	63 1.0	2,113 33.7	

- ・ 私立大学進学希望者:%の母数は、私立大学進学希望者(6,269名)
- ・ 関連学問分野:「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する「美術」「デザイン」「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」「住居学」「土木建築学」「工芸学」のいずれか1つ以上の学問分野に興味がある人

高校生
対象

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」クロス集計結果

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」 クロス集計結果

- Q5. 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科(入学定員150名)」の受験を希望しますか。
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つに○をつけてください。
- Q6. Q5で①～③(受験する)を選択した方に質問です。
共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つに○をつけてください。

回答者数 (合計)	Q1 卒業後の進路	Q2 進学希望の 大学設置者	Q3 興味のある 学問分野	Q5 収容定員を増加する 組織の受験希望有無	Q6 合格した場合の 入学希望有無
7,397名	うち、 ①大学に進学 6,962名 (94.1%)	うち、 ①私立 6,269名 (84.8%)	うち、 「美術」「デザイン」「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」「住居学」「土木建築学」「工芸学」を選択 2,113名 (28.6%) ※収容定員を増加する組織に該当する学問分野のいずれかを 選択した者のみ記載	うち、	うち、
				①第一志望として受験する 234名 (3.2%)	①入学する 223名 (3.0%)
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 7名 (0.1%)
					③入学しない 4名 (0.1%)
				②第二志望として受験する 101名 (1.4%)	①入学する 21名 (0.3%)
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 80名 (1.1%)
					③入学しない 0名 (0.0%)
				③第三志望以降として受験する 322名 (4.4%)	①入学する 5名 (0.1%)
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 278名 (3.8%)
					③入学しない 30名 (0.4%)
				④受験しない	

クロス集計の結果: **入学見込者
223名**

- ・%の母数は、回答者全体(7,397)
- ・「入学見込者」=Q1で「大学」、Q2で「私立」、Q3で収容定員を増加する組織に該当する学問分野のいずれかを
選択、Q5で「第一志望で受験する」、Q6で「入学する」と回答した人

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度

【建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 ターゲット層】

下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 2,113名(回答者全体の28.6%)

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、建築・デザイン学部 建築・デザイン学科の学びと関連する学問分野(美術、デザイン、その他の芸術(建築学、環境計画学など)、住居学、土木建築学、工芸学)のいずれかに興味あり



- ・ターゲット層における「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「■デザインコースの特色 市場やユーザーを理解したうえで、使い手の視点や作り手の視点を合わせ持ちながら、家具、雑貨、パッケージ、広告などのデザイン力を身に付けることができるコース。」。次点で高いのは「建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。」であった。
- ・ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人における「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。」。次点で高いのは「■デザインコースの特色 市場やユーザーを理解したうえで、使い手の視点や作り手の視点を合わせ持ちながら、家具、雑貨、パッケージ、広告などのデザイン力を身に付けることができるコース。」であった。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 特色に対する魅力度

Q4. 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A: 建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。

特色B: ■建築コースの特色
使い手の視点と作り手の視点を合わせ持ちながら、建築、住まい、商業施設などの設計・施工・監理に関する技術を身に付けることができるコース。

特色C: ■デザインコースの特色
市場やユーザーを理解したうえで、使い手の視点や作り手の視点を合わせ持ちながら、家具、雑貨、パッケージ、広告などのデザイン力を身に付けることができるコース。

特色D: ■コクリエイトコース*の特色
対話を通じて課題を発見し、解決策を創造するとともに、「まち」「コミュニティ」のデザインや「商品」「イベント」の企画・運営に関する知識・技能を身に付けることができるコース。
*コクリエイト(Co-create)とは「Co=共に、共同の」「create=創造する」を合わせた言葉です。

	標 本 数	特 色 A	特 色 B	特 色 C	特 色 D
上段:件数(名) 下段:%					
ターゲット層	2,113 100.0	1,763 83.4	1,499 70.9	1,882 89.1	1,635 77.4
第一志望で受験かつ入学する者	223 100.0	220 98.7	213 95.5	219 98.2	214 96.0

- 第一志望で受験かつ入学する者:
ターゲット層(大学進学希望×私立×関連学問興味あり)該当者のうち、
共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を「第一志望として受験する」かつ
「入学する」と回答した人

巻末資料

OCR調査票/Web調査票/
調査①(高校留め置き調査)依頼対象校/
調査②(オープンキャンパス及び進学相談会における調査)一覧

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」 に関するアンケート

共立女子大学では2027年4月より「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の入学定員を増やすことを構想しています。このアンケートは、高校生のみさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、共立女子大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、入学定員増加のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することはありません。また、回答いただいた内容が、高校生のみさんの本学への入学に影響を及ぼすことは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記入要領

1. 回答は、あてはまる番号に「○」印をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず鉛筆又はシャープペンシルで濃く書いてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。

特に、「○」印は、番号丸枠からはみ出さないようにつけてください。

良い 記入例	☐ 美術 ② デザイン	悪い 記入例	☐ 美術 ② デザイン	☐ 美術 ② デザイン	☐ 美術 ② デザイン
-----------	------------------------------------	-----------	------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------

ここに○印をつけてください

☐ 美術

ID 13

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	① 女性	② 男性	③ 回答しない
学年 (1つに○)	【2025年4月1日時点】		
	① 高校1年生	② 高校2年生	③ 高校3年生 ④ その他
在籍している 高校名	高校所在地 [] 都・道・府・県		
	① 国立 ② 公立 ③ 私立 (←1つに○) [] 高等学校		
所属クラス (1つに○)	① 文系クラス(文系コース) ② 理系クラス(理系コース) ③ その他		

【性別で「① 女性」または「③ 回答しない」を選択された方】・・・Q1.へお進みください。

【性別で「② 男性」を選択された方】・・・アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1 あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路すべてに○をつけてください。(複数選択可)

① 大学 ② 短期大学 ③ 専門職大学 ④ 専門職短期大学
⑤ 専門学校 ⑥ 就職 ⑦ その他

【Q1.で①～④のいずれかを選択された方】・・・Q2.へお進みください。

【Q1.で⑤～⑦のみの回答の方】・・・アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

Q2 志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している(希望している)設置者すべてに○をつけてください。(複数選択可)

① 私立 ② 国立 ③ 公立

Q3 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)

※共立女子大学「建築・デザイン学部」は主に「①美術」「②デザイン」「④その他の芸術」「⑥住居学」「⑩土木建築学」「⑪工芸学」に該当します。

芸術	① 美術	② デザイン
	③ 音楽	④ その他の芸術(建築学、環境計画学など)
家政学	⑤ 住居学	⑥ 食物学
	⑦ 被服学	⑧ 児童学 ⑨ その他家政学
工学	⑩ 土木建築学	⑪ 工芸学 ⑫ その他の工学(電気電子工学、機械工学など)
その他	⑬ 人文科学(文学、史学など)	⑭ 社会科学(法学、経済学など)
	⑮ 理学(数学、物理学など)	⑯ 農学(林学、水産学など)
	⑰ 保健(医学、薬学、看護学など)	⑱ 教育(教育学、体育学など) ⑲ その他

◆共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」についてお聞きます。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q4 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例. ○○である	⇒	①	②	③	④
A. 建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ (他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。	⇒	①	②	③	④
■建築コースの特色 B. 使い手の視点と作り手の視点を合わせ持ちながら、建築、住まい、商業施設などの 設計・施工・監理に関する技術を身に付けることができるコース。	⇒	①	②	③	④
■デザインコースの特色 C. 市場やユーザーを理解したうえで、使い手の視点や作り手の視点を合わせ持ちながら、 家具、雑貨、パッケージ、広告などのデザイン力を身に付けることができるコース。	⇒	①	②	③	④
■コクリエイトコース*の特色 D. 対話を通じて課題を発見し、解決策を創造するとともに、「まち」「コミュニティ」のデザ インや「商品」「イベント」の企画・運営に関する知識・技能を身に付けることができる コース。 *コクリエイト(Co-create)とは「Co=共に、共同の」「create=創造する」を合わせた言葉です。	⇒	①	②	③	④

※いずれのコースも、一級建築士(国家試験受験資格)、二級建築士(国家試験受験資格)、
インテリアプランナー(任用資格)、学芸員(国家資格)の取得を目指すことができます。

Q5 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科(入学定員150名)」の受験を希望しますか。
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つに○をつけてください。

- ① 第一志望として受験する ② 第二志望として受験する ③ 第三志望以降として受験する
④ 受験しない (→Q7にお進みください。)

Q6 Q5で①～③(受験する)を選択した方に質問です。
共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つに○をつけてください。

- ① 入学する ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する ③ 入学しない

Q7 最後に全員にお聞きます。
あなたは過去に共立女子大学のオープンキャンパスやイベントに参加し、本アンケートと同じ内容のアンケートに
回答したことがありますか。次より1つに○をつけてください。

- ① 同じアンケートに回答したことはない ② 同じアンケートに回答したことがある

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

高校生
対象

Web調査票



共立女子大学
KYORITSU WOMEN'S UNIVERSITY

主催：共立女子大学

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に関するアンケート

共立女子大学では2027年4月より、「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の入学定員を増やすことを構想しています。
このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、共立女子大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、入学定員増加のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。また、回答いただいた内容が、高校生のみなさんの本学への入学に影響を及ぼすことは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや資料に記載されている「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

■個人情報の取り扱いについて

本アンケート、または本アンケートに関するお問い合わせにより取得した個人情報は、共立女子学園個人情報保護方針（<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/policy/privacypolicy/>）に基づき、適正に管理されます。

■アンケート回答に設問とは関係のない情報が入力されていないかご確認ください。

PCやスマートフォンなどの環境によっては自動でメールアドレスなどが入力されることがあります。

C1

100%

◆最初にあなた自身についてお聞きます。

Q1

あなたの性別を教えてください。（1つ選択）

☒ 単一回答 ☐ 必須回答

① 女性

② 男性

③ 回答しない

.....< ここまで改ページ

Q2

あなたの学年を教えてください。(1つ選択)

☐ 単一回答 ☒ 必須回答

【2025年4月1日時点】

- ☐ 1 高校1年生
- ☐ 2 高校2年生
- ☐ 3 高校3年生
- ☐ 4 その他

..... ✂ ここまで改ページ

Q3

あなたの在籍している高校種別を教えてください。(1つ選択)

☐ 単一回答 ☒ 必須回答

- ☐ 1 私立
- ☐ 2 国立
- ☐ 3 公立

Q4

あなたの在籍している高校名を教えてください。
※高校名は省略せずに、正式名称でお書きください。

☒ 必須回答

▲ とじる

..... ✂ ここまで改ページ

Q5

あなたが所属しているクラス(コース)を教えてください。(1つ選択)

☐ 単一回答 ☒ 必須回答

- ☐ 1 文系クラス(文系コース)
- ☐ 2 理系クラス(理系コース)
- ☐ 3 その他

..... ✂ ここまで改ページ

C2

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きます。

Q6

あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路をすべて選択してください。（複数選択可）

✓ 複数回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ☐ 1 大学
- ☐ 2 短期大学
- ☐ 3 専門職大学
- ☐ 4 専門職短期大学
- ☐ 5 専門学校
- ☐ 6 就職
- ☐ 7 その他

.....✂ ここて改ページ

Q7

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している（希望している）設置者をすべて選択してください。
（複数選択可）

✓ 複数回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ☐ 1 私立
- ☐ 2 国立
- ☐ 3 公立

.....✂ ここて改ページ

Q8

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

以下の項目から、興味のある学問分野をすべて選択してください。（複数選択可）

※共立女子大学「建築・デザイン学部」は主に「1.美術」「2.デザイン」「4.その他の芸術」「5.住居学」「10.土木建築学」「11.工芸学」に該当します。

▼ 複数回答

★ 必須回答

▲ とじる

芸術

1 美術

2 デザイン

3 音楽

4 その他の芸術（建築学、環境計画学など）

家政学

5 住居学

6 食物学

7 被服学

8 児童学

9 その他家政学

工学

10 土木建築学

11 工芸学

12 その他の工学（電気電子工学、機械工学など）

その他

13 人文科学（文学、史学など）

14 社会科学（法学、経済学など）

15 理学（数学、物理学など）

16 農学（林学、水産学など）

17 保健（医学、薬学、看護学など）

18 教育（教育学、体育学など）

19 その他

..... ✂ ここまで改ページ

C3

◆共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」についてお聞きます。
ここからはリーフレットを確認の上、ご回答ください。

▼リーフレットは、以下の画像をクリックし、ご確認ください。



..... < ここまで改ページ

Q9

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、1つずつ選択）
※いずれのコースも、一級建築士（国家試験受験資格）、二級建築士（国家試験受験資格）、インテリアプランナー（任用資格）、学芸員（国家資格）の取得を目指すことができます。

① 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

0/4

1	■リーダーシップ教育 建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ（他者と協働して目標達成を目指す力）を身に付けることができる。	▼
2	■建築コースの特色 使い手の視点と作り手の視点を合わせ持ちながら、建築、住まい、商業施設などの設計・施工・監理に関する技術を身に付けることができるコース。	▼
3	■デザインコースの特色 市場やユーザーを理解したうえで、使い手の視点や作り手の視点を合わせ持ちながら、家具、雑貨、パッケージ、広告などのデザイン力を身に付けることができるコース。	▼
4	■コクリエイトコース*の特色 対話を通じて課題を発見し、解決策を創造するとともに、「まち」「コミュニティ」のデザインや「商品」「イベント」の企画・運営に関する知識・技能を身に付けることができるコース。 *コクリエイト（Co-create）とは「Co=共に、共同の」「create=創造する」を合わせた言葉です。	▲

☐ 1 とても魅力を感じる

☐ 2 ある程度魅力を感じる

☐ 3 あまり魅力を感じない

☐ 4 まったく魅力を感じない

..... ✂ ここまで改ページ

Q10

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科（入学定員150名）」の受験を希望しますか。

あなたの考えに近い選択肢を、次より1つ選択してください。

① 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① 第一志望として受験する
- ② 第二志望として受験する
- ③ 第三志望以降として受験する
- ④ 受験しない

..... < ここまで改ページ

Q11

前問で「受験する」を選択した方に質問です。

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

あなたの考えに近い選択肢を、次より1つ選択してください。

※あなたの先ほどの回答：共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を【【Q10の選択内容】】

① 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① 入学する
- ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ③ 入学しない

..... < ここまで改ページ

Q12

あなたは過去に共立女子大学のオープンキャンパスやイベントに参加し、本アンケートと同じ内容のアンケートに回答したことがありますか。
次より1つ選択してください。

☒ 単一回答

☐ 必須回答

▲ とじる

① 同じアンケートに回答したことはない

② 同じアンケートに回答したことがある

.....< ここで改ページ

送信ボタンを押してください。

送 信

【お問い合わせ先】

共立女子大学 総務企画課 経営企画グループ
03-3237-2838

※本アンケートにご協力いただいた高等学校の名称につきましては、個別の公表許諾を得ていないため省略

高校生
対象

調査①(高校留め置き調査)依頼対象校

NO	高校名(正式名称)	所在地	NO	高校名(正式名称)	所在地
1			52		
2			53		
3			54		
4			55		
5			56		
6			57		
7			58		
8			59		
9			60		
10			61		
11			62		
12			63		
13			64		
14			65		
15			66		
16			67		
17			68		
18			69		
19			70		
20			71		
21			72		
22			73		
23			74		
24			75		
25			76		
26			77		
27			78		
28			79		
29			80		
30			81		
31			82		
32			83		
33			84		
34			85		
35			86		
36			87		
37			88		
38			89		
39			90		
40			91		
41			92		
42			93		
43			94		
44			95		
45			96		
46			97		
47			98		
48			99		
49			100		
50			101		
51			102		

※網掛けはWeb調査

高校生
対象

調査②(オープンキャンパス及び 進学相談会における調査)一覧

NO	イベント名称	開催地
1	オープンキャンパス	東京都(本学)
2	オープンキャンパス	東京都(本学)
3	オープンキャンパス	東京都(本学)
4	オープンキャンパス	東京都(本学)
5	オープンキャンパス	東京都(本学)
6	オープンキャンパス	東京都(本学)
7	オープンキャンパス	東京都(本学)
8	進学EXPO2025(有楽町)	東京都
9	進学相談会(水戸)	茨城県
10	進学相談会(大宮)	埼玉県
11	進学相談会(大宮)	埼玉県
12	進学相談会(渋谷)	東京都
13	進学相談会(横浜)	神奈川県
14	キラリ！首都圏女子大学進学相談会(新宿)	東京都
15	キラリ！首都圏女子大学進学相談会(池袋)	東京都
16	進路フェア2025 in 東京ドームシティ	東京都
17	第7回高大接続総会	東京都
18	キラリ！首都圏女子大学進学相談会(横浜)	神奈川県
19	キラリ！首都圏女子大学進学相談会(埼玉)	埼玉県
20	大学進学相談会2025(幕張)	千葉県
21	大学フェア2025(池袋)	東京都
22	大学進学博(池袋)	東京都
23	進学相談会(横浜)	神奈川県
24	大学進学フェスタ IN YOKOHAMA2024	神奈川県
25	進学相談会(渋谷)	東京都

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(建築・デザイン学部建築・デザイン学科)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹へ助手を除く教員
教養教育 科目	自律と努力コア	自立・自活のための基礎科目	基礎ゼミナール	1前	○	1				○		3	1	1	1			
			論理的思考・文章表現	1前			1		○								1	
			ライフキャリアと自己実現	1後	○	2			○								2	
			小計 (3科目)	—	—	3	1	0	—		3	1	1	1	0	3		
		リーダーシップ開発基礎	課題解決のためのリーダーシップ入門	1後	○	1				○		1	2	2	1			
			小計 (1科目)	—	—	1	0	0	—		1	2	2	1	0	0		
	情報リテラシー	データサイエンスとICTの基礎	データサイエンスとICTの基礎	1前・後	○	2				○							2	
			情報処理	1前・後		2				○							1	
			情報の分析と活用	1前・後		2				○							1	
			データエンジニアリングとプログラミング基礎	2前・後		2				○							1	
			AIの基礎と応用	2前・後		2				○							1	
			課題解決のためのデータエンジニアリング	2前・後		2				○							1	
			小計 (6科目)	—	—	2	10	0	—		0	0	0	0	0	4		
			英語	英語コミュニケーションⅠ (Basic)	1前		1				○							3
				英語コミュニケーションⅠ (Intermediate)	1前		1				○							3
				英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate)	1前		1				○							3
	英語コミュニケーションⅠ (Advanced)	1前			1				○							3		
	英語コミュニケーションⅡ (Basic)	1後			1				○							3		
	英語コミュニケーションⅡ (Intermediate)	1後			1				○							3		
	英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate)	1後			1				○							3		
	英語コミュニケーションⅡ (Advanced)	1後			1				○							3		
	英語コミュニケーションⅢ (Basic)	2前			1				○							2		
	英語コミュニケーションⅢ (Intermediate)	2前			1				○							2		
	英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate)	2前			1				○							2		
	英語コミュニケーションⅢ (Advanced)	2前			1				○							2		
	英語コミュニケーションⅣ (Basic)	2後			1				○							2		
	英語コミュニケーションⅣ (Intermediate)	2後			1				○							2		
	英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate)	2後			1				○							2		
	英語コミュニケーションⅣ (Advanced)	2後			1				○							2		
	英語コミュニケーションⅤ (High-Intermediate)	3前			1				○							2		
	英語コミュニケーションⅤ (Advanced)	3前			1				○							2		
	英語コミュニケーションⅥ (High-Intermediate)	3後			1				○							2		
	英語コミュニケーションⅥ (Advanced)	3後			1				○							2		
	TOEICⅠ (Basic)	1前			2				○							3		
	TOEICⅠ (Intermediate)	1前			2				○							3		
	TOEICⅠ (High-Intermediate)	1前			2				○							3		
	TOEICⅠ (Advanced)	1前			2				○							3		
	TOEICⅡ (Basic)	1後			2				○							3		
	TOEICⅡ (Intermediate)	1後			2				○							3		
	TOEICⅡ (High-Intermediate)	1後			2				○							3		
	TOEICⅡ (Advanced)	1後			2				○							3		
	TOEICⅢ (High-Intermediate)	2前			2				○							2		
	TOEICⅢ (Advanced)	2後			2				○							2		
	小計 (30科目)	—		—	0	40	0	—		0	0	0	0	0	0	72		
	創造とキャリアコア	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰ	1前		2				○							2	
			フランス語Ⅱ	1後		2				○							2	
			フランス語Ⅲ	2前		1				○							2	
			フランス語Ⅳ	2後		1				○							2	
		中国語Ⅰ	中国語Ⅰ	1前		2				○							2	
			中国語Ⅱ	1後		2				○							2	
			中国語Ⅲ	2前		1				○							2	
			中国語Ⅳ	2後		1				○							2	
		ドイツ語Ⅰ	ドイツ語Ⅰ	1前		2				○							2	
			ドイツ語Ⅱ	1後		2				○							2	
			ドイツ語Ⅲ	2前		1				○							2	
			ドイツ語Ⅳ	2後		1				○							2	
		コリア語Ⅰ	コリア語Ⅰ	1前		1				○							2	
			コリア語Ⅱ	1後		1				○							2	
			コリア語Ⅲ	2前		1				○							2	
			コリア語Ⅳ	2後		1				○							2	
		スペイン語Ⅰ	スペイン語Ⅰ	1前		1				○							2	
			スペイン語Ⅱ	1後		1				○							2	
			スペイン語Ⅲ	2前		1				○							2	
			スペイン語Ⅳ	2後		1				○							2	
		イタリア語Ⅰ	イタリア語Ⅰ	1前		1				○							2	
			イタリア語Ⅱ	1後		1				○							2	
			アラビア語Ⅰ	1前		1				○							2	
			アラビア語Ⅱ	1後		1				○							2	
		初習外国語	基礎日本語Ⅰ (留学生対象)	1前		1				○							1	
			基礎日本語Ⅱ (留学生対象)	1後		1				○							1	
			応用日本語Ⅰ (留学生対象)	1前		1				○							1	
			応用日本語Ⅱ (留学生対象)	1後		1				○							1	
			小計 (28科目)	—	—	0	34	0	—		0	0	0	0	0	0	48	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	
教養教育 科目	創造とキャリア コア	人間を理解するための教養	日本の歴史を学ぶ	1前・後			2		○								1	
			世界の歴史を学ぶ	1前・後			2		○								1	
			人間と地理を学ぶ	1前・後			2		○								1	
			文学をひらく	1前・後			2		○								1	
			芸術をひらく	1前・後			2		○								1	
			哲学とは何か	1前・後			2		○								1	
			心理を学ぶ	1前・後			2		○								1	
			自己開発A	1前・後			2		○								1	標準外
			自己開発B	1前・後			2		○								1	標準外
			小計 (9科目)	—	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	8	
		社会を理解するための教養	法律を学ぶ (日本国憲法)	1前・後			2		○								1	
			法律を学ぶ (概論)	1前・後			2		○								1	
			政治を学ぶ	1前・後			2		○								1	
			倫理学とは何か	1前・後			2		○								1	
			国際関係を学ぶ	1前・後			2		○								1	
			地域社会と家族を学ぶ	1前・後			2		○								1	
			経済を学ぶ	1前・後			2		○								1	
			社会を学ぶ	1前・後			2		○								1	
			企業と社会の仕組み	1前・後			2		○								1	
			マーケティング	1前・後			2		○								1	
			女性の生き方と社会	1前・後			2		○								1	
			小計 (11科目)	—	—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	11	
		自然を理解するための教養	自然と地理を学ぶ	1前・後			2		○								1	
			数学への招待	1前・後			2		○								1	
			生物学への招待	1前・後			2		○								1	
			物理学への招待	1前・後			2		○								1	
			化学への招待	1前・後			2		○								1	
			小計 (5科目)	—	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	5	
		身体と健康を管理するための教養	健康スポーツ実習A	1前			1				○						1	
			健康スポーツ実習B	1後			1				○						1	
			小計 (2科目)	—	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	2	
	協働とリーダーシップ コア	リーダーシップ開発実践	現代社会の諸課題	2前			2			○							3	
			リーダーシップ開発演習Ⅰ	1前			2			○	1						1	
			リーダーシップ開発演習Ⅱ	1後			2			○							1	
			サービス・ラーニング実践演習	2前			2			○							1	
			小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	6	
		リーダーシップ開発応用	ファシリテーション入門	2前			2			○							2	共同
			ファシリテーションA	2前			2			○							2	共同
			ファシリテーションB	2後			2			○							2	共同
			ファシリテーションC	3前			2			○							2	共同
			ファシリテーションD	3後			2			○							2	共同
			サービス・ラーニング・ファシリテーション	3前			2			○							2	
			小計 (6科目)	—	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	10	
専門教育 科目	共通領域		建築・デザイン概論Ⅰ	1前	○		2			○		6	3	5				オムニバス
			建築・デザイン概論Ⅱ	1後	○		2			○		6	3	5				オムニバス
			デザインドローイング	1前			2				○						3	
			近代デザイン史	1前			2			○		1						
			色彩学	1前			2			○							1	
			人間工学	1後			2			○							1	
			日本・東洋美術史概論A	1前			2			○							1	
			日本・東洋美術史概論B	1後			2			○							1	
			西洋美術史概論A	1前			2			○							1	
			西洋美術史概論B	1後			2			○							1	
			デザイン思考論	2前	○	2				○			1					
			デザイン心理	2後			2			○		1						
			サステイナブルデザイン論	2前			2			○				1				
			インテリアデザイン論	2前			2			○								
			住居史	2前			2			○		1						
			建築史	2前			2			○							1	
			ビジュアルコミュニケーション論	2前			2			○		1						
			デザインと法	2前			2			○							1	
			プレゼンテーションテクニック	2後	○	2				○		7	3	5				オムニバス
			住生活論	2後			2			○			1					
			環境心理学	2後			2			○		1						
			家具論	2後			2			○		1						
			都市・地域再生システム論	2後			2			○		1						
			起業・事業論	2前			2			○				1				
			照明論	3前			2			○							1	
			建築・デザイン総合演習	3後	○	2				○		7	3	5	3			共同
			小計 (26科目)	—		10	42	0	—			7	3	5	3	0	10	—
	建築領域		建築図学Ⅰ	1前			2			○			2					
			建築図学Ⅱ	1後			2			○			2					
			建築・インテリア演習Ⅰ	1前			2			○			1	1			1	
			建築・インテリア演習Ⅱ	1後			2			○			1	1			1	
			建築構法	2前			2			○		1						
			建築施工	2前			2			○							1	
			構造力学Ⅰ	2前			2			○			1					
			構造力学Ⅱ	2前			2			○			1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	
専門教育 科目	建築領域	建築材料科学（実験含む）	2後		2		○				1					※実験
		建築法規	2後		2		○								1	
		建築CAD演習Ⅰ	2前		2			○		2						
		建築CAD演習Ⅱ	2後		2			○		2						
		建築総合演習	2後		2			○		2						
		環境工学	3前		2		○			1						
		構造設計	3前		2		○				1					
		構造計画	3前		2		○				1					
		建築計画学Ⅰ	3前		2		○			1						
		建築計画学Ⅱ	3後		2		○			1						
		建築設備	3後		2		○									1
		建築設計演習Ⅰ	2前		2			○		1						2
		建築設計演習Ⅱ	2後		2			○		1						2
		建築設計演習Ⅲ	3前		2			○			1					2
		建築設計演習Ⅳ	3後		2			○			1					2
		インテリアデザイン演習Ⅰ	2前		2			○				1				1
		インテリアデザイン演習Ⅱ	2後		2			○				1				1
		インテリアデザイン演習Ⅲ	3前		2			○		1						1
		インテリアデザイン演習Ⅳ	3後		2			○		1						1
		小計（27科目）	－		0	54	0	－		3	2	1	0	0	15	－
	デザイン領域	平面構成演習Ⅰ	1前		2			○								2
		平面構成演習Ⅱ	1後		2			○				1				
		立体構成演習Ⅰ	1前		2			○			1					
		立体構成演習Ⅱ	1後		2			○								2
		デザイン図学	1前		2			○								2
		モデリング演習	2前		2			○								1
		3DCG演習A	2前		2			○								1
		3DCG演習B	2後		2			○								1
		イラストレーション演習	2前		2			○		1						
		レンダリング演習	2後		2			○			1					
		版画演習	3後		2			○								2
		メディア論	3前		2			○				1				
		陶芸演習	3後		2			○								2
		メタルクラフト演習	3前		2			○								2
		木工演習Ⅰ	2後		2			○								2
		木工演習Ⅱ	3前		2			○		2						
		デジタル撮影演習Ⅰ	2前		2			○				1				
		デジタル撮影演習Ⅱ	2後		2			○								2
		グラフィックCG演習Ⅰ	1後		2			○								2
		グラフィックCG演習Ⅱ	2前		2			○		1		1				
		グラフィックCG演習Ⅲ	2後		2			○		1						
		グラフィックCG演習Ⅳ	3前		2			○								1
		グラフィックCG演習Ⅴ	3後		2			○				1				
		グラフィック演習Ⅰ	2前		2			○		1						
		グラフィック演習Ⅱ	2後		2			○		1						
		グラフィック演習Ⅲ	3前		2			○		1						
		グラフィック演習Ⅳ	3後		2			○		1						
		プロダクト演習Ⅰ	2前		2			○		1						
		プロダクト演習Ⅱ	2後		2			○			1					
		プロダクト演習Ⅲ	3前		2			○			1					
		プロダクト演習Ⅳ	3後		2			○		1						
		小計（31科目）	－		0	62	0	－		3	1	1	0	0	21	－
	コクリエイト領域	企画立案表現論	1前		2		○					1				
		コミュニティデザイン演習	1前		2			○		1		1				
		企画調査演習	1後		2			○				1				1
		アイデア発想演習	1後		2			○				1				1
		アイデアドローイング演習	1後		2			○				1				1
		地域デザイン演習Ⅰ	2前		2			○				1				1
		地域デザイン演習Ⅱ	2後		2			○		1						1
		地域デザイン演習Ⅲ	3前		2			○		1						1
		地域デザイン演習Ⅳ	3後		2			○				1				1
		地域デザイン論Ⅰ	2前		2			○				1				
		地域デザイン論Ⅱ	2後		2			○		1						
		地域デザイン論Ⅲ	3前		2			○			1					
		地域デザイン論Ⅳ	3後		2			○				1				
		地域資源活用論	2前		2			○				1				
		風景デザイン論	2後		2			○								1
		地域・産業研究演習Ⅰ	2前		2				○			1				
		地域・産業研究演習Ⅱ	3前		2				○			1				
		イベント企画演習Ⅰ	2前		2			○				1				1
		イベント企画演習Ⅱ	2後		2			○				1				1
		イベント企画演習Ⅲ	3前		2			○				1				1
		イベント企画演習Ⅳ	3後		2			○				1				1
		企画デザイン論Ⅰ	2前		2			○				1				
		企画デザイン論Ⅱ	2後		2			○				1				
		企画デザイン論Ⅲ	3前		2			○				1				
		企画デザイン論Ⅳ	3後		2			○				1				
		トレンドリサーチ論	2前		2			○								1

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置							備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く）教員		
専門教育 科目	コクリエイト領域	イノベーションデザイン論	3前			2		○								1		
		商品企画演習Ⅰ	2前			2			○				1			1		
		商品企画演習Ⅱ	3前			2			○				1			1		
		小計（29科目）	—		0	58	0		—		1	0	3	0	0	16	—	
	ゼミナール 卒業論文 卒業制作	ゼミナール	3通	○	4				○		7	3	5					
		卒業論文・制作Ⅰ	4前		○	4					7	3	5					
		卒業論文・制作Ⅱ	4後		○	4					7	3	5					
		小計（3科目）	—		12	0	0		—		7	3	5	0	0	0	—	
資格関連 科目	学芸員	生涯学習概論	2前				2	○								1		
		博物館学概論	2前・後				2	○								1		
		博物館経営論	3後				2	○								1		
		博物館資料論	3前				2	○								1		
		博物館資料保存論	3前				2	○								1		
		博物館展示論	3後				2	○								1		
		博物館情報・メディア論	3後				2	○								1		
		博物館教育論	2後				2	○								1		
		博物館実習	4通				3		○							1		
		小計（9科目）	—		0	0	19		—		0	0	0	0	0	8		
合計（230科目）			—	—	28	373	19		—		7	3	5	3	0	236		
学位又は称号		学士（美術）			学位又は学科の分野				美術関係									
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等									
〔卒業要件：124単位以上修得すること。〕 (1) 教養教育科目：必修科目6単位、選択科目22単位以上 計：28単位以上 (2) 専門教育科目：必修科目22単位、選択科目74単位以上 計：96単位以上 なお、コースを選択し、選択科目は次の通り単位取得すること。 ①建築コース：科目区分「共通領域」の指定科目より12単位以上 科目区分「建築領域」の指定科目より46単位以上 その他選択科目（他領域科目含む）より16単位以上 ②デザインコース：科目区分「共通領域」の指定科目より8単位以上 科目区分「デザイン領域」の指定科目より36単位以上 その他選択科目（他領域科目含む）より30単位以上 ③コクリエイトコース：科目区分「共通領域」の指定科目より10単位以上 科目区分「コクリエイト領域」の指定科目より34単位以上 その他選択科目（他領域科目含む）より30単位以上 (履修科目の登録の上限単位数：44単位（年間）)									1 学年の学期区分				2 学期					
									1 学期の授業期間				14 週					
									1 時限の授業の標準時間				100 分					

共立女子大学・共立女子短期大学助手規程

(制定 平成21年2月3日)

(目 的)

第1条 この規程（以下「規程」という。）は、学校法人共立女子学園（以下「学園」という。）が期間を定めて雇用する大学及び短期大学の助手の服務及び就業条件に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(定 義)

第2条 助手は、所属する組織における、教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事するものとする。

(業務内容)

第3条 助手の業務は次のとおりとする。

- (1) 教授、准教授、講師、助教の職務の補佐
- (2) 講義、演習、実験実習又は実技を伴う授業の補助
- (3) 学生の学修支援、生活支援
- (4) 学生募集に関する事項
- (5) 入学式、卒業式等の諸行事に関する事項
- (6) 研究活動補助
- (7) 教授会等の教育組織の活動支援
- (8) その他学部長、科長から指示された事項

(法令の適用)

第4条 この規程に定めのない事項については、「学校法人共立女子学園職員勤務規則（就業規則）」及び労働基準法その他関係法令の定めるところによる。

(資 格)

第5条 助手の資格は次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学士の学位を有する者
- (2) 前号に準ずる能力があると認められる者

(採 用)

第6条 助手の採用については、所属長が教授会の審議を経て学長に推薦するものとする。

(雇用期間)

第7条 助手の雇用契約の期間は1年とする。ただし、学園が必要とするときは、本人の同意を得て2回まで更新することができる。

2 学園が特に必要と認めるときには、本人の同意を得てさらに2回まで更新することができる。

(雇用契約)

第8条 助手の新規採用、更新は、学園の定める雇用契約書によって行う。

2 前項の新規採用の際には、次の書類を学園に提出する。

- (1) 履歴書
- (2) 成績証明書
- (3) 卒業証明書もしくは卒業見込証明書
- (4) 健康診断書

(更新等)

第9条 学園は、助手との雇用契約を更新する場合は、期間満了の日の30日前までに通知し、新たに雇用契約書を取り交わす。

2 学園は、助手との雇用契約を更新しない場合は、期間満了の日の30日前までに通知する。

3 学園が、更新する場合又はしない場合の判断基準は次のとおりとする。

- (1) 学園の経営状況により判断する。
- (2) 契約期間の満了時の業務量により判断する。
- (3) 本人の勤務成績、態度により判断する。
- (4) 本人の能力により判断する。
- (5) 本人の心身の健康状態により判断する。
- (6) 本人の従事している業務の進捗状況により判断する。

(給与・賞与)

第10条 給与の基本給の金額は、雇用契約書に定めるものとし、諸手当の支給基準、支給金額及び支給方法は、「学校法人共立女子学園職員給与規則」を準用する。

2 賞与の支給対象期間、基準日並びに支給日、支給対象者、支給率及び支給額の算定式は、「賞与支給要領」を準用する。なお、前年度に引き続き、助手として雇用契約を更新した場合には、前年度の支給対象期間を算入する。

(休日)

第11条 助手の休日は、日曜日、国民の祝日、創立記念日(10月18日、日曜日の場合はその翌日)とする。なお、学園は業務の都合上、その他やむを得ない事由のある場合には休日に出勤させ、他の日に振り替えることがある。

(休暇)

第12条 助手の休暇は次のとおりとする。

- (1) 年次有給休暇は、契約時に法定の日数を付与する。
- (2) 前項に定める年次有給休暇が10日以上付与された助手については、その付与された年次有給休暇のうち5日分は、付与日から1年以内に当該助手の希望を聞いた上で時季を指定して付与することができる。ただし、すでに取得した日数が5日以上の場合には本項は適用しない。
- (3) 次の各号の一に該当し請求したときは、それぞれに定める日数の特別休暇を与える。特別休暇を取得する場合は、所定の届出様式に所要事項を記入し、職域責任者に届け出て承認を受けなければならない。

① 結婚休暇 入籍後6ヶ月の期間内に以下の日数を与える。

本人が結婚する場合・・・・・・・・・・6日以内

子女が結婚する場合・・・・・・・・・・3日以内

② 忌引休暇 事由発生日から以下の期間とする(所定休日を含む)。

	血族の場合	姻族の場合
--	-------	-------

イ 父 母	7日以内	5日以内
-------	------	------

ロ 配偶者	7日以内	
-------	------	--

ハ 祖父母	4日以内	3日以内
-------	------	------

ニ 曾祖父母	4日以内	1日以内
--------	------	------

ホ 子	7日以内	
-----	------	--

ヘ 兄弟姉妹	4日以内	3日以内
--------	------	------

伯叔父母

ト 孫	2日以内	
-----	------	--

③ 生理休暇は、就業が著しく困難な日に与える。

④ 産前産後休暇は、産前6週間(多胎妊娠の場合は14週間)以内で本人が希望する期間、産後8週間とする。ただし、産後6週間を経過し、本人から請求があった場合は、医師が支障ないと認めた業務に就かせることがある。

⑤ 育児休業および介護休業は、「学校法人共立女子学園育児休業規程」、「学校法人共立女子学園介護休業規程」および労使協定による。

⑥ 子の看護等休暇

9歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある子を養育する者は、1年間につき5日（小学校就学の始期に達するまでの子が2人以上いる場合は10日）を限度として、

次に定める当該子の世話等のために子の看護等休暇を取得することができる。この場合の1年間とは、4月1日から翌年3月31日までの期間とする。子の看護等休暇は1時間単位とし、始業時刻から連続または終業時刻まで連続して取得するものとする。ただし、労使協定により適用除外とされた者を除く。

- イ 負傷し、又は疾病にかかった子の世話
- ロ 当該子に予防接種や健康診断を受けさせること
- ハ 感染症に伴う学級閉鎖等になった子の世話
- ニ 当該子の入園（入学）式、卒園式への参加

① 子の出生時における父親の休暇

子の出生時、父親は3日の休暇を取得することができる。取得できる期間は、配偶者の出産日を含み以降3日目までとする。

② 介護休暇

要介護状態にある家族を介護する者は、1年間に5日（要介護状態にある家族が2人以上の場合は10日）を限度として、その家族の世話をするために介護休暇を取得することができる。この場合の1年間とは、4月1日から翌年3月31日までの期間とする。介護休暇は1時間単位とし、始業時刻から連続または終業時刻まで連続して取得するものとする。ただし、労使協定により適用除外とされた者を除く。なお、「要介護状態にある家族」の定義については、学校法人共立女子学園介護休業規程の定めによる。

2 前項第3号については、通常の給与を支給する。ただし、③は1ヵ月につき3日間を超えた休暇は無給とし、⑤はそれぞれの規程に定めるところによる。

（就労の免除）

第12条の2 業務上支障のない範囲において理事長が承認した日について、就労を免除する場合がある。

2 就労免除により勤務しない日については、所定の届出様式に所要事項を記入し、職域責任者に届け出て承認を受けなければならない。

（就労免除と扱う欠勤）

第13条 次の各号の一に掲げる事由による欠勤は、これを欠勤と扱わず就労免除とする。

- （1）公民としての権利を行うとき。
- （2）公の職務を行うとき。（裁判員に任命された場合を含む。）
- （3）天災事変による交通遮断等あるいは伝染病等により出勤できなくなったとき。
- （4）その他前各号に準ずる事由があると認められたとき。

（慶弔等）

第14条 助手の慶弔見舞金に関する事項は、「学校法人共立女子学園慶弔見舞金規程（以下、「慶弔見舞金規程」という。）」を準用し、慶弔見舞金規程第1条における職員の区分を適用する。

（退職金）

第15条 退職金は、「学校法人共立女子学園退職手当規程」により支給する。支給率は「学校法人共立女子学園退職手当規程」に定める「表1」を適用する。ただし、契約途中による退職は「学校法人共立女子学園退職手当規程」に定める「表2」を適用する。

（褒章及び表彰、懲戒）

第16条 褒章、表彰は、就業規則第31条（第4号を除く）を準用する。

2 懲戒は、学校法人共立女子学園懲戒規程による。

（事務所管）

第17条 この規程に関する事務は、人事課が行う。

（規程の改廃）

第18条 この規程の改廃は、常務理事会の承認を得なければならない。

附 則

1. この規程は、平成21年4月1日から実施する。
2. すでに本法人と雇用契約のある者（非常勤助手、臨時職員等）が、連続して本規程の助手に採用された場合、第7条の更新回数は、本法人との最初の雇用契約を本規程での採用の1回目と読みかえることとし、これを平成26年4月1日採用の本規程の助手より実施する。ただし、平成25年3月31日以前に採用された後、連続して本規程の助手に採用された場合、平成25年3月31日以前の契約は、第7条の更新回数に読みかえない。
3. この規程は、平成27年4月1日から実施する。
4. この規程は、2019年（平成31年）3月5日から実施する。
5. この規程は、2019年（令和元年）9月10日から実施する。
6. この規程は、2021（令和3）年3月9日から施行し、本規程の規定は2021年（令和3年）1月1日から適用する。

附 則

この規程は、2025（令和7）年4月1日から実施する。

共立女子大学建築・デザイン学部 履修モデル

◎：必修 ○：選択必修・選択

科目区分	授業科目の名称	【履修モデルA】 建築設計を中心に 履修するモデル	【履修モデルB】 インテリア設計を中心 に履修するモデル	【履修モデルC】 グラフィックデザインを中 心に履修するモデル	【履修モデルD】 プロダクトデザインを中心 に履修するモデル	【履修モデルE】 地域コミュニティデザイン を中心に履修するモデル	【履修モデルF】 イベント・商品企画を中心 に履修するモデル
		主に建築設計に必要な基礎的な科目を中心に履修することで、建築設計に関する幅広い知識を習得するモデル	主にインテリア設計に必要な基礎的な科目を中心に履修することで、インテリア設計に関する幅広い知識を習得するモデル	主にグラフィックデザインに必要な科目を中心に履修することで、グラフィックデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主にプロダクトデザインに必要な科目を中心に履修することで、プロダクトデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主に地域コミュニティデザインに必要な科目を中心に履修することで、地域コミュニティデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主にイベント・商品企画をする上で必要な科目を中心に履修することで、イベント・商品企画に関する幅広い知識や技術を習得するモデル
		総合建設会社(設計職・施工管理職)、建築設計事務所、不動産関連企業、住宅産業、地方自治体(技術職・行政職)など。	店舗設計、内装設計、総合建設会社(設計職・施工管理職)、建築設計事務所、不動産関連企業、地方自治体(技術職・行政職)など。	広告(マーケティング・ブランディング)、グラフィック(パッケージ・編集・サイン)、WEB、映像のデザイン職、マネジメント職、企画職、デザイン事務所など。	生活用品分野(文具、雑貨、家電など)や、住宅・インテリア分野(家具、照明、住宅設備、ディスプレイなど)のデザイン職、設計職、企画職、デザイン事務所など。	地域コミュニティ運営者(NPO・NGO職員)、CSR活動や社会的意義を持つプロジェクトのディレクター、地域学や文化学に特化した教育者など。	イベント(環境・観光・食・スポーツ・エンタメ)、商品(生活用品、インテリア等)における企画・開発、広報、ブランディング、マーケティング、営業部門等でのプランナー、ディレクター、プロデューサー職など。
教養教育科目	自律と努力の基礎	基礎ゼミナール	◎	◎	◎	◎	◎
	リーダーシップ開発基礎	論理的思考・文章表現					
	リーダーシップ開発基礎	ライフキャリアと自己実現	◎	◎	◎	◎	◎
創造とキャリアコア	情報リテラシー	課題解決のためのリーダーシップ入門	◎	◎	◎	◎	◎
	情報リテラシー	データサイエンスとICTの基礎	◎	◎	◎	◎	◎
	情報リテラシー	情報処理	○	○	○	○	
英語	情報リテラシー	情報の分析と活用		○	○		
	情報リテラシー	データエンジニアリングとプログラミング基礎					
	情報リテラシー	AIの基礎と応用		○	○		
英語	英語	課題解決のためのデータエンジニアリング					
	英語	英語コミュニケーションⅠ (Basic)					
	英語	英語コミュニケーションⅠ (Intermediate)					
英語	英語	英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate)	○	○	○	○	○
	英語	英語コミュニケーションⅠ (Advanced)					
	英語	英語コミュニケーションⅡ (Basic)					
英語	英語	英語コミュニケーションⅡ (Intermediate)	○	○	○	○	○
	英語	英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate)					
	英語	英語コミュニケーションⅡ (Advanced)					
英語	英語	英語コミュニケーションⅢ (Basic)					
	英語	英語コミュニケーションⅢ (Intermediate)					
	英語	英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate)					
英語	英語	英語コミュニケーションⅢ (Advanced)					
	英語	英語コミュニケーションⅣ (Basic)					
	英語	英語コミュニケーションⅣ (Intermediate)					
英語	英語	英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate)					
	英語	英語コミュニケーションⅣ (Advanced)					
	英語	英語コミュニケーションⅤ (High-Intermediate)					
英語	英語	英語コミュニケーションⅤ (Advanced)					
	英語	英語コミュニケーションⅥ (High-Intermediate)					
	英語	英語コミュニケーションⅥ (Advanced)					
英語	英語	TOEIC I (Basic)					
	英語	TOEIC I (Intermediate)					
	英語	TOEIC I (High-Intermediate)					
英語	英語	TOEIC I (Advanced)					
	英語	TOEIC II (Basic)					
	英語	TOEIC II (Intermediate)					
英語	英語	TOEIC II (High-Intermediate)					
	英語	TOEIC II (Advanced)					
	英語	TOEIC III (High-Intermediate)					
英語	英語	TOEIC III (Advanced)					
	英語						
	英語						
初習外国語	初習外国語	フランス語Ⅰ					
	初習外国語	フランス語Ⅱ					
	初習外国語	フランス語Ⅲ					
初習外国語	初習外国語	フランス語Ⅳ					
	初習外国語	中国語Ⅰ	○	○	○	○	○
	初習外国語	中国語Ⅱ	○	○	○	○	○
初習外国語	初習外国語	中国語Ⅲ					
	初習外国語	中国語Ⅳ					
	初習外国語	ドイツ語Ⅰ					
初習外国語	初習外国語	ドイツ語Ⅱ					

科目区分	授業科目の名称	【履修モデルA】 建築設計を中心に 履修するモデル	【履修モデルB】 インテリア設計を中心 に履修するモデル	【履修モデルC】 グラフィックデザインを中 心に履修するモデル	【履修モデルD】 プロダクトデザインを中心 に履修するモデル	【履修モデルE】 地域コミュニティデザイン を中心に履修するモデル	【履修モデルF】 イベント・商品企画を中心 に履修するモデル
		主に建築設計に必要な基礎的な科目を中心に履修することで、建築設計に関する幅広い知識を習得するモデル	主にインテリア設計に必要な基礎的な科目を中心に履修することで、インテリア設計に関する幅広い知識を習得するモデル	主にグラフィックデザインに必要な科目を中心に履修することで、グラフィックデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主にプロダクトデザインに必要な科目を中心に履修することで、プロダクトデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主に地域コミュニティデザインに必要な科目を中心に履修することで、地域コミュニティデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主にイベント・商品企画をする上で必要な科目を中心に履修することで、イベント・商品企画に関する幅広い知識や技術を習得するモデル
		総合建設会社(設計職・施工管理職)、建築設計事務所、不動産関連企業、住宅産業、地方自治体(技術職・行政職)など。	店舗設計、内装設計、総合建設会社(設計職・施工管理職)、建築設計事務所、不動産関連企業、地方自治体(技術職・行政職)など。	広告(マーケティング・ブランディング)、グラフィック(パッケージ・編集・サイン)、WEB、映像のデザイン職、マネジメント職、企画職、デザイン事務所など。	生活用品分野(文具、雑貨、家電など)や、住宅・インテリア分野(家具、照明、住宅設備、ディスプレイなど)のデザイン職、設計職、企画職、デザイン事務所など。	地域コミュニティ運営者(NPO・NGO職員)、CSR活動や社会的意義を持つプロジェクトのディレクター、地域学や文化学に特化した教育者など。	イベント(環境・観光・食・スポーツ・エンタメ)、商品(生活用品、インテリア等)における企画・開発、広報、ブランディング、マーケティング、営業部門等でのプランナー、ディレクター、プロデューサー職など。
教養教育科目	創造とキャリアコア	初習外国語					
		ドイツ語Ⅲ					
		ドイツ語Ⅳ					
		コリア語Ⅰ					
		コリア語Ⅱ					
		コリア語Ⅲ					
		コリア語Ⅳ					
		スペイン語Ⅰ					
		スペイン語Ⅱ					
		スペイン語Ⅲ					
		スペイン語Ⅳ					
		イタリア語Ⅰ					
		イタリア語Ⅱ					
		アラビア語Ⅰ					
		アラビア語Ⅱ					
		基礎日本語Ⅰ(留学生対象)					
		基礎日本語Ⅱ(留学生対象)					
		応用日本語Ⅰ(留学生対象)					
		応用日本語Ⅱ(留学生対象)					
	人間を理解するための教養	日本の歴史を学ぶ					
		世界の歴史を学ぶ					
		人間と地理を学ぶ					
		文学をひらく					
		芸術をひらく	○	○	○	○	○
		哲学とは何か					
		心理を学ぶ				○	
		自己開発A					
		自己開発B					
	社会を理解するための教養	法律を学ぶ(日本国憲法)					
		法律を学ぶ(概論)					
		政治を学ぶ					
		倫理学とは何か					
		国際関係を学ぶ					
		地域社会と家族を学ぶ	○	○		○	○
		経済を学ぶ					
		社会を学ぶ	○	○	○	○	○
		企業と社会の仕組み					○
		マーケティング		○			○
		女性の生き方と社会					
	自然を理解するための教養	自然と地理を学ぶ					
		数学への招待	○	○			
		生物学への招待					
		物理学への招待					
		化学への招待					
	身体と健康を管理するための教養	健康スポーツ実習A					
		健康スポーツ実習B					

科目区分			授業科目の名称	【履修モデルA】 建築設計を中心に履修するモデル	【履修モデルB】 インテリア設計を中心に履修するモデル	【履修モデルC】 グラフィックデザインを中心に履修するモデル	【履修モデルD】 プロダクトデザインを中心に履修するモデル	【履修モデルE】 地域コミュニティデザインを中心に履修するモデル	【履修モデルF】 イベント・商品企画を中心に履修するモデル
				主に建築設計に必要な基礎的な科目を中心に履修することで、建築設計に関する幅広い知識を習得するモデル	主にインテリア設計に必要な基礎的な科目を中心に履修することで、インテリア設計に関する幅広い知識を習得するモデル	主にグラフィックデザインに必要な科目を中心に履修することで、グラフィックデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主にプロダクトデザインに必要な科目を中心に履修することで、プロダクトデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主に地域コミュニティデザインに必要な科目を中心に履修することで、地域コミュニティデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主にイベント・商品企画をする上で必要な科目を中心に履修することで、イベント・商品企画に関する幅広い知識や技術を習得するモデル
				総合建設会社(設計職・施工管理職)、建築設計事務所、不動産関連企業、住宅産業、地方自治体(技術職・行政職)など。	店舗設計、内装設計、総合建設会社(設計職・施工管理職)、建築設計事務所、不動産関連企業、地方自治体(技術職・行政職)など。	広告(マーケティング・ブランディング)、グラフィック(パッケージ・編集・サイン)、WEB、映像のデザイン職、マネジメント職、企画職。デザイン事務所など。	生活用品分野(文具、雑貨、家電など)や、住宅・インテリア分野(家具、照明、住宅設備、ディスプレイなど)のデザイン職、設計職、企画職。デザイン事務所など。	地域コミュニティ運営者(NPO・NGO職員)、CSR活動や社会的意義を持つプロジェクトのディレクター、地域学や文化学に特化した教育者など。	イベント(環境・観光・食・スポーツ・エンタメ)、商品(生活用品、インテリア等)における企画・開発、広報、ブランディング、マーケティング、営業部門等でのプランナー、ディレクター、プロデューサー職など。
教養教育科目	協働とリーダーシップ開発実践	リーダーシップ開発実践	現代社会の諸課題	○	○	○	○	○	○
			リーダーシップ開発演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○
			リーダーシップ開発演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○
			サービス・ラーニング実践演習						
	リーダーシップ開発応用		ファシリテーション入門						
			ファシリテーションA						
			ファシリテーションB						
			ファシリテーションC						
			ファシリテーションD						
			サービス・ラーニング・ファシリテーション						
	専門教育科目	共通領域	建築・デザイン概論Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			建築・デザイン概論Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			デザインドローイング	◎	◎	◎	◎	○	○
近代デザイン史			○	○	◎	◎	○	◎	
色彩学			○	○	◎	◎	○	○	
人間工学			○	○	○	◎		○	
日本・東洋美術史概論A									
日本・東洋美術史概論B									
西洋美術史概論A									
西洋美術史概論B									
デザイン思考論			◎	◎	◎	◎	◎	◎	
デザイン心理					○	○	◎	◎	
サステナブルデザイン論					○	○	◎	○	
インテリアデザイン論			◎	◎	○	○	○	○	
住居史			◎	◎			○		
建築史			◎	◎			○		
ビジュアルコミュニケーション論			○	○	◎	○	○	◎	
デザインと法					○	○	◎	◎	
プレゼンテーションテクニック			◎	◎	◎	◎	◎	◎	
住生活論			◎	◎	○	○			
環境心理学			◎	◎	○	○	○		
家具論			○	○	○	◎		○	
都市・地域再生システム論							◎		
起業・事業論					○	○	◎	◎	
照明論			○	○	○	◎		○	
建築・デザイン総合演習			◎	◎	◎	◎	◎	◎	
建築領域	建築図学Ⅰ	◎	◎						
	建築図学Ⅱ	◎	◎						
	建築・インテリア演習Ⅰ	◎	◎						
	建築・インテリア演習Ⅱ	◎	◎						
	建築構法	◎	◎						
	建築施工	◎	◎						
	構造力学Ⅰ	◎	◎						
	構造力学Ⅱ	◎	◎						
	建築材料学(実験含む)	◎	◎						
	建築法規	◎	◎						
	建築CAD演習Ⅰ	◎	◎						
	建築CAD演習Ⅱ	◎	◎						
	建築総合演習	◎	◎						
	環境工学	◎	◎	○	○				
	構造設計	◎	◎						
	構造計画	◎	◎						

科目区分	授業科目の名称	【履修モデルA】 建築設計を中心に 履修するモデル	【履修モデルB】 インテリア設計を中心 に履修するモデル	【履修モデルC】 グラフィックデザインを中 心に履修するモデル	【履修モデルD】 プロダクトデザインを中心 に履修するモデル	【履修モデルE】 地域コミュニティデザイン を中心に履修するモデル	【履修モデルF】 イベント・商品企画を中心 に履修するモデル
		主に建築設計に必要な基礎的な科目を中心に履修することで、建築設計に関する幅広い知識を習得するモデル	主にインテリア設計に必要な基礎的な科目を中心に履修することで、インテリア設計に関する幅広い知識を習得するモデル	主にグラフィックデザインに必要な科目を中心に履修することで、グラフィックデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主にプロダクトデザインに必要な科目を中心に履修することで、プロダクトデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主に地域コミュニティデザインに必要な科目を中心に履修することで、地域コミュニティデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主にイベント・商品企画をする上で必要な科目を中心に履修することで、イベント・商品企画に関する幅広い知識や技術を習得するモデル
		総合建設会社(設計職・施工管理職)、建築設計事務所、不動産関連企業、住宅産業、地方自治体(技術職・行政職)など。	店舗設計、内装設計、総合建設会社(設計職・施工管理職)、建築設計事務所、不動産関連企業、地方自治体(技術職・行政職)など。	広告(マーケティング・ブランディング)、グラフィック(パッケージ・編集・サイン)、WEB、映像のデザイン職、マネジメント職、企画職、デザイン事務所など。	生活用品分野(文具、雑貨、家電など)や、住宅・インテリア分野(家具、照明、住宅設備、ディスプレイなど)のデザイン職、設計職、企画職、デザイン事務所など。	地域コミュニティ運営者(NPO・NGO職員)、CSR活動や社会的意義を持つプロジェクトのディレクター、地域学や文化学に特化した教育者など。	イベント(環境・観光・食・スポーツ・エンタメ)、商品(生活用品、インテリア等)における企画・開発、広報、ブランディング、マーケティング、営業部門等でのプランナー、ディレクター、プロデューサー職など。
専門 教育 科目	建築領域	建築計画学Ⅰ	◎	◎			
		建築計画学Ⅱ	◎	◎			
		建築設備	◎	◎			
		建築設計演習Ⅰ	◎				
		建築設計演習Ⅱ	◎				
		建築設計演習Ⅲ	◎				
		建築設計演習Ⅳ	◎				
		インテリアデザイン演習Ⅰ		◎			
		インテリアデザイン演習Ⅱ		◎			
		インテリアデザイン演習Ⅲ		◎			
		インテリアデザイン演習Ⅳ		◎			
	デザイン領域	平面構成演習Ⅰ		◎	◎		
		平面構成演習Ⅱ		◎	◎		
		立体構成演習Ⅰ		◎	◎		
		立体構成演習Ⅱ		◎	◎		
		デザイン図学		◎	◎		
		モデリング演習			◎		
		3DCG演習A		◎	○		
		3DCG演習B			◎		
		イラストレーション演習		◎	○		
		レンダリング演習		○	◎		
		版画演習		◎	○		
		メディア論		◎			○
		陶芸演習			◎		
		メタルクラフト演習		○	◎		
		木工演習Ⅰ			◎		
		木工演習Ⅱ			◎		
		デジタル撮影演習Ⅰ		◎	○		
		デジタル撮影演習Ⅱ		◎			
		グラフィックCG演習Ⅰ	○	◎	◎	○	○
		グラフィックCG演習Ⅱ		◎	◎		
		グラフィックCG演習Ⅲ		◎			
		グラフィックCG演習Ⅳ		◎			
		グラフィックCG演習Ⅴ		◎			
		グラフィック演習Ⅰ		◎			
		グラフィック演習Ⅱ		◎			
		グラフィック演習Ⅲ		◎			
		グラフィック演習Ⅳ		◎			
		プロダクト演習Ⅰ			◎		
		プロダクト演習Ⅱ			◎		
		プロダクト演習Ⅲ			◎		
		プロダクト演習Ⅳ			◎		
	コクリエイト領域	企画立案表現論	○	○		◎	◎
		コミュニティデザイン演習				◎	◎
		企画調査演習				◎	◎
		アイデア発想演習				◎	◎
		アイデアドローイング演習				◎	◎
		地域デザイン演習Ⅰ				◎	○
		地域デザイン演習Ⅱ				◎	○
		地域デザイン演習Ⅲ				◎	
		地域デザイン演習Ⅳ				◎	
		地域デザイン論Ⅰ				◎	○

科目区分	授業科目の名称	【履修モデルA】 建築設計を中心に 履修するモデル	【履修モデルB】 インテリア設計を中心 に履修するモデル	【履修モデルC】 グラフィックデザインを中 心に履修するモデル	【履修モデルD】 プロダクトデザインを中心 に履修するモデル	【履修モデルE】 地域コミュニティデザイン を中心に履修するモデル	【履修モデルF】 イベント・商品企画を中心 に履修するモデル
		主に建築設計に必要な基礎的な科目を中心に履修することで、建築設計に関する幅広い知識を習得するモデル	主にインテリア設計に必要な基礎的な科目を中心に履修することで、インテリア設計に関する幅広い知識を習得するモデル	主にグラフィックデザインに必要な科目を中心に履修することで、グラフィックデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主にプロダクトデザインに必要な科目を中心に履修することで、プロダクトデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主に地域コミュニティデザインに必要な科目を中心に履修することで、地域コミュニティデザインに関する幅広い知識や技術を習得するモデル	主にイベント・商品企画をする上で必要な科目を中心に履修することで、イベント・商品企画に関する幅広い知識や技術を習得するモデル
		総合建設会社(設計職・施工管理職)、建築設計事務所、不動産関連企業、住宅産業、地方自治体(技術職・行政職)など。	店舗設計、内装設計、総合建設会社(設計職・施工管理職)、建築設計事務所、不動産関連企業、地方自治体(技術職・行政職)など。	広告(マーケティング・ブランディング)、グラフィック(パッケージ・編集・サイン)、WEB、映像のデザイン職、マネジメント職、企画職、デザイン事務所など。	生活用品分野(文具、雑貨、家電など)や、住宅・インテリア分野(家具、照明、住宅設備、ディスプレイなど)のデザイン職、設計職、企画職、デザイン事務所など。	地域コミュニティ運営者(NPO・NGO職員)、CSR活動や社会的意義を持つプロジェクトのディレクター、地域学や文化学に特化した教育者など。	イベント(環境・観光・食・スポーツ・エンタメ)、商品(生活用品、インテリア等)における企画・開発、広報、ブランディング、マーケティング、営業部門等でのプランナー、ディレクター、プロデューサー職など。
専門 教育 科目	コクリエイト領域	地域デザイン論Ⅱ				◎	○
		地域デザイン論Ⅲ				◎	
		地域デザイン論Ⅳ				◎	
		地域資源活用論				◎	○
		風景デザイン論				◎	○
		地域・産業研究演習Ⅰ				◎	
		地域・産業研究演習Ⅱ				◎	
		イベント企画演習Ⅰ				○	◎
		イベント企画演習Ⅱ				○	◎
		イベント企画演習Ⅲ					◎
		イベント企画演習Ⅳ					◎
		企画デザイン論Ⅰ				○	◎
		企画デザイン論Ⅱ				○	◎
		企画デザイン論Ⅲ					◎
		企画デザイン論Ⅳ					◎
		トレンドリサーチ論				○	◎
		イノベーションデザイン論				○	◎
		商品企画演習Ⅰ					◎
		商品企画演習Ⅱ					◎
	ゼミナール 卒業論文 卒業制作	ゼミナール	◎	◎	◎	◎	◎
		卒業論文・制作Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎
		卒業論文・制作Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎

修得単位数	1年次	44	44	40	40	40	40
	2年次	44	44	40	40	40	40
	3年次	28	28	36	36	36	36
	4年次	8	8	8	8	8	8
	総計	124	124	124	124	124	124

共立女子大学 建築・デザイン学部建築・デザイン学科
学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 収容定員を増加する組織の概要	2
① 収容定員を増加する組織の概要	2
② 収容定員を増加する組織の特色	2
(2) 人材需要の社会的な動向等	6
① 収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析 ...	6
② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	9
③ 収容定員を増加する組織の主な学生募集地域	11
④ 既設組織の定員充足の状況	12
(3) 学生確保の見通し等	14
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	14
ア 既設組織における取組とその目標	14
イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標	19
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を増加する組織での入学者の見込み数	21
② 競合校の状況分析	24
ア 競合校の選定理由と収容定員を増加する組織との比較分析、優位性	24
イ 競合校の入学志願動向等	29
ウ 収容定員を増加する組織において定員を充足できる根拠等	30
エ 学生納付金等の金額設定の理由	30
③ 先行事例分析	31
④ 学生確保に関するアンケート調査	32
ア 高校生アンケート調査による分析	32
イ 建築・デザイン学部在学生アンケート調査による分析	37
ウ 過年度の入学志願実績による分析	38
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	40
ア 人材需要に関するアンケート調査による分析	40
イ 家政学部建築・デザイン学科の進路実績とキャリア支援/進路支援	41
(4) 収容定員を増加する組織の定員設定の理由	47

(1) 収容定員を増加する組織の概要

(1) のポイント
・建築・デザイン学部の入学定員を 100 人から 150 人、収容定員を 400 人から 600 人に増加する計画である (※)。
・「美術関係」を学位の分野とし、美術の視点から「空間」や「モノ」を捉え、創造的に提案・実践できる人材を養成する。
・美術の視点によるアプローチを継続し、「建築コース」「デザインコース」「コクリエイトコース」の 3 コースを編成する。
・1 年次にコース（建築、デザインまたはコクリエイト）に所属し、2 年次から分野（建築、インテリア、グラフィック、プロダクト、地域デザインまたは企画プロデュース）に分かれることで、専門分野の知識、技術を階梯的に学ぶ。
・一級建築士（受験資格）、二級建築士（受験資格）、学芸員及びインテリアプランナー（実務経験 2 年免除）の資格に対応した教育課程を展開している。
・既存の建築・デザイン学部の専用施設に加え、実践的な創作活動が可能な演習室を整備する。

※地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律施行令（平成 30 年政令第 177 号）第 4 条第 2 項第 1 号の適用

① 収容定員を増加する組織の概要

収容定員を増加する組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
共立女子大学 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科	150 (100)	-	600 (400)	東京都千代田区一ツ橋 二丁目 2 番 1 号

() は変更前の定員

② 収容定員を増加する組織の特色

養成する人材像	共立女子大学の建学の精神および人材養成目的に基づき、幅広い教養と建築・デザインの専門に係る知識・技能を身に付け、人が生きていくために必要な場を構成している「空間」や「モノ」などを総合的にとらえ、創造的に提案・実践できる人材を育成する。
学位の分野	美術関係
授与する学位（学位に付記する専攻分野）	学士（美術）

共立女子大学では、家政学部建築・デザイン学科において長年培ってきた「美術の視点から建築やデザインを捉える」という教育研究活動をより明確に社会へ発信するため、令和5年4月に同学科を改組し、学位の分野を「美術関係」とする建築・デザイン学部建築・デザイン学科を開設した。美術の視点から建築やデザインに関する教育研究を展開している学部は、東京藝術大学や、私立大学では武蔵野美術大学等の美術系大学が設置する学部に限られ、本学のような複合分野を有する総合大学においては類を見ない希少性を有している。なお、美術の視点から建築を含めたデザインを捉える本学の考え方は、文化庁に設置されている日本芸術院が令和3年に行った組織改編において、同院第一部（美術）の第五分科を（建築）から（建築・デザイン）に位置づけた動向とも合致しており、この事実は、「建築」が「美術」の重要な構成要素であることを改めて明確にするとともに、建築とデザインが密接不可分であることを示している。

本学部は、学部開設以来、一貫して「美術」の視点から教育研究を展開し、現代社会におけるデザイン需要の高まりに応える教育を展開している。この美術の視点によるアプローチを継続し、さらに専門性を高め、社会に有為な人材を育成するため、3コースを編成する。

- ・建築コース

美術的視点と建築・デザインを包括的に捉えた視点を兼ね備えたうえで、人にとって心地よく美しい「空間」と「モノ」を創造するために設計・制作・監理・ディレクションができる知識・技術・実践力を養成する。

- ・デザインコース

美術的視点と建築・デザインを包括的に捉えた視点を兼ね備えたうえで、市場調査やユーザー調査に基づき、愛着を感じる家具・照明・雑貨などの生產品の提案・制作や、情報を的確かつ効果的に伝える広告・WEB・映像・パッケージなどのグラフィックの提案・制作・ディレクションができる知識・技術・実践力を養成する。

- ・コクリエイトコース

美術的視点と建築・デザインを包括的に捉えた視点を兼ね備えたうえで、フィールドワークやクライアントとの対話を通して、新たな価値を創造する企画デザインができる知識・技術・実践力を養成する。

これらのコースにおいて専門性を深めることで、幅広い教養と建築・デザインに係る知識・技能を身に付け、美術の視点から「空間」や「モノ」などを総合的に捉え、創造的に提案・実践できる人材を育成する。なお、建築やデザインは設計者やデザイナー、制作者や使用者など、複数の人間が携わり協働することで初めて形を成す分野であることから、建築・デザイン学部では学部開設以来、価値観の異なる

多様な人々と協働しながら課題発見から課題解決までを行う実践力の育成を重視している。そのため、チームでの企画・制作やグループ研究等を通して、他者と協働し、課題に対して美術的視点による解決策を提案できる人材を養成してきた。これは「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）」（令和7年2月21日）（以下、「知の総和答申」という）が掲げる多様な人々との協働による課題解決を具現化するものである。

学生は学年進行に合わせて専門性をより深く理解できるよう、1年次に建築コース、デザインコース、コクリエイトコースのいずれかのコースに所属し、2年次に建築コースは建築分野またはインテリア分野、デザインコースはグラフィック分野またはプロダクト分野、コクリエイトコースは地域デザイン分野または企画プロデュース分野のいずれかを自身の興味・関心に基づき選択することで、専門分野に対する意識を高め、養成する人材像に向けた学修意欲を醸成している。

教育課程においては、1・2年次でデザインに携わるうえで必要となる美術の視点や理論、専門分野に必要な基礎技能を修得することにより、物事を包括的に捉える力を培う。この基礎的な学修を踏まえ、3・4年次で各専門分野における応用的な理論・技術を学べるよう、授業科目を階梯的に配置している。

なお、本学では全学的な教育指針・行動指針として「リーダーシップの共立®」を掲げている。この指針に基づく「目標を明確に掲げ、共有した上で、率先して行動し、他者との相互支援関係をつくることで、目標達成に近づいていく能力であるリーダーシップ」と「実学に基づいた専門分野の学び」を掛け合わせた教育を展開することで、専門分野で身に付けた知識・技能をリーダーシップによって正しく発揮できる有為な人材を養成する。

教育方法としては教育内容に則した授業形態（講義、演習、実験・実習）を用いるとともに、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。さらに地域社会と連携しながら地域が抱える課題の解決にチームで取り組むなど、建築やデザインの力で課題を解決する能力を実践的に磨くため、課題解決型授業（Project Based Learning, 以下、PBL という）を展開する。

こうした専門教育を通じて、一級建築士（受験資格）、二級建築士（受験資格）、学芸員及びインテリアプランナー（実務経験2年免除）に対応した教育課程を展開する。

また、これらの学びを支える施設設備としては、最新のデジタル機器を活用しながら設計や制作などを行うことができる演習室を整えている。具体的な施設設備としては、大型インクジェットプリンターや大型カッティングプロッタ、撮影ブース等を備え、パッケージ・模型制作などにも活用する「デジタル平面工房」、3Dプリンターやレーザーカッター、塗装ブース等を整備し、デザインモデルや模型制作を行う「デジタル立体工房」、そしてVRシステムや照明システム、高画質

プロジェクターを完備し、空間演出やアート作品の展示、プレゼンテーションに活用する「デジタル実験工房」を整備している。さらに、今般の定員増加に伴い、プレゼンテーションやディスカッションの実施を可能とする可動式什器と壁面ホワイトボードを備えた新たな専用演習室を整備し、企画からアイデアの提案までをスムーズに展開できる教育環境を拡充する。加えて、都心に位置するキャンパスの利点を活かし、キャンパス周辺の歴史的建造物や最新技術を駆使した建築、美術館・ギャラリー等で展示するアートやデザインを「生きた教材」として実地の学びに取り入れている。また、世界最大規模の古書店街に隣接し学生が落ち着いた雰囲気ですぐ専門書を探すこともできる環境でもある。

以上のような特色ある教育や専用の施設設備、そして立地環境を最大限に活用することにより、美術の視点から「空間」や「モノ」を総合的に捉え、創造的に提案・実践できる人材を養成する。

(2) 人材需要の社会的な動向等

(2) のポイント

- ・建築・デザイン学部で養成する人材像は、社会におけるデザインの重要性やデザイン人材の需要の高まりや、人手不足が深刻な建設業界の新たな価値創出と女性活躍の促進等の社会的要請に対して重要な役割を果たす。
- ・本学部の主要な学生募集地域である南関東（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）の18歳人口は、全国のエリア別の中で最も減少率が低い。なお、本学が所在する東京都は緩やかな減少に留まっており、大学進学時の流入者数や大学進学率も全国で最も高いため、本学は人口減少に対する影響が比較的小さい地域といえる。
- ・本学が所在する東京都の大学は高い定員充足率を維持し、建築・デザイン学部の学問分野である芸術系学部は全国的に安定した入学状況が続いている。
- ・収容定員を変更する建築・デザイン学部は、学部開設後の平均実質倍率が3.28倍、平均志願倍率が6.17倍と高い水準で推移している。歩留率も0.62で既設学部内において最も高く、収容定員変更後の入学定員の充足は十分可能であると考えられる。

① 収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

経済産業省・特許庁「デザイン経営」宣言（平成30年5月23日）では、第四次産業革命により国境を越えた企業競争が激化する現状において、企業競争力を向上させるため、ブランド構築とイノベーションに資する「デザイン」を経営戦略の中心に据えて活用することが示された。以降、国内企業においてデザイン責任者の設置やデザイン人材との協業、事業戦略の上流からデザインを関与させる試みなどが見られるなど、産業界を中心に「デザイン経営」の取組が広がったと経済産業省「これからのデザイン政策を考える研究会報告書」（令和5年1月19日）では述べられている。

同報告書では、現代のデザインは、建築、インダストリアル、プロダクト、グラフィック、ソーシャル、テクノロジーなど多岐にわたる領域から構成されていることが「デザインの領域図」に示されている。さらに、よく考え抜かれた仕組みや工夫そのものもデザインと表現されており、少子化や自然災害、エネルギー問題といった現代社会の課題解決においても、デザインが果たすべき役割の重要性が増していることも同報告書では述べられている。また、これらを担うデザイナーには、様々な者との折衝や共創のためのファシリテーション能力など、エモーショナルな外観を生み出すデザイナーの造形力とは異なるスキルが求められることが指摘されている。

なお、デジタル化が進む現代において、単なる技術的な知識を持つだけでなく、課題を解決するための「問題発見力」や「革新性」を併せ持つ人材の重要性は経済産業省「未来の人材ビジョン」（令和4年5月10日）において強調して示されてお

り、複雑で多様な課題に対して新たな価値の創出を担うデザイン人材は、デザインと直接的な関連がなかった業種や領域においても、その必要性が認識され、今後も市場ニーズの高まりが続くことが考えられる。

【資料 1：デザインの領域図】

内閣府「新たなクールジャパン戦略」（令和 6 年 6 月 4 日）では、デザインを社会全体の創造性を向上させる「横串」の機能として位置付けている。同戦略では、高付加価値の商品・サービスで高い利益をあげ、その収益を再投資に回すエコシステムの形成が重要であり、その取組を底上げするために社会全体としてデザインやアートに関する機能の強化を図ることが重要であると述べられている。

また、経済産業省「令和 4 年度地域・企業共生型ビジネス導入・創業促進事業（地域課題とデザイン人材のマッチング促進事業）調査研究報告書」（令和 5 年 3 月）に示される通り、複雑化する地域課題の解決において、地域の文化創造や企業経営に貢献するデザイン人材が注目されている。こうした背景から、自治体等のデザイン人材活用を支援する経済産業省「デザインがわかる、地域がかわる 〜インタウンデザイナー活用ガイド〜」（令和 5 年 3 月）がまとめられ、自治体や商工会、観光協会等、地域活性化に取り組む主体にとって、デザインが果たす役割が拡大していることが示されている。

以上のような需要の高まりに応えるようにデザイナー数は堅調に推移しており、公益財団法人日本デザイン振興会「デザイン白書 2024」（令和 6 年 3 月）によると、平成 17（2005）年以降増加傾向が続いており、令和 2（2020）年には総計 201,100 人に達した。また、デザイン事務所の数は一時減少傾向にあったが、平成 28（2016）年の 8,557 件から令和 3（2021）年には 9,821 件へと増加に転じた。さらにデザイン業の売上高も平成 28（2016）年の約 48 億円から令和 3（2021）年には約 49 億円へと増加傾向を示している。なお、事業所の 3 割以上、売上高の約 5 割が東京都に集中していることから、都市圏が業界成長を牽引する重要な役割を果たしていることがわかる。さらに、デザイナーの就業先は多岐にわたり、最も多いのはデザイン業（33.39%）、次いで広告業（9.34%）、インターネット付随サービス業（9.11%）、情報サービス業（8.22%）、映像・音声・文字情報制作業（7.56%）である。この他、情報通信業や製造業、卸売業、小売業等、幅広い分野でデザイナーが活躍しており、デザインの対象領域が有形物だけでなく無形物へと拡大し、社会全体におけるデザイナーの役割が多様化していることを裏付けている。

【資料 2：デザイン業の動向】

【資料 3：都道府県別デザイン事務所数と売上高】

【資料 4：デザイナーが就業する産業】

なお、前述した通りデザインの対象が多岐にわたる領域で構成される中、本学では建築とデザインを一体的に捉え、美術の視点から建築とデザインに関する教育

研究を展開している。こうした捉え方は、東京藝術大学や私立美術大学の専門学部とも共通するものである。さらに、日本芸術院の第一部（美術）の第五分科を令和3年に（建築）から（建築・デザイン）に変遷したことから、「建築」が美術の重要な構成要素であり、デザインと密接不可分であることが明確に示されている。

その建築を取り巻く社会的な動向については、国土交通省「令和6年度（2024年度）建設投資見通し」（令和6年8月30日）によると、国内の建設投資額は平成4（1992）年度の84兆円をピークに減少傾向が続いていた。平成22（2010）年度にはピーク時の半分程度にまで減少したが、東日本大震災からの復興需要や民間投資の回復、東京オリンピックや大阪・関西万博といった大規模事業の影響により、近年では増加傾向に転じている。令和6（2024）年度の建設投資は前年度比2.4%増の73兆2,100億円と見込まれ、令和7（2025）年度には75兆5,700億円に達すると予測されており、今後も政府投資の継続的な拡大や既存建築物の維持管理、高付加価値化、省エネ化へのニーズの高まりにより、堅調な需要が継続する見通しである。

【資料5：建築投資の推移】

建築物に対する需要が高まる一方で、建設業の高齢化は全産業と比べてより深刻であり、令和6（2024）年には55歳以上が約37%を占める一方、29歳以下は約12%にとどまっている。新規卒者の建設業への入職者数も、令和6（2024）年には3.8万人と8年ぶりに4万人を下回った。リクルートワークス研究所の調査では、令和8（2026）年3月卒業予定の大卒求人倍率が建設業で8.55倍と高い水準を維持しているが、実際の入職者数とは大幅な乖離があり、人材不足は顕著である。

建築士事務所の登録数も減少傾向にあり、背景には一級建築士の高齢化がある。令和6（2024）年4月時点の一級建築士の年齢構成を見ると、60歳以上が約44%、50代以上が全体の70%を占める一方、20代はわずか1.6%である。現在の傾向が続くと、30年後には一級建築士（所属建築士）の数が半減する見込みであり、人口減少を勘案した人口1,000人当たりの所属建築士数も4割減少すると予測されており、建築士不足も明らかである。

【資料6：建設業における就業者の現状】

【資料7：一級建築士の現状と将来予測】

このような建設業就業者数や建築士の不足に対し、国土交通省は、建設産業における女性技術者（設計者含む）の就業数は全産業・製造業と比べても低いことから、女性技術者の入職促進や就労継続に向けて「建設産業における女性活躍・定着促進に向けた実行計画」（令和7年3月14日）を再策定し、女性技術者（設計者を含む）の働きやすい現場整備を目指した、ハード・ソフト両面からの環境整備を推進している。また、当該実行計画の検討過程において行った国土交通省建設産業における女性活躍・定着促進に向けた実行計画検討会（令和6年11月20日）「令和

6 年度建設産業における女性定着促進に関する実態等調査結果（アンケート調査）」においては、企業では、ドローンなどの最新技術を活用し現場の作業環境が変わる中、女性ならではの目線やセンス等を活かした働きに期待を寄せていることが示されている。これらの調査結果からも、企業が建設産業の多様な分野において女性技術者（設計者を含む）の就業者を多く求めていることがわかる。

【資料 8：令和 6 年度建設産業における女性定着促進に関する実態等調査結果】

以上のような社会的要請に応えるため、本学部は収容定員変更後も、美術の視点から「空間」や「モノ」を包括的に捉え、創造的に提案・実践できる人材を養成する。なお、一級建築士（受験資格）、二級建築士（受験資格）、学芸員、インテリアプランナー（実務経験 2 年免除）の資格取得に対応した教育課程を維持することで、現代社会で広がりを見せるデザイン需要及び高齢化や人手不足の建築分野の需要に応じていく。

このように、今般の建築・デザイン学部の収容定員増加は、社会的要請に対して極めて重要な役割を果たすものである。

② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

<18 歳人口>

中央教育審議会 大学分科会・高等教育の在り方に関する特別部会の合同会議資料によると、今後の全国の 18 歳人口は令和 8 年の 111 万人をピークに以降は減少し、令和 17 年には 100 万人を割り、96 万人となる見込みである。

【資料 9：18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移】

次に、本学の主な学生募集地域における 18 歳人口の推移予測を確認する。建築・デザイン学部における過去 3 年間の入学者の出身高校所在地別人数の割合は、東京都が 39.6%、千葉県が 18.7%、埼玉県が 12.1%、神奈川県が 10.0%と、この 1 都 3 県（以下、南関東という）で全体の 80.4%を占めている。

【資料 10：建築・デザイン学部入学者の出身高校所在地別人数割合】

リクルート進学総研が文部科学省「学校基本調査」を基にした推計によると、南関東の 18 歳人口は、【資料 11：18 歳人口予測】の【表 1】に示す通り、令和 9 年から令和 18 年の 10 年間で約 29.9 万人から約 27.2 万人へと減少する。この間の減少率は 9.0%であり、全国平均の 13.1%と比較して低いだけでなく、全国エリアの中で最も減少率が低くなっている。

また、本学が位置し、入学者の出身高校所在地が最も多い東京都に限って見ると、同資料【表 2】の通り、同期間で約 10.7 万人から約 10.1 万人へと減少し、減少率は 5.6%に留まる。これは、南関東の中でも最も緩やかな減少であることが読み取れる。

さらに、女子大学である本学の入学対象者である女子人口に焦点を当てると、同

資料【表 3】の通り、南関東の女子人口は同期間で約 14.6 万人から約 13.3 万人へと減少し、減少率は 8.9%と全国平均よりも低い水準である。さらに東京都の女子人口は、約 5.2 万人から約 4.9 万人へ減少し、減少率は 5.9%であり、全国平均の 13.0%と比較すると、減少幅が 7.1 ポイント少ないことがわかる。

【資料 11：18 歳人口予測】

また、【資料 12：大学進学時の都道府県別流入・流出者数】によると、令和 5 年の東京都における大学進学時の流入者数は約 7.7 万人であり、全国で最も多いことから、大学進学を機に他県からの進学者数が多いことがわかる。

【資料 12：大学進学時の都道府県別流入・流出者数】

＜大学進学率＞

【資料 13：男女別・18 歳人口と大学進学率等の推移】の通り、全国の女子の大学進学率は平成 25 年から令和 6 年の 12 年間で 45.6%から 56.2%に約 10.6 ポイント上昇し、大学入学者数は約 1.7 万人増加している。さらに、【資料 14：男女別・都道府県別の 4 年制大学進学率】の通り、令和 5 年の全国の女子の 4 年制大学進学率は 53%であるが、本学が位置する東京都における女子の進学率は 77%と、各都道府県の女子の進学率と比して最も高く、進学意欲の高い女子学生が集中するマーケットに位置している。

【資料 13：男女別・18 歳人口と大学進学率等の推移】

【資料 14：男女別・都道府県別の 4 年制大学進学率】

なお、「知の総和答申」によると、18 歳で入学する学生の進学率はこれまで継続的に上昇しており、今後も大学進学率は一定程度上昇していくことが想定されている。

以上より、全国的に 18 歳人口は減少傾向にあるものの、本学への入学者の多くを占める南関東は 18 歳人口の減少率が全国で最も低いエリアで、特に東京都は緩やかな減少に留まっており、かつ、大学進学時の流入者数や大学進学率も全国で最も高いため、人口減少に対する影響が比較的小さい地域といえる。このことから、中長期的にも本学は入学定員を安定的に確保できる地理的優位性を備えている。

さらに、現在も安定的に入学者を確保していることに加え、後述する高校生を対象とした進学意向アンケート調査のクロス集計において、入学定員の 150 人を上回る入学意向者が確認できたことや、建築・デザイン業界における人材需要動向等を踏まえると、変更後の入学定員 150 人を継続的に充足できる見込みがあると考えられる。

③ 収容定員を増加する組織の主な学生募集地域

建築・デザイン学部の令和5年から令和7年までの3年間における入学者の出身高校の所在地は、南関東が8割を占めており、その内訳は東京都が39.6%、千葉県が18.7%、埼玉県が12.1%、神奈川県が10.0%である。この実績から、建築・デザイン学部の主な学生募集地域を南関東と設定する。

【資料10：建築・デザイン学部入学者の出身高校所在地別人数割合】

文部科学省による学校基本調査をもとに作成した【別紙1：定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況】の「出身高校の所在地県別の入学者数の構成比」における全国的な傾向と比較すると本学は南関東の高校出身者の構成比が10.5ポイント高い。先に述べた通り、南関東は将来においても18歳人口及び大学進学率が全国と比較して高水準で推移すると予測されており、本学は18歳人口減少の影響を受けにくい環境にあるといえる。

【別紙1：定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況】

また、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」をもとに作成した【別紙1：定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況】の「収容定員を増加する組織が置かれる都道府県の定員充足状況」の通り、東京都における大学の入学定員充足率は令和5年度103.57%、令和6年度102.88%、令和7年度105.69%で、直近3年で100%を超過しており、高い水準を保っている。

文部科学省「2040年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議（第4回）」（令和7年7月28日）の資料によると、令和22（2040）年の18歳人口推計は東京都が92,106人で全国最多であり、大学進学率推計、大学進学者数推計ともに全国1位である。また、他の南関東三県における推計値も軒並み高水準である。神奈川県は、18歳人口推計が全国2位、大学進学者数推計が3位、大学進学率推計が7位であり、埼玉県は18歳人口推計、大学進学者数推計ともに5位、大学進学率推計は11位となっている。千葉県についても、18歳人口推計、大学進学者数推計ともに6位であり、大学進学率推計は8位となっている。

【資料15：2040年の各都道府県進学者等推計】

さらに、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」をもとに作成した【別紙1：定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況】の「収容定員を増加する組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況」の通り、建築・デザイン学部の学問分野である芸術系学部の定員充足状況は令和5年度105.32%、令和6年度104.77%、令和7年度106.14%で、いずれも100%を超過しており、当該分野は安定的な入学状況が続いている。

以上の通り、本学が所在する東京都における大学の入学定員充足率は安定しており、本学部が想定する学生募集地域である南関東は、将来にわたって18歳人口及び大学進学率が全国的に見て高水準で推移すると予測されている。また、建築・

デザイン学部の学問分野においても安定した入学状況が続いていることから、変更後の入学定員 150 人を継続的に充足できる見込みがあると考えられる。

④ 既設組織の定員充足の状況

共立女子大学は、常に社会的使命を果たすべく、社会に広く貢献できる自立した人材を養成しており、令和 7 年度時点で 6 学部 8 学科（家政学部被服学科、家政学部食物栄養学科、家政学部児童学科、文芸学部文芸学科、国際学部国際学科、看護学部看護学科、ビジネス学部ビジネス学科、建築・デザイン学部建築・デザイン学科）を有し、令和 8 年度に家政学部児童学科の教育研究実績を基盤に、児童学部児童学科を開設し、7 学部 8 学科となる。

過去 5 年間の各選抜方法の募集状況は【別紙 2-2：既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）】の通りである。

大学全体の令和 7 年 5 月 1 日現在の収容定員は 5,180 人、学生数は 5,478 人で大学全体の収容定員充足率は 1.05 倍である。全学部学科において、収容定員充足率が 0.70 倍未満の学部及び学科は存在しない。

【別紙 2-1：既設学科等の収容定員の充足状況】

【別紙 2-2：既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）】

【資料 16：共立女子大学入学志願状況】の【表 1】の通り、令和 3 年度から令和 7 年度の平均入学定員充足率は家政学部児童学科を除くすべての学部学科において 1.00 を上回っており、18 歳人口の減少期においても安定した学生確保の状況を維持している。建築・デザイン学部においても、前身である家政学部建築・デザイン学科を含めた過去 5 年間のすべての年度において入学定員を充足している。

【資料 16：共立女子大学入学志願状況】

家政学部児童学科は、令和 3 年度から令和 7 年度の平均入学定員充足率は 0.97 であるが、令和 8 年度からの児童学部児童学科への改組を契機に、教育内容・教育方法及び施設設備を充実することによって学修成果を高めるための取組の一層の強化を図るとともに、ステークホルダーに対して当該取組を積極的かつ継続的に広報していくことで、定員を安定的に充足できると考える。

株式会社日本格付研究所（JCR）による長期発行体格付では、教育研究活動の充実を図りながら、安定した財務基盤を維持していることが評価されている。また、入学者の安定的な確保が見込まれ、学納金収入は引き続き底堅く推移する見通しであることが評価された。これにより、格付「A+」、見通し「安定的」の評価を継続して受けている。

また、令和 6 年度に受審した公益財団法人大学基準協会より、「本協会の大学基準に適合している」との認定を受けており、時代の要請に応じた教育体制の継続的な発展という教育活動に対する学外からの確かな評価を得ている。

【資料 16：共立女子大学入学志願状況】の【表 2】の通り、今般、収容定員を変更する建築・デザイン学部の実質倍率（延べ受験者数/合格者数）は、前身である家政学部建築・デザイン学科を含む 5 か年平均で 2.88 倍であった。これは、学内において家政学部食物栄養学科管理栄養士専攻に次いで 2 番目に高い倍率である。また、前身である家政学部建築・デザイン学科の 2 か年平均は 2.27 倍であったが、建築・デザイン学部開設後の 3 か年平均は 3.28 倍に上昇している。なお、この倍率は全学科・専攻の 3 か年平均の中で最も高い倍率となっている。

同資料【表 3】の通り、志願倍率（延べ志願者数/入学定員）についても、建築・デザイン学部の 5 か年平均は 5.66 倍であった。学部化前の 2 か年平均は 4.90 倍であったが、学部開設後の 3 か年平均は 6.17 倍に上昇しており、高い水準で推移している。

また、同資料【表 4】の通り、歩留率は家政学部建築・デザイン学科を含めた過去 5 年間のすべての年度において学内で最も高く、平均値は 0.60 である。歩留率においても、前身である家政学部建築・デザイン学科の 2 か年平均は 0.58 であったのに対し、建築・デザイン学部開設以降の平均値は 0.62 に上昇している。

本学の全学科・専攻において定員充足状況は安定しており、今般収容定員を変更する建築・デザイン学部は学内においても、高い実質倍率と歩留率があることから、収容定員変更後の入学定員の充足は十分可能であると考ええる。

(3) 学生確保の見通し等

(3) のポイント

- ・オープンキャンパスの開催、大学案内の制作・配布、企業主催の進学相談会等への参加、高校訪問等の実施、ホームページ、WEB や SNS 広告による情報提供等を通じた多面的かつ戦略的な広報活動を行っている。
- ・令和 7 年度の志願者数を基に試算しても、増加後の定員を充足できると見込むことができるため、現在の広報活動の取組を継続しつつ、より効果的な情報発信を図る。
- ・建築やデザイン、コクリエイトを横断的に学ぶ教育内容の幅広さ、教員一人当たりの学生数 (S/T 比) に示される充実した教員組織、担任 (アカデミック・アドバイザー) や助手等によるきめ細やかな支援、経済的負担の少ない学納金、優れた立地条件等の強みにより、競合校と比較して高い優位性を有する。
- ・高校 2 年生女子対象の進学意向に関するアンケート調査において、クロス集計の結果、第一志望で入学意向を示した人数が入学定員 (150 人) を上回る 223 人であったことに加え、本学部への入学意向を示した人数に対して過年度入試の実績 (受験率、合格率、歩留率) を乗じた試算においても 189 人の入学意向者がいることを確認した。

学外非公開情報が含まれているため省略

- ・在学生に実施したアンケートや過年度入試の実績 (志願倍率、入学定員充足率、歩留率) から志望度の高さが読み取れ、定員変更後の入学定員を十分に確保できる見込みである。
- ・企業対象の人材需要に関するアンケート調査において、回答企業の 96.7% から採用意向を得ており、その採用意向人数は合計 757 人と増加後の定員の 5 倍を上回っており、社会的な需要が高いことを確認している。また、前身の家政学部建築・デザイン学科の就職率は、過去 4 年間平均で 94.7% と安定していることから、きめ細やかで手厚いキャリア支援体制を継続することで、卒業後の進路についても十分な見通しが立つ。

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学では、学生を安定的に確保するため、広報活動の基本方針として本学の志願者の約 8～9 割を占める南関東を広報活動の最重点地域と定め、重点的な広報を行うとともに、そのほか約 1～2 割程度を占めている地域 (茨城県、栃木県、群馬県、静岡県) についても、戦略的に注力するエリアとして広報を展開している。こうした広報戦略を通じて、本学の教育内容や特色を効果的に発

信することで、志願者の理解と関心を深め、安定的に定員を充足している。

なお、建築・デザイン学部における学生確保に向けた具体的な取組は次の通りである。

【別紙 3：既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績】

(A) オープンキャンパスの開催

夏季を中心に年間 8 回のオープンキャンパスを実施している。オープンキャンパスでは、建築・デザイン学部の学生によるキャンパスツアーやフリートーク、教員による学部紹介、体験授業、個別相談等、在学生や教員との接点を設けている。特に夏季は午前と午後の二部制で実施しており、遠方からの参加のしやすさはもちろん、同じ高校生が午前と午後で別の学部のオープンキャンパスを体験可能にするなど、できる限り多くの学生と接する機会を増やし、本学への理解を深めてもらうことができるようにしている。

建築・デザイン学部においては、コースごとにそれぞれ異なるコンテンツを用意し、1 日に 2 回以上のコース説明を実施することで、複数のコースに参加できるようにしている。また、コース別に個別相談を設けており、教育内容や学生生活、入試に関する深い理解を促している。

また、本学の学園祭である共立祭の開催日には、進学相談会を実施し、教職員による個別相談ブースを設けている。さらに、オープンキャンパス開催日以外でも予約不要で高校生からの大学見学の要望に対応し、来場型または WEB 型での個別相談も実施している。

学外非公開情報が含まれているため省略

(B) 大学案内の制作・配布

大学・短期大学すべての学部・学科についての入学定員、学生納付金、カリキュラム、教育方法、特色、卒業後の将来像、キャンパス所在地等を記載した大学案内を制作し、高校生、保護者、高校教員等のステークホルダーに配布している。

ホームページや学外の進学媒体等を通じて、本学からの情報提供を希望する者及び過年度の接触者に大学案内を発送している。さらに、オープンキャンパスや進学相談会、高校でのガイダンス等においても配布を行い、本学の認知度向上を図っている。

学外非公開情報が含まれているため省略

大学案内は、高校生が気軽にページをめくることが多いため、まずビジュアルで興味を引き付け、その後内容を読み込ませる導線の工夫をしており、「大学案内 2026」はテキストをシンプルにまとめ、写真を多用して視覚に訴えるスタイルに変更している。

大学案内を本学の魅力や特色を効果的に伝えるための重要な広報ツールと位置付け、引き続き制作・配布に取り組む。

(C) 企業主催の進学相談会等への参加

学外イベントである進学相談会は、南関東を中心に東日本の受験生及び保護者と直接接触し、個別の入試に関する相談や質問対応を行っている。

学外非公開情報が含まれているため省略

進学相談会を建築・デザイン学部に興味・関心を持ってもらうための重要な機会と位置付け、オープンキャンパス等の呼び込み型学内イベントに加え、学外イベントへも積極的に参画することで本学の認知拡大を図る。

(D) 高校訪問、高校教員対象説明会、高大連携プログラムの実施

本学への入学実績がある南関東の高校を中心に、進路指導部の教員に対して本学の特色ある教育内容や入試制度を直接説明している。事務局の広報担当部署に限らず、全部署の専任職員が担当校を訪問する体制で取り組んでいる。訪問時には、本学の説明に加え、オープンキャンパスのチラシやポスターを持参し、高校生が本学を訪れる機会を増やすよう努めている。

専任職員による高校訪問数は、令和5年度は365校、令和6年度は430校、令和7年度は323校と推移している。毎年度振り返りを行い、本学への入学実績等に基づき選定した重点校を対象に訪問活動を展開しており、質的向上と関係性構築を重視した活動を推進している。訪問前には、全部署の専任職員を対象に、建築・デザイン学部の特色や学びのポイントについて全員が説明できるように研修を実施し、訪問時に一貫した情報提供が行える体制を整えている。

また、本学のキャンパスで開催している高校教員対象入試報告会では、生徒への進路指導の一助となるよう、前年度の入試結果や大学受験を取り巻く環境変化について、詳細なデータに基づき説明している。あわせて、本学の教育内容・教育方法及び入試制度の特徴説明、施設設備の見学等を実施するほか、希望する学科の教員と個別相談の場を設けることで、本学への理解を深めてもらう機会としている。

過年度実績を踏まえ、令和8年度に実施する高校訪問は、430校以上を

目標とする。

なお、本学の教育指針である「リーダーシップの共立®」の浸透と学修意欲の醸成を図るため、高大連携を推進し、高校生が本学の教育研究内容に触れる機会を広く提供している。高大連携協定を締結している連携校6校及び同法人の設置校である共立女子高等学校、共立女子第二高等学校では説明会の実施に加え、学校見学、リーダーシップ教育体験、学習成果発表会、出張模擬授業等を開催し、志願者・入学者の確保に努めている。

(E) ホームページ、SNS による情報の提供

本学ホームページには、各学部・学科のページを設けており、学科の特長や4年間の学修の流れ、卒業後の進路等を紹介している。建築・デザイン学部のオリジナルサイト「ケンデバ」では各研究室の日々の活動の様子や学生作品等の紹介をしている。

大学ホームページだけでなく、SNS の X(旧 Twitter)、Instagram、YouTube 及び LINE に本学の公式アカウントを開設し、SNS を利用した情報発信を積極的に実施している。特に Instagram においては、令和7年1月末時点で累計240投稿を行い、フォロワー数は2,891人である。また、受験生が本学での学生生活をイメージしやすいよう、在学生の広報 SNS チームを編成しており、Instagram、TikTok において、学生生活のリアルを情報発信している。令和8年度には、累計300投稿以上を目指し、フォロワー数3,000人以上を目標とする。

さらに、共立女子大学・共立女子短期大学の認知度を高めるための施策としてコンセプトムービーを発信している。令和7年1月末時点においての大学・短期大学のコンセプトムービー再生回数は約43万回、建築・デザイン学部のコンセプトムービー再生回数は約15万回である。令和8年度には、各再生回数10%以上増を目標とする。

(F) SNS・WEB サイト広告、進学情報サイト・雑誌への掲載

新高校3年生を対象に、春のオープンキャンパス時期に合わせてWEB サイト広告や SNS 広告を強化し、ターゲット層に絞った配信で潜在層の掘り起こしを図っている。また、各種進学情報サイト及び雑誌へ情報を掲載し、本学の特色やイベント実施日程等の情報を提供している。

(G) 受験生へのダイレクトメール

大学・短期大学のすべての学部・学科において、受験生への直接的なアプローチ手段として、印刷物やWEBを活用したダイレクトメールを配

信しており、大学の認知度向上やオープンキャンパス等のイベントへの来場促進に活用している。

イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標

建築・デザイン学部における広報活動は「ア 既設組織における取組とその目標」に示した広報戦略に基づく実施計画及び目標値とし、引き続き（A）～（G）の取組を実施する。

また、建築・デザイン学部の学生の学部認知から志望決定に至る情報経路を把握するため、本学建築・デザイン学部在学学生（1～3年生）に対し、アンケートを実施した（令和7年9月実施）。本アンケートにおいて、対象者326名のうち、310名からの回答（回収率95.09%）があり、アンケート調査の結果、学生の学部認知から志望決定に至る情報経路について次のように確認した。まず、本学部を最初に知るきっかけとしては「家族・親戚など」（22.58%）及び「高校の先生」（21.29%）といった信頼性の高い人的ネットワークを通じたアプローチが上位を占めており、学部認知の初期フェーズにおいて人的ネットワークは極めて重要であることが確認できた。一方、本学部への志望に結びついた主な情報収集源としては、「オープンキャンパス」「大学案内」「ホームページ」であり、認知後に最終的な進路決定を後押しするためには提供する情報の質と量が重要であると確認できる。この分析結果に基づき、今後の広報活動においては人的ネットワークを通じた認知の拡大と、情報媒体による志望決定を後押しする情報の質的強化を最重点戦略と位置づけ、「ア 既設組織における取組とその目標」に示した取組の中でも特に以下4点について注力する。

【資料17：建築・デザイン学部 在学生アンケート結果】

（A）オープンキャンパスの開催

オープンキャンパスは本学に興味をもつ高校生が来場することに加え、建築・デザイン学部の在学学生を対象としたアンケートの結果からも、本学部認知後の情報収集源として最も多く利用され、認知から志願・入学に至る検討段階において、受験生の意思決定に最も影響を与える重要な要素となっていることが確認できる。また、総合型選抜及び学校推薦型選抜において、オープンキャンパスに1回来校した受験生と比較して、2回来校した受験生の出願率は約2.5倍と高い水準にある。さらに、3回来校した者は約3.4倍、4回以上来校した者では約3.8倍に上昇する。特に2回の来校で出願率が飛躍的に向上することから、オープンキャンパスの開催日程の見直しやコンテンツの充実を図り、2回以上参加してもらうことを目標に構成するなど、オープンキャンパスへの参加が入学を決定づける重要な要素と位置付け、

戦略的に施策を展開する。

具体的には、対象学年を明示した情報提供やプログラムを展開することにより、参加者の段階的なニーズに即したイベント設計とする。「建築コース」「デザインコース」「コクリエイトコース」の3コース体制であることを提示した上で、全コースにおいて、美術の視点から「空間」「モノ」を捉える教育を実践する旨を明示し、それぞれの専門性と繋がりを正しく伝える構成とする。

オープンキャンパスでは、美術の視点による建築・デザインの教育内容について、模擬授業等の体験型プログラムを通じて、教員から詳細に説明する。加えて、在学生によるトークセッションコーナーなど、学生の生の声を直接受験生に伝える機会を設ける。教員による専門的な説明と、学生によるリアルな大学生活の両面からアプローチすることで、参加者に入学後の具体的な学修イメージを持たせ、コースへの理解を深めていく。

また、本学部への出願意欲を向上させるため、入試対策講座を強化し、学校推薦型選抜や一般選抜における具体的なアドバイスを提供することで、受験生が抱える不安を解消し、出願へと結びつける施策とする。

(B) 高校訪問、高校教員対象説明会、高大連携プログラムの実施

建築・デザイン学部の在学生を対象としたアンケートの結果より、本学部を知ったきっかけについて、「高校の先生」(21.29%)は「家族・親戚など」(22.58%)に次ぐ重要な認知経路の一つであり、かつ志願に結びついた情報源としても重視されている。高校訪問は、高校の進路指導教員に本学の様々な情報を直接的に周知できるだけでなく、継続的な活動を通じて信頼関係を構築することで、本学の設置する学部の学問分野に興味・関心を持っている生徒への情報提供や高校内での進学説明会の参画などの効果が期待される。

したがって、高校教員を通じた人的ネットワークの強化を広報の効果を最大化するための極めて重要な施策であると位置づけ、訪問時には、本学の特徴、学部・学科の具体的な学びの内容、就職・進学実績、及び進路指導に役立つ情報を、資料を用いて分かりやすく説明するとともに、高校側の課題や生徒の潜在的なニーズを伺う機会を設ける。こうした対話を通じて、単なる情報提供に留まらず、関係性構築と新たな提携事業の創出を活動の目標とし、高校との強固な協力体制の構築を推進する。

また、今後も既存の高大連携校に対しては、本学のリーダーシップ教育の体験機会の提供、出張模擬授業、ガイダンスへの参画、低学年生徒への大学見学会等を通じて連携を深化させる。さらに、新たな高大連携協定の締結に

向けた活動も積極的に推進する。

(C) 受験生へのダイレクトメール

建築・デザイン学部の在学生を対象としたアンケートの結果より、本学部を知ったきっかけについて「家族・親戚など」(22.58%)が最も高い認知経路であったため、受験生本人だけでなく受験生の家族が手に取る機会を創出する紙媒体及びWEB媒体双方でのダイレクトメールを年間計画に基づき発送する。

(D) ホームページのリニューアル

今後の戦略的な学生募集のための基盤として大学・短期大学のホームページのリニューアルを実施する。受験生が目的のページにスムーズにたどり着けるよう、サイト構造を再構成するとともに、高校生の75.4%がスマートフォンでホームページを閲覧していることから、スマートフォンでの閲覧を想定した画面デザインに変更する。また、大学案内と広報メッセージ・ビジュアルを統一することで、本学のブランドイメージを印象づける狙いがある。さらに、受験生を対象としたサイトを新設することで、入試情報から学生生活の魅力までを網羅した専用ページを構築する。これに加え、建築・デザイン学部の特設ページを新たに制作する。本ページでは、建築・デザイン学部3コースそれぞれの特色や独自の教育内容を視覚的に分かりやすく集約し、アクセスした受験生が学部の全体像と魅力を一元的に把握できる仕組みを整えることで、本学部への理解促進と志望意欲を高める。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を増加する組織での入学者の見込み数

「ア 既設組織における取組とその目標」及び「イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標」に示した通り、これまでの取組を継続しつつ、さらなる強化を図る。過去の取組の実績は入試に反映されていることから、学部開設後の令和5年度～令和7年度の入試実績に基づき、定員増加後の入学者の見込み数の分析を行った。

学外非公開情報が含まれているため省略

学外非公開情報が含まれているため省略

学外非公開情報が含まれているため省略

以上の通り、専願入試及び併願入試における入学者の見込み者数を合計すると、158 人の入学者を見込むことができ、引き続き「ア 既設組織における取組とその目標」に示した（A）～（G）の取組を実施・強化することで、定員増加後の 150 人を上回ると考えられる。

② 競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と収容定員を増加する組織との比較分析、優位性

1) 競合校の選定理由

建築・デザイン学部 of 競合校としては、併願実績、学校種、定員規模、学問分野、所在地、偏差値、取得可能な免許・資格等を総合的に勘案し、次の5大学を選定した。

大学名	学校種	入学定員	学位	所在地	偏差値 (※)	取得可能な免許・資格等			
						一級建築士	二級建築士	学芸員	インテリアプランナー
実践女子大学 環境デザイン学部 環境デザイン学科	私立/ 女子大	81	学士（環境デザイン学）	東京都日野市	45.0	○	○		○
昭和女子大学 環境デザイン学部 環境デザイン学科	私立/ 女子大	210	学士（環境デザイン）	東京都世田谷区	47.5	○	○	○	
日本女子大学 建築デザイン学部 建築デザイン学科	私立/ 女子大	100	学士（建築デザイン）	東京都文京区	52.5	○	○	○	○
武蔵野美術大学 造形学部 建築学科	私立/ 共学	72	学士（造形）	東京都小平市	47.5	○	○	○	
明星大学 デザイン学部 デザイン学科	私立/ 共学	120	学士（デザイン学）	東京都日野市	40.0				
共立女子大学 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科	私立/ 女子大	100 →150	学士（美術）	東京都千代田区	50.0	○	○	○	○

※偏差値は河合塾 2026 年度入試難易度予想より

【資料 18：競合校分析】

2) 競合校との比較分析、優位性

(ア) 教育内容と方法

建築・デザイン学部は、美術の視点から「空間」や「モノ」を捉え、創造的に提案・実践できる人材を育成している。本学部の特長は、美術の視点で建築、グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、企画デザインを捉える点にある。多角的な視点と総合的な問題解決能力を培う教育課程は、建築またはデザインのいずれかに特化した教育を行っている競合校と比較して大きな優位性を有している。

また、建築やデザインは多様な関係者が携わり協働することで初めて形を成す分野であることから、本学部では学部開設以来、価値観の異なる多様な人々と協働しながら課題発見から課題解決までを行う実践力の育成を重視してきた。具体的な教育方法として PBL を展開することで、他者と協働し、課題に対して美術的視点による解決策を提案できる人材を養成している。さらに、大学の方針として掲げる「Major in Anything. Minor in Leadership.®（主専攻は様々な専門分野、副専攻はリーダーシップ）」に基づき、「建築・デザインに関する専門性」と「他者と協働して目標達成に近づいていく能力であるリーダーシップ」を掛け合わせた教育を展開することで、専門分野で身に付けた力をリーダーシップによって正しく発揮できる人材を育成している。この本学独自の取組は他大学と比べて優位性があるといえる。

加えて、学修支援の手厚さも競合校に対する重要な優位点といえる。まず基幹教員については競合校よりも低い教員一人当たりの学生数（以下、S/T 比という）に基づいた体制を維持し、担任（アカデミック・アドバイザー）制度やオフィスアワーの設定などを通じて、履修や進路、授業外の学修について随時支援できる体制を構築している。加えて、本学部には常駐する助手には社会人経験を有している者を採用しており、履修相談や事務的なサポート、学業以外の学生生活全般にわたる支援のみならず、資格や就職相談にも対応している。さらに、教職員間で面談記録や正課外活動状況を学修ポートフォリオに集約・共有することで、組織的かつ継続的な支援を実現している。

(イ) 入試方式等

・入試方式

建築・デザイン学部では、一般選抜（全学統一方式、2 月前期 A 日程（個別学力試験方式、外部英語検定利用方式）、2 月前期 B 日程（個別

学力試験方式、外部英語検定利用方式)、2月後期日程)、大学入学共通テスト利用選抜(基準点型、2月日程)、大学入試共通テスト併用選抜、総合型選抜(共立リーダーシップ方式、基礎力判定方式)、学校推薦型選抜(公募制推薦、指定校制推薦、卒業生子女推薦)、特別選抜(海外帰国子女特別選抜、社会人特別選抜、児童養護施設等出身者特別選抜、外国人特別選抜)といった多様な入試方式を設けている。

これにより、受験生は自らの能力や適性、志向に応じた試験を選択でき、受験機会を広げることができる。また、多様な選抜方式を採用することで、多面的な力をもつ学生の受入れが可能となる。さらに、社会人や児童養護施設等の入所者または出身者を対象とした選抜を設けることで、幅広い背景をもつ受験生に門戸を開き、多様な価値観を共有できる教育環境を形成している。

・入試手続き時期

他大学入試要項をもとに入試手続き時期を比較した結果、優劣はない状況である。

(ウ) 学納金・奨学金

競合校の初年度納付金は1,488,000～1,928,000円、平均は1,641,254円であるのに対し、本学は1,470,000円と最も低廉であり、学生の経済的負担を考慮した競争優位性のある金額を設定している。

【資料 19：競合校学生納付金】

奨学金では、本学を含め、競合校のすべての大学が高等教育修学支援新制度の対象機関である。大学独自の奨学金制度については、各大学が制度を設けているが、本学の特長的な制度として、事務局内での労働の対価として奨学金が給付される「実務体験奨学金」制度がある。また、独立行政法人日本学生支援機構の貸与奨学金利用者 50 名を対象に、1 回 10 万円を給付する奨学金制度を設けている点は学生の経済的負担を軽減する本学の優位性といえる。

さらに、学生の経済的な負担を軽減し、勉学に打ち込めるよう、一般選抜全学統一方式の成績優秀者 50 名を対象に、「スカラシップ奨学生制度」を導入しており、最大 4 年間年間授業料を免除している。

また、建築・都市環境等、住まいに関する分野を専攻する学生(3・4 年生)に奨学金を給付している「セレ奨学財団」より、全国の 23 大学が選定されている奨学生指定校枠を有している。これは本学部の主要な競合校の中では唯一の指定となっており、採用された学生には月 5

万円、年間 60 万円給付される。

(エ) 取得資格

建築・デザイン学部では一級建築士（受験資格）、二級建築士（受験資格）、学芸員、インテリアプランナー（実務経験 2 年免除）を取得できる。

中学校教諭一種免許状（家庭）、高等学校教諭一種免許状（家庭）、1 級衣料管理士といった免許資格取得を可能としている大学もあるが、本学部の取得資格は建築系、デザイン系分野の主要資格を過不足なくラインナップしていることから、学生募集にあたって不利になることはないと考える。

(オ) キャリア支援

ホームページ掲載内容をもとにキャリア支援体制を比較した結果、競合校においては、キャリアセンターやキャリア支援課といったキャリア支援／進路支援の専門部署を設置し、キャリアカウンセラーや職員による個別面談、履歴書やエントリーシートの添削、各種就職支援講座や学内企業説明会等、多岐にわたる支援を行っていることが確認できた。

本学においてもキャリアセンターを設置し、他大学同様にキャリアカウンセラーによる個別面談、書類の添削、ガイダンスやプログラムの実施等の支援を行っており、競合校と遜色のないキャリア支援体制を構築している。それらに加えて、学生一人ひとりに最適なサポートを提供する独自の取組として、早期からのキャリア教育冊子による支援や、進路未決定者へのきめ細やかなアプローチと保護者支援等、多様な支援を展開している。特に、「キャリアから考える教養教育科目の選び方」冊子を活用し、学部とキャリアセンターが一体となって、学生の早期からの自律的な進路選択を促している。また、こうした大学全体でのキャリア意識の醸成に加え、建築・デザイン学部では外部機関との連携による業界全体の企業説明会への参加案内や、卒業生を招いた就活セミナー等を実施することで、学生の進路選択の幅を広げる機会を整えている。

また、個々の状況に応じた支援を行うにあたり、中心的な支援制度として、担任（アカデミック・アドバイザー）制度を設けており、担任が助手や職員と連携し、入学時から一人ひとりに寄り添ったきめ細やか

な支援を行っている。すべての学生との定期的な個別面談を通じて履修状況や進路状況を把握したうえでアドバイスをを行っている。なお、指導の質の向上のため「担任（アカデミック・アドバイザー）による学生指導・相談ガイドライン」や「教職員のための学生対応ハンドブック」を作成し、担任（アカデミック・アドバイザー）としての役割や面談方法を共有している。

なお、ガイダンス・プログラムの参加状況や個別面談内容は、学修ポートフォリオに集約し、組織的なキャリア支援に活用することで、きめ細やかな支援を実現している。

このような手厚い学生支援は卒業時満足度 90%以上、進路満足度 93%という極めて高い数値に示されている。特に、担任（アカデミック・アドバイザー）制度の充実により高い満足度を担保している点は、令和 6 年度に受審した公益財団法人大学基準協会の認証評価においても高く評価された。

さらに、令和 7 年度から経済同友会に加盟したことで、より多様なインターンシップ機会を学生に提供できるようになった。条件を満たせば単位認定の申請もできるため、低年次から実践的なキャリア形成を手厚く支援している。

（カ）教員組織

令和 7 年度時点の建築・デザイン学部の教員組織は、基幹教員 12 名（教授 7 名、准教授 3 名、助教 2 名）、助手 8 名で編成している。これは収容定員変更前の収容定員 400 人に対する大学設置基準の定める基幹教員数 10 人（うち教授 5 人）を上回る体制である。収容定員変更を行う令和 9 年度には、基幹教員 18 名（教授 7 名、准教授 3 名、講師 5 名、助教 3 名）、助手 12 名とする予定であり、定員変更前から基幹教員 6 人、助手 4 人の計 10 人を増員する。この体制は、収容定員変更後の 600 人に対する大学設置基準に定める基幹教員数 12 人（うち教授 6 人）を十分に上回る教員組織である。

S/T 比については、収容定員に対して 33.3 人、入学定員に対して 8.3 人となり、従前と同様の手厚い指導体制を維持する。本学において、講師以上の基幹教員が担任（アカデミック・アドバイザー）として学生を受け持つ多層的な履修指導体制は、令和 6 年度の公益財団法人大学基準協会による認証評価においても、教学から学生支援全般にわたって高い効果を上げているものとして高く評価されている。

【表 1】に示す通り、競合校 5 大学の教員一人当たりの学生数の平均

は約 35.0 人であった。一方、本学の S/T 比はそれに比べ約 2 人少なく、競合校と比較しても、よりきめ細やかな指導が可能であることから、教育の質保証の面において競合校に対する明確な優位性を有しているといえる。

【表 1：競合校及び本学の教員一人当たりの学生数の比較表】

大学名	学部・学科名	教員一人当たりの学生数 (人)
実践女子大学	環境デザイン学部環境デザイン学科	32.4
昭和女子大学	環境デザイン学部環境デザイン学科	35.0
日本女子大学	建築デザイン学部建築デザイン学科	36.4
武蔵野美術大学	造形学部建築学科	34.3
明星大学	デザイン学部デザイン学科	36.8
競合校の平均		35.0
共立女子大学	建築・デザイン学部建築・デザイン学科	33.3

※出典：各大学ホームページ（令和 7 年度公表データより算出）

（キ）立地

建築・デザイン学部が所在する神田一ツ橋キャンパスは、東京都千代田区に位置し、東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄三田線・新宿線の神保町駅から徒歩 1 分という、交通の便に優れた立地である。3 駅（神保町、九段下、竹橋）4 路線（東京メトロ半蔵門線・東西線、都営地下鉄三田線・新宿線）からアクセスできるため、都内だけでなく、関東圏からの通学も容易である。キャンパス周辺には、歴史的建造物や最新の建築技術を駆使した建物、話題のアートやデザインを紹介する美術館、ギャラリー、ショップなどが数多くあるため、生きた教材に触れる機会が豊富にあり、さらに、世界最大規模の古書店街に隣接し学生が落ち着いた雰囲気の中で専門書を探ることのできる環境にあることも競合校と比較して極めて優位な立地条件である。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校の過去 3 年間（令和 4 年度～令和 6 年度）の一般選抜志願状況を各大学ホームページ等で調査した。令和 7 年度の一般選抜志願状況に関するデータは未公表であったため、入学者数のみを調査対象とした。なお、改組が行われた大学については、改組前の学部学科のデータも含んでいる。本学の建築・デザイン学部については、令和 4 年度のデータは改組前の家政学部建築・

デザイン学科の入学志願者数を示している。同様に、実践女子大学環境デザイン学部は令和 7 年度に開設されたため、それ以前のデータは改組前の生活科学部生活環境学科のものである。また、日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科は令和 6 年度に開設されたため、令和 5 年度までのデータは家政学部住居学科のものである。

令和 6 年度における一般選抜の実質倍率は 4.76 倍、令和 5 年度は 6.87 倍と競合校の中で最も高く、改組前の家政学部建築・デザイン学科の際の令和 4 年度は日本女子大学に次ぐ 2 番目で、3.08 倍となっており、競合校と比較して高い倍率を維持している。

本学を含め、競合校すべての大学において、過去 4 年間（令和 4 年度～令和 7 年度）の平均入学定員充足率は 1.00 を上回っており、安定して学生を確保しているといえる。

いずれの大学においても安定した入学定員充足率となっており、特に本学は志願倍率が十分に高く、かつ、前述した本学の競合校との優位性を考慮すると収容定員を増加する令和 9 年度以降も定員充足が可能であると考える。

【資料 20：競合校一般選抜志願動向及び入学状況】

ウ 収容定員を増加する組織において定員を充足できる根拠等

前述した通り、本学部は美術の視点から建築やデザインを捉えるという教育課程や教育研究の幅広さ等の特色に加え、教員組織、学納金、キャリア支援体制、立地等の明確な優位性を有している。事実、志願倍率の高さや前身の家政学部建築・デザイン学科を含めた直近 4 年間の入学定員充足率が継続して 1.00 を超えていることから、学生募集の状況は極めて堅調に推移しているといえる。

なお、競合校においても定員を充足している状況にあり、デザイン及び建築分野に対する志望度の高さがうかがえる。参考までに、各学部の改組前の組織まで遡って確認すると、実践女子大学の環境デザイン学部の前身である生活科学部生活環境学科において、令和 6 年度に入学定員充足率 0.85 であったが、令和 7 年度に新設された同大学の環境デザイン学部では、初年度から入学定員充足率 1.40 と大幅に定員を上回る学生を確保している。当該分野に対する受験生の志向は極めて高いことが裏付けられている。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

建築・デザイン学部の学生納付金は、入学金 150,000 円、授業料 850,000 円、施設設備 410,000 円、実験実習費 60,000 円と設定している。

本学部が養成する人材像として掲げる「幅広い教養と建築・デザインの専門

に係る知識・技能を身に付け、人が生きていくために必要な場を構成している「空間」や「モノ」などを総合的に捉え、創造的に提案・実践できる人材を育成する」ことの実現、また教育内容・教育環境の整備・充実や大学経営に係る財務的な視点を踏まえつつ、既設学部 of 学生納付金とのバランス、同系統学部を設置している競合大学の学生納付金の設定状況、学生の経済的負担等も勘案したうえで設定した。

【資料 19：競合校学生納付金】

③ 先行事例分析

本計画は、既設組織を廃止して新設組織を設置する計画ではないため、説明を省略する。

④ 学生確保に関するアンケート調査

ア 高校生アンケート調査による分析

この度の収容定員増加は建築・デザイン学部のこれまでの志願状況などを踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものと考えているが、定量的な数値を確認することを目的として、高校生アンケート調査を実施した。アンケートの実施については信頼性を担保する観点から外部業者（株式会社進研アド）に委託して実施した。その概要は以下の通りである。

【資料 21：共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」入学定員の増員に関するニーズ調査【高校生対象調査】結果報告書】

	調査①	調査②
調査目的	令和 9 年 4 月の共立女子大学「建築・デザイン学部」の入学定員の増員に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。	
調査対象	共立女子大学の主たる学生募集エリアと想定される一都四県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県）の高校 102 校に在籍する令和 9 年 3 月卒業予定の女子。	共立女子大学オープンキャンパスの建築・デザイン学部のコンテンツ参加者及び進学相談会の建築・デザイン学部志望の参加者のうち、令和 9 年 3 月卒業予定の女子。
調査方法	調査実施の了承が得られた高校に対しアンケート用紙及び建築・デザイン学部リーフレットを送付し、各校の教職員の監督のもと、高校において実施。 【資料 22：高校留め置き調査依頼対象校一覧】	参加者にアンケート用紙及び建築・デザイン学部リーフレットを配付し、本学教職員の監督のもと、各会場において実施。
調査時期	令和 7 年 3 月～令和 7 年 11 月	
調査内容	選択肢式の全 7 問。 回答者の基本情報（性別、学年、高校名、高校の所在地、所属クラス）、希望進路、志望する大学等の設置者、興味のある学問分野、建築・デザイン学部の魅力に感じる特色、共立女子大学建築・デザイン学部への受験・入学意向等。	
回収数（※1）	8, 073（85 校）	243
集計対象数（※2）	7, 397	

※1「回収数」は、性別「女性」を選択したもの、且つ、重複回答を排除する前の数値
 ※2「集計対象数」は、同内容のアンケートに回答したかを確認する設問を設け、「同じアンケートに回答したことはない」を回答した者のみの数値。よって、調査において回答者の重複はない。

調査にあたっては、調査票とあわせて、学部学科の名称、設置の理念、養成する人材像、アドミッション・ポリシー、学びの特色、取得できる資格、初年度納入金、類似する大学・学部学科、交通アクセス等を明示した建築・デザイン学部リーフレットを配付し、実施した。

【資料 23：共立女子大学建築・デザイン学部リーフレット】

1) 高校生アンケート調査による分析①

＜興味のある学問分野で、「美術」、「デザイン」、「その他の芸術（建築、環境計画学など）」、「住居学」、「土木建築学」、「工芸学」のいずれかを選択した者を集計＞

調査の結果、「卒業後の進路（大学）×設置者（私立）×興味のある学問分野（本学部が対象となる学問分野）×受験希望（本学部を第一志望で受験する）×入学希望（合格した場合に入学する）」のクロス集計の回答者は 223 人であった。これは定員変更後の入学定員 150 人の 148.7%の数となっており、入学定員を上回る入学意向者の存在が確認できた。

【図 1：クロス集計の実施過程】

回答者数 (合計)	Q1 卒業後の進路	Q2 進学希望の 大学設置者	Q3 興味のある 学問分野	Q5 収容定員を増加する 組織の受験希望有無	Q6 合格した場合の 入学希望有無
	うち、	うち、	うち、	うち、	うち、
7,397名	①大学に進学 6,962名 (94.1%)	①私立 6,269名 (84.8%)	「美術」「デザイン」「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」「住居学」「土木建築学」「工芸学」を選択 2,113名 (28.6%) ※収容定員を増加する組織に該当する学問分野のいずれかを選択した者のみ記載	①第一志望として受験する 234名 (3.2%)	①入学する 223名 (3.0%)
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 7名 (0.1%)
					③入学しない 4名 (0.1%)
				②第二志望として受験する 101名 (1.4%)	①入学する 21名 (0.3%)
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 80名 (1.1%)
					③入学しない 0名 (0.0%)
				③第三志望以降として受験する 322名 (4.4%)	①入学する 5名 (0.1%)
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 270名 (3.8%)
					③入学しない 30名 (0.4%)
				④受験しない	

クロス集計の結果：入学見込者 223名

- ・ %の母数は、回答者全体(7,397)
- ・ 「入学見込者」＝Q1で「大学」、Q2で「私立」、Q3で収容定員を増加する組織に該当する学問分野のいずれかを選択、Q5で「第一志望で受験する」、Q6で「入学する」と回答した人

さらに、今般のアンケートにおいて入学意向を示した数に対して、過年度入試の受験率、合格率、歩留率の実績を乗じることで、より実際に近い入学意向者数を確認する。具体的には、調査①と調査②を合わせた集計対象数（7,397件）のうち、以下a～cの条件すべてに合致する回答者（2,113人）を建築・デザイン学部のターゲット層と定義して分析を行う。

- a. 【Q1】卒業後の進路として「大学」を選択
- b. 【Q2】志望する大学等の設置者として「私立」を選択
- c. 【Q3】高校卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野として、「1.美術」「2.デザイン」「4.その他の芸術（建築学、環境計画学など）」「5.住居学」「10.土木建築学」「11.工芸学」のいずれかを選択

【表2：ターゲット層における本学部に対する受験意向及び入学意向】

受験意向（※1） 入学意向（※2）	第一志望として受験	第二志望として受験	第三志望以降として受験	受験しない
入学する	223人	21人	5人	1,499人
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	7人	80人	278人	
入学しない				

※1 【Q5】共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の受験意向に関する設問の回答結果

※2 【Q6】共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の入学意向に関する設問の回答結果

学外非公開情報が含まれているため省略

学外非公開情報が含まれているため省略

以上を合計すると、建築・デザイン学部への入学者は 189 人（154 人+35 人）の見込みとなり、入学定員 150 人を上回る結果となった。

このことから、高校生へのアンケート調査結果のクロス集計だけでなく、アンケート調査結果を基とした分析結果からも入学定員を十分に確保できるといえる。

また、同アンケートにおいて建築・デザイン学部の特色に対する魅力度を調査したところ、ターゲット層のうち「第一志望で受験し入学する」と回答した層において、魅力度は全項目で 95%を超えている。この結果は、本学が推進するリーダーシップ教育や、美術の視点に基づく建築・デザインの専門教育が、入学意欲の高い層のニーズに合致し、十分に浸透していることを裏付けるものである。このように、本学の学びに魅力を感じる高校生も多いことから、入学定員 150 人の充足は十分に可能であると考ええる。

2) 高校生アンケート調査による分析②

<興味のある学問分野で、芸術の「美術」「デザイン」「その他の芸術（建築、環境計画学など）」のいずれかを選択した者に限定して集計>

本学部が研究対象とする中心的な学問分野は「学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成 15 年文部科学省告示第 39 号）」で規定するところの「美術関係」であり、学校基本調査の学科系統分類表の大分類「芸術」に該当する。

今回、本学で高校生アンケートの回答データをより詳細に分析した結果、「卒業後の進路として大学を選択」し、かつ「志望校の設置者として私立を選択」した者のうち、「興味のある学問分野」として、「芸術」に限定して「1.

美術」「2.デザイン」「4.その他の芸術（建築学、環境計画学など）」を選択した者は1,949人であり、このうち「受験希望（本学部を第一志望で受験する）」および「入学希望（合格した場合に入学する）」と回答した者は212人であった。これは定員変更後の入学定員150人の141.3%に相当し、入学定員を上回る入学意向者が存在することが明らかとなった。

さらに、過年度入試の受験率、合格率、歩留率を乗じ、より実際に近い入学意向者を確認する。

【表3：芸術（「美術」「デザイン」「その他の芸術（建築学、環境計画学など）」を選択した者の本学部に対する受験意向及び入学意向】

受験意向（※1） 入学意向（※2）	第一志望として受験	第二志望として受験	第三志望以降として受験	受験しない
	212人	20人	5人	1,378人
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	7人	73人	254人	
入学しない				

※1 【Q5】共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の受験意向に関する設問の回答結果

※2 【Q6】共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の入学意向に関する設問の回答結果

学外非公開情報が含まれているため省略

学外非公開情報が含まれているため省略

以上を合計すると、「興味のある学問分野」の設問で「1. 美術」「2. デザイン」「4. その他の芸術（建築学、環境計画学など）」を選択した者に限定しても、建築・デザイン学部への入学者は 178 人（146 人+32 人）の見込みとなり、入学定員 150 人を上回る結果となった。

このことから、高校生へのアンケート調査結果のクロス集計だけでなく、アンケート調査結果を基としたさらなる分析結果からも入学定員を十分に確保できるといえる。

イ 建築・デザイン学部在学生アンケート調査による分析

高校生アンケート調査の結果と比較分析するため、本学建築・デザイン学部在学生（1～3 年生）に対し、第一志望校の決定時期と受験時の志望度について、アンケートを実施した（令和 7 年 9 月下旬実施）。本アンケートにおいて、対象者 326 名のうち、310 名からの回答（回収率 95.09%）があった。

在学生に実施したアンケートによると、第一志望大学の決定時期は「高校 2 年生の冬以降」が 81.61%を占めた。本学部の志望度は第一志望だったと回答した学生は 310 名中 238 名（76.77%）、第二志望が 35 名（11.29%）、第三志望が 6 名（1.94%）、第四志望以下 31 名（10.00%）（うち 1 名未回答）であった。さらに、「本学建築・デザイン学部の志望度」と「第一志望校の決定時期」をクロス集計すると、本学部を第一志望と決定した時期は「高校 2 年生の冬以降」が 83.19%となっている。今般の高校生アンケートの実施時期が「高校 2 年生の春～秋」にかけてであったことから、今後の広報活動・学生募集活動によって、第一志望の進学意向者数は高校生アンケートで得た進学意向者数よりも増加することが想定できる。

このように、実際の在学生の第一志望校の決定時期、志望度と高校生アンケート結果との比較分析結果からも、入学定員 150 人の充足は可能であると考える。

【資料 17：建築・デザイン学部 在学生アンケート結果】

ウ 過年度の入学志願実績による分析

アンケート結果からも本学へのニーズは確認できるが、入学志願実績からも学生を安定的に確保できることを読み取ることができる。建築・デザイン学部は令和 5 年度に開設したが、前身である家政学部建築・デザイン学科からの志願倍率（延べ志願者数/入学定員）は以下の【表 4】に示す通り、5 年連続で 4 倍を上回っている。特に、建築・デザイン学部開設以降の 3 年間の平均値は 6.17 倍と高水準で推移しており、高い競争率を維持していることから、受験生の高いニーズがあるといえる。また、入学定員充足率は 5 年間すべてで 1.00 を上回っており、学生確保に安定度と余裕度がある。

【表 4：志願倍率、入学定員充足率及び歩留率の推移（令和 3 年度～令和 7 年度）】

	年度	志願倍率	入学定員 充足率	歩留率
家政学部 建築・デザイン学科	令和 3 年度	5.22	1.18	0.56
	令和 4 年度	4.58	1.18	0.60
建築・デザイン学部 建築・デザイン学科	令和 5 年度	7.77	1.08	0.62
	令和 6 年度	6.34	1.12	0.60
	令和 7 年度	4.39	1.01	0.64
5 年間平均（令和 3 年度～令和 7 年度）		5.66	1.11	0.60
3 年間平均（令和 5 年度～令和 7 年度）		6.17	1.07	0.62

さらに、【表 5】に示す通り、歩留率（入学者数/合格者数）は前身である家政学部建築・デザイン学科を含めても、過去 5 年間すべてにおいて学内で最も高く、平均値は 0.60 であり、建築・デザイン学部開設以降の平均値は 0.62 に上昇している。このことから、建築・デザイン学部の志望度の高さを読み取ることができる。

【表 5：他学科の歩留率の推移（令和 3 年度～令和 7 年度）】

入学年度	家政学部				文芸学部	国際学部	看護学部	ビジネス学部	建築・デザイン学部	全体平均
	被服学科	食物栄養学科 食物学専攻	食物栄養学科 管理栄養士専攻	児童学科						
令和 3 年度	0.43	0.31	0.41	0.37	0.44	0.37	0.37	0.41	0.56	0.41
令和 4 年度	0.47	0.39	0.56	0.46	0.39	0.34	0.41	0.44	0.60	0.45
令和 5 年度	0.49	0.26	0.56	0.50	0.38	0.33	0.40	0.43	0.62	0.44
令和 6 年度	0.46	0.31	0.48	0.43	0.40	0.31	0.40	0.40	0.60	0.42
令和 7 年度	0.55	0.26	0.44	0.43	0.44	0.35	0.41	0.44	0.64	0.44
5 年間 平均 (令和 3 年度～令和 7 年度)	0.48	0.31	0.49	0.44	0.41	0.34	0.40	0.42	0.60	0.43

※建築・デザイン学部の令和 3 年度・令和 4 年度は家政学部建築・デザイン学科である。

建築・デザイン学部開設後の 3 年間平均 0.62

加えて、本学の建築・デザイン学部の年内入試における入学者の割合は、令和 5 年度 77.8%、令和 6 年度 75.9%、令和 7 年度 69.3%と高い水準を維持しており、これは本学の教育内容や魅力に対する早期からの訴求力を裏付けている。

以上より、アンケート結果及び分析に加え、志願倍率や入学定員充足率、歩留率の実績が高いことから、収容定員変更後の入学定員を充足できる見込みが十分にあると考えられる。

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

ア 人材需要に関するアンケート調査による分析

建築・デザイン学部の卒業生のニーズを客観的に捉えるため、これまでの就職実績や本学へ求人が寄せられた企業を対象に人材需要の見通し調査を第三者機関に依頼し、アンケート調査を実施した。調査結果の概要は以下の通りである。

【資料 24：共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」入学定員の増員に関するニーズ調査【企業対象調査】結果報告書】

調査目的	令和 9 年 4 月の共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」入学定員の増員に関して、企業からの採用ニーズを把握する。
調査対象	建築・デザイン学部建築・デザイン学科の前身である家政学部 建築・デザイン学科の就職先及び本学へ求人が寄せられた全国の建築系・デザイン系の 1,000 企業に調査を依頼した。
調査時期	令和 7 年 6 月～令和 7 年 7 月
調査方法	調査対象の企業に対して建築・デザイン学部のリーフレット及びアンケートを送付し、回答を依頼することにより実施した。
調査内容	選択肢選択式の全 8 問。 回答元の基本情報（所在地、業種、従業員数）、共立女子大学建築・デザイン学部の卒業生に対する採用意向等。
回収件数	275 企業（回収率 27.5%）
調査委託会社	株式会社進研アド

・採用したい学問系統

回答企業の採用したい学問系統は、「芸術学（美術、建築学、デザイン学含む）」が 41.1%と最も高く、次いで「工学」が 31.6%、「経済・経営・商学」が 20.4%と高かった。これは、本学の建築・デザイン学部が輩出する人材の専門性が、回答企業のニーズと合致していることを示しており、本調査は本学の卒業生の人材需要を測るうえで、妥当性が高いといえる。

・社会的必要性

建築・デザイン学部の特色、養成する人材像等を明示し、本学部の社会的必要性をたずねたところ、275 企業中 99.3%にあたる 273 企業が「必要だと思う」と回答しており、本学部の養成する人材が確かな需要として評価を得ていることがわかる。

・採用意向

本学部卒業生に対する採用意向については、275 企業中 96.7%にあたる 266 企業が本学部の卒業生を「採用したいと思う」と回答した。さらに、それらの企業に対し、本学部卒業生の単年度の採用人数を聞いたところ、合計 757 人の採用意向が確認でき、本学部の定員 150 人の 5 倍を上回る結果となった。

イ 家政学部建築・デザイン学科の進路実績とキャリア支援/進路支援

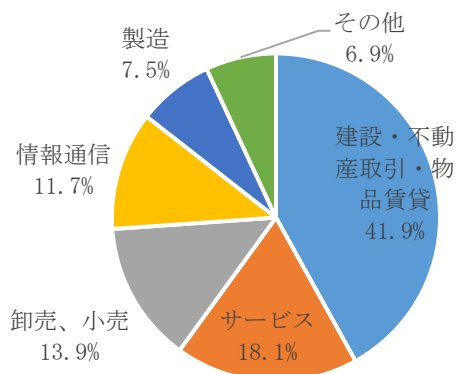
【表 6】に示す通り、建築・デザイン学部建築・デザイン学科の前身である家政学部建築・デザイン学科の過去 4 年間の求職者に対する平均就職率は 94.7%であり、令和 5 年度には就職率 100%を達成した。このことから、近年の卒業生の就職状況は安定しているといえる。

【表 6】家政学部建築・デザイン学科の就職率（令和 3 年度～令和 6 年度）

卒業年度	卒業生数	求職者数	求職率	就職者数	就職率
	a	b	b/a	c	c/d
令和 3 年度	87	82	94.3%	73	89.0%
令和 4 年度	83	80	96.4%	75	93.8%
令和 5 年度	105	98	93.3%	98	100.0%
令和 6 年度	123	118	95.9%	114	96.6%
平均	100	95	95.0%	90	94.7%

なお、【図 2】に示す通り、過去 4 年間の就職先の業種の平均を見ると、建設・不動産取引・物品賃貸業に就職する学生が 41.9%、サービス業が 18.1%、卸売・小売が 13.9%となっており、美術の観点から「空間」や「モノ」を包括的に捉え、創造的に提案・実践できる人材を幅広い分野に輩出し続けてきたことがわかる。

【図 2】家政学部建築・デザイン学科卒業生の就職先（令和 3 年度～令和 6 年度）



このように社会のニーズに応える進路実績を踏まえ、現在展開している体系的なキャリア支援/進路支援として以下の取組を継続し、一層充実させていく。

本学の学生へのキャリア支援/進路支援については、キャリアセンターに専任職員とキャリアカウンセラーの資格を有した専門職員が常駐し、学生一人ひとりに対して適切な支援を行う体制を整えている。特に、キャリアカウンセラーを中心とした個別相談に注力している点は本学の特長であり、個別相談や面接練習に集中できる面接練習室も完備している。

また、担任（アカデミック・アドバイザー）制度を設けており、担任が助手や職員と連携し、入学時から一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を展開している。すべての学生との定期的な面談を通じて履修状況や進路状況を把握しており、指導の質の向上のため「担任（アカデミック・アドバイザー）による学生指導・相談ガイドライン」や「教職員のための学生対応ブック」を作成し、役割や面談方法を共有している。

これらの支援体制のもと、学生が早い段階から主体的にキャリアを考える機会を提供し、自律的な進路選択を促している。具体的には、「キャリアから考える教養教育科目の選び方」冊子を活用し、学部とキャリアセンターが一体となって早期のキャリア意識の醸成を図っている。こうした意識付けに加え、個々の状況に応じた実践的な支援として、多様なガイダンス・プログラムを展開している。このような大学全体でのキャリア意識の醸成に加え、建築・デザイン学部では外部機関との連携による業界全体の企業説明会への参加案内や、卒業生を招いた就活セミナー等を実施することで、学生が幅広い進路選択をできるように支援している。

さらに、デジタルを活用した支援も充実しており、求人票や就職活動報告書（先輩学生の経験情報）等の各種情報の閲覧やキャリアカウンセラーとの個別相談の予約等ができるシステム「kyoritsu 就活」を導入している。これにより、学生は時間や場所に縛られることなく、必要なデータやシステムにアクセスすることが可能である。また、学内には企業・公務員資料、就職関連書籍・雑誌、学生閲覧用 PC を設置しており、学生が自由に利用できるようにしている。なお、個別相談内容やガイダンス・プログラムの参加状況は、学修ポートフォリオに集約し、組織的なキャリア支援/進路支援に活用することで、きめ細やかな支援を実現している。

そして、令和7年度から経済同友会に加盟したことで、より多様なインターンシップの機会を学生に提供できるようになった。条件を満たせば単位認定の申請もできるため、低年次から実践的なキャリア形成を手厚く支援している。

このようなきめ細やかな学生支援は、進路満足度 93%という極めて高い数値に示されており、特に、担任（アカデミック・アドバイザー）制度の充実によ

り高い満足度を担保している点は、令和6年度に受審した公益財団法人大学基準協会の認証評価においても高く評価された。

以上のように、企業へのアンケート調査で定員変更後の人数を大幅に上回る採用意向が確認できたこと、過去の安定した就職実績があること、そしてきめ細やかで手厚い学生個別のキャリア支援/進路支援体制が整っていることから、定員増加後も卒業後の進路に十分な見通しがあると考ええる。

学外非公開情報が含まれているため省略

学外非公開情報が含まれているため省略

学外非公開情報が含まれているため省略

(4) 収容定員を増加する組織の定員設定の理由

(1) ～ (3) の分析を踏まえて、また、以下に示す通り、社会的需要や定員充足の見込み、さらに定員増加後の教育研究の質を確実に担保するための人的資源、物的資源および財務資源の整備計画に基づき、建築・デザイン学部の入学定員は 50 人増の 150 人に設定した。

経済産業省・特許庁の「「デザイン経営」宣言」や内閣府の「新たなクールジャパン戦略」が示すように、デザインは企業競争力向上や社会課題解決に不可欠な戦略的要素として捉えられるようになり、幅広い分野においてデザイン人材の需要は高まりをみせている。また、建設投資が堅調であるにもかかわらず、建設業就業者や一級建築士の人手不足・高齢化が深刻化していること、女性技術者の就業数が他産業と比べて低いことから、建設産業の深刻な人材不足がうかがえる。

このようなデザイン人材の需要及び建設産業からの人材需要に応えるため、本学部では「美術関係」を学位の分野とし、学部開設以来、一貫して美術の視点から「空間」や「モノ」を創造的に提案・実践できる人材を養成してきた。本学の美術の視点から建築やデザインを捉えた教育体制は、東京藝術大学や私立の美術系大学における専門学部に限られ、本学のような複合分野を有する総合大学においては類を見ない希少性を有している。なお、建築・デザイン学部は美術の視点から建築・デザインを包括的に捉えつつ、その専門性を高めるため、「建築コース」「デザインコース」「クリエイティブコース」の 3 コースを編成し、体系的かつ階梯的な教育を展開する。また、建築やデザインは複数の人間が携わり協働することで初めて形を成す分野であることから、本学部ではチームでの企画・制作やグループ研究等を通して、他者と協働し、課題に対して美術的視点による解決策を提案できる人材を養成してきた。これは「知の総和答申」が掲げる多様な人々との協働による課題解決を具現化するものとなっている。

本学が養成する美術の視点から「空間」や「モノ」を捉え、創造的に提案・実践できる人材が、社会からの需要に合致していることは、人材需要に関するアンケート調査における採用意向の高さ（96.7%、266 企業/275 企業）や本学部の前身である家政学部建築・デザイン学科の就職実績の高さ（過去 4 年間の平均就職率 94.7%）からも確認できる。

また、全国的な 18 歳人口の減少傾向に対し、本学部の主な学生募集地域である南関東は全国の中で最も減少率が低く、特に本学所在地の東京都は最も緩やかな減少に留まるという地域的優位性を持つ。さらに、女子の大学進学率は継続的に上昇しており、東京都の女子の令和 5 年大学進学率は全国最高の 77%となっている。なお、本学部を含めた競合校の芸術系学部においても過去 4 年間の平均入学定員充足率は 1.00 を上回っており、デザイン及び建築分野に対する志望度の高さがうかがえる。

さらに、本学部の安定的な学生確保については、高校 2 年生女子を対象としたアンケート調査によって裏付けられている。具体的には、「卒業後の進路（大学）×設置者（私

立) ×興味のある学問分野(本学部が対象となる学問分野) ×受験希望(本学部を第一志望で受験する) ×入学希望(合格した場合に入学する)」のクロス集計の回答者は 223 人であった。これは定員変更後の入学定員 150 人の 148.7%の数となっており、入学定員を上回る入学意向者の存在が確認できた。

学外非公開情報が含まれているため省略

以上より、入学定員を十分に確保できる見込みがあるといえる。それに加え、建築・デザイン学部の実績(過去3年間の平均志願倍率 6.17、平均定員充足率 1.07、平均歩留率 0.62)を踏まえると、増員後も十分に定員充足を見込める。

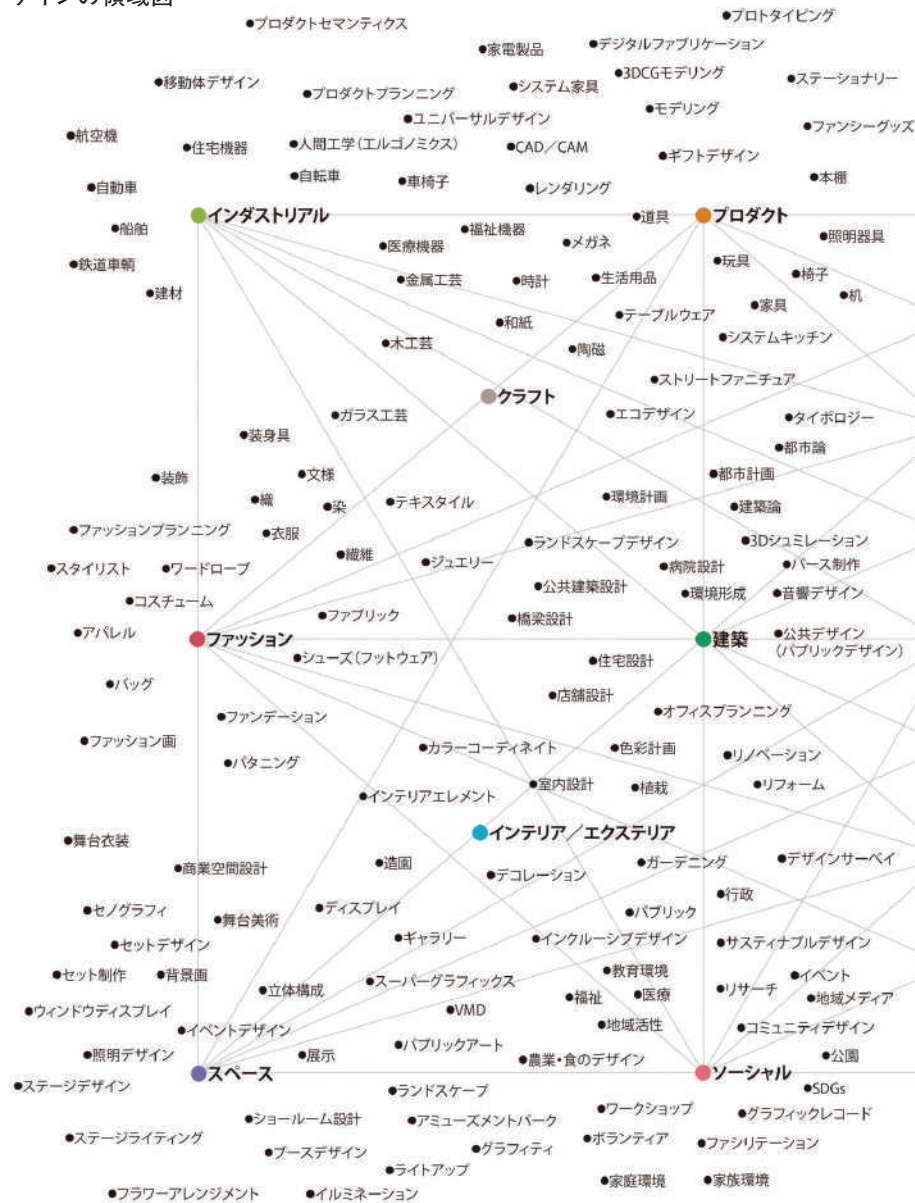
また、定員増加に際しては、人的・物的・財政的な教育環境を一体的に整備することで、教育研究の質を確実に担保する。具体的には、定員変更前から基幹教員 6 人、助手 4 人の計 10 人を増員し、S/T 比は競合校平均を上回る手厚い水準で維持する。特に、令和 6 年度の認証評価で高く評価された「担任(アカデミック・アドバイザー)制度」や「現代社会に求められる「リーダーシップ」を身につけた人材の養成」を維持・向上させるとともに、助手による充実した学修支援体制及び個別のキャリア支援を継続することで、学生一人ひとりに対するきめ細やかな指導体制をさらに強固にする。また、これらの教育活動を支える物的環境については、大学設置基準を満たす既存の校地・校舎面積に加え、学部専用の演習室の増加や教員増員分の個人研究室を新たに整備する。加えて、入学定員の 1.5 倍増に合わせて、学部予算も 1.5 倍へと拡充することで財政的基盤も強化し、美術の視点から「空間」や「モノ」を捉え、創造的に企画・提案・実践できる人材を安定的に社会に輩出するための体制を構築する。

以上の通り、今般の定員変更は、拡大するデザイン人材の需要や建設業界の人材需要等の社会的需要と本学に対する高い入学意向による定員充足の見込み、及び、認証評価で高い評価を得た担任(アカデミック・アドバイザー)制度やリーダーシップ教育、組織的な学修支援体制を堅持するための人的・物的・財政的な教育環境の整備計画に基づき、建築・デザイン学部の入学定員を 50 人増の 150 人に設定した。

共立女子大学 建築・デザイン学部建築・デザイン学科
学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

資料 1 : デザインの領域図	2
資料 2 : デザイン業の動向	3
資料 3 : 都道府県別デザイン事業所数と売上高	4
資料 4 : デザイナーが就業する産業	5
資料 5 : 建設投資の推移	6
資料 6 : 建設業における就業者の現状	8
資料 7 : 一級建築士の現状と将来予測	12
資料 8 : 令和 6 年度建設産業における女性定着促進に関する実態等調査結果 ..	14
資料 9 : 18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移	15
資料 10 : 建築・デザイン学部入学者の出身高校所在地別人数割合	16
資料 11 : 18 歳人口予測	17
資料 12 : 大学進学時の都道府県別流入・流出者数	18
資料 13 : 男女別・18 歳人口と大学進学率等の推移	19
資料 14 : 男女別・都道府県別の 4 年制大学進学率	20
資料 15 : 2040 年の各都道府県進学者等推計	21
資料 16 : 共立女子大学入学志願状況	22
資料 17 : 建築・デザイン学部 在学生アンケート結果	23
資料 18 : 競合校分析	24
資料 19 : 競合校学生納付金	25
資料 20 : 競合校一般選抜志願動向及び入学状況	26
資料 21 : 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」入学定員の 増員に関するニーズ調査【高校生対象調査】結果報告書	27
資料 22 : 高校留め置き調査依頼対象校一覧	53
資料 23 : 共立女子大学建築・デザイン学部 リーフレット	54
資料 24 : 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」入学定員の 増員に関するニーズ調査【企業対象調査】結果報告書	56
別紙 1 : 定員を増加する組織が置かれる都道府県の入学状況	70
別紙 2-1 : 既設学科等の収容定員の充足状況	71
別紙 2-2 : 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）	72
別紙 3 : 既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績	81

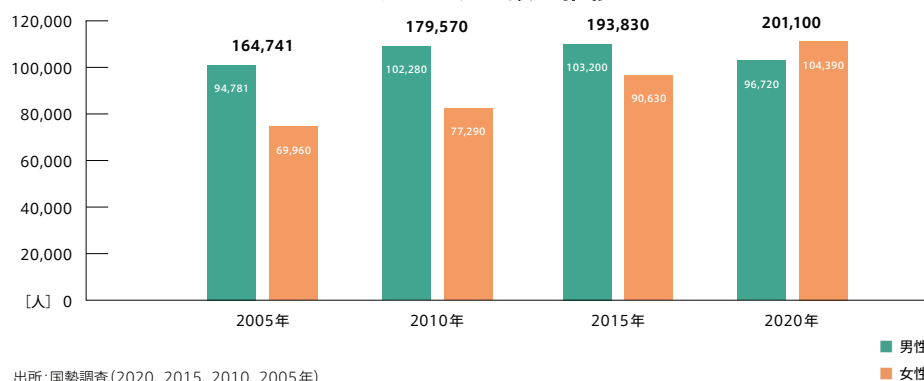
〔図1〕デザインの領域図⁹



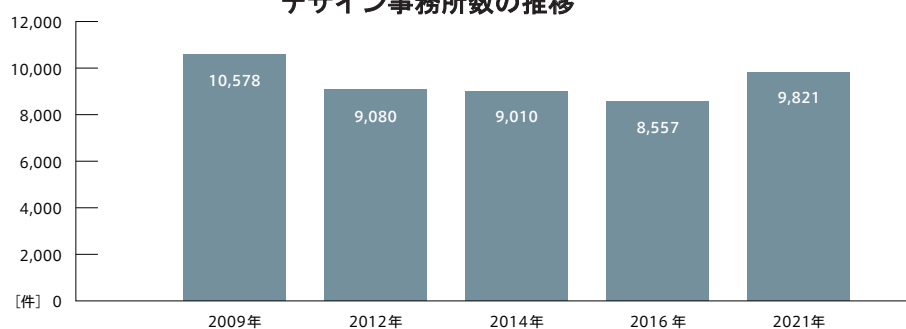
経済産業省「これからのデザイン政策を考える
研究会報告書」（令和5年1月19日）より引用

デザイン業の動向

デザイナー数の推移



デザイン事務所数の推移



デザイン事務所の売上高推移

	事業所数 [件]	従業者数 [人]	売上 (収入) 金額 [万円]	1 事業所当たり 売上 (収入) 金額 [万円]	従業者ひとり当たり 売上 (収入) 金額 [万円]
2012年	7,067	32,411	392,761	5,587	1,221
2014年	6,811	29,816	353,221	5,347	1,217
2016年	7,224	34,358	476,893	6,803	1,459
2021年	8,996	38,260	488,635	5,618	1,337

都道府県別デザイン事業所数と売上高

地域		事業所数[件]	従業者数[人]	売上[収入]金額 [万円]	売上比率
全国		9,821	42,376	310,366	－
北海道		245	1,056	6,387	2.06%
東北	青森県	38	95	416	0.13%
	岩手県	40	105	149	0.05%
	宮城県	108	454	2,439	0.79%
	秋田県	46	172	816	0.26%
	山形県	44	129	398	0.13%
	福島県	64	290	983	0.32%
関東	茨城県	70	257	1,109	0.36%
	栃木県	52	141	887	0.29%
	群馬県	73	291	3,486	1.12%
	埼玉県	230	605	5,226	1.68%
	千葉県	187	537	2,479	0.80%
	東京都	3,635	19,413	156,780	50.51%
中部	神奈川県	530	1,633	8,934	2.88%
	新潟県	105	389	1,818	0.59%
	富山県	76	395	1,304	0.42%
	石川県	111	376	1,176	0.38%
	福井県	58	181	605	0.19%
	山梨県	40	95	321	0.10%
	長野県	137	406	2,698	0.87%
	岐阜県	128	326	1,771	0.57%
	静岡県	198	574	5,886	1.90%
近畿	愛知県	558	2,403	19,245	6.20%
	三重県	53	137	1,181	0.38%
	滋賀県	45	112	225	0.07%
	京都府	259	1,289	5,744	1.85%
	大阪府	1,139	4,988	46,738	15.06%
	兵庫県	284	875	4,842	1.56%
	奈良県	46	86	382	0.12%
	和歌山県	47	113	785	0.25%
中国	鳥取県	23	77	518	0.17%
	島根県	26	63	155	0.05%
	岡山県	124	514	2,493	0.80%
	広島県	126	526	1,965	0.63%
	山口県	44	104	798	0.26%
四国	徳島県	35	80	605	0.19%
	香川県	50	115	887	0.29%
	愛媛県	54	178	767	0.25%
	高知県	31	75	811	0.26%
九州・沖縄	福岡県	355	1,515	11,749	3.79%
	佐賀県	33	75	332	0.11%
	長崎県	25	57	272	0.09%
	熊本県	63	220	740	0.24%
	大分県	39	109	705	0.23%
	宮崎県	35	95	713	0.23%
	鹿児島県	47	212	362	0.12%
	沖縄県	65	438	1,286	0.41%

公益財団法人日本デザイン振興会「デザイン白書2024」に基づき作成

デザイナーが就業する産業

【資料4】

デザイナーの就業する業種はデザイン業(33.39%)が最も多く、次いで広告業(9.34%)、インターネット付随サービス業(9.11%)、情報サービス業(8.22%)、映像・音声・文字情報制作業(7.56%)となっている。そのほか、情報通信業、製造業、卸売業・小売業等といった産業でもデザイナーが活躍している。

(11) デザイナーの就業する産業

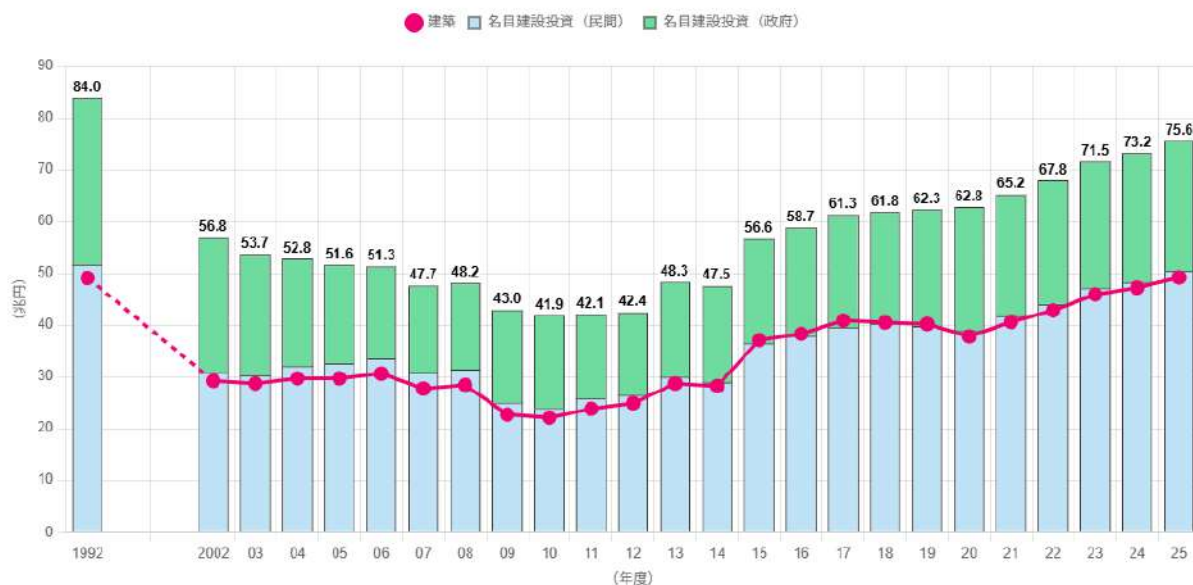
	業種	デザイナー数[人]	比率
A	農業, 林業	50	0.02%
B	漁業	0	0.00%
C	鉱業, 採石業, 砂利採取業	0	0.00%
D	建設業	5,090	2.53%
E	製造業	24,340	12.10%
	9 食料品製造業	700	0.35%
	10 飲料・たばこ・飼料製造業	80	0.04%
	11 繊維工業	2,750	1.37%
	12 木材・木製品製造業(家具を除く)	40	0.02%
	13 家具・装備品製造業	380	0.19%
	14 パルプ・紙・紙加工品製造業	760	0.38%
	15 印刷・同関連業	9,330	4.64%
	16 化学工業	940	0.47%
	18 プラスチック製品製造業(別網を除く)	480	0.24%
	19 ゴム製品製造業	150	0.07%
	20 なめし革・同製品・毛皮製造業	500	0.25%
	21 窯業・土石製品製造業	350	0.17%
	22 鉄鋼業	20	0.01%
	23 非鉄金属製造業	40	0.02%
	24 金属製品製造業	460	0.23%
	25 はん用機械器具製造業	110	0.05%
	26 生産用機械器具製造業	170	0.08%
	27 業務用機械器具製造業	710	0.35%
	28 電子部品・デバイス・電子回路製造業	140	0.07%
	29 電気機械器具製造業	740	0.37%
	30 情報通信機械器具製造業	290	0.14%
	31 輸送用機械器具製造業	1,570	0.78%
	32 その他の製造業	3,630	1.81%
F	電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.00%

G	情報通信業		50,760	25.24%
	37	通信業	360	0.18%
	38	放送業	340	0.17%
	39	情報サービス業	16,530	8.22%
	40	インターネット付随サービス業	18,320	9.11%
	41	映像・音声・文字情報制作業	15,210	7.56%
	41a	映像・音声情報制作業	5,530	2.75%
	413	新聞業	400	0.20%
	414	出版業	1,700	0.85%
	415	広告制作業	6,820	3.39%
	416	映像・音声・文字情報制作に附帯するサービス業	760	0.38%
H	運輸業, 郵便業		80	0.04%
I	卸売業, 小売業		17,800	8.85%
	50	卸売業	9,130	4.54%
	56	各種商品小売業	220	0.11%
	57	繊維・衣服・身の回り品小売業	3,120	1.55%
	58	飲食料品小売業	780	0.39%
	59	機械器具小売業	470	0.23%
	60	その他の小売業	4,080	2.03%
J	金融業, 保険業		210	0.10%
K	不動産業, 物品賃貸業		1,280	0.64%
L	学術研究, 専門・技術サービス業		93,100	46.30%
	71	学術・開発研究機関	750	0.37%
	72	専門サービス業(他に分類されないもの)	71,040	35.33%
		726 デザイン業	67,140	33.39%
	73	広告業	18,790	9.34%
	74	技術サービス業(他に分類されないもの)	2,530	1.26%
M	宿泊業, 飲食サービス業		1,050	0.52%
N	生活関連サービス業, 娯楽業		2,070	1.03%
O	教育, 学習支援業		660	0.33%
P	医療, 福祉		250	0.12%
R	サービス業(他に分類されないもの)		3,990	1.98%
S	公務(他に分類されるものを除く)		10	0.00%
T	分類不能の産業		350	0.17%

出所:国勢調査(2020年)

公益財団法人日本デザイン振興会
「デザイン白書2024」より引用

建設投資の推移



資料出所：国土交通省「令和7年度建設投資見直し」

一般社団法人日本建設業連合会「建設業デジタルハンドブック」より引用

表 2025年度建設投資額(名目値)

(単位:億円・%)

年 度 項 目		投 資 額					対 前 年 度 伸 び 率			
		2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (見込み)	2024年度 (見込み)	2025年度 (見通し)	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
総 計		651,659	678,478	714,700	732,100	755,700	4.1	5.3	2.4	3.2
建 築		405,812	427,717	458,900	472,300	492,000	5.4	7.3	2.9	4.2
住 宅		163,898	171,710	163,600	165,900	167,800	4.8	▲ 4.7	1.4	1.1
政 府		3,642	4,505	4,400	4,200	4,200	23.7	▲ 2.3	▲ 4.5	0.0 注2
民 間		160,256	167,205	159,200	161,700	163,600	4.3	▲ 4.8	1.6	1.2 注2
非 住 宅		129,560	138,649	147,400	152,800	167,200	7.0	6.3	3.7	9.4
政 府		34,890	36,738	39,500	43,600	43,900	5.3	7.5	10.4	0.7 注2
民 間		94,670	101,911	107,900	109,200	123,300	7.6	5.9	1.2	12.9
建 築 補 修 (改装・改修)		112,354	117,358	147,900	153,600	157,000	4.5	26.0	3.9	2.2
政 府		19,850	18,705	24,800	26,300	26,500	▲ 5.8	32.6	6.0	0.8 注2
民 間		92,504	98,653	123,100	127,300	130,500	6.6	24.8	3.4	2.5 注2
土 木		245,847	250,761	255,800	259,800	263,700	2.0	2.0	1.6	1.5
政 府		176,742	178,975	175,400	176,300	177,500	1.3	▲ 2.0	0.5	0.7
公 共 事 業		147,354	149,774	147,800	142,900	143,900	1.6	▲ 1.3	▲ 3.3	0.7 注2
そ の 他		29,388	29,201	27,600	33,400	33,600	▲ 0.6	▲ 5.5	21.0	0.6 注2
民 間		69,105	71,786	80,400	83,500	86,200	3.9	12.0	3.9	3.2 注2
再 掲	政 府	235,124	238,923	244,100	250,400	252,100	1.6	2.2	2.6	0.7
	民 間	416,535	439,555	470,600	481,700	503,600	5.5	7.1	2.4	4.5
	注1 民 間 非住宅建設	163,775	173,697	188,300	192,700	209,500	6.1	8.4	2.3	8.7

注1) 民間非住宅建設投資＝民間非住宅建築投資＋民間土木投資

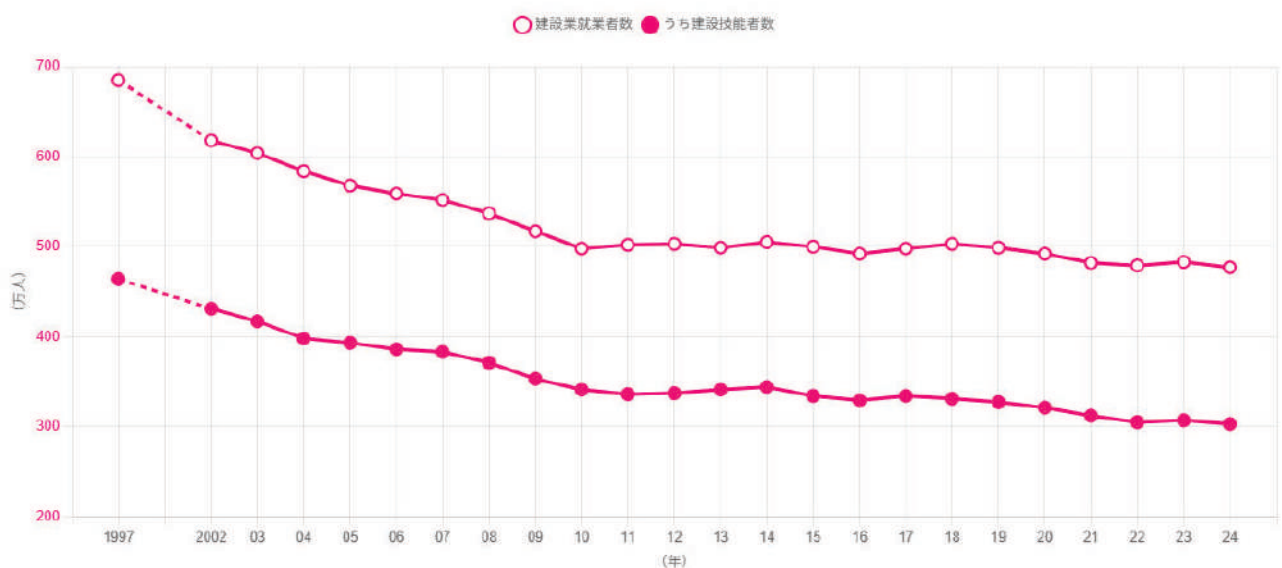
注2) 2025年度の伸び率は、「令和7年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」(令和7年1月24日閣議決定)及び「令和7 (2025)年度内閣府年央試算」(令和7年8月7日)の指標から算定している。

※ 見込み・見通しの投資額は、四捨五入により100億円単位にしているため、対前年度伸び率と合わない場合がある。

国土交通省「令和7年度（2025年度）建設投資見通し」より引用

建設業における就業者の現状

建設就業者数の推移

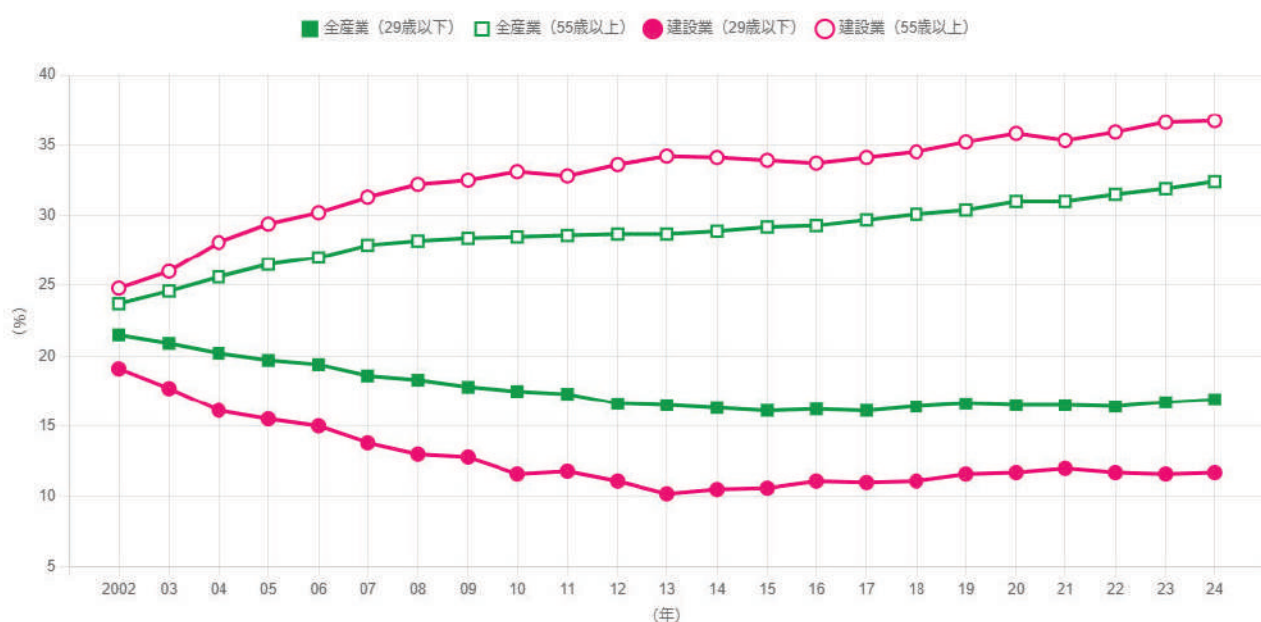


- (注) 1. 2013年以降は、いわゆる「派遣社員」を含む
 2. 建設技能者：総務省労働力調査「職業番号11-5」産業、職業別就業者数のうち、建設業（職業番号24_生産工程従事者、32_輸送・機械運転従事者、33_建設・掘削従事者、37_その他の運転・清掃・引渡等従事者の合計
 3. 2011年の数値は、東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県及び福島県において調査実施が困難となったため、推定値に推計された値（2015年国勢調査基準）

資料出所：総務省「労働力調査」長期時系列表5（トップページ）
 総務省「労働力調査」長期時系列表5（詳細ページ1）
 総務省「労働力調査」長期時系列表5（詳細ページ2）

一般社団法人日本建設業連合会「建設業デジタルハンドブック」より引用

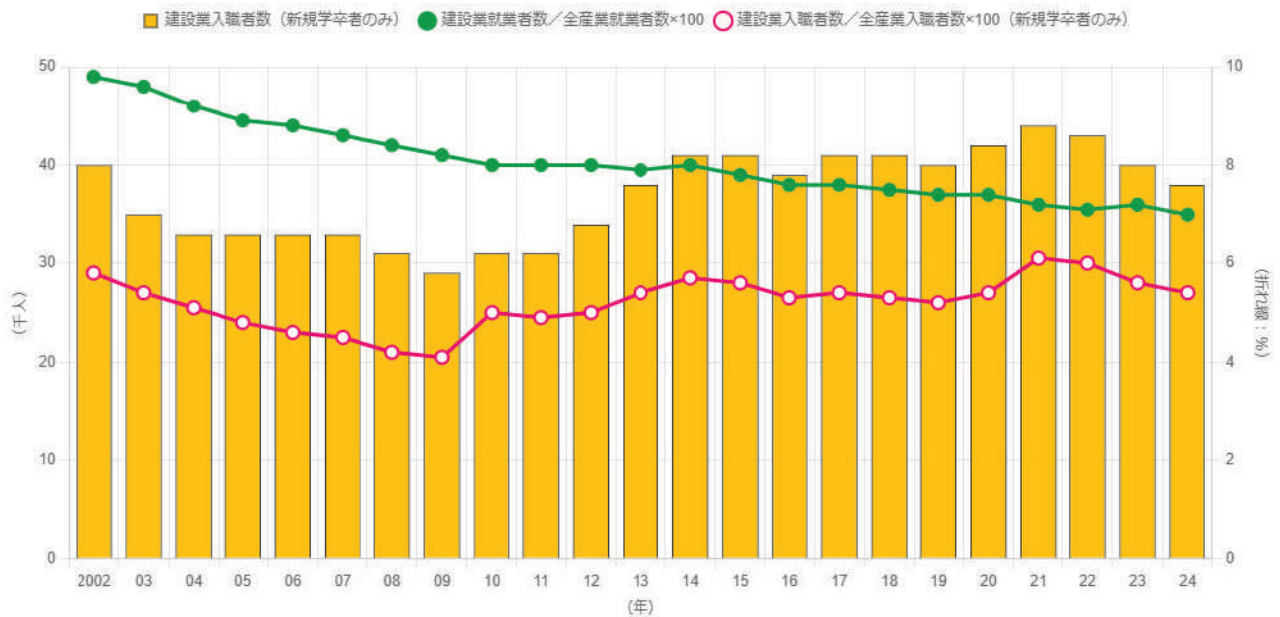
建設業就業者の年齢層



資料出所：総務省「労働力調査」（トップページ）
 総務省「労働力調査」（詳細ページ1）
 総務省「労働力調査」（詳細ページ2）
 総務省「労働力調査」（詳細ページ3）
 総務省「労働力調査」（詳細ページ4）

一般社団法人日本建設業連合会「建設業デジタルハンドブック」より引用

新規学卒者の入職状況



(注) 新規学卒者には中学卒を含まない

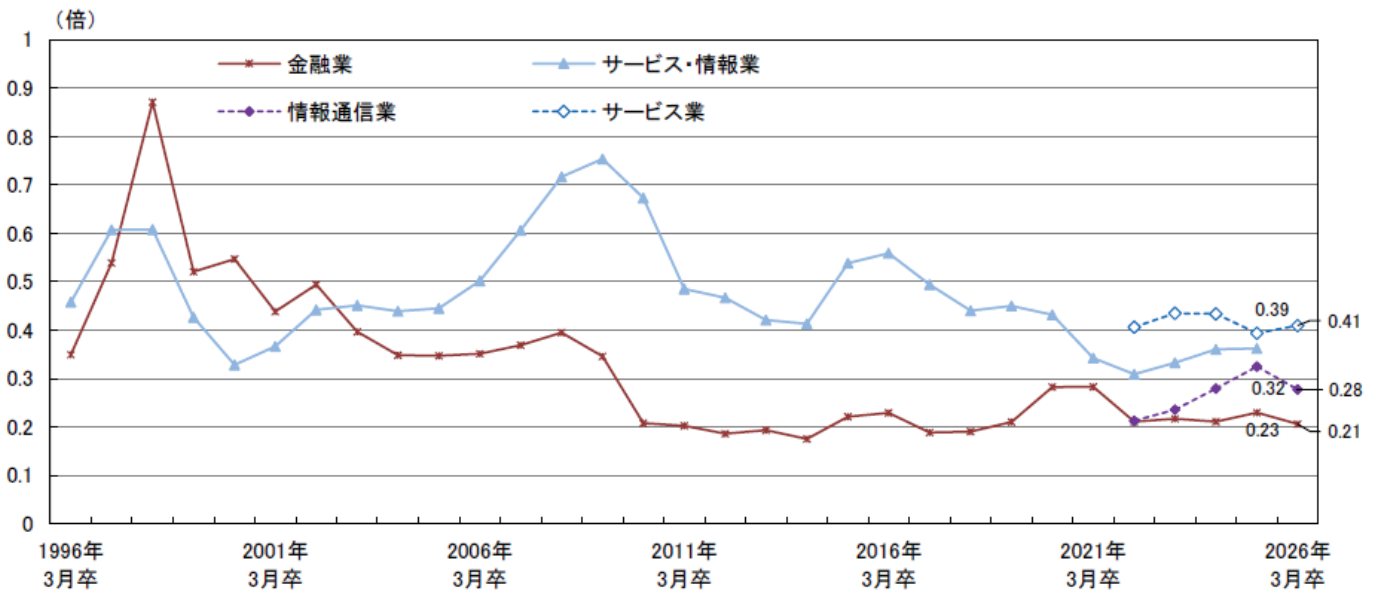
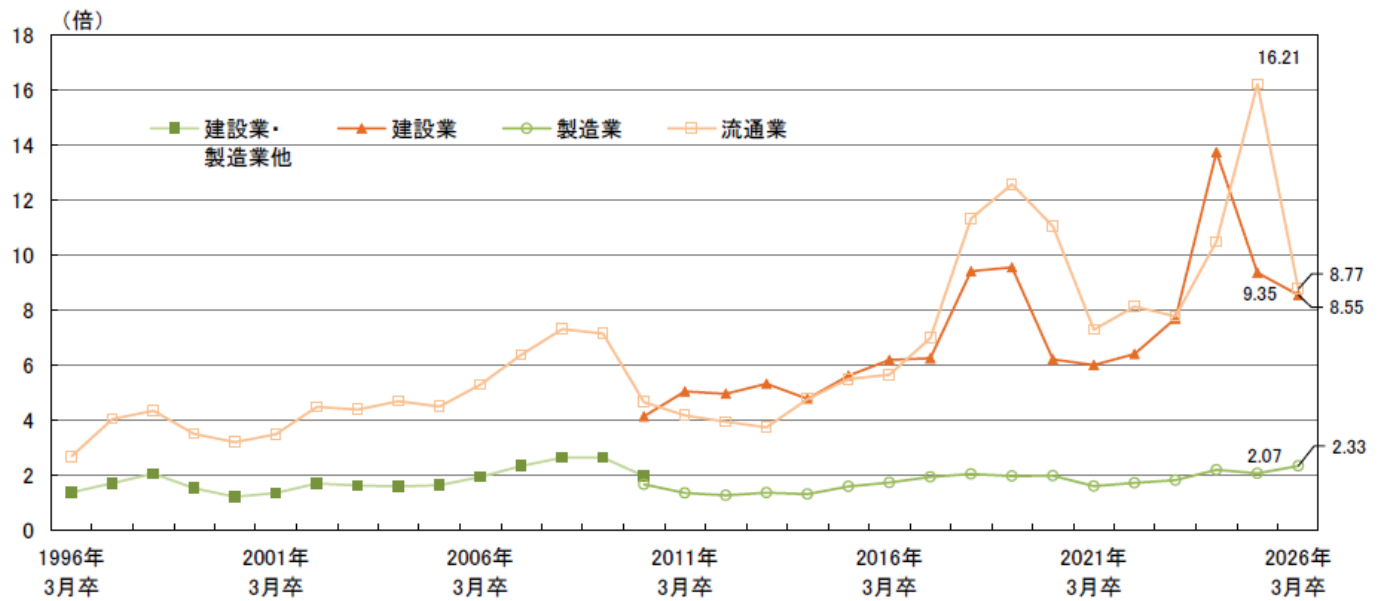
資料出所: 文部科学省「学校基本調査」([トップページ](#))

総務省「労働力調査」([詳細ページ1](#))

総務省「労働力調査」([詳細ページ2](#))

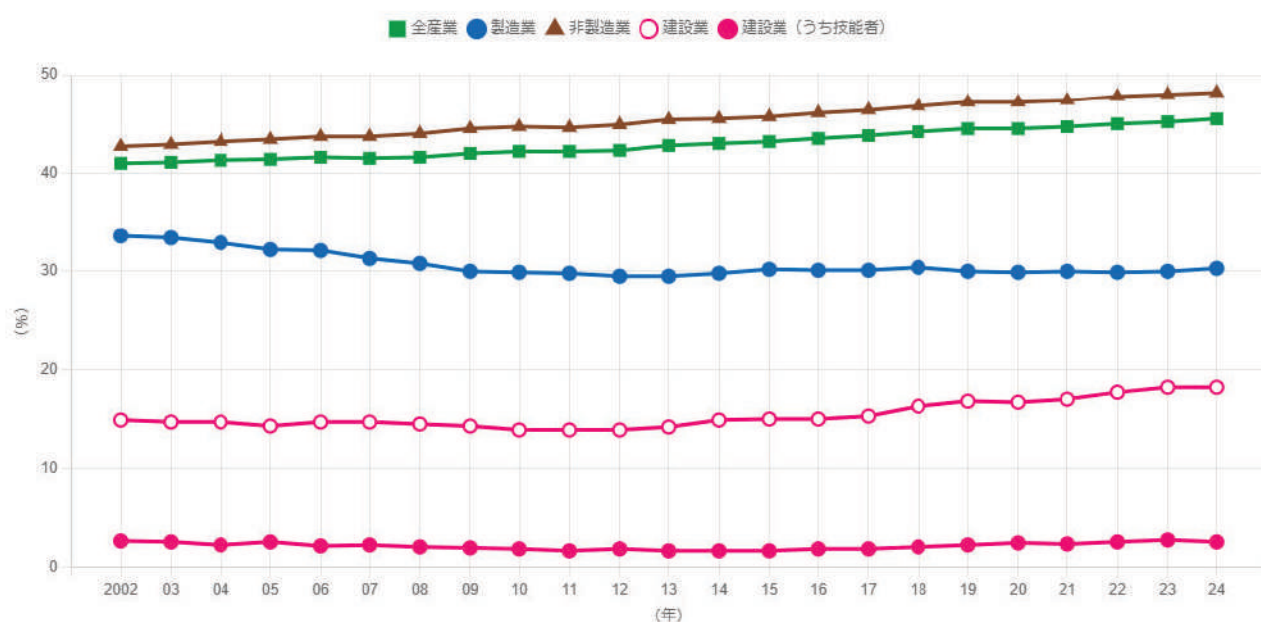
一般社団法人日本建設業連合会「建設業デジタルハンドブック」より引用

産業別 求人倍率の推移



リクルートワークス研究所「ワークス大卒求人倍率調査（2026 年卒）」より引用

就業者中に占める女性の比率



(注) 技能職数：産業、職業別就業者数の職業番号24生産工程、32輸送機械運転、33建設採掘、37その他の運搬清掃包装等従事者の合計

資料出所：総務省「労働力調査」(トップページ)

[総務省「労働力調査」 詳細ページ1\)](#)

[総務省「労働力調査」 詳細ページ2\)](#)

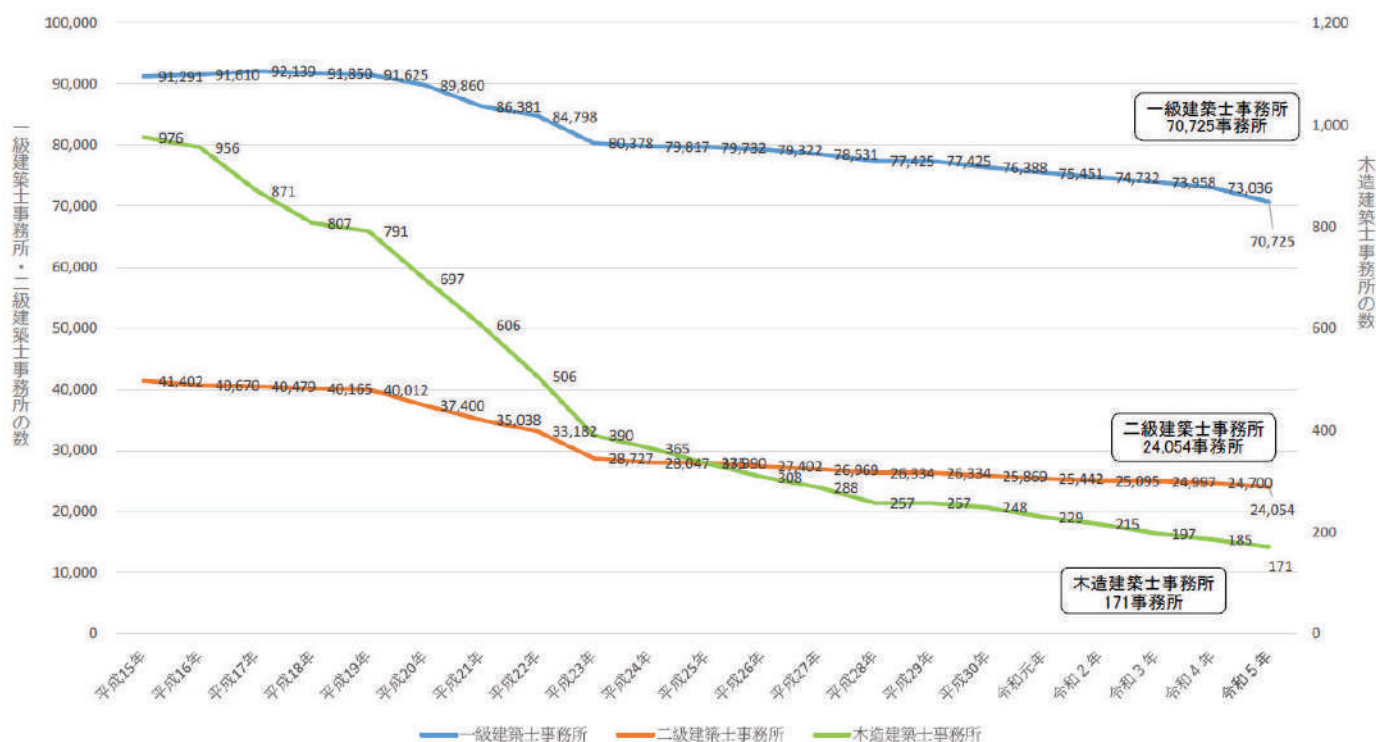
[総務省「労働力調査」 詳細ページ3\)](#)

[総務省「労働力調査」 詳細ページ4\)](#)

一般社団法人日本建設業連合会「建設業デジタルハンドブック」より引用

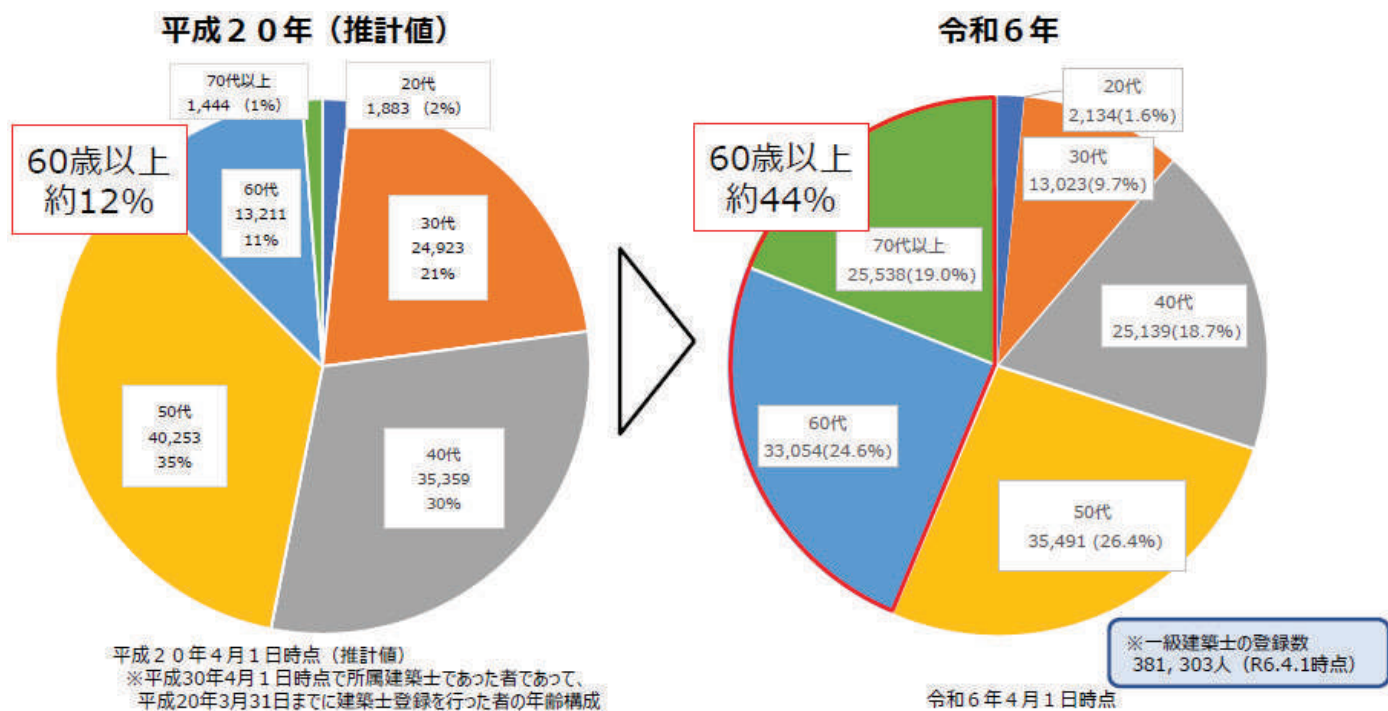
一級建築士の現状と将来予測

建築士事務所数の推移



建築分野の中長期的なあり方に関する懇談会「建築分野をめぐる社会動向（データ集）」より引用

一級建築士（所属建築士）の年齢構成の変化

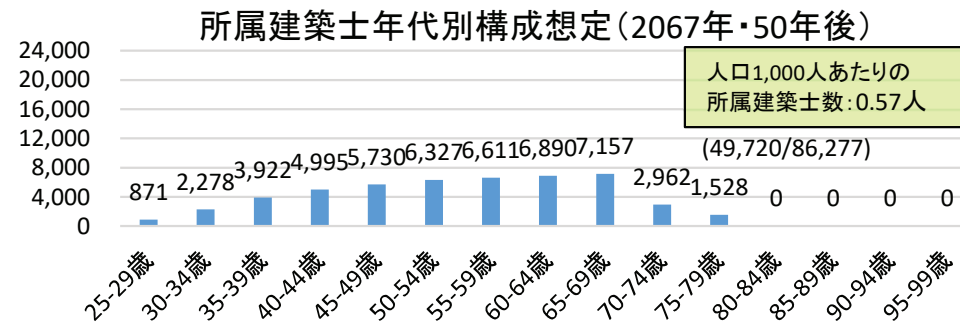
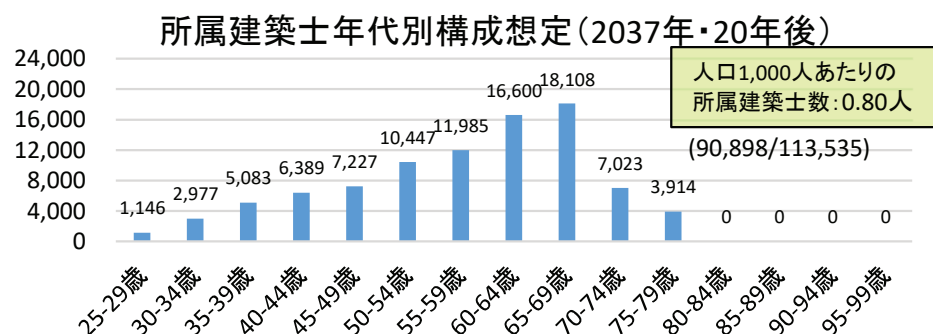
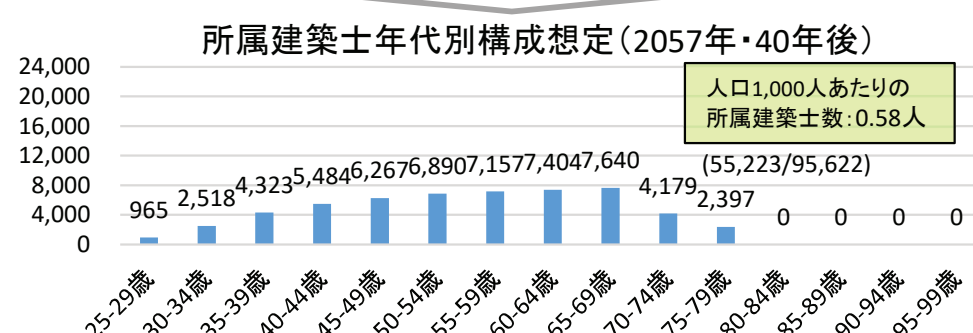
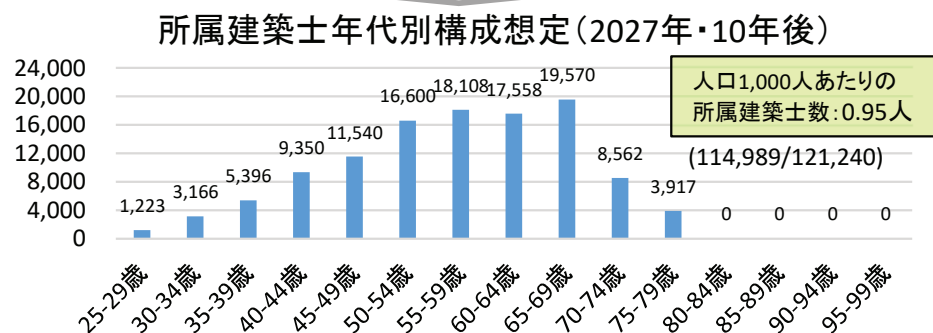
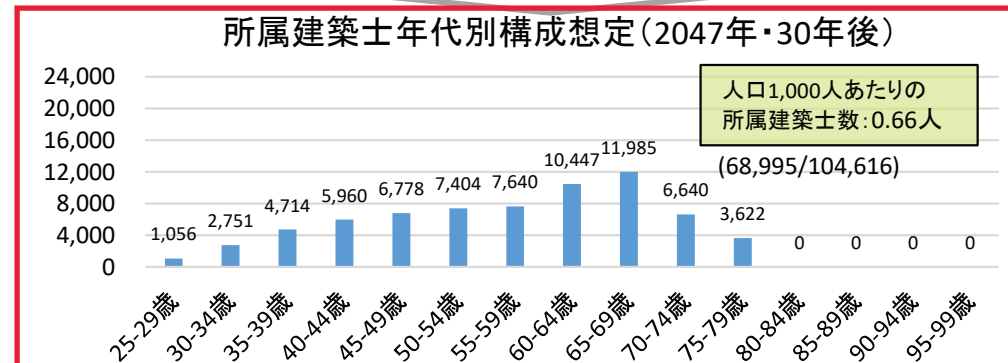
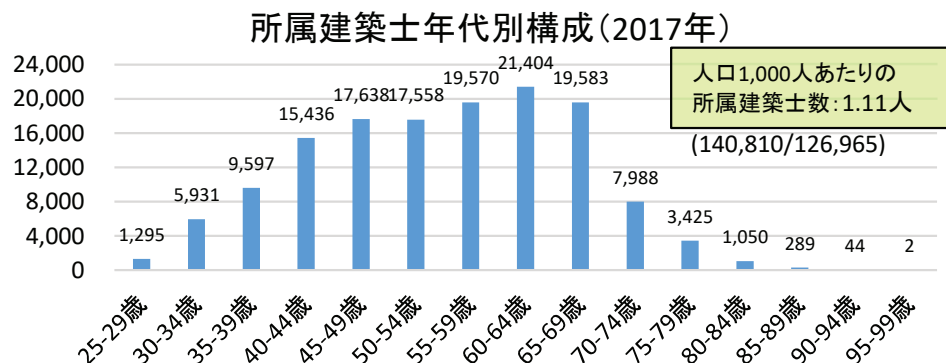


建築分野の中長期的なあり方に関する懇談会「建築分野をめぐる社会動向（データ集）」より引用

一級建築士(所属建築士)の今後の見込み

国土交通省 建築分野の中長期的なあり方に関する懇談会（第1回）配布資料より引用

- 現在の傾向が維持される場合、所属建築士数は30年後には半減する見込み（14.0万人→6.9万人）。
- 人口減少を勘案した人口1000人当たりの所属建築士数も4割減（1.11人/千人→0.66人/千人）。



資料:「一級建築士名簿」、「一級建築士事務所登録簿」及び「日本の将来推計人口～出生中位・死亡中位～(社人研)」より国土交通省にて推計

6. 重点テーマ2に関する各企業の取組状況や課題認識(新たな活動領域)

問6-1【技術者】特に女性活躍・定着が期待できそうな職種・分野－選択理由

- 各職種を選定した理由としては、最新技術を活用した現場の作業負担の低減や女性目線の活用を挙げる企業が多い。

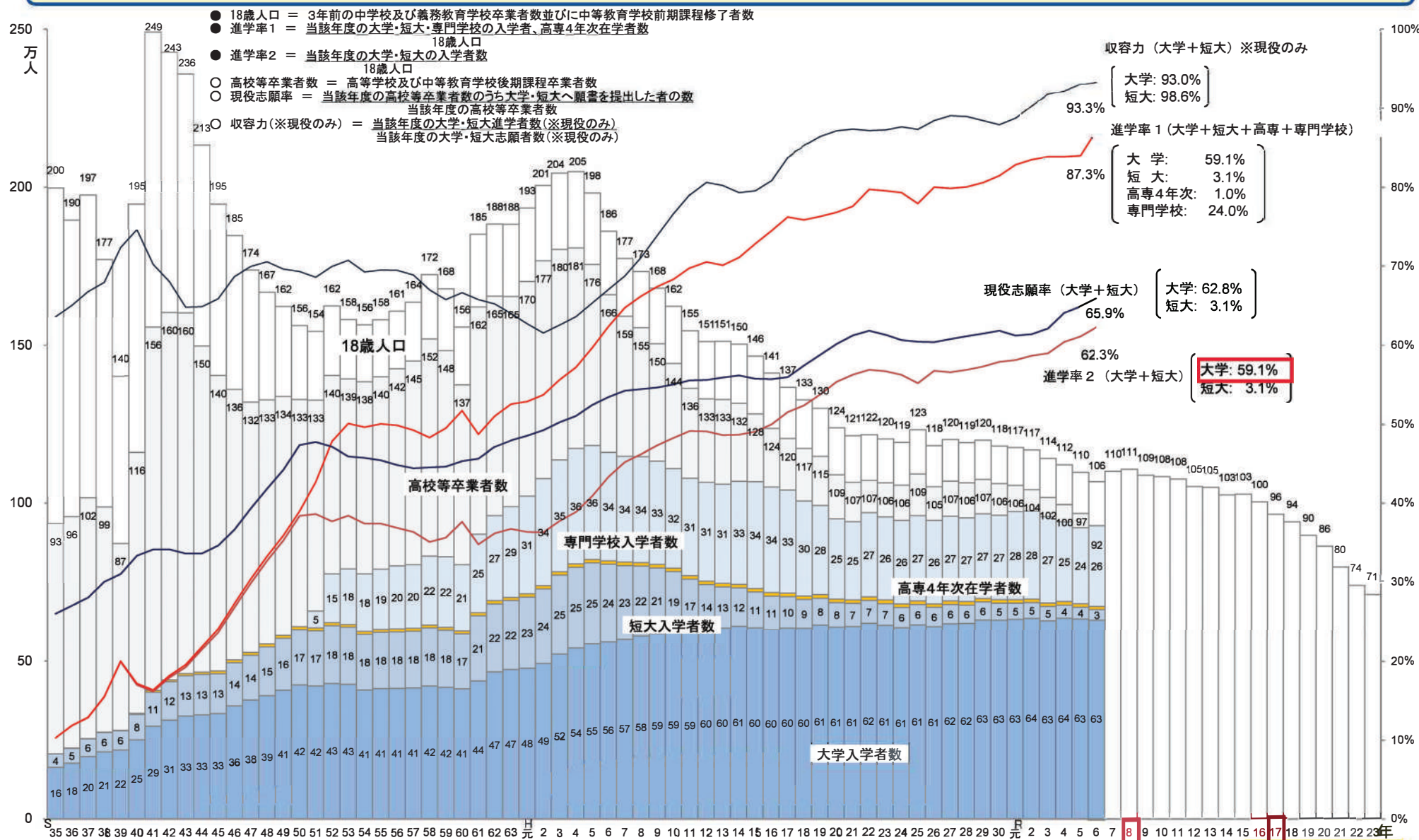
選択した職種・分野	理由
建設コンサルタント	- ドローンやBIM/CIM等の技術により現場作業を減らすことができる - 土木設計の知識・資格等を習得すれば、体力に自信がなくても第一線で活躍できる
測量業	- ドローンなど利用できるため - 現場事務所を構えず、日帰りや短期間での現地業務が多い職種のため、女性最大の転機(結婚、出産)を迎えた場合でも(建設産業界では)比較的継続して働き続ける事が可能ではないかと感じている
土木工事業、建築工事業、ほ装工事業など	- CADオペレーターやICT、DX化の推進によってできるようになる仕事は比較的体力を必要としない、勤務時間の融通や在宅ワークなど働きやすい環境がある - 過去にこの職種で活躍していた実績があるから
建設コンサルタント、施工管理・積算業務、測量業など	屋内での作業が多いから。あるいは力仕事ではない、力仕事が少ない
建築工事業、建設コンサルタント、造園工事業など	女性ならではの目線、センス、細やかな気づきを活かすことができる

国土交通省 建設産業における女性活躍・定着促進に向けた実行計画検討会
「令和6年度建設産業における女性定着促進に関する実態等調査結果（アンケート調査）」より引用

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

【資料9】

18歳人口は、ピークであった昭和41年には、約249万人であったが、令和6年には106万人にまで減少。令和23年には71万人にまで減少することが予測されている。高等教育機関への進学率は概ね上昇を続け、令和6年には大学のみで59.1%、全体で87.3%となっている。



出典: 文部科学省「学校基本統計」。令和7～23年については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)(出生低位・死亡低位)」を基に作成。
※進学率、現役志願率については、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

(2) - 1 - 1

建築・デザイン学部入学者の出身高校所在地別人数割合

出身高校所在地	R5年度	R6年度	R7年度	合計	割合
北海道	0	0	0	0	0.0%
青森	0	0	0	0	0.0%
岩手	0	0	0	0	0.0%
宮城	0	1	0	1	0.3%
秋田	0	0	0	0	0.0%
山形	0	0	0	0	0.0%
福島	0	0	0	0	0.0%
茨城	4	4	9	17	5.3%
栃木	1	1	2	4	1.2%
群馬	2	2	0	4	1.2%
埼玉	16	15	8	39	12.1%
千葉	19	22	19	60	18.7%
東京	38	43	46	127	39.6%
神奈川	13	14	5	32	10.0%
新潟	1	2	3	6	1.9%
富山	0	0	1	1	0.3%
石川	0	0	0	0	0.0%
福井	1	0	0	1	0.3%
山梨	1	0	0	1	0.3%
長野	4	0	1	5	1.6%
岐阜	0	0	0	0	0.0%
静岡	3	1	0	4	1.2%
愛知	0	1	1	2	0.6%
三重	0	0	0	0	0.0%
滋賀	0	0	0	0	0.0%
京都	0	0	0	0	0.0%
大阪	1	0	0	1	0.3%
兵庫	0	0	0	0	0.0%
奈良	0	0	1	1	0.3%
和歌山	0	0	0	0	0.0%
鳥取	0	0	0	0	0.0%
島根	0	0	0	0	0.0%
岡山	0	0	0	0	0.0%
広島	0	1	0	1	0.3%
山口	0	0	0	0	0.0%
徳島	0	0	0	0	0.0%
香川	0	0	0	0	0.0%
愛媛	0	0	0	0	0.0%
高知	1	0	0	1	0.3%
福岡	0	0	0	0	0.0%
佐賀	0	0	0	0	0.0%
長崎	0	0	0	0	0.0%
熊本	0	1	0	1	0.3%
大分	0	0	0	0	0.0%
宮崎	0	1	0	1	0.3%
鹿児島	0	0	1	1	0.3%
沖縄	2	2	0	4	1.2%
その他	1	1	4	6	1.9%
計	108	112	101	321	100.0%

80.4%

18歳人口予測

表1 18歳人口予測（男女：全国エリア別：令和9～18年）

		R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	R14(2032)	R15(2033)	R16(2034)	R17(2035)	R18(2036)	R9からR18の増減数
全体 計	人数	1,085,123	1,069,950	1,067,555	1,048,971	1,036,250	1,024,561	1,014,564	1,006,056	970,564	942,498	-142,625
	指数	100.0	98.6	98.4	96.7	95.5	94.4	93.5	92.7	89.4	86.9	-13.1
北海道	人数	40,934	40,072	39,977	39,214	38,186	37,958	36,930	36,614	34,643	33,972	-6,962
	指数	100.0	97.9	97.7	95.8	93.3	92.7	90.2	89.4	84.6	83.0	-17.0
東北	人数	70,770	68,749	68,171	66,203	65,111	65,300	63,666	63,223	60,068	57,718	-13,052
	指数	100.0	97.1	96.3	93.5	92.0	92.3	90.0	89.3	84.9	81.6	-18.4
北関東	人数	59,546	58,692	57,205	55,683	54,945	53,664	53,679	52,394	50,638	48,791	-10,755
	指数	100.0	98.6	96.1	93.5	92.3	90.1	90.1	88.0	85.0	81.9	-18.1
南関東	人数	298,541	297,098	296,291	290,653	290,558	288,993	290,872	288,975	279,425	271,794	-26,747
	指数	100.0	99.5	99.2	97.4	97.3	96.8	97.4	96.8	93.6	91.0	-9.0
甲信越	人数	43,314	42,040	42,270	41,257	40,296	39,776	39,217	38,644	36,808	35,717	-7,597
	指数	100.0	97.1	97.6	95.3	93.0	91.8	90.5	89.2	85.0	82.5	-17.5
北陸	人数	25,741	25,150	24,353	24,393	23,739	23,536	22,900	22,817	22,026	21,691	-4,050
	指数	100.0	97.7	94.6	94.8	92.2	91.4	89.0	88.6	85.6	84.3	-15.7
東海	人数	136,301	134,386	134,104	132,009	129,840	126,934	124,199	124,004	119,662	115,589	-20,712
	指数	100.0	98.6	98.4	96.9	95.3	93.1	91.1	91.0	87.8	84.8	-15.2
近畿	人数	178,296	174,708	174,275	171,986	169,443	166,153	164,654	162,897	158,390	153,019	-25,277
	指数	100.0	98.0	97.7	96.5	95.0	93.2	92.3	91.4	88.8	85.8	-14.2
中国	人数	63,998	63,653	63,788	62,726	61,732	60,960	59,813	59,177	56,629	55,286	-8,712
	指数	100.0	99.5	99.7	98.0	96.5	95.3	93.5	92.5	88.5	86.4	-13.6
四国	人数	31,605	31,022	30,821	30,502	29,912	29,341	28,774	28,198	27,440	26,639	-4,966
	指数	100.0	98.2	97.5	96.5	94.6	92.8	91.0	89.2	86.8	84.3	-15.7
九州沖縄	人数	136,077	134,380	136,300	134,345	132,488	131,946	129,860	129,113	124,835	122,282	-13,795
	指数	100.0	98.8	100.2	98.7	97.4	97.0	95.4	94.9	91.7	89.9	-10.1

※指数＝R9(2027)年を100とした値

リクルート進学総研「マーケットリポート2024【全国版】」に基づき作成

表2 18歳人口予測（男女：南関東：令和9～18年）

		R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	R14(2032)	R15(2033)	R16(2034)	R17(2035)	R18(2036)	R9からR18の増減数
全国	人数	1,085,123	1,069,950	1,067,555	1,048,971	1,036,250	1,024,561	1,014,564	1,006,056	970,564	942,498	-142,625
	指数	100.0	98.6	98.4	96.7	95.5	94.4	93.5	92.7	89.4	86.9	-13.1
南関東	人数	298,541	297,098	296,291	290,653	290,558	288,993	290,872	288,975	279,425	271,794	-26,747
	指数	100.0	99.5	99.2	97.4	97.3	96.8	97.4	96.8	93.6	91.0	-9.0
東京	人数	106,752	107,278	107,449	105,944	104,008	105,033	106,853	106,388	103,884	100,803	-5,949
	指数	100.0	100.5	100.7	99.2	97.4	98.4	100.1	99.7	97.3	94.4	-5.6
神奈川	人数	76,276	75,447	75,472	73,736	75,412	73,622	74,033	73,101	70,354	68,577	-7,699
	指数	100.0	98.9	98.9	96.7	98.9	96.5	97.1	95.8	92.2	89.9	-10.1
千葉	人数	53,200	52,292	51,800	50,948	50,920	50,238	50,470	50,074	48,172	46,930	-6,270
	指数	100.0	98.3	97.4	95.8	95.7	94.4	94.9	94.1	90.5	88.2	-11.8
埼玉	人数	62,313	62,081	61,570	60,025	60,218	60,100	59,516	59,412	57,015	55,484	-6,829
	指数	100.0	99.6	98.8	96.3	96.6	96.4	95.5	95.3	91.5	89.0	-11.0

※指数＝R8(2026)年を100とした値

リクルート進学総研「マーケットリポート2024【南関東エリア】」に基づき作成

表3 18歳人口予測（女子のみ：南関東：令和9～18年）

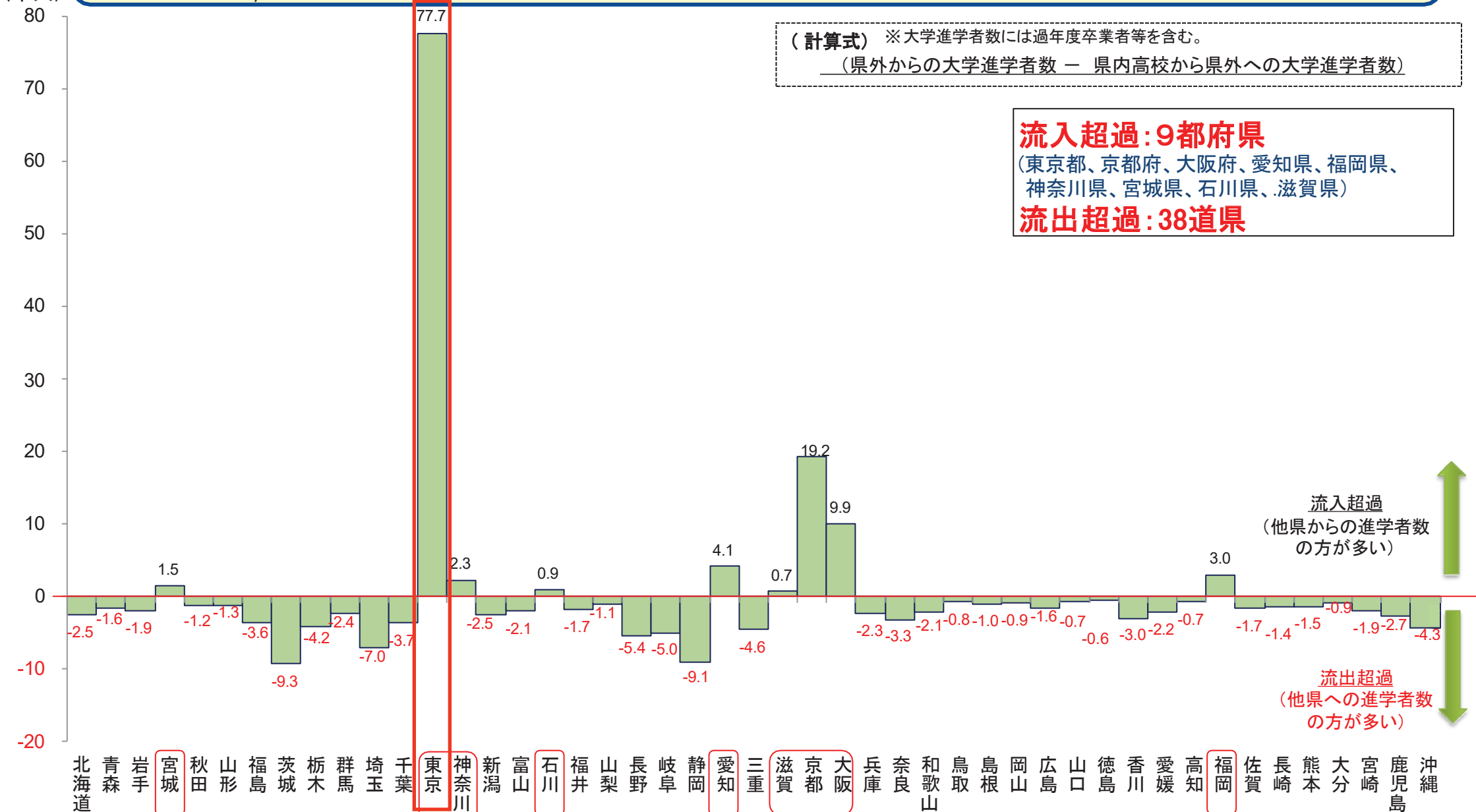
		R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	R14(2032)	R15(2033)	R16(2034)	R17(2035)	R18(2036)	R9からR18の増減数
全国	人数	530,789	522,898	520,876	513,727	506,570	500,782	494,950	492,748	473,900	461,610	-69,179
	指数	100.0	98.5	98.1	96.8	95.4	94.3	93.2	92.8	89.3	87.0	-13.0
南関東	人数	145,898	145,074	144,734	141,776	142,165	141,030	142,285	141,552	136,813	132,950	-12,948
	指数	100.0	99.4	99.2	97.2	97.4	96.7	97.5	97.0	93.8	91.1	-8.9
東京	人数	52,383	52,789	52,627	51,942	50,945	51,407	52,474	52,211	51,101	49,293	-3,090
	指数	100.0	100.8	100.5	99.2	97.3	98.1	100.2	99.7	97.6	94.1	-5.9
神奈川	人数	37,200	36,936	36,944	36,010	36,875	35,697	36,190	35,729	34,374	33,429	-3,771
	指数	100.0	99.3	99.3	96.8	99.1	96.0	97.3	96.0	92.4	89.9	-10.1
千葉	人数	25,970	25,268	25,254	24,769	24,827	24,450	24,516	24,609	23,625	22,952	-3,018
	指数	100.0	97.3	97.2	95.4	95.6	94.1	94.4	94.8	91.0	88.4	-11.6
埼玉	人数	30,345	30,081	29,909	29,055	29,518	29,476	29,105	29,003	27,713	27,276	-3,069
	指数	100.0	99.1	98.6	95.7	97.3	97.1	95.9	95.6	91.3	89.9	-10.1

※指数＝R8(2026)年を100とした値

リクルート進学総研「マーケットリポート2024【南関東エリア】」に基づき作成

- 大学進学時の各都道府県における流入者・流出者数をみると、流入超過が9都府県、流出超過が38道県となっている。
- 東京都には77,656人、京都府には19,193人、大阪府には9,947人が流入している一方、茨城県からは9,261人、静岡県からは9,149人、埼玉県からは7,043人が流出している。

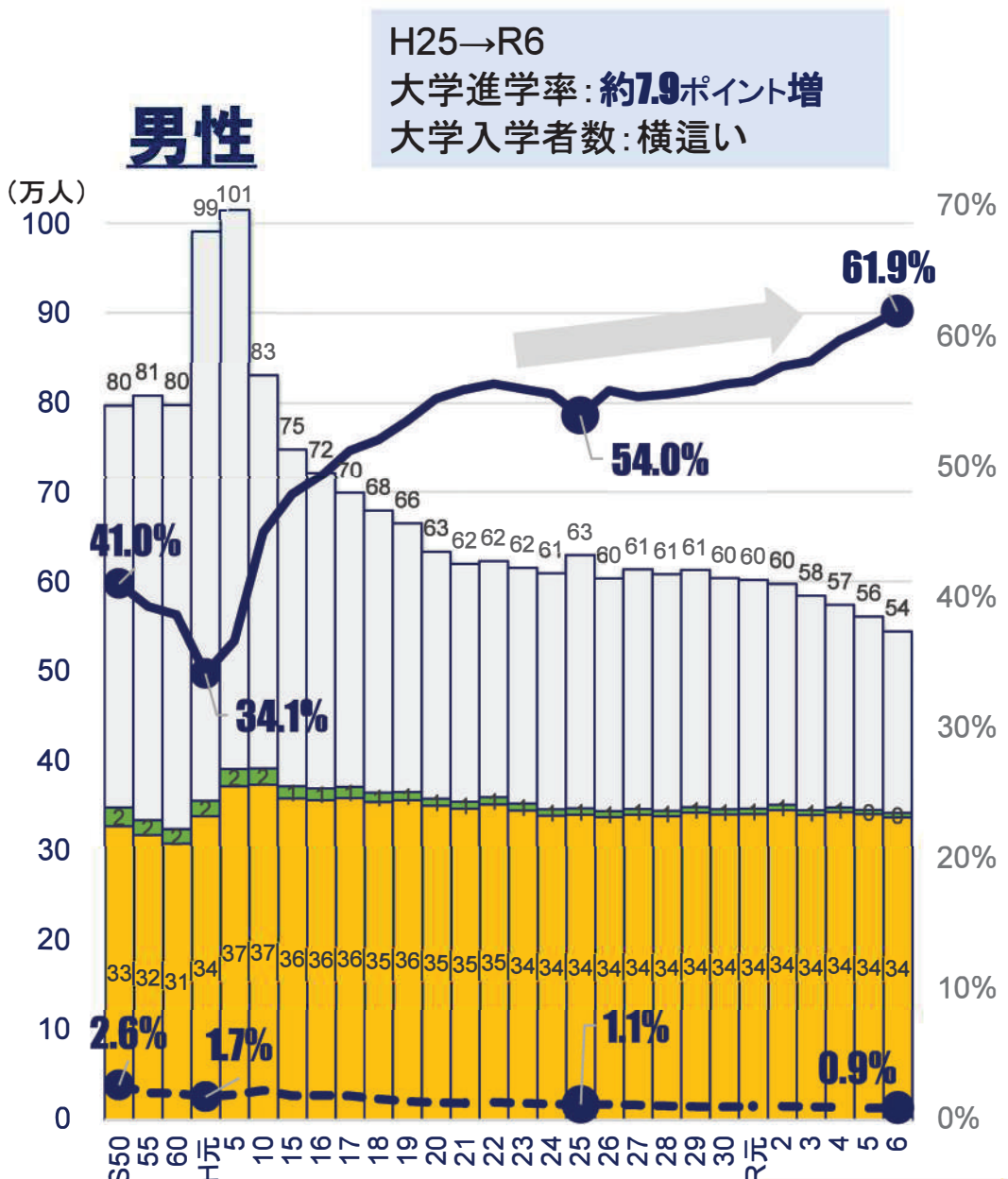
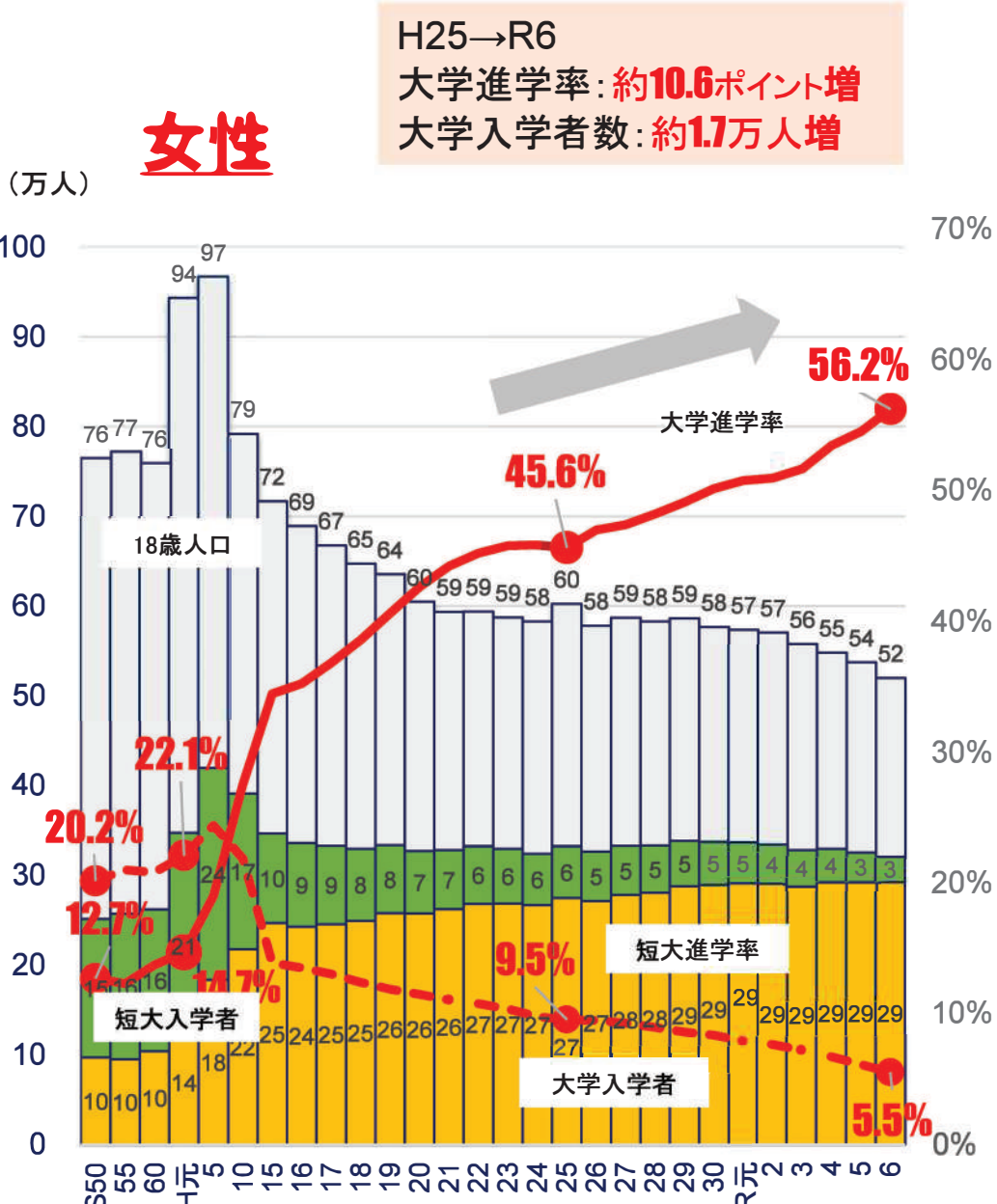
(千人)



男女別・18歳人口と大学進学率等の推移

【資料13】

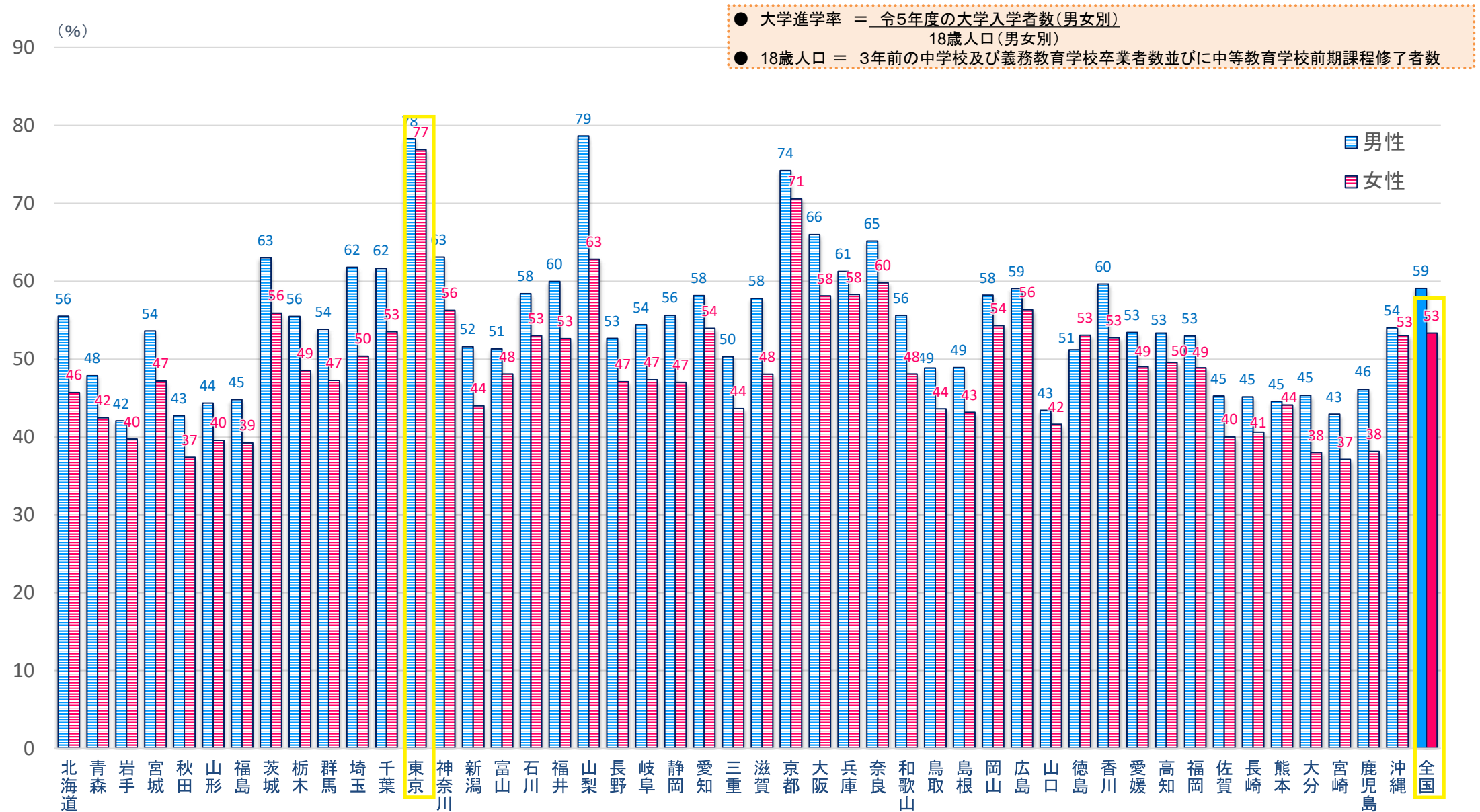
- 昭和50年（1975年）と比べて、女性の大学入学者数は約20万人増加、進学率も約44ポイント増加している。
- 近年は、男女とも進学率は上昇傾向にあるが女性の上昇幅が大きい。



男女別・都道府県別の4年制大学進学率

【資料14】

大学進学率を男女別にみると、徳島県を除く46都道府県で男性の方が女性よりも高く、男女の進学率の差は
①山梨県（15.8ポイント）、②埼玉県（11.4ポイント）、③北海道（9.8ポイント）、④滋賀県（9.7ポイント）の順に高い。



(出典) 文部科学省「令和5年度学校基本統計」

2040年の各都道府県進学者等推計

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
18歳人口【2021】	45,007	11,830	11,379	20,998	8,171	10,269	17,622	27,454	18,417	18,806	64,508	54,908	104,150	78,433
高校等卒業者数【2021】	40,596	11,056	10,585	19,412	7,586	9,555	16,130	25,234	17,183	16,849	56,216	49,294	101,997	67,477
大学進学者数【2021】	21,039	4,975	4,460	9,982	3,345	4,097	7,215	14,797	9,063	8,971	35,056	30,362	78,180	44,498
大学進学率【2021】	46.7%	42.1%	39.2%	47.5%	40.9%	39.9%	40.9%	53.9%	49.2%	47.7%	54.3%	55.3%	75.1%	56.7%
大学数【2021】	37	10	6	14	7	6	8	10	9	15	27	27	146	32
入学定員【2021】	18,806	3,363	2,509	11,511	2,090	2,766	3,579	6,461	4,668	5,785	28,855	25,751	153,377	44,893
大学入学者数【2021】	19,119	3,407	2,544	11,713	2,075	2,792	3,451	6,697	4,823	5,983	28,847	27,402	153,519	45,619
入学定員充足率【2021】	101.7%	101.3%	101.4%	101.8%	99.3%	100.9%	96.4%	103.6%	103.3%	103.4%	100.0%	106.4%	100.1%	101.6%
県外から流入【2021】	4,954	1,363	1,281	6,061	1,194	1,868	1,822	3,727	2,639	3,249	18,497	17,051	100,599	28,384
県内から流出【2021】	6,874	2,931	3,197	4,330	2,464	3,173	5,586	11,827	6,879	6,237	24,706	20,011	25,261	27,263
流出入差（流入-流出）【2021】	-1,921	-1,568	-1,916	1,731	-1,270	-1,305	-3,764	-8,101	-4,240	-2,988	-6,209	-2,961	75,339	1,121
自県進学率【2021】	67.3%	41.1%	28.3%	56.6%	26.3%	22.6%	22.6%	20.1%	24.1%	30.5%	29.5%	34.1%	67.7%	38.7%
18歳人口推計【2040】	25,440	5,732	5,609	12,328	3,865	5,334	8,873	15,183	10,379	10,284	41,712	35,741	92,106	52,183
大学進学者数推計【2040】	14,472	2,575	2,373	6,248	1,792	2,250	4,077	9,274	5,305	5,213	25,180	21,885	74,182	32,200
大学進学率推計【2040】	56.9%	44.9%	42.3%	50.7%	46.4%	42.2%	46.0%	61.1%	51.1%	50.7%	60.4%	61.2%	80.5%	61.7%
大学入学者数推計【2040】	13,186	1,939	1,465	7,223	1,250	1,691	2,093	4,832	3,034	4,702	21,388	20,123	121,312	34,648
入学定員充足率推計【2040】	70.1%	57.7%	58.4%	62.7%	59.8%	61.1%	58.5%	74.8%	65.0%	81.3%	74.1%	78.1%	79.1%	77.2%

	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県
18歳人口【2021】	19,807	9,656	10,574	7,584	7,768	20,242	20,034	34,622	71,537	17,458	14,328	23,145	79,549	51,482
高校等卒業者数【2021】	18,071	8,898	10,073	7,246	7,874	18,424	17,986	31,948	63,402	15,401	12,836	22,526	71,803	45,157
大学進学者数【2021】	8,698	4,561	5,607	4,104	5,018	9,269	9,760	16,879	38,573	7,864	7,185	15,965	47,469	29,769
大学進学率【2021】	43.9%	47.2%	53.0%	54.1%	64.6%	45.8%	48.7%	48.8%	53.9%	45.0%	50.1%	69.0%	59.7%	57.8%
大学数【2021】	22	5	14	6	7	11	13	14	52	7	9	34	56	36
入学定員【2021】	6,699	2,575	6,502	2,300	4,169	4,020	4,940	8,090	41,964	3,190	7,548	35,123	54,721	27,777
大学入学者数【2021】	6,592	2,588	6,492	2,362	4,245	4,163	4,825	7,970	42,461	3,303	7,661	35,049	56,375	27,050
入学定員充足率【2021】	98.4%	100.5%	99.8%	102.7%	101.8%	103.6%	97.7%	98.5%	101.2%	103.5%	101.5%	99.8%	103.0%	97.4%
県外から流入【2021】	3,132	1,640	3,813	1,083	3,012	2,276	2,679	3,165	14,960	1,554	6,052	26,717	28,439	13,866
県内から流出【2021】	5,238	3,613	2,928	2,825	3,785	7,382	7,614	12,074	11,072	6,115	5,576	7,633	19,533	16,585
流出入差（流入-流出）【2021】	-2,106	-1,973	885	-1,742	-773	-5,106	-4,935	-8,909	3,888	-4,561	476	19,084	8,906	-2,719
自県進学率【2021】	39.8%	20.8%	47.8%	31.2%	24.6%	20.4%	22.0%	28.5%	71.3%	22.2%	22.4%	52.2%	58.9%	44.3%
18歳人口推計【2040】	11,136	5,640	6,596	4,651	4,521	11,393	10,969	19,553	49,082	10,378	9,494	14,655	51,865	32,315
大学進学者数推計【2040】	5,417	3,070	3,958	2,826	3,308	6,113	6,176	9,720	28,536	5,082	5,604	11,080	35,810	20,725
大学進学率推計【2040】	48.6%	54.4%	60.0%	60.8%	73.2%	53.7%	56.3%	49.7%	58.1%	49.0%	59.0%	75.6%	69.0%	64.1%
大学入学者数推計【2040】	4,163	1,773	4,473	1,648	3,025	2,831	3,307	5,082	30,368	2,276	5,606	25,337	41,204	19,487
入学定員充足率推計【2040】	62.1%	68.8%	68.8%	71.6%	72.6%	70.4%	67.0%	62.8%	72.4%	71.4%	74.3%	72.1%	75.3%	70.2%

	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県
18歳人口【2021】	12,973	8,809	5,195	6,233	18,190	26,108	12,219	6,581	9,310	12,483	6,184	46,524	8,412	12,691
高校等卒業者数【2021】	11,585	8,163	4,820	6,014	17,342	22,985	10,855	6,054	8,593	11,445	5,891	41,516	7,697	11,857
大学進学者数【2021】	7,877	4,366	2,177	2,748	9,328	14,387	4,706	3,246	4,840	6,144	2,845	22,333	3,455	5,434
大学進学率【2021】	60.7%	49.6%	41.9%	44.1%	51.3%	55.1%	38.5%	49.3%	52.0%	49.2%	46.0%	48.0%	41.1%	42.8%
大学数【2021】	11	5	3	2	18	21	10	4	4	5	5	35	2	8
入学定員【2021】	4,858	2,035	1,519	1,617	9,905	13,399	4,211	2,893	2,189	3,860	2,215	25,761	1,818	3,986
大学入学者数【2021】	4,777	2,038	1,554	1,682	9,068	13,328	4,306	2,638	2,092	3,875	2,212	25,963	1,817	3,914
入学定員充足率【2021】	98.3%	100.1%	102.3%	104.0%	91.5%	99.5%	102.3%	91.2%	95.6%	100.4%	99.9%	100.8%	99.9%	98.2%
県外から流入【2021】	3,648	1,261	1,223	1,203	5,111	5,662	3,090	1,455	1,260	1,840	1,459	11,422	1,244	1,942
県内から流出【2021】	6,748	3,589	1,846	2,269	5,371	6,721	3,490	2,063	4,008	4,109	2,092	7,792	2,882	3,462
流出入差（流入-流出）【2021】	-3,100	-2,328	-623	-1,066	-260	-1,059	-400	-608	-2,748	-2,269	-633	3,630	-1,638	-1,520
自県進学率【2021】	14.3%	17.8%	15.2%	17.4%	42.4%	53.3%	25.8%	36.4%	17.2%	33.1%	26.5%	65.1%	16.6%	36.3%
18歳人口推計【2040】	7,294	4,953	3,259	3,996	11,892	16,686	7,063	3,829	5,640	7,171	3,528	34,719	5,622	7,814
大学進学者数推計【2040】	5,043	2,888	1,581	1,864	6,952	9,211	2,721	2,034	3,278	3,998	1,817	17,081	2,438	3,889
大学進学率推計【2040】	69.1%	58.3%	48.5%	46.6%	58.5%	55.2%	38.5%	53.1%	58.1%	55.7%	51.5%	49.2%	43.4%	49.8%
大学入学者数推計【2040】	3,378	1,434	1,100	1,169	6,514	8,838	3,011	1,778	1,444	2,589	1,497	19,315	1,326	2,857
入学定員充足率推計【2040】	69.5%	70.5%	72.4%	72.3%	65.8%	66.0%	71.5%	61.5%	66.0%	67.1%	67.6%	75.0%	72.9%	71.7%

	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
18歳人口【2021】	16,741	10,244	10,517	15,625	16,363
高校等卒業者数【2021】	15,073	9,745	9,842	14,227	14,424
大学進学者数【2021】	7,075	4,091	4,180	6,126	7,002
大学進学率【2021】	42.3%	39.9%	39.7%	39.2%	42.8%
大学数【2021】	9	5	7	6	8
入学定員【2021】	5,712	3,520	2,335	3,683	3,972
大学入学者数【2021】	5,643	3,029	2,174	3,652	4,153
入学定員充足率【2021】	98.8%	86.1%	93.1%	99.2%	104.6%
県外から流入【2021】	2,357	1,947	1,096	1,601	937
県内から流出【2021】	3,789	3,009	3,102	4,075	3,786
流出入差（流入-流出）【2021】	-1,432	-1,062	-2,006	-2,474	-2,849
自県進学率【2021】	46.4%	26.4%	25.8%	33.5%	45.9%
18歳人口推計【2040】	11,584	6,503	6,901	10,500	13,082
大学進学者数推計【2040】	5,003	2,849	2,845	4,371	6,212
大学進学率推計【2040】	43.2%	43.8%	41.2%	41.6%	47.5%
大学入学者数推計【2040】	4,052	2,258	1,528	2,673	3,527
入学定員充足率推計【2040】	70.9%	64.1%	65.5%	72.6%	88.8%

※網掛け箇所は各項目において最高値を表す

文部科学省 2040年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議（第4回）配布資料に基づき作成

共立女子大学入学志願状況

※建築・デザイン学部の令和3年度、令和4年度は、前身の家政学部建築・デザイン学科の数値を記載。

表1：入学定員充足率

入学 年度	家政学部				文芸学部	国際学部	看護学部	ビジネス学部	家政学部 建築・デザイン学科 ↓ 建築・デザイン学部	全体平均
	被服学科	食物栄養学科 ＜食物学専攻＞	食物栄養学科 ＜管理栄養士専攻＞	児童学科						
令和3年度	1.08	1.24	1.10	0.93	1.04	1.05	1.03	1.15	1.18	1.09
令和4年度	1.11	1.18	1.10	1.07	1.04	1.08	1.04	1.16	1.18	1.11
令和5年度	1.01	0.84	1.02	1.05	0.94	1.03	1.10	1.07	1.08	1.02
令和6年度	1.04	1.04	1.22	0.93	1.00	0.98	0.97	1.05	1.12	1.04
令和7年度	1.13	0.93	1.10	0.85	1.07	1.08	1.09	1.08	1.01	1.04
平均	1.07	1.05	1.11	0.97	1.02	1.04	1.05	1.10	1.11	1.06

表2：実質倍率（延べ受験者数/合格者数）

入学 年度	家政学部				文芸学部	国際学部	看護学部	ビジネス学部	家政学部 建築・デザイン学科 ↓ 建築・デザイン学部	全体平均
	被服学科	食物栄養学科 ＜食物学専攻＞	食物栄養学科 ＜管理栄養士専攻＞	児童学科						
令和3年度	1.51	1.41	3.22	1.44	1.92	1.64	1.68	2.00	2.36	1.91
令和4年度	1.81	1.85	4.27	1.39	1.14	1.15	2.35	1.71	2.18	1.98
令和5年度	1.57	1.63	4.56	1.48	1.21	1.28	2.00	1.75	4.10	2.18
令和6年度	1.40	1.34	2.17	1.23	1.22	1.21	1.98	1.42	3.12	1.68
令和7年度	1.44	1.19	2.44	1.17	1.61	1.23	2.18	2.00	2.61	1.76
平均 (令和3年度～ 7年度)	1.54	1.49	3.33	1.34	1.42	1.30	2.04	1.78	2.88	1.90
平均 (令和5年度～ 7年度)	1.47	1.39	3.06	1.30	1.35	1.24	2.06	1.72	3.28	1.87

家政学部建築・デザイン学科の2か年平均（令和3年度～4年度） 2.27

↓

建築・デザイン学部開設後の3か年平均（令和5年度～7年度） 3.28

表3：志願倍率（延べ志願者数/入学定員）

入学 年度	家政学部				文芸学部	国際学部	看護学部	ビジネス学部	家政学部 建築・デザイン学科 ↓ 建築・デザイン学部	全体平均
	被服学科 ＜入学定員 90人＞	食物栄養学科 ＜食物学専攻＞ ＜入学定員 55人＞	食物栄養学科 ＜管理栄養士専攻＞ ＜入学定員 50人＞	児童学科 ＜入学定員 150人＞						
令和3年度	4.09	6.20	9.30	3.89	4.89	4.97	4.94	5.97	5.22	5.50
令和4年度	4.52	5.82	8.84	3.51	3.21	4.03	6.33	4.87	4.58	5.08
令和5年度	3.51	5.62	8.74	3.37	3.19	4.31	5.93	4.69	7.77	5.24
令和6年度	3.61	5.25	6.26	3.01	3.35	4.17	5.30	4.12	6.34	4.60
令和7年度	3.32	4.85	7.02	2.60	4.18	4.06	6.16	5.43	4.39	4.67
平均 (令和3年度～ 7年度)	3.81	5.55	8.03	3.28	3.76	4.31	5.73	5.02	5.66	5.02
平均 (令和5年度～ 7年度)	3.48	5.24	7.34	3.00	3.57	4.18	5.80	4.75	6.17	4.84

家政学部建築・デザイン学科の2か年平均（令和3年度～4年度） 4.90

↓

建築・デザイン学部開設後の3か年平均（令和5年度～7年度） 6.17

表4：歩留率

入学 年度	家政学部				文芸学部	国際学部	看護学部	ビジネス学部	家政学部 建築・デザイン学科 ↓ 建築・デザイン学部	全体平均
	被服学科	食物栄養学科 ＜食物学専攻＞	食物栄養学科 ＜管理栄養士専攻＞	児童学科						
令和3年度	0.43	0.31	0.41	0.37	0.44	0.37	0.37	0.41	0.56	0.41
令和4年度	0.47	0.39	0.56	0.46	0.39	0.34	0.41	0.44	0.60	0.45
令和5年度	0.49	0.26	0.56	0.50	0.38	0.33	0.40	0.43	0.62	0.44
令和6年度	0.46	0.31	0.48	0.43	0.40	0.31	0.40	0.40	0.60	0.42
令和7年度	0.55	0.26	0.44	0.43	0.44	0.35	0.41	0.44	0.64	0.44
平均 (令和3年度～ 7年度)	0.48	0.31	0.49	0.44	0.41	0.34	0.40	0.42	0.60	0.43
平均 (令和5年度～ 7年度)	0.50	0.28	0.49	0.45	0.41	0.33	0.40	0.42	0.62	0.43

家政学部建築・デザイン学科の2か年平均（令和3年度～4年度） 0.58

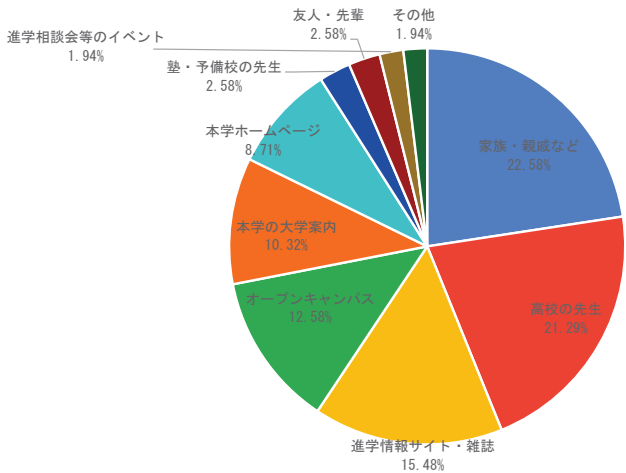
↓

建築・デザイン学部開設後の3か年平均（令和5年度～7年度） 0.62

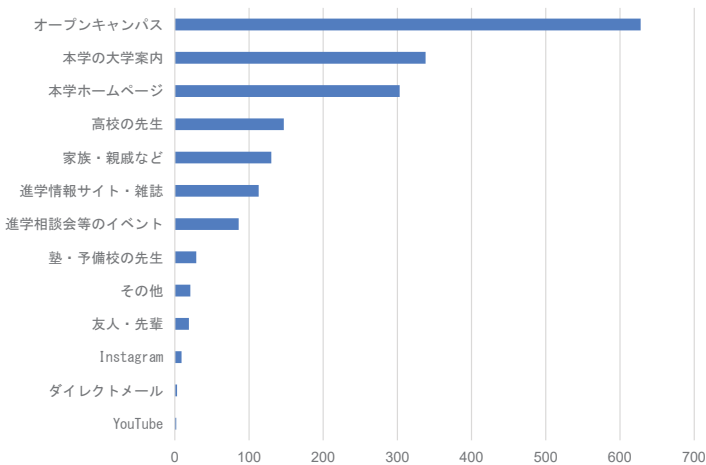
建築・デザイン学部 在学生アンケート結果

＜調査目的＞ 建築・デザイン学部の学生の学部認知から志望決定に至る情報経路及び受験時の志望度を把握するため
＜調査対象＞ 建築・デザイン学部の学生(1～3年生) 326名
＜調査時期＞ 令和7年9月下旬
＜調査方法＞ 紙による回答
＜回答率＞ 95.09%(310名)

1. 共立女子大学建築・デザイン学部を最初に知ったきっかけ



2. 共立女子大学建築・デザイン学部への志望に結び付いた情報収集源



※集計方法
志望に結び付いた情報収集源として重要だった広報を順位をつけて3つまで選択してもらい、1位を3点、2位を2点、3位を1点として集計

3. 第一志望大学決定時期

決定時期	高1				高2				高3				未回答	合計
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
回答数	6	6	3	2	6	24	9	28	48	139	22	16	1	310
割合	1.94%	1.94%	0.97%	0.65%	1.94%	7.74%	2.90%	9.03%	15.48%	44.84%	7.10%	5.16%	0.32%	100.00%
18.06%				81.61%										

4. 共立女子大学建築・デザイン学部の志望度

本学の志望度	第一志望	第二志望	第三志望	第四志望以下	未回答	合計
回答数	238	35	6	30	1	310
割合	76.77%	11.29%	1.94%	9.68%	0.32%	100.00%

5. 共立女子大学建築・デザイン学部を第一志望とした学生が志望大学を決定した時期

決定時期	高1				高2				高3				未回答	合計
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
回答数	5	2	2	2	5	16	7	22	41	114	13	8	1	238
割合	2.10%	0.84%	0.84%	0.84%	2.10%	6.72%	2.94%	9.24%	17.23%	47.90%	5.46%	3.36%	0.42%	100.00%
16.39%				83.19%										

競合校分析

大学・学部・学科	学位	教育内容	入試方式	初年度学納金	奨学金	取得資格				就職支援	立地	
						一級建築士 (受験資格)	二級建築士 (受験資格)	学芸員	インテリア プランナー (資格取得 2年未満)			
共立女子大学 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科	学士(美術)	建築・デザイン学部は、美術の視点から「空間」や「モノ」をとらえ、創造的に提案、実践をできる人材を育成。1年次に全員が建築、デザイン、クリエイティブの基礎を横断的に学び、その上で、2年次からは建築コースは建築分野、インテリア分野、デザインコースはグラフィック分野・プロダクト分野、クリエイティブコースは地域デザイン分野、企画・プロデュース分野に所属。	・総合型選抜(共立リーダーシップ方式) ・総合型選抜(基礎力判定方式) ・学校推薦型選抜(公募制推薦、指定校制推薦、卒業生子女推薦) ・一般選抜(全学統一方式) ・一般選抜 2月前期8日程(個別学力試験方式、外部英語検定利用方式) ・一般選抜 2月後期日程(個別学力試験方式、外部英語検定利用方式) ・一般選抜 2月後期日程 ・大学入学共通テスト併用選抜 ・特別選抜(海外帰国子女特別選抜、社会人特別選抜、児童養護施設等出身者特別選抜、外国人留学生入試)	1,470,000	[給付]資格取得・進路支援等給付奨学金(10E1C、指定の民間資格、国家資格取得が対象) [給付]共立女子大学・共立女子短期大学実務体験奨学金 [減免]共立女子大学・共立女子短期大学私立外国人留学生授業料減免 [給付]共立女子大学・共立女子短期大学 独立行政法人日本学生支援機構貸与奨学金利用者限定給付奨学金 [給付]共立女子大学・共立女子短期大学正課外活動奨励奨学金 [給付]共立女子大学・共立女子短期大学養護施設等出身者給付奨学金 [給付]国際交流奨学金制度 [給付]緑友会奨学金 [給付]スカラシップ奨学生制度	○	○	○	木造建築士(受験資格) 建築設備士 [給付]共立女子大学・共立女子短期大学実務体験奨学金 [減免]共立女子大学・共立女子短期大学私立外国人留学生授業料減免 [給付]共立女子大学・共立女子短期大学正課外活動奨励奨学金 [給付]共立女子大学・共立女子短期大学養護施設等出身者給付奨学金 [給付]国際交流奨学金制度 [給付]緑友会奨学金 [給付]スカラシップ奨学生制度	担当部署：キャリアセンター 特色ある取組：きめ細やかなキャリア支援体制が特長。学生全員が担任(アカデミック・アドバイザー)と毎年面談し、キャリアカウンセリングによる個別相談を実施。履歴書添削や就職講座に加え、令和7年度からは経済同友会と連携し、単位認定可能な実践的インターンシップ機会を低年次から提供することで、学生の納得いく進路決定を組織的にサポート。	<神田一ツ橋キャンパス> ・半蔵門線・三田線・新宿線「神保町」駅から徒歩1分 ・東西線「竹橋」駅から徒歩3分 ・東西線、半蔵門線・新宿線「九段下」駅から徒歩3号館まで徒歩2分、本館まで徒歩5分	
実践女子大学 環境デザイン学部 環境デザイン学科	学士(環境デザイン学)	生活環境を多角的にとらえてデザインする力を養うカリキュラムを通して、暮らしに豊かにする実践力を身につける。 「建築・住環境デザイン」「プロダクト・インテリア」「パブリック・ファッション」「総合デザイン」の4つのデザイン領域をともに、自由に選択して学ぶ。	・総合型Ⅰ期：総合評価方式、探究学習・プレゼンテーション方式、高校時代活動アピール方式 ・総合型Ⅱ期：総合評価方式、探究学習・プレゼンテーション方式、高校時代活動アピール方式、基礎学力試験方式 ・総合型Ⅲ期：総合評価方式 ・学校推薦型選抜(公募推薦、公募併願、卒業生・在学生推薦) ・一般Ⅰ期・Ⅱ期：2科目型、3科目型、3科目型<外部試験利用方式> ・一般Ⅱ期：2科目型、2科目型<高校時代活動評価方式> ・大学入学共通テストⅠ期：2科目型、2科目型<外部試験利用方式>、3科目型、3科目型<外部試験利用方式> ・大学入学共通テストⅡ期：2科目型<傾斜配点方式> ・大学入学共通テストⅢ期：2科目型 ・大学入学共通テストⅣ期：2科目型	1,527,010	[給付]教職員奨学金：半期学費相当額 [給付]後援企業ファースト・イアーズカラシップ：20万円 [貸与・無利息]応急特別奨学金：後期学納金相当額 [給付]学組下田歌子奨学金：記念品・30万円 [給付]羽山・昭子奨学金：5万円・20万円 [給付]JISSEN Student's Reflection Award：5～10万円 [給付]実践チャレンジ奨励金：活動費用実費(上限20万円) [給付]創立120周年記念奨学金(実践女子学園下田歌子奨学金)：毎年度20万円	○	○	○	中学校教諭一種免許状(家庭科) 高等学校教諭一種免許状(家庭科) 司書教諭(教員免許) 1級衣料管理士	担当部署：学生総合支援センター キャリアサポート部 特色ある取組：入学から卒業後まで一貫して支援する「J-TAS (Jissen Total Advanced Support)」体制を構築し、学生の成長を多角的にサポート。	<日野キャンパス> ・JR中央線「日野駅」から徒歩12分	
昭和女子大学 環境デザイン学部 環境デザイン学科	学士(環境デザイン)	「個人の想像力」と「社会を顧みる力」を養うため、それぞれを基礎から応用に発展させていく学科コア科目により幅広いデザインの知識を修得。建築・インテリア・プロダクト・ファッション・プロデュースの4つのコースから希望コースを選択。	・総合型選抜 ・公募制推薦<基礎力テスト型> ・公募制推薦<総合評価型> ・光栄同志会推薦 ・指定校制推薦 ・一般入試(A日程)：2科目 ・一般入試(B日程)：2科目 ・一般入試(3月期)：2科目 ・共通テスト利用型(Ⅰ期・Ⅱ期)：2科目 ・共通テスト利用型(Ⅰ期・Ⅱ期)<英語4技能試験活用方式> ・外国人留学生	1,488,000	[給付]入見記念奨学金：年額20万円 [貸与・無利息]入見記念奨学金：学納金 [給付]成績優秀者奨学金：年額20万円 [貸与・無利息]昭和学園奨学金：ポスト入留学納付金 [給付]認定留学奨学金：授業料 [給付]稲垣奨励金：活動の実績による(5万・10万円目安) [給付]石間奨学金：30万円 [給付]MAKOTO奨学金：学費全額(4年間) [給付]光栄同志会光栄級奨学金：年額5万円	○	○	○	木造建築士(受験資格) 建築設備士 施工管理技士 商業施設士	担当部署：キャリア支援センター 特色ある取組：「社会人メンター制度」を運用し、卒業生コミュニティを積極的に活用。学生有志団体「光栄キャリア塾」が、主体的に自分分析会やメンターカフェなどを企画・運営。	<三軒茶屋キャンパス> ・東武東横線「三軒茶屋駅」から徒歩7分	
日本女子大学 建築デザイン学部 建築デザイン学科	学士(建築デザイン)	人文、理工、芸術を融合した総合学問としての「建築デザイン」を学ぶ。住居から都市空間までの広範な建築分野の理解と、それらを統合するデザイン教育がカリキュラムの核幹。	・総合型選抜：空間表現、口述試験 ・学校推薦型選抜(公募制)：2科目入試・3科目入試 ・一般選抜(個別選抜型)：2科目型・3科目入試 ・一般選抜(英語外部試験利用型) ・一般選抜(大学入学共通テスト利用型)：前期3,4科目型、前期5科目型、後期 ・外国人学生入試	1,604,660	[給付]日本女子大学授業奨学金：30万円 [給付]日本女子大学奨学金支援給付奨学金：30万円(日本学生支援機構の貸与奨学金を受給中の者が対象) [給付]授業奨励金新入生奨学金：年間5万円 [給付]日本女子大学泉愛spring新入生奨励金：20万円 [給付]日本女子大学学業成績優秀賞・研究奨励賞：40万円 [給付]成瀬に蔵先生記念賞：3万円 [給付]森村豊明会奨励賞：50万円 [給付]日本女子大学上代タノ奨学金：20万円 [給付]日本女子大学特別活動給付奨学金：20万円 [給付]泉愛課外活動労苦賞(個人対象)：30,000円 [給付]日本女子大学住居学料費：不明	○	○	○	○	社会福祉主事 木造建築士(受験資格) 建築設備士	担当部署：学生生活部 キャリア支援課 特色ある取組：キャリア教育を学問と一体化させており、インターンシップを正統の科目として単位認定するなど、早期からの意識づけを行っている。	<目黒キャンパス> ・JR山手線「目黒駅」から徒歩約15分 ・東京メトロ副都心線「雑司が谷駅」から徒歩8分
武蔵野美術大学 造形学部 造形学科	学士(造形)	空間を構成する造形能力を身につけ、建築と生活基盤である場所や地域との有機的関係の構築を学ぶ。計画と設計を分けるとなく、トータルな表現として建築に取り組むための演習課題である「設計計画」が4年間必修。	・総合型選抜(前期) ・一般選抜(一般方式) ・一般選抜(大学入学共通テスト利用方式)：共通テスト2教科+専門試験方式、共通テスト3教科方式 ・外国人学生特別選抜 ・帰国生特別選抜	1,928,000	[給付]武蔵野美術大学奨学金：25万円 [給付]武蔵野美術大学地方出身学生支援奨学金：30万円 [給付]私費外国人留学生奨学金：30万円 [給付]外国留学奨励奨学金：留学期間に応じて日本学生支援機構海外留学支援制度(協定派遣)が定める派遣先地域による奨励金月額 [給付]校友会奨励金(造形学部4年生対象)：10万円 [減免]災害救助法による学費減免：減免額は罹災程度による(経費補助)学生傷害診療費補助：上限15,000円	○	○	○	木造建築士(受験資格)	担当部署：キャリアセンター 特色ある取組：キャリアセンターの窓口では、担当学科の特徴やカバーしている分野を深く理解している職員に相談できる。また、過去の優秀なポートフォリオをいつでも閲覧が可能。	<鷹の台キャンパス> ・西武国分寺線「鷹の台駅」から徒歩18分	
明星大学 デザイン学部 デザイン学科	学士(デザイン学)	デザイン力を企画力(分析力・発想力・構想力)と表現力(美的表現力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力)とを総合的に働かせる力とをらえ、その「企画×表現」を実践的に学ぶ必修科目として「企画表現演習科目」をカリキュラムの中心に置き、社会のあらゆる場面で役立つデザイン力(社会とつながるデザイン力)を身につける。	・総合型選抜Ⅰ期 ・総合型選抜Ⅱ期 ・総合型選抜Ⅲ期 ・スカラシップ選抜(学費免除型/一般選抜免除型) ・一般選抜Ⅰ期：2教科型、3教科型、4教科型、特定+1教科型 ・一般選抜Ⅱ期：2教科型、3教科型 ・大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期：4教科型、3教科型 ・大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期：2教科型	1,658,600	[給付]明星大学特待生奨学金(学部)：80万円 [給付]明星学園ファミリー奨学金：20万円 [給付]明星大学修学支援緊急奨学金(4年生特・緊急対応枠)：50万円 [給付]明星学苑 災害被災学生等の特別支援措置：金額は被災状況に応じて異なる [給付]明星大学助成奨学金：36万円/年(3万円/月) [給付]明星大学石間奨学金：40万円 [給付・減免]明星大学における海外留学の奨学金(短期留学・長期留学) [給付]明星大学スポーツ・文化活動特別推薦奨学金：50万円または20万円 [減免]明星大学児童福祉奨学金：入学金の免除及び年間学費の半額を減免 [給付]明星大学同窓生家族修学助成奨学金：5万円				カラーコーディネーター検定 Webデザイナー検定 Adobe認定プロフェッショナル(Adobe Certified Professional) Adobe Certified Professional in Visual Design Adobe Certified Professional in Video Design	担当部署：就職センター 特色ある取組：創業支援拠点「MEISEI CROSSING BASE」を設置し、起業相談や地域事業家等との連携企画、学生の起業活動に伴走するプログラムなど、就職以外のキャリアパスも積極的に支援。	<日野キャンパス> ・多摩モノレール「中央大学・明星大学駅」直結 ・京王線「多摩動物公園駅」から徒歩8分	

※武蔵野美術大学と明星大学は、共学校。
※2025年度実績(入試方式のみ2026年度入試)を記載

各大学ホームページの掲載データに基づき作成

競合校学生納付金

大学名	学部名	学科名	入学定員	初年度納付金	入学金	授業料	施設設備	実験実習	諸会費（教育充実費、学友会費等）
共立女子大学	建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	100	1,470,000	150,000	850,000	410,000	60,000	0

大学名	学部名	学科名	入学定員	初年度納付金	入学金	授業料	施設設備・維持費	実験実習	諸会費（教育充実費、学友会費等）
実践女子大学	環境デザイン学部	環境デザイン学科	80	1,527,010	240,000	830,000	380,000	40,000	37,010
昭和女子大学	環境デザイン学部	環境デザイン学科	210	1,488,000	200,000	885,600	280,000	60,000	62,400
日本女子大学	建築デザイン学部	建築デザイン学科	100	1,604,660	200,000	1,030,000	320,000	5,000	49,660
武蔵野美術大学	造形学部	建築学科	72	1,928,000	300,000	1,210,000	418,000	0	0
明星大学	デザイン学部	デザイン学科	120	1,658,600	230,000	990,000	300,000	0	138,600
競合校平均				1,641,254	234,000	989,120	339,600	21,000	57,534

※令和8年度入学生の学生納付金を記載

各大学ホームページの掲載データに基づき作成

競合校一般選抜志願動向及び入学状況

競合校一般選抜志願動向

大学名	学部・学科・専攻名	令和4年度						令和5年度						令和6年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	実質倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	実質倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	実質倍率
		a	b	c	d	b/a	c/d	e	f	g	h	f/e	g/h	i	j	k	l	j/i	k/l
共立女子大学	建築・デザイン学部 建築・デザイン学科(※1)	48	345	320	104	7.19	3.08	57	641	584	85	11.25	6.87	62	496	447	94	8.00	4.76

大学名	学部・学科・専攻名	令和4年度						令和5年度						令和6年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	実質倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	実質倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	実質倍率
		a	b	c	d	b/a	c/d	e	f	g	h	f/e	g/h	i	j	k	l	j/i	k/l
実践女子大学	環境デザイン学部 環境デザイン学科(※2)	49	231	215	96	4.71	2.24	45	217	206	75	4.82	2.75	44	171	151	106	3.89	1.42
昭和女子大学	環境デザイン学部 環境デザイン学科	144	1203	1113	477	8.35	2.33	144	1205	1136	378	8.37	3.01	141	1157	1093	356	8.21	3.07
日本女子大学	建築デザイン学部 建築デザイン学科(※3)	67	717	707	176	10.70	4.02	67	629	617	189	9.39	3.26	71	833	808	205	11.73	3.94
武蔵野美術大学	造形学部 建築学科	62	524	507	180	8.45	2.82	62	526	515	132	8.48	3.90	62	507	496	136	8.18	3.65
明星大学	デザイン学部 デザイン学科	54	470	440	294	8.70	1.50	47	564	539	486	12.00	1.11	32	555	534	294	17.34	1.82

競合校入学状況

大学名	学部・学科・専攻名	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和4～6年 平均入学定員 充足率
		入学定員	入学者数	入学定員充足率(o)	入学定員	入学者数	入学定員充足率(r)	入学定員	入学者数	入学定員充足率(u)	入学定員	入学者数	入学定員充足率(x)	
		m	n	n/m	p	q	q/p	s	t	t/s	v	w	w/v	
共立女子大学	建築・デザイン学部 建築・デザイン学科(※1)	100	118	1.18	100	108	1.08	100	112	1.12	100	101	1.01	$(o+r+u)/3$ 1.13

大学名	学部・学科・専攻名	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和4～6年 平均入学定員 充足率
		入学定員	入学者数	入学定員充足率(o)	入学定員	入学者数	入学定員充足率(r)	入学定員	入学者数	入学定員充足率(u)	入学定員	入学者数	入学定員充足率(x)	
		m	n	n/m	p	q	q/p	s	t	t/s	v	w	w/v	
実践女子大学	環境デザイン学部 環境デザイン学科(※2)	80	94	1.18	80	89	1.11	80	68	0.85	81	113	1.40	1.05
昭和女子大学	環境デザイン学部 環境デザイン学科	210	235	1.12	210	220	1.05	210	213	1.01	210	243	1.16	1.06
日本女子大学	建築デザイン学部 建築デザイン学科(※3)	92	96	1.04	92	90	0.98	100	97	0.97	100	111	1.11	1.00
武蔵野美術大学	造形学部 建築学科	72	77	1.07	72	77	1.07	72	77	1.07	72	78	1.08	1.07
明星大学	デザイン学部 デザイン学科	120	114	0.95	120	158	1.32	120	124	1.03	120	137	1.14	1.10

※下線は入学者数が非公表のため、令和7年5月1日の在籍者数

※1 共立女子大学建築・デザイン学部建築・デザイン学科は、令和5(2023)年度開設。令和4(2022)年度までは、家政学部建築・デザイン学科のデータ（灰色塗箇所）。

※2 実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科は、令和7（2025）年度開設。令和6(2024)年度までは生活科学部生活環境学科のデータ（灰色塗箇所）。

※3 日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科は、令和6(2024)年度開設。令和5(2023)年度までは、家政学部住居学科のデータ（灰色塗箇所）。

各大学ホームページ及び大学通信「Campus Navi Perfect」のデータに基づき作成

共立女子大学
「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」
入学定員の増員に関するニーズ調査
【高校生対象調査】
結果報告書

2026年2月
株式会社 進研アド

© Shinken·Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2027年4月の共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」
入学定員の増員に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		調査①	調査②
調査対象		高校2年生の女子	
調査エリア		東京都、神奈川県、千葉県、 埼玉県、茨城県	—
調査方法		高校留め置き調査 (紙・Web媒体のものを適宜併 用し実施)	オープンキャンパス及び進学 相談会における調査 (紙媒体のものを直接配布の 上、実施)
調査 対象数	依頼数	17,041 (102校)	—
	回収数※	8,073 (85校) 回収率:47.4%	243
調査時期		2025年3月～2025年11月	
調査実施機関		株式会社 進研アド	

※「回収数」は、性別「女性」を選択したもの、且つ、重複回答を排除する前の数値。

高校生対象調査(調査項目)
・性別 ・学年 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・興味のある学問分野 ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度 ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」への受験意向 ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」への入学意向

入学意向調査 調査結果

- アンケートの重複回答を排除するため、同内容のアンケートに回答したかを確認する設問を設け、「同じアンケートに回答したことはない」と回答した者のみで集計している。そのため、調査結果に重複はない。
調査結果の表中に示す割合(%)の母数は、特に断りがない場合、重複排除後の有効回答者全体数(7,397名)である。
- 各割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

回答者の属性

※本調査は、共立女子大学の「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に対する需要を確認するための調査として設計した。共立女子大学の主な学生募集エリアである一都四県(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県)の高校に在籍する2年生の女子生徒、及びオープンキャンパスや進学相談会に参加した高校2年生の女子生徒を対象に調査を実施し、7,397名から回答を得た。

- 調査対象者別の回答者数は、調査①(高校留め置き調査)が7,190名、調査②(オープンキャンパス及び進学相談会における調査)が207名である。回答者全体に占める割合は、調査①(高校留め置き調査)が97.2%、調査②(オープンキャンパス及び進学相談会における調査)が2.8%である。
- 回答者の性別は「女性」が100.0%である。
- 回答者の学年は「高校2年生」が100.0%である。
- 回答者の高校種別は「国立」が0.0%、「公立」が35.3%、「私立」が64.5%、「無回答」が0.1%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、共立女子大学の所在地である「東京都」が33.2%を占め、最も多い。次に「千葉県」が27.8%、「埼玉県」が18.0%、「神奈川県」が16.5%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が48.9%を占め、最も多い。次に「理系クラス(理系コース)」が29.3%と続く。

回答者の属性

回答者の属性

■調査対象

	標 本 数	調 査 ① (高 校 留 め 置 き 調 査)	パ ー ス ② (オ ー プ ン キ ャ ン ペ イ ン 調 査)
上段:件数(名) 下段:%			
全体	7,397 100.0	7,190 97.2	207 2.8

■性別

	標 本 数	女 性	男 性	回 答 し な い	無 回 答
上段:件数(名) 下段:%					
全体	7,397 100.0	7,397 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

■学年

	標 本 数	高 校 1 年 生	高 校 2 年 生	高 校 3 年 生	そ の 他	無 回 答
上段:件数(名) 下段:%						
全体	7,397 100.0	0 0.0	7,397 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

■高校種別

	標 本 数	国 立	公 立	私 立	無 回 答
上段:件数(名) 下段:%					
全体	7,397 100.0	1 0.0	2,612 35.3	4,774 64.5	10 0.1

回答者の属性

■高校所在地

	標 本 数	北 海 道	青 森 県	山 形 県	茨 城 県	群 馬 県	埼 玉 県	千 葉 県	東 京 都
上段:件数(名) 下段:%									
全体	7,397 100.0	2 0.0	1 0.0	1 0.0	311 4.2	2 0.0	1,335 18.0	2,053 27.8	2,454 33.2

	標 本 数	神 奈 川 県	山 梨 県	長 野 県	岐 阜 県	静 岡 県	山 口 県	沖 縄 県	無 回 答
上段:件数(名) 下段:%									
全体	7,397 100.0	1,219 16.5	2 0.0	3 0.0	1 0.0	1 0.0	1 0.0	1 0.0	10 0.1

■所属クラス

	標 本 数	文 系 ク ラ ス (文 系 コ ー ス)	理 系 ク ラ ス (理 系 コ ー ス)	そ の 他	無 回 答
上段:件数(名) 下段:%					
全体	7,397 100.0	3,620 48.9	2,170 29.3	1,220 16.5	387 5.2

高校卒業後の希望進路

- 回答者のうち、今後「大学」に進学することを検討・希望している人は94.1%。以下、「専門学校」に進学が15.8%、「短期大学」が7.4%と続く。「専門職大学」に進学は3.4%、「就職」は2.2%、「専門職短期大学」に進学は0.9%が興味を示している。
- 高校卒業後の希望進路として「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した人に、設置者ごとの進学希望を複数回答で聴取した。その結果、共立女子大学の該当する「私立」への進学を希望する人は89.8%、「国立」が24.0%、「公立」が23.6%であった。
- 大学進学希望者に限定すると「私立」への進学を希望する人は90.0%、「国立」が24.3%、「公立」が23.2%であった。

高校卒業後の希望進路

高校卒業後の希望進路

■高校卒業後の進路

Q1. あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路すべてに○をつけてください。(複数選択可)

	標 本 数	大 学	短 期 大 学	専 門 職 大 学	専 門 職 短 期 大 学	専 門 学 校	就 職	そ の 他	無 回 答
上段：件数(名) 下段：%									
全体	7,397 100.0	6,962 94.1	545 7.4	255 3.4	65 0.9	1,167 15.8	165 2.2	78 1.1	8 0.1

- 「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した7,138名と、そのうち「大学」を選択した6,962名を抽出

■高校卒業後の進路(設置者別)

Q2. 志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している(希望している)設置者すべてに○をつけてください。(複数選択可)

	標 本 数	私 立	国 立	公 立	無 回 答
上段：件数(名) 下段：%					
大学・短期大学・専門職大学・ 専門職短期大学進学希望者	7,138 100.0	6,410 89.8	1,711 24.0	1,682 23.6	61 0.9
大学進学希望者	6,962 100.0	6,269 90.0	1,692 24.3	1,615 23.2	55 0.8

- 大学・短期大学・専門職大学・専門職短期大学進学希望者の下段：%の母数は、Q1で「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した7,138名
- 大学進学希望者の下段：%の母数は、Q1で「大学」を選択した6,962名

興味のある学問分野

- 回答者の興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、「保健(医学、薬学、看護学など)」が22.5%と最も高い。次いで、「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する「デザイン」が21.3%、「人文科学(文学、史学など)」が19.2%と続く。
- 「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する学問分野への関心は、「デザイン」21.3%、「美術」16.1%、「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」9.4%、「工芸学」5.5%、「土木建築学」5.4%、「住居学」4.9%。また、「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する「美術」「デザイン」「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」「住居学」「土木建築学」「工芸学」のいずれか1つ以上の学問分野に興味がある人は2,507名で、回答者全体の33.9%であった。
- 回答者のうち、私立大学進学希望者(※)に限定すると、興味のある学問分野は「保健(医学、薬学、看護学など)」が22.2%で最も高い。次いで、「デザイン」が21.2%、「人文科学(文学、史学など)」が20.8%と続く。
- また、私立大学進学希望者の「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する学問分野への関心は、「デザイン」21.2%、「美術」15.9%、「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」9.6%、「土木建築学」5.6%、「工芸学」5.4%、「住居学」5.2%。「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する「美術」「デザイン」「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」「住居学」「土木建築学」「工芸学」のいずれか1つ以上の学問分野に興味がある人は2,113名で、回答者全体の33.7%であった。

※私立大学進学希望者

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望
- ② Q2で「私立」への進学を希望

興味のある学問分野

興味のある学問分野

Q3. 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)

		芸術					家政学					工学			その他								無回答	関連学問分野
	標本数	美術	デザイン	音楽	その他の芸術（建築学、環境計画学など）	住居学	食物学	被服学	児童学	その他家政学	土木建築学	工芸学	その他の工学（電気電子工学、機械工学など）	人文科学（文学、史学など）	社会科学（法学、経済学など）	理学（数学、物理学など）	農学（林学、水産学など）	保健（医学、薬学、看護学など）	教育（教育学、体育学など）	その他				
上段:件数(名) 下段:%																								
全体	7,397 100.0	1,188 16.1	1,576 21.3	726 9.8	696 9.4	366 4.9	700 9.5	377 5.1	657 8.9	102 1.4	396 5.4	410 5.5	272 3.7	1,420 19.2	1,289 17.4	495 6.7	367 5.0	1,663 22.5	1,067 14.4	1,106 15.0	183 2.5	2,507 33.9		

		芸術				家政学					工学			その他								無回答	関連学問分野
	標本数	美術	デザイン	音楽	その他の芸術（建築学、環境計画学など）	住居学	食物学	被服学	児童学	その他家政学	土木建築学	工芸学	機械工学など	その他の工学（電気電子工学、人文科学（文学、史学など）	社会科学（法学、経済学など）	理学（数学、物理学など）	農学（林学、水産学など）	保健（医学、薬学、看護学など）	教育（教育学、体育学など）	その他			
上段:件数(名) 下段:%																							
私立大学 進学希望者	6,269 100.0	996 15.9	1,331 21.2	614 9.8	600 9.6	323 5.2	593 9.5	321 5.1	555 8.9	82 1.3	353 5.6	340 5.4	223 3.6	1,301 20.8	1,187 18.9	402 6.4	312 5.0	1,389 22.2	926 14.8	964 15.4	63 1.0	2,113 33.7	

- ・私立大学進学希望者:%の母数は、私立大学進学希望者(6,269名)
- ・関連学問分野:「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の学びと関連する「美術」「デザイン」「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」「住居学」「土木建築学」「工芸学」のいずれか1つ以上の学問分野に興味がある人

高校生
対象

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」クロス集計結果

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」 クロス集計結果

- Q5. 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科(入学定員150名)」の受験を希望しますか。
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つに○をつけてください。
- Q6. Q5で①～③(受験する)を選択した方に質問です。
共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つに○をつけてください。

回答者数 (合計)	Q1 卒業後の進路	Q2 進学希望の 大学設置者	Q3 興味のある 学問分野	Q5 収容定員を増加する 組織の受験希望有無	Q6 合格した場合の 入学希望有無
7,397名	うち、 ①大学に進学 6,962名 (94.1%)	うち、 ①私立 6,269名 (84.8%)	うち、 「美術」「デザイン」「その他の芸術(建築学、環境計画学など)」「住居学」「土木建築学」「工芸学」を選択 2,113名 (28.6%) ※収容定員を増加する組織に該当する学問分野のいずれかを選択した者のみ記載	①第一志望として受験する 234名 (3.2%)	①入学する 223名 (3.0%)
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 7名 (0.1%)
					③入学しない 4名 (0.1%)
				②第二志望として受験する 101名 (1.4%)	①入学する 21名 (0.3%)
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 80名 (1.1%)
					③入学しない 0名 (0.0%)
				③第三志望以降として受験する 322名 (4.4%)	①入学する 5名 (0.1%)
					②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 278名 (3.8%)
					③入学しない 30名 (0.4%)
				④受験しない	

クロス集計の結果: **入学見込者
223名**

- ・%の母数は、回答者全体(7,397)
- ・「入学見込者」=Q1で「大学」、Q2で「私立」、Q3で収容定員を増加する組織に該当する学問分野のいずれかを選択、Q5で「第一志望で受験する」、Q6で「入学する」と回答した人

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度

【建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 ターゲット層】

下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 2,113名(回答者全体の28.6%)

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、建築・デザイン学部 建築・デザイン学科の学びと関連する学問分野(美術、デザイン、その他の芸術(建築学、環境計画学など)、住居学、土木建築学、工芸学)のいずれかに興味あり



- ・ターゲット層における「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「**■**デザインコースの特色 市場やユーザーを理解したうえで、使い手の視点や作り手の視点を合わせ持ちながら、家具、雑貨、パッケージ、広告などのデザイン力を身に付けることができるコース。」。次点で高いのは「建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。」であった。
- ・ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人における「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。」。次点で高いのは「**■**デザインコースの特色 市場やユーザーを理解したうえで、使い手の視点や作り手の視点を合わせ持ちながら、家具、雑貨、パッケージ、広告などのデザイン力を身に付けることができるコース。」であった。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 特色に対する魅力度

Q4. 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A: 建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。

特色B: ■建築コースの特色
使い手の視点と作り手の視点を合わせ持ちながら、建築、住まい、商業施設などの設計・施工・監理に関する技術を身に付けることができるコース。

特色C: ■デザインコースの特色
市場やユーザーを理解したうえで、使い手の視点や作り手の視点を合わせ持ちながら、家具、雑貨、パッケージ、広告などのデザイン力を身に付けることができるコース。

特色D: ■コクリエイトコース*の特色
対話を通じて課題を発見し、解決策を創造するとともに、「まち」「コミュニティ」のデザインや「商品」「イベント」の企画・運営に関する知識・技能を身に付けることができるコース。
*コクリエイト(Co-create)とは「Co=共に、共同の」「create=創造する」を合わせた言葉です。

	標 本 数	特 色 A	特 色 B	特 色 C	特 色 D
上段:件数(名) 下段:%					
ターゲット層	2,113 100.0	1,763 83.4	1,499 70.9	1,882 89.1	1,635 77.4
第一志望で受験かつ入学する者	223 100.0	220 98.7	213 95.5	219 98.2	214 96.0

- 第一志望で受験かつ入学する者:
ターゲット層(大学進学希望×私立×関連学問興味あり)該当者のうち、
共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を「第一志望として受験する」かつ
「入学する」と回答した人

巻末資料

OCR調査票/Web調査票/
調査①(高校留め置き調査)依頼対象校/
調査②(オープンキャンパス及び進学相談会における調査)一覧

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」 に関するアンケート

共立女子大学では2027年4月より「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の入学定員を増やすことを構想しています。このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、共立女子大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、入学定員増加のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。また、回答いただいた内容が、高校生のみなさんの本学への入学に影響を及ぼすことは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記入要領

1. 回答は、あてはまる番号に「○」印をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず鉛筆又はシャープペンシルで濃く書いてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。

特に、「○」印は、番号丸枠からはみ出さないようにつけてください。

良い記入例
○ 美術
② デザイン

悪い記入例
① 美術
② デザイン

ここに○印をつけてください

○ 美術

① 美術
② デザイン

ID 13

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	① 女性	② 男性	③ 回答しない
学年 (1つに○)	【2025年4月1日時点】 ① 高校1年生 ② 高校2年生 ③ 高校3年生 ④ その他		
在籍している 高校名	高校所在地 [] 都・道・府・県 ① 国立 ② 公立 ③ 私立 (←1つに○) [] 高等学校		
所属クラス (1つに○)	① 文系クラス(文系コース) ② 理系クラス(理系コース) ③ その他		

【性別で「① 女性」または「③ 回答しない」を選択された方】・・・ Q1.へお進みください。

【性別で「② 男性」を選択された方】・・・ アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1 あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路すべてに○をつけてください。(複数選択可)

① 大学 ② 短期大学 ③ 専門職大学 ④ 専門職短期大学
⑤ 専門学校 ⑥ 就職 ⑦ その他

【Q1.で①～④のいずれかを選択された方】・・・ Q2.へお進みください。

【Q1.で⑤～⑦のみの回答の方】・・・ アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

Q2 志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している(希望している)設置者すべてに○をつけてください。(複数選択可)

① 私立 ② 国立 ③ 公立

Q3 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)

※共立女子大学「建築・デザイン学部」は主に「①美術」「②デザイン」「④その他の芸術」「⑥住居学」「⑩土木建築学」「⑪工芸学」に該当します。

芸術	① 美術	② デザイン
	③ 音楽	④ その他の芸術(建築学、環境計画学など)
家政学	⑤ 住居学	⑥ 食物学
	⑦ 被服学	⑧ 児童学 ⑨ その他家政学
工学	⑩ 土木建築学	⑪ 工芸学 ⑫ その他の工学(電気電子工学、機械工学など)
その他	⑬ 人文科学(文学、史学など)	⑭ 社会科学(法学、経済学など)
	⑮ 理学(数学、物理学など)	⑯ 農学(林学、水産学など)
	⑰ 保健(医学、薬学、看護学など)	⑱ 教育(教育学、体育学など) ⑲ その他

◆共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」についてお聞きします。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q4 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例. ○○である	⇒	①	②	③	④
A. 建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ (他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。	⇒	①	②	③	④
■建築コースの特色 B. 使い手の視点と作り手の視点を合わせ持ちながら、建築、住まい、商業施設などの 設計・施工・監理に関する技術を身に付けることができるコース。	⇒	①	②	③	④
■デザインコースの特色 C. 市場やユーザーを理解したうえで、使い手の視点や作り手の視点を合わせ持ちながら、 家具、雑貨、パッケージ、広告などのデザイン力を身に付けることができるコース。	⇒	①	②	③	④
■コクリエイトコース*の特色 D. 対話を通じて課題を発見し、解決策を創造するとともに、「まち」「コミュニティ」のデザ インや「商品」「イベント」の企画・運営に関する知識・技能を身に付けることができる コース。 *コクリエイト(Co-create)とは「Co=共に、共同の」「create=創造する」を合わせた言葉です。	⇒	①	②	③	④

※いずれのコースも、一級建築士(国家試験受験資格)、二級建築士(国家試験受験資格)、
インテリアプランナー(任用資格)、学芸員(国家資格)の取得を目指すことができます。

Q5 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科(入学定員150名)」の受験を希望しますか。
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つに○をつけてください。

- ① 第一志望として受験する ② 第二志望として受験する ③ 第三志望以降として受験する
④ 受験しない (→Q7にお進みください。)

Q6 Q5で①～③(受験する)を選択した方に質問です。
共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つに○をつけてください。

- ① 入学する ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する ③ 入学しない

Q7 最後に全員にお聞きします。
あなたは過去に共立女子大学のオープンキャンパスやイベントに参加し、本アンケートと同じ内容のアンケートに
回答したことがありますか。次より1つに○をつけてください。

- ① 同じアンケートに回答したことはない ② 同じアンケートに回答したことがある

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***



共立女子大学
KYORITSU WOMEN'S UNIVERSITY

主催：共立女子大学

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に関するアンケート

共立女子大学では2027年4月より、「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の入学定員を増やすことを構想しています。

このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、共立女子大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、入学定員増加のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。また、回答いただいた内容が、高校生のみなさんの本学への入学に影響を及ぼすことは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや資料に記載されている「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

■個人情報の取り扱いについて

本アンケート、または本アンケートに関するお問い合わせにより取得した個人情報は、共立女子学園個人情報保護方針（<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/policy/privacypolicy/>）に基づき、適正に管理されます。

■アンケート回答に設問とは関係のない情報が入力されていないかご確認ください。

PCやスマートフォンなどの環境によっては自動でメールアドレスなどが入力されることがあります。

C1

100%

◆最初にあなた自身についてお聞きます。

Q1

あなたの性別を教えてください。（1つ選択）

☐ 単一回答 ☒ 必須回答

① 女性

② 男性

③ 回答しない

.....< ここまで改ページ

Q2

あなたの学年を教えてください。(1つ選択)

☐ 単一回答 ☒ 必須回答

【2025年4月1日時点】

- ☐ 1 高校1年生
- ☐ 2 高校2年生
- ☐ 3 高校3年生
- ☐ 4 その他

..... ✂ ここまで改ページ

Q3

あなたの在籍している高校種別を教えてください。(1つ選択)

☐ 単一回答 ☒ 必須回答

- ☐ 1 私立
- ☐ 2 国立
- ☐ 3 公立

Q4

あなたの在籍している高校名を教えてください。
※高校名は省略せずに、正式名称でお書きください。

☒ 必須回答

▲ とじる

高等学校

..... ✂ ここまで改ページ

Q5

あなたが所属しているクラス（コース）を教えてください。(1つ選択)

☐ 単一回答 ☒ 必須回答

- ☐ 1 文系クラス（文系コース）
- ☐ 2 理系クラス（理系コース）
- ☐ 3 その他

..... ✂ ここまで改ページ

C2

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きます。

Q6

あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路をすべて選択してください。（複数選択可）

✓ 複数回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ☐ 1 大学
- ☐ 2 短期大学
- ☐ 3 専門職大学
- ☐ 4 専門職短期大学
- ☐ 5 専門学校
- ☐ 6 就職
- ☐ 7 その他

.....✂ ここまで改ページ

Q7

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している（希望している）設置者をすべて選択してください。
（複数選択可）

✓ 複数回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ☐ 1 私立
- ☐ 2 国立
- ☐ 3 公立

.....✂ ここまで改ページ

Q8

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

以下の項目から、興味のある学問分野をすべて選択してください。（複数選択可）

※共立女子大学「建築・デザイン学部」は主に「1.美術」「2.デザイン」「4.その他の芸術」「5.住居学」「10.土木建築学」「11.工芸学」に該当します。

▼ 複数回答

★ 必須回答

▲ とじる

芸術

1 美術

2 デザイン

3 音楽

4 その他の芸術（建築学、環境計画学など）

家政学

5 住居学

6 食物学

7 被服学

8 児童学

9 その他家政学

工学

10 土木建築学

11 工芸学

12 その他の工学（電気電子工学、機械工学など）

その他

13 人文科学（文学、史学など）

14 社会科学（法学、経済学など）

15 理学（数学、物理学など）

16 農学（林学、水産学など）

17 保健（医学、薬学、看護学など）

18 教育（教育学、体育学など）

19 その他

..... ✂ ここまで改ページ

C3

◆共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」についてお聞きます。
ここからはリーフレットを確認の上、ご回答ください。

▼リーフレットは、以下の画像をクリックし、ご確認ください。



.....  [ここでご変更](#)

Q9

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、1つずつ選択）
※いずれのコースも、一級建築士（国家試験受験資格）、二級建築士（国家試験受験資格）、インテリアプランナー（任用資格）、学芸員（国家資格）の取得を目指すことができます。

① 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

0/4

1	■リーダーシップ教育 建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ（他者と協働して目標達成を目指す力）を身に付けることができる。	▼
2	■建築コースの特色 使い手の視点と作り手の視点を合わせ持ちながら、建築、住まい、商業施設などの設計・施工・監理に関する技術を身に付けることができるコース。	▼
3	■デザインコースの特色 市場やユーザーを理解したうえで、使い手の視点や作り手の視点を合わせ持ちながら、家具、雑貨、パッケージ、広告などのデザイン力を身に付けることができるコース。	▼
4	■コクリエイトコース*の特色 対話を通じて課題を発見し、解決策を創造するとともに、「まち」「コミュニティ」のデザインや「商品」「イベント」の企画・運営に関する知識・技能を身に付けることができるコース。 *コクリエイト（Co-create）とは「Co=共に、共同の」「create=創造する」を合わせた言葉です。	▲

☐ 1 とても魅力を感じる

☐ 2 ある程度魅力を感じる

☐ 3 あまり魅力を感じない

☐ 4 まったく魅力を感じない

..... ✂ ここまで改ページ

Q10

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科（入学定員150名）」の受験を希望しますか。

あなたの考えに近い選択肢を、次より1つ選択してください。

① 単一回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ① 第一志望として受験する
- ② 第二志望として受験する
- ③ 第三志望以降として受験する
- ④ 受験しない

.....< ここまで改ページ

Q11

前問で「受験する」を選択した方に質問です。

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

あなたの考えに近い選択肢を、次より1つ選択してください。

※あなたの先ほどの回答：共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を【【Q10の選択内容】】

① 単一回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ① 入学する
- ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ③ 入学しない

.....< ここまで改ページ

Q12

あなたは過去に共立女子大学のオープンキャンパスやイベントに参加し、本アンケートと同じ内容のアンケートに回答したことがありますか。
次より1つ選択してください。

☐ 単一回答

☒ 必須回答

▲ とじる

① 同じアンケートに回答したことはない

② 同じアンケートに回答したことがある

.....< ここで改ページ

送信ボタンを押してください。

送 信

【お問い合わせ先】
共立女子大学 総務企画課 経営企画グループ
03-3237-2838

※本アンケートにご協力いただいた高等学校の名称につきましては、個別の公表許諾を得ていないため省略

高校生
対象

調査①(高校留め置き調査)依頼対象校

NO	高校名(正式名称)	所在地	NO	高校名(正式名称)	所在地
1			52		
2			53		
3			54		
4			55		
5			56		
6			57		
7			58		
8			59		
9			60		
10			61		
11			62		
12			63		
13			64		
14			65		
15			66		
16			67		
17			68		
18			69		
19			70		
20			71		
21			72		
22			73		
23			74		
24			75		
25			76		
26			77		
27			78		
28			79		
29			80		
30			81		
31			82		
32			83		
33			84		
34			85		
35			86		
36			87		
37			88		
38			89		
39			90		
40			91		
41			92		
42			93		
43			94		
44			95		
45			96		
46			97		
47			98		
48			99		
49			100		
50			101		
51			102		

※網掛けはWeb調査

高校生
対象

調査②(オープンキャンパス及び 進学相談会における調査)一覧

NO	イベント名称	開催地
1	オープンキャンパス	東京都(本学)
2	オープンキャンパス	東京都(本学)
3	オープンキャンパス	東京都(本学)
4	オープンキャンパス	東京都(本学)
5	オープンキャンパス	東京都(本学)
6	オープンキャンパス	東京都(本学)
7	オープンキャンパス	東京都(本学)
8	進学EXPO2025(有楽町)	東京都
9	進学相談会(水戸)	茨城県
10	進学相談会(大宮)	埼玉県
11	進学相談会(大宮)	埼玉県
12	進学相談会(渋谷)	東京都
13	進学相談会(横浜)	神奈川県
14	キラリ!首都圏女子大学進学相談会(新宿)	東京都
15	キラリ!首都圏女子大学進学相談会(池袋)	東京都
16	進路フェア2025 in 東京ドームシティ	東京都
17	第7回高大接続総会	東京都
18	キラリ!首都圏女子大学進学相談会(横浜)	神奈川県
19	キラリ!首都圏女子大学進学相談会(埼玉)	埼玉県
20	大学進学相談会2025(幕張)	千葉県
21	大学フェア2025(池袋)	東京都
22	大学進学博(池袋)	東京都
23	進学相談会(横浜)	神奈川県
24	大学進学フェスタ IN YOKOHAMA2024	神奈川県
25	進学相談会(渋谷)	東京都

※本アンケートにご協力いただいた高等学校の名称につ
きましては、個別の公表許諾を得ていないため省略

【資料22】

高校留め置き調査依頼対象校一覧

NO	高校名(正式名称)	所在地	選定理由
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50			
51			

NO	高校名(正式名称)	所在地	選定理由
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			
72			
73			
74			
75			
76			
77			
78			
79			
80			
81			
82			
83			
84			
85			
86			
87			
88			
89			
90			
91			
92			
93			
94			
95			
96			
97			
98			
99			
100			
101			
102			

※網掛けはWeb調査

共立女子大学 建築・デザイン学部

学部の概要

- 入学定員 150名^{※1}
- 授与する学位 学士(美術)
- 初年次納入金 1,420,000円^{※2}
- 類似する大学・学部学科
 - 武威野美術大学 造形学部
 - 明星大学 デザイン学部
 - 日本女子大学 建築デザイン学部
- 取得可能な資格
 - 一級建築士(国家試験受験資格)
 - 二級建築士(国家試験受験資格)
 - 学芸員(国家資格)
 - インテリアプランナー(実務経験2年免除)
- 取得をめざせる資格
 - インテリアコーディネーター
 - 商業施設士

※1 2027年度から定員変更(100名→150名)構想中。
※2 2025年度入学費用の予定です。今後変更される可能性があります。

アドミッション・ポリシー

建学の精神である「女性の自立と自活」に基づき、本学が教育の基軸にする「リーダーシップ」教育と「実学」教育を理解し、積極的に受容する資質・能力を有する人物、かつ建築・デザイン学部建築・デザイン学科のディプロマ・ポリシーに定める知識・技能などを美術分野の視点から修得するための基盤となる以下に掲げる学力の三要素を備えた人物を受け入れる。なお、このような学生を適正に選抜するために、多様な選抜方法を適切に実施する。

01 | 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

02 | 建築・デザインについて学ぶために必要な高等学校卒業相当の「国語」「英語」「理科」「数学」「地理歴史」の知識があり、入学後の修学に必要な技能を有している。

03 | 「空間」や「モノ」に対する観察力や基礎的な表現力(描写力、造形力など)を有しているとともに、「空間」や「モノ」に関連した情報を意欲的に収集し、それらに関連した何かを創り出そうとすることに喜びを感じ、考察、表現することに関心を有している。

設置理念

「美術」の観点から「建築・デザイン」分野に関する教育研究活動を拡充することで、今日的な課題にも対応し得る有為な人材を社会に輩出すること。

養成する人材像

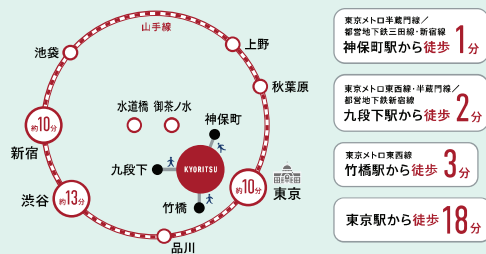
共立女子大学の建学の精神および人材養成目的に基づき、幅広い教養と建築・デザインの専門に係る知識・技能を身に付け、人が生きていくために必要な場を構成している「空間」や「モノ」などを総合的にとらえ、創造的に提案・実践できる人材を育成する。

04 | 将来的に建築やデザインに興味を持ち、プロジェクトに対してグループのなかでディスカッションやエスキースなどを通して、創作意欲を刺激し合い、目標を達成する意欲・態度を有している。

05 | 学内・学外の行事に積極的に参加し、プロジェクトを進んで計画遂行し、リーダーシップを発揮しグループの中で活動しようとする意欲・態度を有している。

交通アクセス

企業や文化が集まる都心のキャンパスは実践的な学びや就職活動、学生生活に充実した時間と環境を生み出します。



東京メトロ半蔵門線／
都営地下鉄三田線・新宿線
神保町駅から徒歩 1分

東京メトロ東西線・半蔵門線／
都営地下鉄新宿線
九段下駅から徒歩 2分

東京メトロ東西線
竹橋駅から徒歩 3分

東京駅から徒歩 18分

【資料23】



KYORITSU
WOMEN'S UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

建築・デザイン学部

建築コース／デザインコース／コクリエイトコース **NEW**

入学定員

現在 100名 ▶

2027年度
から 150名

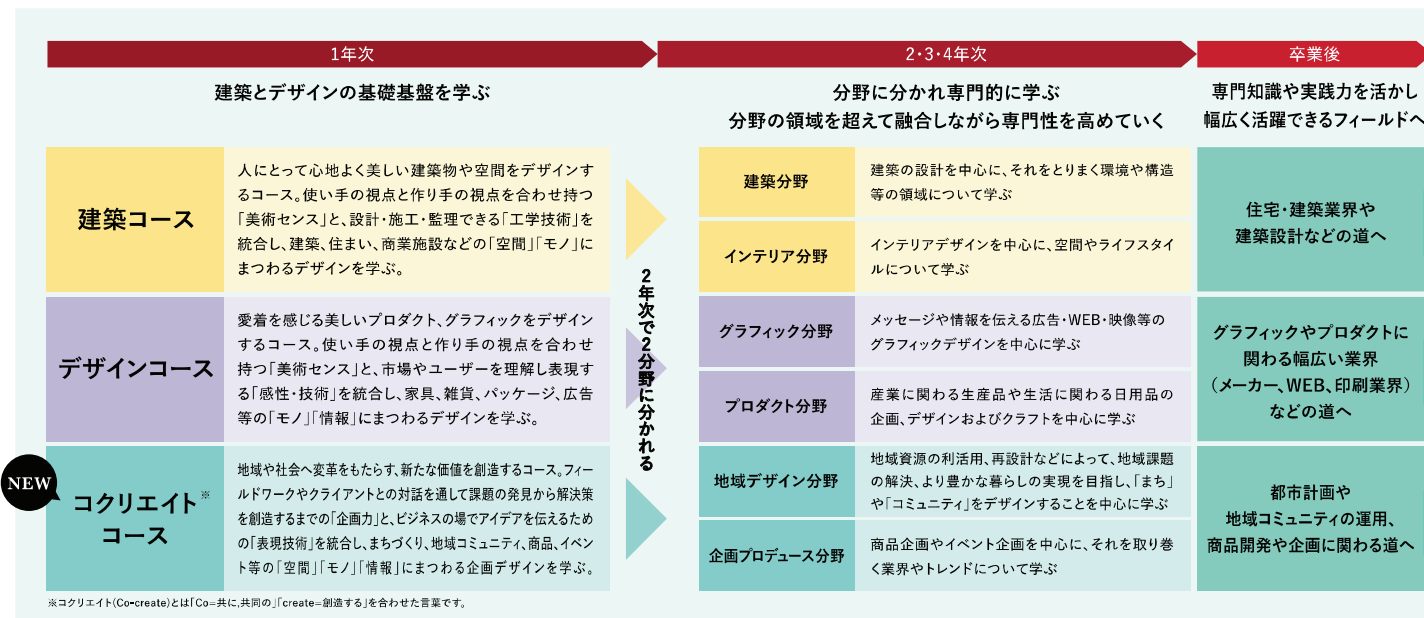
※2027年度からコース新設(コクリエイトコース)及び定員変更(100名→150名)を構想中。
※本内容は現時点での計画であり、今後変更する可能性があります。

美術の視点から 建築・デザインを学ぶ。

2023年度に開設した
建築・デザイン学部は、
美術の視点から
「空間」や「モノ」をとらえ、
創造的に提案・実践をできる
人材を育成することを
理念としています。

※2027年度からコース新設(コクリエイトコース)及び
定員変更(100名→150名)を構想中。
※本内容は現時点での計画であり、今後変更する可能性があります。

「空間」と「モノ」を総合的に学ぶ3つのコース



共立女子大学の建築・デザイン学部の特徴

専門教育×リーダーシップ教育



「専門分野」を主専攻として学修するとともに、副専攻としてすべての教育活動を通してリーダーシップを身に付けます。本学で学ぶ「リーダーシップ」は、「他者と協働して目標達成を目指す力」。一人のリーダーに頼るのではなく、メンバーそれぞれがチームの成果のために自身の強みを発揮することです。他者と協働する上で不可欠なリーダーシップは、現代社会で必須の誰もが持てるスキルです。社会のあらゆる場面で、専門分野で身に付けた力をリーダーシップによって正しく発揮できる人材を育成していきます。



協働力を磨く課題解決型授業



建築やデザインの世界では多くの人と協働することで、プロジェクトを実現する力が求められます。本学部では企業や地域から与えられたリアルな社会課題について、他者と協働しながら建築やデザインを提案する課題解決型授業を行うことによって、それらを解決する能力はもちろんのこと、プレゼンテーション力やコミュニケーション力を磨きます。

都心で生きた教材に触れる



建築やデザインを学ぶ上で、有名建築や最新のデザインに触れることは重要です。都心にあるキャンパス周辺には、歴史ある建築や最新の技術を駆使した建築、話題のアートやデザインを紹介する美術館・ギャラリー・ショップなどが数多くあり、生きた教材に触れる機会が豊富にあります。

モノづくりを支援する充実した設備



魅力的な建築やデザインを作るためには、頭だけでなく手を動かす、話し合うことが大切です。それを実践する場として「デジタルクリエーションラボ」を設置しています。平面・立体・VRの専用機器を活用した創作活動だけでなく、学生同士や教員のディスカッションの場としても活用しています。

■2027年度から入学定員や新コースを増やし、さらなる専門性を追求していきます。



共立女子大学
「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」
入学定員の増員に関するニーズ調査
【企業対象調査】
結果報告書

2025年9月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2027年4月の共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」
入学定員の増員に関して、企業からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

調査対象		企業の採用担当者
調査エリア		北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査 対象数	依頼数	1,000企業
	回収数(回収率)	275企業(27.5%)
調査時期		2025年6月6日(金)～2025年7月11日(金)
調査実施企業		株式会社 進研アド

企業対象調査(調査項目)

- ・本社所在地
- ・業種
- ・正規社員の従業員数
- ・採用したい学問分野
- ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度
- ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の社会的必要性
- ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の卒業生に対する採用意向
- ・共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の卒業生に対する毎年の採用想定人数

採用意向調査 調査結果

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答企業全体(275企業)
※各割合は小数点以下第2位を四捨五入している
ため、合計しても必ずしも100%とはならない

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に対する人材需要を確認するための調査として設計し、共立女子大学の卒業生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、275企業の回答を得た。

- 回答企業の本社(本部)所在地は、共立女子大学の本部所在地である「東京都」が45.8%と最も多く、次いで「千葉県」が8.4%、「神奈川県」が6.5%と続く。
- 回答企業の業種としては、「建設業」が27.3%と最も多く、次いで「公務」が20.4%と多い。
- 回答企業の正規社員の従業員数は、「1,000名～5,000名未満」が47.3%と最も多く、次いで「100名～500名未満」が16.0%、「500名～1,000名未満」が12.0%と多い。

採用したい学問系統

- 回答企業の採用したい学問系統を複数回答で聞いたところ「芸術学(美術、建築学、デザイン学含む)」が41.1%と最も高く、次いで「工学」が31.6%、「経済・経営・商学」が20.4%と高い。

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■ 本社(本部)所在地

Q1. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

	標 本 数	北 海 道	青 森 県	岩 手 県	宮 城 県	秋 田 県	福 島 県	茨 城 県	栃 木 県	群 馬 県
上段: 件数 下段: %										
全体	275 100.0	3 1.1	2 0.7	4 1.5	3 1.1	1 0.4	6 2.2	2 0.7	5 1.8	4 1.5

	標 本 数	埼 玉 県	千 葉 県	東 京 都	神 奈 川 県	新 潟 県	富 山 県	石 川 県	福 井 県	長 野 県
上段: 件数 下段: %										
全体	275 100.0	7 2.5	23 8.4	126 45.8	18 6.5	3 1.1	2 0.7	3 1.1	1 0.4	2 0.7

	標 本 数	岐 阜 県	静 岡 県	愛 知 県	三 重 県	京 都 府	大 阪 府	兵 庫 県	岡 山 県	広 島 県
上段: 件数 下段: %										
全体	275 100.0	2 0.7	5 1.8	8 2.9	3 1.1	5 1.8	13 4.7	4 1.5	5 1.8	4 1.5

	標 本 数	山 口 県	香 川 県	愛 媛 県	福 岡 県	大 分 県	宮 崎 県	鹿 児 島 県	沖 縄 県	無 回 答
上段: 件数 下段: %										
全体	275 100.0	1 0.4	1 0.4	1 0.4	3 1.1	1 0.4	1 0.4	1 0.4	1 0.4	1 0.4

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■業種

Q2. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

※複数の事業が該当する場合は、最も主要な業種をお答えください。

	標 本 数	建 設 業	不 動 産 業	デ ザ イ ン 業	広 告 ・ 印 刷 業	サ ー ビ ス 業	卸 売 ・ 小 売 業	情 報 通 信 業	製 造 業
上段: 件数 下段: %									
全体	275 100.0	75 27.3	28 10.2	3 1.1	4 1.5	15 5.5	30 10.9	16 5.8	13 4.7

	標 本 数	医 療 ・ 福 祉	複 合 サ ー ビ ス 業	水 道 業	電 気 ・ ガ ス ・ 熱 供 給 ・	運 輸 業	公 務	そ の 他	無 回 答
上段: 件数 下段: %									
全体	275 100.0	5 1.8	4 1.5	7 2.5	3 1.1	56 20.4	16 5.8	0 0.0	

■従業員数

Q3. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	5 0 名 未 満	5 0 名 未 満	1 0 名 未 満	1 5 0 0 名	5 1 0 0 名	5 0 0 名 以 上	無 回 答
上段: 件数 下段: %								
全体	275 100.0	25 9.1	17 6.2	44 16.0	33 12.0	130 47.3	26 9.5	0 0.0

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■採用したい学問分野

Q4. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)

	標 本 数	学 芸 術 学 (美 術 、 建 築) デ ザ イ ン 学	理 学	工 学	農 ・ 水 産 学	文 学	語 学	法 学	経 済 ・ 経 営 ・ 商 学	社 会 学
上段:件数 下段:%										
全体	275	113 41.1	51 18.5	87 31.6	32 11.6	31 11.3	24 8.7	37 13.5	56 20.4	31 11.3

	標 本 数	総 合 科 学	看 護 ・ 保 健 学	医 ・ 歯 ・ 薬 学	教 員 養 成 ・ 教 育 学	生 活 科 学	国 際 関 係 学	そ の 他	学 ん だ 学 問 分 野 に は こ だ わ ら な い	無 回 答
上段:件数 下段:%										
全体	275	33 12.0	21 7.6	12 4.4	19 6.9	22 8.0	16 5.8	10 3.6	113 41.1	1 0.4

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 特色に対する魅力度

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 特色に対する魅力度

- ・ 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の特色に対する魅力度(※)は、4つの項目すべてで9割を超える。
- ・ 最も魅力度が高いのは、「自身の考えやアイデアの意図を、相手にわかりやすく伝えるための表現力を身に付けることができる。」「建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。」がそれぞれ100.0%である。次いで、「企業や地域からの課題に対して、チームで協働しながら建築やデザインを提案する課題解決型授業があり、発想を形にする実践力を磨くことができる。」が97.5%、「学生専用のラボにおいて平面・立体・VRに関する機器を実際に使用することにより、創作能力を身に付けることができる。」が91.3%と続く。

※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 特色に対する魅力度

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 特色に対する魅力度

Q5. 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色①: 企業や地域からの課題に対して、チームで協働しながら建築やデザインを提案する課題解決型授業があり、発想を形にする実践力を磨くことができる。

特色②: 学生専用のラボにおいて平面・立体・VRに関する機器を実際に使用することにより、創作能力を身に付けることができる。

特色③: 自身の考えやアイデアの意図を、相手にわかりやすく伝えるための表現を身に付けることができる。

特色④: 建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。

	標 本 数	と と も 魅 力 を 感 じ る	あ る 程 度 魅 力 を 感 じ る	あ ま り 魅 力 を 感 じ な い	ま っ た く 魅 力 を 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
上段: 件数 下段: %							
特色①	275 100.0	201 73.1	67 24.4	7 2.5	0 0.0	268 97.5	0 0.0
特色②	275 100.0	112 40.7	139 50.5	23 8.4	1 0.4	251 91.3	0 0.0
特色③	275 100.0	236 85.8	39 14.2	0 0.0	0 0.0	275 100.0	0 0.0
特色④	275 100.0	222 80.7	53 19.3	0 0.0	0 0.0	275 100.0	0 0.0

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 社会的必要性

- 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」について「必要だと思う」と回答した企業は99.3% (273企業)であり、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 卒業生の採用意向/毎年の採用想定人数

- 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は96.7% (266企業)であり、予定している入学定員150人を上回る数の採用意向がみられた。
- 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業へ、卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は757名で、予定している入学定員を上回っている。
このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」は、これからの社会にとって必要だと思われますか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	必 要 だ と 思 う	必 要 だ と 思 わ ない	無 回 答
上段:件数 下段:%				
全体	275 100.0	273 99.3	0 0.0	2 0.7

■共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	思 う 採 用 し た い	思 わ な い 採 用 し た い	無 回 答
上段:件数 下段:%				
全体	275 100.0	266 96.7	4 1.5	5 1.8



「採用したいと思う」と答えた266企業のみ抽出

■共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」卒業生に対する 毎年の採用想定人数

Q8. Q7で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。採用を考える場合、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 6 名	7 ～ 9 名	1 0 名 以 上	無 回 答	(※2) および採用 想定人数・計	毎 年の採用 した企業 数・計(※1) の採用 想定人数 を示す
全体	266	件数	93	63	32	5	11	1	36	25	⇒	266
		%	35.0	23.7	12.0	1.9	4.1	0.4	13.5	9.4		
		名	93	126	96	20	55	7	360	0		757

※1 %の母数は、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業(266企業)

※2 毎年の採用想定人数・計 「5名～6名」=5名、「7名～9名」=7名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調查票

共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」
に関するアンケート

共立女子大学では2027年4月より、「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の入学定員を増やすことを構想しています。

このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、入学定員増加のための統計資料としてのみ活用し、貴社・貴団体およびご回答頂いた方を特定することは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q2. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

※複数の事業が該当する場合は、最も主要な業種をお答えください。

- | | | |
|--------------|-------------------|-------------|
| 1. 建設業 | 2. 不動産業 | 3. デザイン業 |
| 4. 広告・印刷業 | 5. サービス業 | 6. 卸売・小売業 |
| 7. 情報通信業 | 8. 製造業 | 9. 飲食店・宿泊業 |
| 10. 金融・保険業 | 11. 医療・福祉 | 12. 複合サービス業 |
| 13. 農・林・漁・鉱業 | 14. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 15. 運輸業 |
| 16. 公務 | 17. その他 | |

Q3. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|--------------------|----------------|
| 1. 50名未満 | 2. 50名～100名未満 | 3. 100名～500名未満 |
| 4. 500名～1,000名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q4. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|------------------------|---------------------|------------|
| 1. 芸術学(美術、建築学、デザイン学含む) | 2. 理学 | 3. 工学 |
| 4. 農・水産学 | 5. 文学 | 6. 語学 |
| 7. 法学 | 8. 経済・経営・商学 | 9. 社会学 |
| 10. 総合科学 | 11. 看護・保健学 | 12. 医・歯・薬学 |
| 13. 教員養成・教育学 | 14. 生活科学 | 15. 国際関係学 |
| 16. その他 | 17. 学んだ学問分野にはこだわらない | |

裏面へ続く→

共立女子大学では、2027年4月に、
「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の入学定員を増やすことを構想しております。

この構想により、2031年3月の卒業者が増えることとなります。

※ここからは、アンケートに同封している資料をご覧のうえ、ご回答ください※

Q5. 共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」には、以下のような特色があります。

貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
A. 企業や地域からの課題に対して、チームで協働しながら建築やデザインを提案する課題解決型授業があり、発想を形にする実践力を磨くことができる。	→	1	2	3	4
B. 学生専用のラボにおいて平面・立体・VRに関する機器を実際に使用することにより、創作能力を身に付けることができる。	→	1	2	3	4
C. 自身の考えやアイデアの意図を、相手にわかりやすく伝えるための表現力を身に付けることができる。	→	1	2	3	4
D. 建築・デザインに関する専門分野だけでなく、社会で必要な力であるリーダーシップ(他者と協働して目標達成を目指す力)を身に付けることができる。	→	1	2	3	4

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」は、

これからの社会にとって必要だと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 必要だと思う 2. 必要だと思わない

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を卒業した

学生について、採用したいと思われますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 採用したいと思う 2. 採用したいと思わない

Q8. Q7で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、共立女子大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」を卒業した

学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 1名 2. 2名 3. 3名 4. 4名
5. 5~6名 6. 7~9名 7. 10名以上

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	東京都	55,740人	34.6%
2	神奈川県	23,187人	14.4%
3	埼玉県	19,060人	11.8%
4	千葉県	14,569人	9.1%
5	茨城県	5,853人	3.6%
	全 体	160,910人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○収容定員を増加する組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
1	東京都	103.57%	102.88%	105.69%

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○収容定員を増加する組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
1	芸術系学部（大学）	105.32%	104.77%	106.14%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

○収容定員充足率（学校法人の寄附行為及び寄附行為の変更の認可に関する審査基準 第二の五（二）に規定）

申請者が設置する全ての大学等（大学、短期大学、高等専門学校のみ）の
既設の学部（短期大学又は高等専門学校は学科）について記載してください。

大学等名	学部等名	学科名	収容定員	学生数 (令和7年5月1日現在)	収容定員充足率	備考
共立女子大学	家政学部		1380人	1397人	1.01	
		被服学科	360人	389人	1.08	
		食物栄養学科	420人	435人	1.03	
		食物学専攻	220人	217人	0.98	
		管理栄養士専攻	200人	218人	1.09	
		児童学科	600人	573人	0.95	
	文芸学部					
		文芸学科	1400人	1435人	1.02	
	国際学部					
		国際学科	1000人	1036人	1.03	
	看護学部					
		看護学科	400人	414人	1.03	
	ビジネス学部					
		ビジネス学科	600人	642人	1.07	
	建築・デザイン学部					
		建築・デザイン学科	300人	326人	1.08	令和5年4月開設
共立女子短期大学	生活科学科		200人	172人	0.86	
	文科		200人	163人	0.81	

※上記には、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項を

適用した場合の学生数及び収容定員充足率を記入してください。その場合は、備考にその内訳を記入してください。

※大学院、専攻科、別科、募集停止を行った学部等については記載不要です。

※行は適宜追加してください。

【別紙 2 の 2】【別紙 3】

学外非公開情報が含まれているため省略

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	サトウ ユウイチ 佐藤 雄一 ＜令和7年1月＞		修士（文学）		共立女子大学 学長 (令和7.1～令和9.3) 共立女子短期大学 学長 (令和7.1～令和9.3) ※